2025(令和7)年度　看護学部シラバス

看護学科　（2022年度以降の入学生）

基礎（教養）

科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22HUM101	Science Basics	1	22HUM116	社会学概論	1
22HUM102	データサイエンス	1	22HUM117	家族社会学	1
22HUM103	情報リテラシー	1	22HUM118	日本国憲法	1
22JUN104	看護学セミナー	1	22HUM119	文章表現法	1
22JUN105	キリスト教学	1	22HUM120	Humanities Basics	1
22JUN106	純心平和学	1	22HUM121	文化人類学	1
22NBA107	看護倫理	3	22HUM122	コミュニケーション論	1
22HDE108	心理学概論	1	22NBA123	看護情報学	1
22JUN109	宗教学	2	22NBA124	臨床心理学	3
22JUN110	叡智の探究	1	22LAN125	英語Ⅰ	1
22HUM111	運動理論・実技	1	22LAN126	英語Ⅱ	1
22ART112	人間とアート	2	22LAN127	看護英語	2
22ART113	合唱音楽	2	22LAN128	Listening & Speaking	2
22ART114	美術療法	3	22LAN129	Reading & Writing	2
22ART115	音楽療法	3			

専門（専門基礎分野）

科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NBA201	形態機能学Ⅰ	1	22NBA212	疾病治療論Ⅳ	2
22NBA202	形態機能学Ⅱ	1	22NBA213	疾病治療論Ⅴ	2
22NBA203	形態機能学Ⅲ	1	22NBA214	医療概論	1
22NBA204	形態機能学演習（解剖見学含む）	1	22NBA215	保健医療福祉行政論	2
22NBA205	病理学	2	22NBA216	保健医療福祉行政展開論	2
22NBA206	薬理学	2	22NBA217	公衆衛生学	1
22NBA207	栄養生化学	1	22NBA218	健康教育学	1
22NBA208	感染予防学	1	22NBA219	保健統計学Ⅰ	1
22NBA209	疾病治療論Ⅰ	1	22NBA220	保健統計学Ⅱ	2
22NBA210	疾病治療論Ⅱ	1	22NBA221	疫学	2
22NBA211	疾病治療論Ⅲ	2			

専門（看護の実践）					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NPR301	看護学概論	1	22NPR326	精神看護学概論	2
22NPR302	基本援助技術	1	22NPR327	精神看護学援助論	2
22NPR303	生活援助技術	1	22NPR328	精神看護学演習	3
22NPR304	診療援助技術	2	22NPR329	家族看護学	3
22NPR305	看護とコミュニケーション	1	22NPR330	終末期・緩和看護学	3
22NPR306	看護展開論	2	22NPR331	がん看護学	3
22NPR307	フィジカルアセスメント	2	22NPR332	補完代替医療と看護	3
22NPR308	暮らしの理解	1	22NPR334	公衆衛生看護支援技術論	3
22NPR309	地域･在宅看護学概論	2	22NPR335	公衆衛生看護支援技術演習	3
22NPR310	地域･在宅看護学（生活援助技術）	2	22NPR336	対象別公衆衛生看護論	4
22NPR311	地域･在宅看護学（医療関連技術）	3	22NPR337	地域活動支援演習	4
22NPR312	在宅看護過程	3	22NPR338	基礎看護技術実習	1

専門（看護の実践）					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NPR333	公衆衛生看護学概論	2	22NPR339	基礎看護展開実習	2
22NPR313	成人の生活と健康	2	22NPR340	暮らしの理解体験実習	1
22NPR314	成人慢性期看護学	2	22NPR341	地域･在宅看護学実習	3
22NPR315	成人急性期看護学	3	22NPR342	成人慢性期看護学実習	3
22NPR316	成人看護学概論	1	22NPR343	成人急性期看護学実習	3
22NPR317	老年看護学概論	1	22NPR344	老年生活支援実習	3
22NPR318	老年生活機能援助論	2	22NPR345	老年退院支援実習	3
22NPR319	老年健康回復援助論	2	22NPR346	小児看護学実習	3
22NPR320	小児看護学概論	2	22NPR347	リプロダクティブヘルス看護学実習	3
22NPR321	小児看護学援助論	2	22NPR348	精神看護学実習	3
22NPR322	小児看護学演習	3	22NPR349	統合実習	4
22NPR323	リプロダクティブヘルス看護学概論	2	22NPR350	学校・産業保健実習	4
22NPR324	リプロダクティブヘルス看護学援助論	2	22NPR351	公衆衛生看護学実習	4
22NPR325	リプロダクティブヘルス看護学演習	2			

専門（看護の発展）					
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次	科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22NAD401	医療安全学	3	22NAD409	看護キャリア論	4
22NAD402	多職種連携論	4	22NAD410	看護叡智探究論Ⅰ(基礎)	1
22NAD403	看護管理学	4	22NAD411	看護叡智探究論Ⅱ（看護の基礎）	2
22NAD404	災害看護学	3	22NAD412	看護叡智探究論Ⅲ（看護の専門）	3
22NAD405	国際看護学	3	22NAD413	看護叡智探究論Ⅳ（看護の統合）	4
22NAD406	医療経済論	4	22NAD414	看護研究の基礎	2
22NAD407	看護行政と看護の展望	4	22NAD415	看護研究ゼミナール	3,4
22NAD408	臨床判断演習	4	22NAD416	看護研究の実践	4

授業科目名	Science Basics	担当教員名	学内教員: 福永ひとみ 外部講師: 藤森裕基(化学)・簑輪欣房(生物)・飯島　亮(数学)			
コード	22HUM101	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
◎	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
○	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

Science Basicsは、私たちのからだ、人々をとりまく環境、地域の自然といった身近な現象を題材とし、Scienceの法則・原理を理解し、看護の専門的知識を学ぶための基礎づくりをする科目である。具体的には、身の回りの物質とその成分・性質を理解する。からだをつくる原子・分子とその中で起きる化学反応、仕組みや機能、生命活動とエネルギーと代謝、その維持について理解する。細胞の働きや遺伝情報、力と運動、天気の変化や地球温暖化について学び修得する。高校で学んだ生物・化学・物理・数学の内容を振り返ることで専門科目を理解するための基礎を作り、生化学・薬学・栄養学・病理学・治療法を理解するための助けとする。これらを学ぶ過程で、科学的な見方・考え方を理解する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 身の回りの物質とその成分・性質について説明できる。		○			
2 からだを作る原子・分子と化学変化について説明できる。		○			
3 からだの仕組みや機能について説明できる。		○			
4 生命活動、エネルギーと代謝について説明できる。		○			
5 細胞の増え方と遺伝について説明できる。		○			
6 からだの中の環境とその維持について説明できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	イントロダクション　授業の目的・概要説明	福永	予習(90分)：シラバスを熟読し、指定教科書の目次・全体に目を通す。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
2	【数学】 計算：足すと10になる計算、いろいろな筆算、四則計算の順序、倍数と約数 数の表現：分数、約分、通分、分数の四則演算について学ぶ。	外部講師 飯島	予習(90分)：スタートアップトレーニング(数学)p46～p53を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
3	【化学】 第1章：身のまわりの化学 第2章：化学の単位と元素の周期表	外部講師 藤森	予習(90分)：化学　p1～p30 を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
4	【生物】 第1章：生命体のつくりとはたらき（細胞の構造と機能,人体を構成する水・電解質・浸透圧,細菌とウイルス） 第2章：生命維持のエネルギー（エネルギー,酵素とそのはたらき）	外部講師 簑輪	予習(90分)：生物学　p1～p57を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
5	【数学】 小数，割合，速さ，濃度について学ぶ。	外部講師 飯島	予習(90分)：スタートアップトレーニング(数学)p54～p61を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
6	【化学】 第3章：物質の三態 第4章：気体の性質 第5章：液体・溶液の性質	外部講師 藤森	予習(90分)：化学　p31～p71 を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
7	【生物】 第3章：細胞の増殖とからだのなりたち 第4章：遺伝情報とその伝達・発現のしくみ （染色体と遺伝子,DNAのはたらき,遺伝性疾患）	外部講師 簑輪	予習(90分)：生物学　p59～p132を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
8	【数学】 平均，比、比例・反比例、 色々な単位：単位の表し方、接頭語、長さ、重さ、面積、体積について学ぶ。	外部講師 飯島	予習(90分)：スタートアップトレーニング(数学)p62～p69を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
9	【化学】 第6章：化学反応 第7章：反応速度 第8章：化学平衡	外部講師 藤森	予習(90分)：化学　p73～p118 を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
10	【生物】 第5章：生殖と発生 第6章：個体の調節（各器官系のはたらき,内分泌系）	外部講師 簑輪	予習(90分)：生物学　p133～p201を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
11	【数学】 数量関係：図・グラフで見る数・量、様々なグラフ、グラフの読みとり、 グラフの作成について学ぶ。 データの代表値として，中央値を追加して学ぶ。	外部講師 飯島	予習(90分)：スタートアップトレーニング(数学)p70～p75を読む。 データの中央値について高校1年生の教科書(数学Ⅰ)で復習する。 復習(90分)：授業ノートを整理する。

12	【化学】 第9章：原子の構造と化学結合 第10章：無機化学	外部講師 藤森	予習(90分)：化学　p119～p170 を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
13	【生物】 第7章：刺激の受容と行動　（神経系の情報処理と情報伝達） 第8章：生命の進化と多様性	外部講師 簔輪	予習(90分)：生物学　p203～p280を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
14	【化学】 第11章：有機化学 第12章：高分子化学	外部講師 藤森	予習(90分)：化学　p171～p226 を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。
15	【生物】 第9章：生物と環境のかかわり 第10章：地球環境とヒトとの共存（地球温暖化,環境汚染）	外部講師 簔輪	予習(90分)：生物学　p281～p309を読む。 復習(90分)：授業ノートを整理する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

A4サイズのノートを準備する。授業ごとに数回、ノートの提出を求める。次回の授業前に返却する。不足のある時は、補講時間に指導する。

【成績の評価方法】

定期試験:100%（数学30点＋化学35点＋生物35点＝100点満点。3科目の合計点の60点に満たない場合、3科目で100点満点の再試験を受けなければならない）
※ 補習授業で実施する確認試験等も評価の対象とする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

1.奈良雅之：系統看護学講座 基礎分野　化学 第7版　医学書院　2018
2.高畑雅一 他：系統看護学講座 基礎分野　生物学 第10版　医学書院　2019
3.児玉善子 他：看護学生スタートアップトレーニング改訂2版（数学）メディカ出版　2020

【参考書】

ニューステージ新生物図表　浜島書店　2022

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

福永ひとみ：看護師及び看護教員資格を持ち、病院・教育機関において実務経験を有す
外部講師：藤森裕基(化学)・簔輪欣房(生物)・飯島　亮(数学)、それぞれ担当分野の教育経験を有す

【オフィスアワー】

福永: 火～金曜日の昼休み時間(12:10～13:00)

【教員連絡先】

福永研究室　3号館　3階　3316号室　hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	データサイエンス	担当教員名	髙橋　利光			
コード	22HUM102	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
◎	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

現社会では、インターネットやモバイル型の各種デバイス、情報通信技術の急速な発展により、さまざまな場面でビックデータが蓄積・活用されるようになった。それに伴い、大量のデータから、何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出す、「データサイエンス(Data scienceまたはDS)」の重要性が高まっている。 データサイエンスの活用例として、「GPS交通情報システム」、「ECサイトの顧客データ分析」、「医療分野での診断支援システム」などがあり、日常生活のほぼ全ての領域にわたる。本授業では、データサイエンスが必要とされる背景や仕組み・活用例の紹介とデータを活用するための情報基礎知識とPC基本操作(Microsoft Office Word／Excel／PowerPoint)を学ぶことを目的する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 PCの基本的な知識を身に付け、操作方法を習得する。					○
2 データサイエンス、情報モラルの基礎知識とWeb利用方法を習得する。					○
3 情報資源・ネットワーク環境を利用し、情報の「収集・分析・活用」ができる。					○
4 Microsoft Office Wordを利用し、基本知識・操作の習得から文書作成ができる。					○
5 Microsoft Office Excelを利用し、基本知識・操作の習得と表計算、グラフ作成,基本的な関数を使用することができる。					○
6 Microsoft Office PowerPointの基礎知識と操作を習得する。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス ・講義概要・講義計画の説明／メール・Classroom使用方法の確認 ・アンケート調査(今までのPC使用状況など) ・コンピュータの基礎① Windows基本説明	髙橋	予習(60分):シラバスを確認する。 PCを使用し、どんなことがしたいか目的をイメージする(例:タイピングが速くなりたいなど)。 復習(60分):1回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
2	コンピュータの基礎② ・Windows 基本と操作方法の説明・演習 ・利便性が高いアプリの紹介・使用説明 データサイエンスの概要説明・活用事例紹介①	髙橋	予習(60分):予習資料(コンピュータの基礎とデータサイエンス)を確認する。 復習(60分):2回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
3	情報モラルとインターネットの活用方法 ・WEBサイトを利用し,効率の良い情報収集・検索方法の説明 ・基礎的な情報モラルとITルールについて動画閲覧 データサイエンスの概要説明・活用事例紹介②	髙橋	予習(60分):予習資料(情報モラルとインターネットの活用方法)を確認する。 復習(90分):3回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
4	文書作成① ・Microsoft Office Wordの概要・機能説明 ・文書作成・演習	髙橋	予習(60分):予習資料(Microsoft Office Word概要と機能)を確認する。 復習(90分):4回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。 レポート課題(60分):Microsoft Office Wordを使用し、文書を作成する。 内容・提出期限は授業内で説明する。
5	文書作成② ・Microsoft Office Word機能の復習と操作方法 ・文書作成・演習	髙橋	予習(60分):予習資料(Microsoft Office Word基礎操作)を確認する。 復習(90分):5回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
6	表計算ソフト利用① ・Microsoft Office Excelの概要説明と操作 ・表計算方法・演習	髙橋	予習(60分):予習資料(Microsoft Office Excel概要と機能)を確認する。 復習(90分):6回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
7	表計算ソフト利用② ・Microsoft Office Excelの基礎操作 ・数式と関数使用・演習 ・Microsoft Office PowerPoint基礎説明・演習	髙橋	予習(60分):予習資料(Microsoft Office Excel操作と関数表)を確認する。 復習(90分):7回目授業資料の確認とタイピング練習、授業内で提示する課題。
8	・情報モラル復習 ・Microsoft Office Word／Excel 復習 ・Microsoft Office PowerPoint操作説明・演習 ・アンケート調査(習熟度確認)・演習	髙橋	予習(60分):予習資料(総復習資料)を確認する。 復習(60分):1～8回の授業資料の確認、授業内で提示する課題。 レポート課題(120分):Microsoft Office Word／Excel／PowerPointの課題を提示する。 内容・提出期限は、 授業にて説明する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	・PC操作に慣れるため、授業の始まり10分間、タイピング練習を行う。 ・情報モラルの動画視聴(授業内で再生する)。 ・医療現場で使用する情報機器などの紹介をする。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・レポートに対する解説は、次回の授業にて行う。

【成績の評価方法】

・授業での取り組み（40％）
・各授業の演習課題提出（40％）※演習課題は、提出するだけではなく提出物の内容を見て評価する。
・小レポート（20％）　※レポート課題を2回提示する。
合計：100％

※公欠以外に3回欠席した場合は、評価対象外とする。

【生成AI利活用（　　無　　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし。授業資料は、Classroomに提示する。

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

大学、高等学校、専門学校の情報処理講師を歴任。加えて、複数の教育・医療機関の情報システム管理者の経験有り。

【オフィスアワー】

授業内容の質問やコメントは授業開始前もしくは終了後、教室にて行う。 急な質問や連絡がある場合は、メールで連絡すること。

【教員連絡先】

totakahashi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

授業内で提示する課題を期限内に提出すること。MicrosoftOfficeがインストールされているWindowsPCを持参すること。授業の資料はClassroomにて提示する。

授業科目名	情報リテラシー	担当教員名	髙橋　利光			
コード	22HUM103	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
◎	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

近年のICT発展に伴い、情報機器を理解し、活用する力を身に付けることは,さまざまな活動において必要な時代となっている。 世界中の情報機器がインターネットにつながり、大量の情報を簡単に入手できる時代である。 簡単に情報を取得できることに対し、利用者は情報リテラシーを理解し、ルールを守って利用する必要がある。本授業では、情報社会に対応できるよう必要性が高い情報リテラシーの習得を行う。 具体的には、大量の情報の中から必要なものを収集し、分析・活用するための知識や技能の習得。その他、レポート・論文作成に必要なソフト(Word)や表計算作成に使用するソフト(Excel)、プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の操作習得を目的とする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 情報リテラシー(個人情報保護とSNSの利用)について理解・活用するができる。					○
2 Wordを使用し、円滑にレポート作成することができる。					○
3 PowerPointを使用し、プレゼンテーション資料を作成することできる。					○
4 Excel機能を使用し、基礎的な統計分析を行うことができる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス ・講義概要・講義計画の説明 ・データサイエンスの総復習(Word/Excel)	髙橋	予習(30分):シラバスを確認する。 データサイエンスの授業(1～8回)の講義資料を確認し、復習する。 復習(90分):1回目授業資料及び、提出課題の確認を行う。タイピングの練習も行うこと。
2	PowerPoint中級操作① ・PowerPointの概要説明,スライド挿入、スライド移動,削除など ・背景変更、アニメーションなど	髙橋	予習(60分):予習資料(PowerPointの基礎と操作)を確認する。 復習(90分):2回目授業資料及び、提出課題の確認を行う。タイピング練習も行うこと。
3	PowerPoint中級操作② ・プレゼンテーション資料作成方法の説明 ・チームを組み、提示したテーマに沿ったプレゼンテーション資料を作成	髙橋	予習(60分):予習資料(PowerPoint操作とプレゼンテーション)」を確認する。 復習(90分):3回目授業資料及び、提出課題の確認を行う。タイピング練習も行うこと。
4	PowerPoint中級操作③ ・作成したプレゼンテーション資料を発表する	髙橋	予習(60分):予習資料(PowerPointプレゼンテーション方法)」を確認する。 復習(90分):4回目授業資料及び、提出課題の確認を行う。タイピング練習も行うこと。 レポート課題(90分):Word／Excel／PowerPointの課題を提示する。 内容・提出期限は、授業にて説明する。
5	Excel中級操作① ・書式設定、列幅の調整,移動とコピー、表示形式の変更、行・列の挿入と削除、罫線、 セルの結合など	髙橋	予習(60分):予習資料(Excel中級操作①)」を確認する。 復習(90分):5回目授業資料及び、提出課題の確認を行う。タイピング練習も行うこと。
6	Excel中級操作② ・四則演算、相対参照、絶対参照、複合参照、関数など	髙橋	予習(60分):予習資料(Excel中級操作②)」を確認する。 復習(90分):6回目授業資料及び、提出課題の確認を行う。タイピング練習も行うこと。
7	Excel中級操作③ ・並べ替え、複数の条件で並べ替え、抽出、複数の条件で抽出など ・統計機能説明と演習	髙橋	予習(60分):予習資料(Excel中級操作③)」を確認する。 復習(90分):7回目授業資料及び、提出課題の確認を行う。タイピング練習も行うこと。
8	・1～7回目までの総復習 ・インターネットと情報セキュリティについて説明 ・利便性が高い情報ツールの紹介	髙橋	予習(60分):予習資料(情報セキュリティ)を確認する。 復習(90分):1回～8回の授業資料を確認する。 提出課題の確認を行う。タイピング練習も行うこと。 レポート課題(90分):Word／Excel／PowerPointの課題を提示する。 内容・提出期限は、授業にて説明する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	・授業の始まり10分間、タイピング練習を行う。 ・情報リテラシーの動画視聴(授業内で再生する)。 ・プレゼンテーションのテクニックをレクチャーする。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・レポートに対する解説は、次回の授業にて行う。

【成績の評価方法】

・授業での取り組み（40％）
・各授業の演習課題提出（40％）※演習課題は、提出するだけではなく提出物の内容を見て評価する。
・小レポート（20％）　※レポート課題を2回提示する。
合計：100％

※公欠以外に3回欠席した場合は、評価対象外とする。

【生成AI利活用（　　無　　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし。授業資料は、Classroomに提示する。

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

大学、高等学校、専門学校の情報処理講師を歴任。加えて、複数の教育・医療機関の情報システム管理の経験有り。

【オフィスアワー】

授業内容の質問やコメントは授業開始前もしくは終了後、教室にて行う。急な質問や連絡がある場合は、メールで連絡すること。

【教員連絡先】

totakahashi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

授業内で提示する課題を期限内に提出すること。MicrosoftOfficeがインストールされているWindowsPCを持参すること。授業の資料はClassroomにて提示する。

看護学部　　2025(令和7)年度

授業科目名	看護学セミナー	担当教員名	塚本　都子　　宮本　久雄			
コード	22JUN104	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
◎	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本科目は,看護学を学ぶ上での導入科目として位置づいている。大学生に期待される基礎的な学びの態度・方法・知識などを修得し，高校生から大学生へのスムーズな移行を図る。具体的には，保健・看護・医療・福祉の分野から,個人またはグループで関心のあるテーマを選び,関連した動画の視聴をもとにグループディスカッションなどを行い，考察を深め，プレゼンテーション，レポート作成を行う。レポート作成を通し，著作権や個人情報保護などの法令遵守の意識を持ち，人権，個人情報，著作権について説明できるようにする。また，研究についての倫理を学び，不正(捏造・改ざん・盗用)について説明できるようにする。

学生が主体となって授業を展開し，自ら必要な知識を得て，各自の課題に気づきその課題に向けての解決策について体系的に考えることができるようにする。また，学ぶために必要な聴く・読む・書く・調べる・整理する・要約する・まとめる・表現する・伝える・考えるなどについて,授業を通して学修する。さらに，在学中および卒業後のキャリア生活を見据え，期待される看護専門職とはどのような存在であるのか,ということを早期より考察する力をつける。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 キリスト教の愛の精神について自分の考えを説明できる。	○				○
2 大学での学修方法が説明できる。					○
3 教科書や文献の活用方法と授業中のノートの整理方法や工夫する方法を述べることができる。					○
4 図書館とデータベースを活用する方法および資料収集方法、基本的なルールについて説明できる。					○
5 科学的・論理的な視点でレポート作成できる。					○
6 社会人として求められるコミュニケーション能力について記述できる。					○
7 看護学を学ぶ意義を記述できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1)コースガイダンス 生徒から学生への変換「大学で学ぶということ-意義・責任-」 2)スチューデント・スキル ①対人関係のスキル(マナー・コミュニケーション・自己表現と他者紹介)【演習】 ②効果的な学び方	塚本	予習(15分):授業内容についてテキスト(大学生　学びのハンドブック)の該当する箇所を熟読し、 授業への自己の課題を明らかにする。 復習(30分):講義を振り返り、自己表現とコミュニケーションに必要な話の順番、話の間のとり方、 傾聴などについての資料を検索し準備し、熟読してくる。
2	③青年期におけるストレス対処スキル ④日々の健康管理 ⑤倫理的感受性と責任 **【講義終了時】 小テスト10点**	塚本	予習(15分):自身が抱えやすい日常のストレスについて、日常的に意識している健康管理について まとめてくる。 復習(30分):テキスト「よくわかる看護職の倫理綱領」を熟読し、 本文①～⑯の中で、あなたが一番関心のある本文に関する考えをまとめる。
3	3)看護キャリアの設計 ①看護師を志す理由 ②看護観(理想とする看護師像)、内閣府世論調査との比較 ③東京純心大学看護学部を選んだ理由 ④ディプロマ・ポリシーの理解と達成戦略 資料:看護学部3P、カリキュラム・ツリー、シラバス、看護職の倫理綱領 ⑤4年後の自分像に向けてメッセージ	塚本	予習(15分):テキスト「よくわかる看護職の倫理綱領」看護職の倫理綱領を読み、 分からない用語を調べてくる。 復習(30分):講義を振り返り、これからの自己の考えをにまとめる。
4	4)ポートフォリオ作成 ①ポートフォリオとは ②看護学セミナー「看護キャリアデザイン・ポートフォリオ」の作成（各自）	塚本	予習(15分):パーソナルポートフォリオについて、調べてくる 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。
5	4)ポートフォリオ発表 ①自身の看護キャリア設計の発表 ②他学生の看護キャリア設計からの発見　：　各自記載し、ポートフォリオに綴る **【講義終了時】 小テスト10点**	塚本	予習(15分):自己表現とコミュニケーションに必要な話の順番、話の間のとり方、傾聴などについての 資料を検索し準備する。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。
6	5)スタディ・スキル ①ノートのとり方 ②反転学修(用語の調べ方・文章の読み方・まとめ方など) 本や資料を音読する　（図書館）	塚本	予習(15分)**:事前に図書館を見学し、気づいた点や分からない点等をまとめる。** 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。課題図書の「闘病記」の検索等に取り組む。
7	③レポート作成時の書籍、資料、文献収集方法など　（図書館） ④研究についての倫理の基礎(捏造・改ざん・盗用)について **【講義終了時】 小テスト10点**	塚本	予習(15分):自分の関心・興味のある書籍や文献について説明できるように準備する。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。

8	⑤レポートの書き方 ・レポートとは何か ・レポート作成の基本(テーマ設定・構成・形式等、日本語のルール) ・著作権や個人情報保護などの法令遵守、人権、個人情報など	塚本	予習(15分):授業内容についてテキスト(看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK)の該当する個所を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。
9	⑥仲間とともに学ぶスキル ・学修する仲間とは ・共同学習とは ・仲間との学習スタイル ⑦ディスカッション・スキル ・活気溢れるグループワークとは ・ゼミナール発表とは ⑧次回、オリエンテーション(知りたいこと・関心ごと・調べたいこと・疑問に思うこと) **【講義終了時】 小テスト10点**	塚本	予習(15分):テキストにおける「ゼミ発表」、「グループワーク」の箇所を熟読してくる。 復習(30分):講義を振り返り、学びをまとめる。オリエンテーションを受けて次回までの準備を行う。
10	⑨グループ演習体験 ・個人ワーク1(10点) 動画選定の理由(動画を視聴して、知りたいこと・関心ごとなど) ・グループワーク2 動画視聴	塚本	予習(15分):**看護学生である自分にとっての興味・関心ごとを明確にし、動画を選定する。** **個人ワークブックは、授業終了時に提出する。** 復習(30分):グループ間で話し合った内容をパワーポイントで発表資料を準備する。
11	・個人ワーク3(10点) 動画視聴の振返り (分かったこと・疑問に思うこと・調べたいこと) ・グループワーク4 動画視聴の振り返り	塚本	予習(15分):**看護学生である自分にとっての興味・関心ごとを明確にし、動画を選定する。** **個人ワークブックは、授業終了時に提出する。** 復習(30分):動画視聴後、グループで話し合う(次回のパワーポイント作成と発表資料を準備する)。
12	・グループワーク プレゼンテーション準備(パワーポイント、10枚程度) 1.タイトル・メンバー・発表年月日 2.はじめに(動画選定の理由と選定した動画について) 3.選定した動画を視聴する目的 4.視聴からの学び(目的に応じた学び、その他の学び) 5.疑問点と調べた結果 6.今後の課題	塚本	予習(30分):動画視聴後、グループで次回のパワーポイント作成と発表資料を準備する。 復習(15分):発表会を振り返り、学びをまとめる。
13	・グループ学びの発表会 (10点) 発表時間 7分程度、質疑応答5分程度 追加・修正したPPを提出する	塚本	予習(30分):動画視聴後、グループで次回のパワーポイント作成と発表資料を準備する。 復習(15分):発表会を振り返り、学びをまとめる。
14	・J. バニエと知的ハンディの人々の協同体「ラルシュ」 【講義】	担当:宮本	予習(15分):J. バニエと知的ハンディの人々の協同体「ラルシュ」について書籍や文献を読む。 復習(15分):講義を振り返り、学びをまとめる。
15	・J. バニエと知的ハンディの人々の協同体「ラルシュ」 【講義】	担当:宮本	予習(60分):J. バニエと知的ハンディの人々の協同体「ラルシュ」の書籍や文献を読む。 復習(60分):講義を振り返り、学びをまとめる。 ■授業終了後課題:テーマ 看護学を学ぶ意義 サブテーマ -私の目指す看護師像- についてまとめる。 文字数:1000～1500字程度のレポート作成し、**ポートフォリオに綴る** 文字のフォント:10.5ポイント 明朝体 ■提出:授業終了1週間後(○月○日17:00)学務課**専用ポスト**に**ポートフォリオ提出(30点)**

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	DVD活用
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義のなかで実施する。

【成績の評価方法】

個人課題:30%(10点×3、10・11回における個人ワーク、13回のグループ発表)
小テスト : 40% (10点×4、 2・5・7・9回の各授業終了時)
ポートフォリオ:30点
定期試験:なし
合計:100%

【生成AI利活用 (有)】

【 ルーブリック評価の活用 (有)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

1. 世界思想社編集部:大学生 学びのハンドブック[5訂版], 世界思想社, 2021.
2. 峰村淳子・石塚睦子編:よくわかる 看護職の倫理綱領 第3版, 照林社, 2022.

【参考書

1. 梶谷佳子、河原宣子、堀 妙子編集:看護学生のための よくわかる大学での学び方、金芳堂、2018.
2. メヂカルフレンド社編集部:New看護学生プレトレーニング 看護を学ぶ前にもう一度整理しておきたい基礎知識、メヂカルフレンド社、2019.
3. 佐藤智明、矢島 彰、山本明志編:3訂 大学 学びのことはじめ 初年次セミナーワークブック、 ナカニシヤ出版、2020.
4. 坂井浩美・山崎啓子著:看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK, 日本看護協会出版, 2021.

【オープンな教育リソース】

公益社団法人日本看護協会ホームページ　https://www.nurse.or.jp/episode/
内閣府　世論調査　https://survey.gov-online.go.jp/h04/H05-01-04-16.html

【担当教員の実務経験】

看護師としての実務経験および看護大学の教員経験のある者，コミュニケーションの知識のある者，図書館の知識のある者を中心に，看護学セミナーを教授する。

【オフィスアワー】

塚本は、火・木の12:00～13:00、16:00～18:00である。研究室への訪室やg-mailで質問等に対応する。

【教員連絡先】

塚本都子　mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

この科目は、看護学の基礎的知識・技術・態度について学ぶ。また、クラスで協同するグループワークも取り入れているので積極的な参加が必要である。
進度は、1週間に2時間ずつ進む。必ず、教科書や図書館の資料などを活用し、予習、復習を丁寧に行うことにより、看護学への学問的な関心が高まる。後期に位置する専門科目の履修に重要な科目である。

授業科目名	キリスト教学	担当教員名	宮本　久雄			
コード	22JUN105	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力					
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力					
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力					
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力					
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力					

【授業の概要】

看護に職業と人生の意義を学生一人ひとりが見出すことを授業の目的とする。そのための最も基本的な自らの成熟を励まし促す方策として「他者論」を提示する。すなわち、「他者論」とは、他者が誰であり、他者と出会い共に生きることの自覚の深まりである。この「他者論」のテーマをめぐって、授業では物語的方法をとる。そこでは他者と真に出会い、他者に供えつつ共に生きた人々の物語を紹介していきたい。その人々は、宗教・科学・文学・死生学などの分野に生きた人々である。例えば、知的ハンディを負った子供たちと生きたJ・バニエ、水俣病患者の苦姿を共苦した石牟礼道子、カルカッタで弱い病者などに献身したマザー・テレサ、愛の福音を全人類に向けて語ったイエス・キリストである。授業では、彼らの物語資料、テキスト、言葉そして彼らを具体的に示すDVDを用い、学生諸君に解り易いように解説する。その授業内容を若者学生が、全心身に体現できるように。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 授業において「他者の物語」をよく聞き身につけ、他者の尊厳と権利を守る為奉仕するその意味を述べることができる。	○				
2 「他者の物語」とは、他者のために生きた人格（イエス、マザーテレサなど）の物語り、豊かな人間性の悟りであるそのことを述べることができる。	○				
3 「他者の物語」の傾聴は、自己が他と関わる人格の育みの根本となり、看護の根本となる具体的な内容を述べることができる。	○				
4 こうして地域社会のいろいろな人々と出会い、人々の心身共なる健康の育成に貢献する看護の三原則cure、care、他者のcarryの人間力を豊かにし、国際社会でも活躍できることを具体的に説明できる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	授業の方法：物語り論と3つのC DVD「チェルノブイリ」（47分）をみる。　NP『チェルノブイリの祈り』	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	DVD「十万年後の安全」（79分）を見る。	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	イエスのたとえ、たとえの文学ジャンル「善きサマリア人」(1)	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	「善きサマリア人」(2)、「ぶどう園の主人と働き人」	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	「無慈悲な僕」（エンブレム）、レアクションペーパー	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	マザー・テレサの生涯と仂き;DVDを見る。生涯の説明。 マザー・テレサのことば(1)	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	マザー・テレサのことば(2) 日本のハンセン病患者の母、井深八重 DVD(46分)をみる。	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	井深八重の生涯	宮本	各講義の資料はその都度配布する。 復習は30分くらいの時間をかけ、関心あるテーマを選び深める。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		DVDなどの活用
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

レポートの書き方の説明と予行実習をする。
リアクション・ペーパーについてのコメントを行う。

【成績の評価方法】

・レポート（70％）
・リアクション・ペーパー（10％）
・授業中にテキストを読んでもらう時の態度など（20％）、他
合計100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

『関わるということ』
宮本（科目担当者）のキリスト教文化センター室にあるので、欲しい人には安価で配布する。（1000円）

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

神学研究・実践者として、東大25年、上智大8年、本学5年目の実務経験を通し、各学生のレヴェルを見極めながら、特に看護師となって成長する上で物語論を工夫している。

【オフィスアワー】

木曜日9時半～12時10分

【教員連絡先】

電話・FAX　03（3463）2536

【備考】

授業後にレポート提出（1200字前後）。講義の中で自分に興味・関心のあるテーマを自由に選び、手書き原稿で提出する。

授業科目名	純心平和学	担当教員名	大竹聖美、井上救、田中路			
コード	22JUN106	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本授業では、Sr.江角の平和への希求を様々な観点から考える。具体的には、高野澄子前理事長がまとめた『心をともすマッチのように』を教材とし、Sr.江角の様々なエピソードから他者への愛とまなざしに触れ、本学で学ぶ意味を考える。さらに自らの言動を振り返り、ディスカッションを高めて純心平和学の精神を落とし込んでゆく。自分と他者を大切にして奉仕する精神を入学直後に培うことで、今後の本学での学生生活に寄与する科目である。
「純心平和学」は、学園創設者であるSr.江角ヤスの平和への希求を一人ひとりが実現するための手がかりとなるものである。平和へのアプローチは多様で、さまざまな視点から平和について考え、取りくむことが可能である。
本学の感性教育・純心教育の伝統に立ち、音楽・美術・絵本を通して平和を実現する人になる。高度な専門が育まれる豊かな土壌(人間性)を、平和学として包括した音楽・美術・絵本の教養を通して培い、演習的・アクティブラーニング的手法を用いながら平和学のエッセンスを体得した実践・表現できる人になる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 学生個々人が自分なりの興味・関心・問題意識から「平和」について積極的に考える糸口を発見し、自分なりの平和についてのアプローチを見出すことができる。	○				
2 「マリア様、嫌なことは私が喜んで」を日々、積極的に、喜んで実践し、周囲の人々に喜んでもらえる＝自分の身近なところから平和を作り出していくことができる、すなわち、建学の精神を日々実践できる。	○				

【授業計画】

	授業計画			担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)		
1	オリエンテーション・授業ガイダンス:担当教員紹介、授業の概要、目標、進め方、評価方法等説明。グループ分け、テーマごとの授業外学修の説明			大竹 井上 田中	本日の配布物を参照し、授業で指示された課題に取り組む(予習0時間、復習3時間)		
2	純心平和学:学園創設者であるSr.江角ヤスの平和への希求			大竹 井上 田中	第一回目の授業で配布された資料を参照し、 授業で指示された課題に取り組む(予習2時間、復習・課題2時間)		
3	A班:絵本と平和①:絵本とはなにか	B班:美術と平和① 「平和を象徴する美術」作品紹介と制作(その1)	C班:音楽と平和①:讃美歌・キリスト教音楽についての講義及びトーンチャイム・ハンドベル演奏体験	A班:大竹 B班:井上 C班:田中	＊配布資料を参考に、大学図書館・ぬくぬくリブロで絵本を50冊読む(予習0時間、復習・課題4時間)	【予習】各自「平和を象徴する美術」と思われる作品を調べてくること(4時間)	【予習】ガイダンス時に予告された讃美歌の楽譜に目を通してくる(2時間) 【復習】トーンチャイム・ハンドベルの楽譜を読み自分のタイミングを確認する(2時間)
4	A班:絵本と平和②:共感すること・分かち合うこと	B班:美術と平和② 「平和を象徴する美術」作品紹介と制作(その2)	C班:音楽と平和②:トーンチャイム・ハンドベル演奏発表／リスニング・ウォーク	A班:大竹 B班:井上 C班:田中	＊授業で学んだことをふまえて課題にとりくみ、期限までに提出する(予習2時間、復習・課題2時間)	【予習】制作する作品のイメージを絵にして持参すること(4時間)	【予習】トーンチャイム・ハンドベルの楽譜を読み自分のタイミングを確認する(2時間) 【復習】リスニング・ウォークの課題を通して、患者のための音環境づくりについての意見をまとめる(添削後適宜返却)(2時間)
5	A班:美術と平和①: 「平和を象徴する美術」作品紹介と制作(その1)	B班:音楽と平和①:讃美歌・キリスト教音楽についての講義及びトーンチャイム・ハンドベル演奏体験	C班:絵本と平和①:絵本とはなにか	A班:井上 B班:田中 C班:大竹	【予習】各自「平和を象徴する美術」と思われる作品を調べてくること(4時間)	【予習】ガイダンス時に予告された讃美歌の楽譜に目を通してくる(2時間) 【復習】トーンチャイム・ハンドベルの楽譜を読み自分のタイミングを確認する(2時間)	＊配布資料を参考に、大学図書館・ぬくぬくリブロで絵本を50冊読む(予習0時間、復習・課題4時間)
6	A班:美術と平和②: 「平和を象徴する美術」作品紹介と制作(その2)	B班:音楽と平和②:トーンチャイム・ハンドベル演奏発表／リスニング・ウォーク	C班:絵本と平和②:共感すること・分かち合うこと	A班:井上 B班:田中 C班:大竹	【予習】制作する作品のイメージを絵にして持参すること(4時間)	【予習】トーンチャイム・ハンドベルの楽譜を読み自分のタイミングを確認する(2時間) 【復習】リスニング・ウォークの課題を通して、患者のための音環境づくりについての意見をまとめる(添削後適宜返却)(2時間)	＊授業で学んだことをふまえて課題にとりくみ、期限までに提出する(予習2時間、復習・課題2時間)

7	A班：音楽と平和①：讃美歌・キリスト教音楽についての講義及びトーンチャイム・ハンドベル演奏体験	B班：絵本と平和①：絵本とはなにか	C班：美術と平和① 「平和を象徴する美術」作品紹介と制作（その1）	A班：田中 B班：大竹 C班：井上	【予習】ガイダンス時に予告された讃美歌の楽譜に目を通してくる（2時間） 【復習】トーンチャイム・ハンドベルの楽譜を読み自分のタイミングを確認する（2時間）	＊配布資料を参考に、大学図書館・ぬくぬくリブロで絵本を50冊読む（予習0時間、復習・課題4時間）	【予習】各自「平和を象徴する美術」と思われる作品を調べてくること（4時間）
8	A班：音楽と平和②：トーンチャイム・ハンドベル演奏発表／リスニング・ウォーク	B班：絵本と平和②：共感すること・分かち合うこと	C班：美術と平和② 「平和を象徴する美術」作品紹介と制作（その2）	A班：田中 B班：大竹 C班：井上	【予習】トーンチャイム・ハンドベルの楽譜を読み自分のタイミングを確認する（2時間） 【復習】リスニング・ウォークの課題を通して、患者のための音環境づくりについての意見をまとめる（添削後適宜返却）（2時間）	＊授業で学んだことをふまえて課題にとりくみ、期限までに提出する（予習2時間、復習・課題2時間）	【予習】制作する作品のイメージを絵にして持参すること（4時間）

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		＊第3回～第8回の授業は、A・B・Cの三つの班に分かれて実施される。 ＊それぞれの班ごとに、「絵本と平和①②」「美術と平和①②」「音楽と平和①②」の授業を順番に受ける。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

＊絵本・美術・音楽でそれぞれ課題が出され、フィードバックされる。フィードバックの方法は各担当教員から説明がある。

【成績の評価方法】

授業参加度（課題への取り組み）： 30％
プレゼンテーション： 30％
提出物： 40％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

授業中に指示

【参考書】

授業中に指示

【オープンな教育リソース】

千葉大学アカデミックリンクセンター＜『児童文学事典』電子版＞ https://alc.chiba-u.jp/cl/

【担当教員の実務経験】

日本ペンクラブこどもの本委員、国立国会図書館国際子ども図書館外国語書籍調査員、八王子学園都市大学いちょう塾講師、大学コンソーシアム八王子夏休みこどもいちょう塾講師、
八王子ふれあいこども祭り講師、東京都保育士等キャリアアップ研修講師、日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス講師等

【オフィスアワー】

大竹：月・水・金の昼休み／井上：月・金の昼休み／田中：火12:10～12:50、金12:10～12:50

【教員連絡先】

大竹： kootake@g.t-junshin.ac.jp

井上： sinoue@g.t-junshin.ac.jp

田中： m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	看護倫理	担当教員名	間中　伴子			
コード	22NBA107	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

看護倫理は、生命倫理の下位概念で応用倫理学であり、看護専門職として看護実践に欠かせない知識と判断である。患者(利用者)と密に接する看護師には倫理的判断を求められることが多い。その為、看護師は他人の感情の中に自己を投入する能力や認識された像を見つめる能力が重要となる。まず、人の数ほど価値観があることを認識しなければならない。自分の価値観と違うからと否定や批判をすることはできない。なぜなら価値観は今まで生きてきた人生で構築されたものであり、希望が含まれているからである。 本科目では、看護倫理の基本となる徳の倫理，原則の倫理、ケアの倫理およびその基の倫理理論について歴史的変遷を踏まえ学修する。また、看護倫理で重要なインフォームド・コンセントやアドボカシー、個人情報の保護等の専門用語の意味を学ぶ。加えて看護師の倫理綱領と倫理的事例の検討を通して看護倫理の理解を深める授業である。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護倫理の歴史的推移の理解をし、看護倫理の重要性について説明できる。		○			
2 看護倫理の基盤となる理論や概念について概説できる。		○			
3 看護者の倫理綱領の理解をし、その意義、活用の在り方について自分の考えを述べることができる。		○			
4 看護実践上の倫理的問題・課題の明確化、解決や調整のための基本的な方法について説明できる。		○			
5 看護実践上の身近な事例を分析し、倫理的問題・課題への対応について討議し発表できる。		○		○	
6 看護者としての倫理的な感受性、判断・対応能力を高めていくための、自身の課題について述べることができる。		○			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 第1章　倫理学の基本的な考え方 A　倫理とは何か B　倫理理論 C　他者理解と対話のための理論	間中	予習(15分):1年次後期科目の「叡智の探求:倫理学」の講義資料を振り返っておく。 教科書の「はしがき」「序章」「第1章」を読んでおく。 復習30分):講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。
2	第2章　生命倫理 A　生命倫理とはなにか B　生命倫理の理論 C　生命倫理と看護職の責務	間中	予習(15分):教科書「看護倫理」の第2章を読んでおく。 1年次後期科目の「叡智の探求:倫理学」の講義資料を再度見直しておく。 復習(30分):講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。
3	第3章　性と生殖の生命倫理 A　性の生命倫理 B　生殖の生命倫理	間中	予習(15分):教科書「看護倫理」の第3章を読んでおく。 1年次後期科目の「叡智の探求:倫理学」の講義資料を再度見直しておく。 復習(30分):講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。
4	第4章　死の生命倫理 A　死について B　死と医療 C　死についての生命倫理の課題	間中	予習(15分):教科書「看護倫理」の第4章を読んおく。自分の考えをまとめておく。 復習(30分):講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。
5	第5章　先端医療と制度をめぐる生命倫理 A　移植医療 B　再生医療 C　遺伝子医療 D　医療資源と医療保険制度	間中	予習(15分):教科書「看護倫理」の第5章を読んでおく。 復習(30分):講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。
6	グループワーク ①②生命倫理4原則を用いた倫理問題の検討 (60歳前後ホームレスの男性の緊急手術の事例)について ③看護実践における守秘義務・個人情報の保護 (Aさん82歳女性末期がん患者の事例)について ④性と生殖の課題について	間中	予習(15分):P17,P31,P39、P58のグループワーク①～④を読み自己の考えをまとめておく 復習(30分):グループでの事例検討の結果を発表できるように準備する。
7	グループワーク発表 6回で検討した内容を各グループごとに5分間、 (発表に使用する媒体は自由)発表する また、発表に対するディスカッションを行う。	間中	予習(15分):グループでの事例検討の結果を発表できるように準備してくる。 復習(30分):他のグループの発表を聴き、学んだことをまとめる。
8	第6章　看護倫理とは何か A　看護倫理を学ぶ意義 B　看護倫理の歴史 C　看護の倫理原則 D　看護実践上の倫理的概念 E　看護実践と倫理	間中	予習(45分):教科書「看護倫理」の第6章を読んでおく。自分の考えをまとめておく。 復習(60分):講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。
9	第7章　専門職の倫理 A　社会から見た看護 B　専門職の倫理綱領 C　専門職の倫理綱領 D　看護業務基準と倫理実践 E　保健師助産師看護師法と倫理	間中	予習(45 分):教科書「看護倫理」第7章を読んでおく。 復習(45分):講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。
10	第8章　倫理的問題へのアプローチ A　看護実践における倫理的問題の特徴 B　倫理的問題へのアプローチ	間中	予習(45 分):教科書「看護倫理」第8章を読んでおく。 復習(45分):講義内容を振り返り、自己の考えをA-4 用紙1枚程度にまとめておく。

11	第9章　看護研究の倫理 A　看護職と研究倫理 B　研究における倫理的問題 C　倫理的配慮の要点	間中	予習（15 分）：教科書「看護倫理」第8章を読んでおく。 復習（30分）：講義内容を振り返り、自己の考えをA-4 用紙1枚程度にまとめておく。
12	グループワーク ⑤事例「末期がん患者への透析」について ⑥先端医療技術について ⑦研究倫理について	間中	予習（15分）：P71,P91,P180のグループワーク⑤～⑦演習を読み自己の考えをまとめておく 復習（30分）：グループでの事例検討の結果を発表できるように準備する。
13	グループワーク発表 12回で検討した内容を各グループごとに5分間、 （発表に使用する媒体は自由）発表する また、発表に対するディスカッションを行う。	間中	予習（15分）：グループでの事例検討の結果を発表できるように準備してくる。 復習（30分）：他のグループの発表を聴き学んだことをまとめる。
14	第10章　事例分析 A　小児看護における事例分析 B　精神看護における事例分析 C　母性看護における事例分析	間中	予習(15分)：教科書「看護倫理」の第10章A,B,Cの事例を読んでおく。 復習(30分)：講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。
15	D　臨床検査における事例分析 E　地域における事例分析	間中	予習(15分)：教科書「看護倫理」の第10章D,Eの事例を読んでおく。 復習(30分)：講義内容を振り返り、自己の考えをまとめておく。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	グループワーク後に発表して、ディスカッションを行う。 ビジュランクラウドを活用する。 Googleclassroom、Googleフォーム、課題レポートに関してはGoogle盗用機能チェック機能を活用する。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義に実施する。

【成績の評価方法】

課題レポート：60％、GW貢献度20％、GW発表内容20％
合計：100％

【生成AI利活用（　有　）】
1)成績評価の対象となるレポートや課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業と引用した場合は、引用した内容と引用元（文献や論文）がわかるように記載してください。
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。
3）課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

生命倫理を履修していることが望ましい。

【教科書】

系統看護学講座-別巻　宮坂 道夫　他　2018年01月発行　判型：B5頁：244　ISBN978-4-260-03445-6

【参考書】

・サラT・フライ,片田範子他訳：看護実践の倫理,第3版,日本看護協会出版会,2010.
・手島恵監修：看護者の基本的責務(2020年版),日本看護協会出版会.
・峰村淳子・石塚睦子編：よくわかる　看護職の倫理綱領，照林社，2022.

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

助産師としての大学病院、地域保健所、助産所での実務経験、看護大学の教員経験活かし看護倫理の基礎となるものを指導する。

【オフィスアワー】

月～金　12：10～13：00

【教員連絡先】

メールアドレス：tmanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

看護倫理とは、人間らしさを追求する看護者の主体的なあり方への問いを意味しています。
つまり、看護者として「何をすべきか」の問いに向かって、人間らしい看護を自らが実現しようとする主体性を形成するための授業です。
看護に対する自分の見方・考え方を深化・発展させて、より良い看護を目指し実践していきましょう。

授業科目名	心理学概論	担当教員名	小俣　沙知			
コード	22HDE108	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力					
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力					
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力					
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力					
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力					

【授業の概要】

この授業では、実験心理学、教育心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学にわたる心理学全般の基本的知見を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深めることとする。心理学誕生と発展の歴史や研究方法に始まり、主に心理学の基礎となる領域について、これまでの研究成果を概観しながら紹介を行っていく。著名な心理学者の提唱している理論や、それに伴う背景を学び、心理学を多角的に理解する。
人間の欲求や認知、学習、深層心理など、看護師としての人間理解に繋がる手掛かりとなるよう知識を得る。人間の心理がどのように研究されてきたのかについて触れるとともに、その学びを現実的にどのように生かせるのかを考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 人間の心理と行動について学び、自己と他者の理解を深め、心理学の基礎的知識を用いて自己と他者について説明することができる。	○				
2 心とからだのつながり，ストレス，心身の発達について説明できる。	○				
3 心理学の基礎的知識を習得するともに、人のこころの働きやより広い視野を持って人間を理解し、人間についての自分の考えを述べることができる。	○				
4 人のこころの働きの基本と個人差を理解するとともに、対人支援について説明できる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 「心理学」の目的について学ぶ	小俣	課題:シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加する 予習(80分):心理学について調べまとめておく。 復習(80分):心理学の学修の目的について理解し、対人支援で必要な心理的な視点について自分の考えをまとめる。
2	認知(環境の認知、感覚、知覚など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):人の感覚を通して知覚する認知についてまとめてくる。 復習(90分):認知について理解を深め、錯視・錯覚などの認知について自分の考えをまとめる。
3	感情(感情の仕組み、情動など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):人の感情について調べまとめておく。 復習(90分):感情の仕組みについて理解を深め、感情について自分の考えをまとめる。
4	感情(感情の仕組み、情動など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):欲求について調べまとめておく。 復習(90分):欲求の意味を理解し、欲求不満の対処について自分の考えをまとめる。
5	性格(性格の分類など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):自分らしさについて調べまとめておく。 復習(90分):性格の分類について理解を深め、性格の構成について自分の考えをまとめる。
6	性格(自己理解と他者理解、性格判断の偏見など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):他者を理解するときの手がかりを調べまとめておく。 復習(90分):性格診断から自己理解を深め、自分らしかがどのようなものか性格診断の偏見を踏まえて自分の考えをレポートにまとめる。
7	社会心理学(対人影響、同調など集団における個人への影響など)について学ぶ 確認小テスト	小俣	予習(80分):社会心理学について調べまとめておく。 復習(90分):集団における個人への影響の理解を深め、他者との連携場面での対人影響について自分の考えをまとめる。
8	レポート課題提出 確認テスト 解答解説	小俣	予習(80分):これまでの講義内容についてまとめておく。 復習(90分):講義で学んだことについて理解を深め、実践の場でどの様に活用できるかについて考えをまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	特になし。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

フィードバックとして、解答の解説を授業内に行う。

【成績の評価方法】

授業参加度:20 %確認テスト:40%　課題レポート:40%
1. どの程度、積極的に授業時に参加したかを「授業参加度」として評価する。
2. 確認テストでは各回で講義した内容に関しての全体の理解度を確認する。
3. 課題レポートでは、対人支援における他者理解で心理学の基礎的な理論が応用できているかの視点を重視する。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　) 】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

授業内で適宜、資料等を配布していく。

【参考書】

「看護学生のための心理学」(長田久雄著)　医学書院

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

金曜日　午前

【教員連絡先】

somata@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	叡智の探究	担当教員名	若松 功一郎			
コード	22JUN110	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

哲学史全体を概観しつつ、ソフィア(叡智)と倫理(人間の生き方)を探求する。本授業では主に西洋古代哲学の代表的な哲学者であるソクラテス、プラトンの人間観を概観していく講義形式である。また、プラトンの作品を手がかりに、哲学的な問いに受講生の皆さんが個人で向き合うだけでなく、小グループを作りその中のメンバーとの対話を通して意見交換するなどグループワークも取り入れる。今から2500年ほど前の古代ギリシアで哲学者が人間をいかに理解しようとしていたのかを「生と死」「勇気とは何か」「正義とは何か」などのテーマを概説する。具体的には以下のとおりに進行する。講義前半では、ギリシャ哲学の歴史を概観し、「生」や「正義」について昔の人々がどう考えたのかを学ぶ。
講義後半では、前半での学びをもとに、キリスト教の中心的なメッセージである「愛」とは何であるのかを考えてみる。哲学的・キリスト教的な問いかけに対して、受講生の皆さんが自分の言葉で思考する練習を行う。□

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 キリスト教精神とはどのようなものかについて、自分の言葉で説明することができる。	○				
2 「善」、「愛」といった哲学的な事柄に関する知見を、自らの看護に応用することができる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	イントロダクション	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	ソクラテスの問答法――対話を通した他者理解――	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	プラトンのイデア論――状況によらない「善」があるか――	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	プラトンにおける愛――「善」への希求としての「愛」(エロース)――	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	アリストテレスの政治学――社会の中の「善」――	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	プロティノスの流出論――「善」はどこからくるのか――	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	福音書における愛①「隣人になる」こと――善きサマリア人の喩 —―	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	福音書における愛②　喩話の持つ機能――放蕩息子の喩 —―	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	パウロにおける「愛」①――パウロの回心――	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	パウロにおける「愛」②――十字架の神学――	若松	予習:テーマに関する予備調査。(90分) 復習:授業内容に関する課題をオンライン上で提出。(90分) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	ヨハネにおける「愛」――「神は愛である」――	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	アウグスティヌスの原罪論――自分だけの力で正しく生きれるのか――	若松	予習(90分):テーマに関する予備調査。 復習(90分):授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

13	トマス・アクィナスにおける「愛」――認識できないものを愛することができるか――	若松	予習（90分）：テーマに関する予備調査。 復習（90分）：授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	マイスター・エックハルトの「愛」――見知らぬ人を自分と同じように愛せるか――	若松	予習（90分）：テーマに関する予備調査。 復習（90分）：授業内容に関する課題をオンライン上で提出。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	まとめと議論	若松	予習（90分）：授業全体をつうじて習得した知見をまとめておく。 復習（90分）：授業内容に関する課題をオンライン上で提出。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		映像資料の活用。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

提出された課題に対するフィードバックは、次回の講義の際に行う。

【成績の評価方法】

平常点（50％）：グループワークへの積極的な参加、毎回の課題等を評価する。
期末レポート（50％）： 構成の明晰さ、内容の充実度を評価する。
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

特になし。

【参考書】

『聖書』（新共同訳）を読み、キリスト教の世界に親しんでおくとよいでしょう。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

質問は授業後に受けつけます。

【教員連絡先】

k.wakamatsu123@gmail.com

【備考】

特になし。

授業科目名	運動理論・実技	担当教員名	下川　学			
コード	22HUM111	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
				○	○	
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

運動理論・実技では、基礎体力の向上に必要な栄養・食育教育を重視し、心身の健全な育成に生涯にわたって影響力を持つスポーツについて実践していく。また、リーダーシップなどの社会性を養うとともに、生涯スポーツ参加への重要性を学修する。講義においては、運動理論として国民衛生の動向および国民健康・栄養調査、食事摂取基準等の資料をもとに、健康とスポーツについての関連を学修し、学びを深める。実技においては、体育方法学の面からバドミントン種目を中心にチームワーク、ルール、体力づくりの方法等のスポーツ技能・技術向上と体力の増進および健康づくりを体験的に学修する。履修者が多い場合の授業形態は、実技と課題を隔週ごとに行うこととする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 国民栄養の現状や国民健康・栄養調査等から健康問題についての解決策を述べることができる。			○		
2 体育方法学の面から運動処方、行動変容について説明できる。			○		
3 バドミントンの実践を通して心と体を一体としてとらえ、ルールが説明でき、ラリー技術が向上する。			○		
4 バドミントンの第1目標は、クリヤーでラリーができる。第2目標は、ドライブでラリーができる。第3目標は、ダブルスでゲームができる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション (課題):健康観	下川	・シラバスを一読しておくこと(60分)。 ・実技は第2体育館で行う。 ・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる。
2	(理論)課題:健康や寿命に関すること① (実技)バドミントン:ラケット、シャトルに慣れる	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・実技は、運動の出来る服装(体育館シューズを含む)で授業に臨むこと。 ・ストロークについて確認しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	(理論)課題:健康や寿命に関すること② (実技)バドミントン:ラケット、シャトルに慣れる	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・実技は、運動の出来る服装(体育館シューズを含む)で授業に臨むこと。 ・ストロークについて確認しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	(理論)課題:国民健康・栄養調査①栄養に関すること (実技)バドミントン:ストローク、フットワーク、シャトルの性質を覚える	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・基本的な動きについて復習しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	(理論)課題:国民健康・栄養調査②栄養に関すること (実技)バドミントン:ストローク、フットワーク、シャトルの性質を覚える	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・基本的な動きについて復習しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	(理論)課題:国民健康・栄養調査③体型に関すること (実技)バドミントン:クリヤー、ドライブ、ヘアピン	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・基本的動作のイメージトレーニングをしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	(理論)課題:国民健康・栄養調査④体型に関すること (実技)バドミントン:クリヤー、ドライブ、ヘアピン	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・基本的動作のイメージトレーニングをしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑤運動に関すること (実技) バドミントン:ハイクリヤー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ルールについて予習(30分)、サービスの方法の復習(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑥運動に関すること (実技) バドミントン:ハイクリヤー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ルールについて予習(30分)、サービスの方法の復習(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑦睡眠に関すること (実技) バドミントン:ゲーム(シングルス)	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・シングルス、ダブルスのルールについて予習しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	(理論)課題:国民健康・栄養調査⑧睡眠に関すること (実技)バドミントン:ゲーム(シングルス)	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・シングルス、ダブルスのルールについて予習しておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	(理論)課題:運動処方① (実技)バドミントン:ゲーム(ダブルス)	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ダブルスのルールの再確認とペアとの連携について確認をしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

13	(理論)課題:運動処方② (実技)バドミントン:ゲーム(ダブルス)	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ダブルスのルールの再確認とペアとの連携について確認をしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	(理論)課題:行動変容① (実技)バドミントン:ゲーム(ダブルス)	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ペアとの連携について再確認をしておくこと(60分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	(理論)課題:行動変容② (実技)バドミントン:ゲーム(ダブルス)	下川	・与えられた課題について自分自身の考えをまとめる(60分)。 ・ペアとの連携について再確認をしておくこと(30分)。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

次回の授業時に行う。

【成績の評価方法】

授業への取り組み(60%)、レポートや試験(40%)などにより総合的に評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

シラバスの内容は受講生のレベルに応じて対応する。実技は第2体育館で行い、課題は教室で行う。体調に留意して授業に臨むこと。

【教科書】

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

メールで対応する

【教員連絡先】

mshimokawa@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	美術療法	担当教員名	藤木 晃宏			
コード	22ART114	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

作品を創作することによって体験する喜びや楽しみが，人間の脳を刺激し認知症予防に役立つかが昨今実証されている。この授業では，実際その成果を上げている方法を臨床美術の立場から学び，病院や施設などで応用できるよう学ぶ。高齢者のみならず，美術の理論や実践によって，様々な問題を抱えている子供の心身の健康を，生理的・心理的にもいかに変化させるかについても探求する。一般的に美術療法は，絵画や造形などを含む作業を行わせる心理療法の一つとして位置づけられているが，本科目の授業では，心理療法とは違ったアプローチによる「臨床美術」について学習する。授業では臨床美術の概念を学ぶとともに，制作体験を通して自らの感性と出会い，実践を通して美術を用いた他者の感性との関わりに理解を深めることを目的としている。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 講義だけでなく絵画制作などの体験学習を組み込むことで、臨床美術の役割や効果について述べることができる。	○		○		
2 絵を描くことに対して上手下手の価値観から解放されることで、誰でも自己表現することができる。	○		○		
3 作品制作や鑑賞会を通して、自己肯定感を養うことができる。	○		○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	臨床美術・基幹1　臨床美術の歴史、基本的な考えを学ぶ。	藤木	予習(15分):シラバスの内容を一読しておく
2	臨床美術・基幹2　臨床美術の目的、アートプログラムなどの実践について学ぶ。	藤木	復習(30分):教科書P.12-56を読んでおく 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	右脳モード演習　脳の活性化のための右脳モードによる描き方の紹介と演習。	藤木	課題(180分):逆さ絵・北斎漫画「布袋」の演習　(提出日:授業11回目)
4	アートプログラム制作体験1 「五感のアナログ画」 見えないものを感じて描くことを体験する。	藤木	課題:「アナログ日記」を描く　(提出日:授業13回目) 1枚　約10～15分で、提出までに計20枚程度描く
5	アートプログラム制作体験2 「りんごの量感画」　五感でりんごを感じながら描くことを体験する。	藤木	復習(20分):表現することの楽しさについての振り返り 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	「存在論的人間観」 臨床美術の根幹になっている基本的な考え方を学ぶ。	藤木	復習(30分):教科書P.96-120を読んでおく 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	アナログ画の理解を深める クロッキー演習を通して、自宅課題の取り組みに反映させる。	藤木	課題:授業内容を参考に、引き続き「アナログ日記」を描く　(提出日:授業13回目) 1枚　約10～15分で、提出までに計20枚程度描く
8	アートプログラム制作体験3 「立体・かぼちゃ」　既成概念にとらわれない自由な表現を体験する。	藤木	復習:(20分)　表現することの楽しさについての振り返り 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	臨床美術・コミュニケーションⅠ　「私の感性地図」　鑑賞会「りんごの量感画」 臨床美術におけるコミュニケーションの目的を学ぶ。	藤木	予習:(30分)　「私の感性地図」を作成しておく 課題提出:「私の感性地図」※授業で使用
10	臨床美術・コミュニケーションⅡ　共同制作「2人で描く線と色の抽象画」 作品制作を通して受容と共感について学ぶ。	藤木	復習(20分):アート制作によるコミュニケーションについての振り返り 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	臨床美術のセッションについて 実践現場の映像を視聴しながら、臨床美術士の役割や姿勢を理解する。	藤木	復習(15分):教科書P.122-143を読んでおく 臨床美術士の参加者との関わり方について振り返り 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	臨床美術アートプログラム研究　アートプログラムの目的を理解する。	藤木	復習(15分):アートプログラムの役割と意味について考える。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	アートプログラム制作体験4 「さつまいもの量感画」 制作を通して量感画の理解を深める。	藤木	課題提出:「アナログ日記」 予習(15分):「さつまいもの量感画」のレジメを読んでおく
14	アートプログラム制作体験5 「色のアラベスク」 誰もが楽しみながら自己表現できることをあらためて実感する。	藤木	復習(15分):表現することの楽しさについての振り返り 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	「臨床美術」～子どもへの取り組み 子どもの感性教育としての可能性について学ぶ。	藤木	レポート提出:指定した教科書「臨床美術」に対する感想と意見

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは、課題提出をした授業内で行う。

【成績の評価方法】

〈評価基準〉
・真摯に取り組む姿勢（発言など）、積極的に授業時の実技活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。
・授業での学びを踏まえ、課題の趣旨を理解して取り組んだか、また全課題を提出したかを基準として「課題提出」を総合評価する。
・「レポート」は指定した教科書の内容の要約や引用文のみで論じるのではなく、授業での体験学習も交え、自分の観点を盛り込んだ具体性のある内容であるかどうかを評価する。
〈割合〉 授業内での発言等授業参加度30%、課題提出30%、 レポート40%で総合評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

受講の前提条件
・授業および課題で使用する下記の指定画材(3点)を必ず購入すること。※学務課窓口で指定画材と代金引換（授業初日に説明）
脳いきいきオイルパステル、 新和紙セット、スケッチブックSM ※指定外の画材は不可

【教科書】

「臨床美術～認知症治療としてのアートセラピー」金子健二 編 日本地域社会研究所

【参考書】

臨床美術―認知症医療と芸術のコラボレーション」 宇野 正威/芸術造形研究所（編著） 金剛出版
「こころ輝く世界」 金子 健二（著，編集）， 宇野 正威（監修） 遙書房
「決定版 脳の右側で描け」ベティ・エドワーズ（著） 河出書房新社

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

臨床美術士として、臨床美術の現場経験を交えながら講義、実技を行う。

【オフィスアワー】

メールにて対応する。

【教員連絡先】

afujiki@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・絵を描くことに苦手意識のある人、自信がない人でも表現する楽しさを実感してほしい。
・アートを通した受容と共感は、ポジティブなコミュニケーションのヒントになる。

授業科目名	音楽療法	担当教員名	鏑木　陽子			
コード	22ART115	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

音楽療法は,「音楽のもつ生理的, 心理的, 社会的働きを用いて, 心身の障害の回復, 機能の維持改善, 生活の質の向上, 行動の変容などに向けて, 音楽を意図的, 計画的に使用すること」と定義される。臨床の場では, ひとつの歌が患者・家族と看護者との関係を良好にし、患者のQOL向上に繋がるケースが少なくない。本講座では, 対象領域別に音楽療法の理論を学びつつ、音楽療法のさまざまな手法(歌唱, 楽器演奏, 楽器づくり, 音遊び等)を学び, 音楽によるコミュニケーションを体験する。対象者を理解し, そのニーズに音楽がいかに応えていけるのかをともに考えていくこと、また同時に「音楽を通して自分自身を知るワーク」を通して自分と音楽との関係について考えることも重要視している。音楽療法士の資格取得を目的とした講座ではないが、将来的に音楽を臨床で活かす専門職となれるように授業を展開していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 音楽が人の心とからだにもたらす働きを理解し、対象領域ごとに音楽療法の意義と内容を説明できる	○		○		
2 人間の生活と音楽との結びつきを考察し、自らの生き方を再確認し、音楽はどのような存在であるかを自分の言葉で表現できる	○		○		
3 将来就く仕事の中で音楽をどのように生かし得るかを考察し、具体的に構想し、音楽プログラムを計画し、行なうことができる	○		○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	音楽療法の概念と定義、音楽の機能について	鏑木	予習(15分):日本音楽療法学会HPを参考に自分が関心を持つ音楽療法の対象領域を 述べられるようにしておく 復習(30分):配布資料中からキーワードを 5 つ挙げ、説明できるようにしておく
2	自分と音楽との関係を知る ―好きな曲をカテゴライズしてみよう―	鏑木	予習(15分):好きな曲を聴き、最低 10 曲リストアップしておくこと 復習(30分):自分にとっての音楽との関係を文章化してまとめておくこと
3	音楽療法の歴史	鏑木	予習(15分):野配布資料のコラム「音楽療法の歴史①～③」(p.19, 46, 70)、 配布資料を熟読してくること。 復習(30分):授業で扱ったトピックから任意のテーマをひとつ選び、関連する音楽を聴く
4	小テスト(1) 替え歌のワーク ―《翼をください》―	鏑木	予習(15分):小テスト(20 分)の出題範囲は配布資料の序論、第 1～2 章、コラムなので、 熟読しておくこと。 復習(30分):任意の歌で替え歌を作る
5	短い詩を作り、五音音階の旋律をつけて歌を作ろう	鏑木	予習(15分) 「希望」または「思い出」をテーマに五七五七七調の詩を作るので、 予め言葉をイメージしておくこと。 復習(30分):作った歌を五線譜に記す(または歌って録音する)
6	音あそび・歌あそび	鏑木	予習(15分):これまでに経験した歌遊び、音遊びをリストアップしておく 復習(30分):自分なりの短い音あそび、または歌あそびを考えて、レポートとして提出する
7	児童領域の音楽療法(1) ノードフ・ロビンズ音楽療法に学ぶ／グループ発表準備	鏑木	予習(15分):配布資料第3章V.「ノードフ・ロビンズ音楽療法」(p. 55～60)、 第3章II.「児童への音楽療法の実践例」(p.92-110) を熟読してくること 復習(30分):図書館で障がい児のための音楽活動に関する資料を探して読む
8	児童領域の音楽療法(2) 児童への音楽療法の実践例グループ発表	鏑木	予習(15分):グループ発表の準備 復習(30分):グループ発表の反省点をまとめ、次回、レポートとして提出
9	高齢者領域の音楽療法(1) グループ発表準備	鏑木	予習(15分):配布資料第4章 III.「高齢者への音楽療法」 (p.112-128) を読んでおくこと 復習(30分):指示した「高齢者領域の音楽療法の実践例」を視聴すること
10	高齢者領域の音楽療法(2) グループ発表	鏑木	予習(15分):グループ発表の準備 復習(30分):グループ発表の反省点をまとめ、次回、レポートとして提出
11	小テスト(2) 身近な素材で楽器を作ろう	鏑木	予習(15分):小テスト(20 分)は第3、4章で扱った内容から出題するので熟読しておくこと。 復習(30分):作成した楽器を用いて任意の音楽に合わせて演奏してみる
12	サウンドスケープについて	鏑木	予習(15分):配布した資料を読んでおくこと。 復習(30分):授業中に行なったワークについて文章化してまとめておくこと
13	精神科領域の音楽療法	鏑木	予習(15分)配布資料:第4 章「音楽療法実践の領域」III. 精神科領域の音楽療法(p.44～51)を 読んでおくこと。 復習(30分):授業で扱った曲について、歌詞内容・曲の成立過程を調べる

14	ホスピス緩和ケアの音楽療法(1)	鏑木	予習(15分):配布資料第4 章「音楽療法実践の領域」Ⅳ. ホスピス／緩和ケアの音楽療法(p.52～61)を読んでおくこと 復習(30分):「音楽による遺言状」を完成させ、次回提出
15	ホスピス緩和ケアの音楽療法(2) まとめ―音楽を通してその人の存在を支えるということ―	鏑木	予習(15分):ディスカッションの準備。自分の考えをまとめておく。 復習(30分):人生の最終段階にある人に音楽は何ができるかを考え、まとめる

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

小テスト、リアクションペーパー、課題レポートに対するフィードバックは次回の講義で行なう。

【成績の評価方法】

レポート50%、グループ発表30%、小テスト(2回)10%、平常点(授業への取り組み、授業中の質問・発言等)10%。レポートの採点基準は「参考文献を適切に用い、既存の学説等を踏まえたうえで自分の意見を述べているか」ということである。なお、レポート提出の際は参考文献・資料を必ず明記すること。明記しない場合は減点の対象とする。明らかにネット情報からの「コピペ」であると判断されるレポート記述は採点対象から除外する。またグループ発表の際、発表原稿を作成せずテキストを棒読みする等の行為は減点対象とする。また発表の際の無断欠席は厳禁とする。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

「音」および「音楽」を扱う授業であるので、静寂な教室環境を保持するよう各自留意すること。他者に悪影響を及ぼす行為、特に私語は慎むこと。
授業進行に支障をきたすため、発表担当日の無断欠席は厳禁とする。発表を無断欠席をした場合は、どんなにレポートが優れていても学期末評価は一段階低くなるので、各自責任を持って授業に出席すること。

【教科書】

印刷教材を配布する

【参考書】

宮本啓子・二俣泉編著『音楽療法を知る―その理論と技法―』杏林書院

【オープンな教育リソース】

日本音楽療法学会　https://www.jmta.jp/
日本サウンドスケープ協会　http://www.soundscape-j.org/soundscape.html

【担当教員の実務経験】

ホスピス緩和ケア領域の音楽療法士として、1998年よりホスピスの臨床で実践を続けている。現場での経験を踏まえて、音楽療法の理論と実践に関する指導を行う。

【オフィスアワー】

金曜日2限(前もって連絡を入れること)

【教員連絡先】

ykaburagi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

小テスト実施の前週(第3 回、第10 回)には、重要ポイントについて解説を行ない、試験範囲の内容に関する質問の時間を設ける。

授業科目名	社会学概論	担当教員名	池本　紗良			
コード	22HUM116	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
○	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

社会学は「社会」を対象とした学問であり、いずれのテーマも身近で興味深い。しかし、「身近」であるため、客観的に学ぶことは難しい。本講義では、社会学の基礎的な概念や理論をふまえながら、現代社会の諸相を客観的に学ぶことを目指す。具体的には、社会学の成立・理論から、コミュニケーション、医療・ケア、ライフコース、社会調査、階層、労働・産業、家族、地域・都市など、受講生にとって身近なトピックを扱い、「社会とは何か」、「社会学とは何か」を考える。また、今日的な医療・看護の諸問題にも適宜触れながら、医療・看護の従事者にとって不可欠な思考法や教養を身に付け、ひいては日常を社会や歴史と結び付けて考える「社会学的想像力」を身に付けることを目的とする。なお、本講義は、受講生のアクティブ・ラーニングを促すため、受講生同士のディスカッションや個人ワークを重視する。主体性および思考力の涵養のためにも、積極的な授業参加が求められる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 社会の成り立ちを理解し、身近な出来事や人間関係等を社会や歴史と結びつけて説明できる。	○				○
2 医療・看護の社会的意味・意義について説明できる。					○
3 課題解決にむけて論理的かつ積極的に参加・応用できる。			○		○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	社会学とは何か ・社会学の成立と展開 ・さまざまな専攻分野	池本	予習(15分):社会学概説書を読んでおく。 課題(15分):興味のある専攻分野の関連書籍または論文を講読する。
2	社会学の根本命題 ・社会学の基礎概念 ・さまざまな集団とその性質	池本	予習(15分):自身が所属している集団を列挙し、それぞれ自分にとってどのような位置づけかを考えておく。 課題(15分):社会学の基礎概念について復習する。
3	方法論的集合主義 ・「自殺」を社会学する ・社会構造とはなにか	池本	予習(15分):「自殺」問題がどのように語られているのかを調べておく。 課題(15分):「自殺」を「社会構造」の観点から説明できるようにする。
4	方法論的個人主義 ・「美容整形」を考える ・相互行為とはなにか	池本	予習(15分):「美容整形」が社会でどのように語られているのかを調べておく。 課題(15分):「美容整形」を「相互行為」の観点から説明できるようにする。
5	社会化・ライフコース ・社会化とはなにか ・ライフコースの概念	池本	予習(15分):各ライフステージ(児童期、成人期、老年期など)がどのような段階なのかを考えておく。 課題(15分):「社会化」について説明できるように復習する。
6	教育(1) ・学校の社会的機能	池本	予習(15分):学校教育でどのような社会化があったのかを振り返ってみる。 課題(15分):「再生産」について説明できるように復習する。
7	教育(2) ・社会階層、格差と平等 ・世代間移動と再生産	池本	予習(15分):身近にある格差を列挙し、それらはなぜ生じていて、是正されないのかを検討しておく。 課題(15分):学校の社会的機能と合わせて教育格差を考える。
8	労働と経済生活(1) ・疎外 ・労働と産業	池本	予習(15分):「働き方改革」の内容について調べておく。 課題(15分):今日的な「労災」にどのようなものがあるか調べる。
9	労働と経済生活(2) ・感情労働 ・仕事と生活の調和	池本	予習(15分):「ワーク・ライフ・バランス(WLB)」について説明できるよう調べておく。 課題(15分):ジェンダーの視点からWLBを説明できるよう復習する。
10	医療をめぐる社会学的視座(1) ・健康と病気	池本	予習(15分):健康リスクを抱える人びとは、どのような属性の人が多いか、研究論文や調査報告書等で調べておく。 課題(15分):貧困と健康の関係について説明できるよう復習する。
11	医療をめぐる社会学的視座(2) ・障害	池本	予習(15分):「障害」の捉え方について調べておく。 課題(15分):医学モデルと社会モデルの違いについて説明できるようにする。
12	政治と統治(1) ・ナショナリズムとはなにか ・愛国心と国家	池本	予習(15分):「国家」の枠組みがどの場面で機能しているのかを考えてみる。 課題(15分):「国家」の枠組みがどのような機能を持っているのかを復習する。

13	政治と統治(2) ・移民問題	池本	予習(15分):現代日本において「移民」がどのように扱われているのかを調べる。 課題(15分):なぜ「移民」が日本では受け入れられないのかを考える。
14	社会調査の理論と方法(1) ・社会調査の考え方 ・量的調査	池本	予習(15分):これまで自身が回答したことのある「アンケート」の内容を思い出し、整理しておく。 課題(15分):量的調査の特徴を整理しておく。
15	社会調査の理論と方法(2) ・質的調査 ・社会調査の倫理	池本	予習(15分):量的調査と比較して、質的調査(例、インタビュー調査)の特徴を考えておく。 課題(15分):量的・質的調査のメリット、デメリットを整理する。 最終課題(225分):1～15回の講義をふまえ、自分なりの問題設定をしたレポートをまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。
・個人へのフィードバックは、課題コメントやGoogleClassroomを用いて行う。

【成績の評価方法】

小テスト:30%
定期試験:70%
合計:100%
「小テスト」は授業後のコメントシートに基づいて評価する。
・定期試験は期末レポートで評価する。期末レポートは提示した条件をすべて満たしていることを前提に、内容を評価する。評価基準は、「適切な課題設定」、「既存の学説・知見を踏まえている」、「論拠および論述が妥当かつ明確である」とする。

【生成AI利活用 (　有　※ただし吟味なしの使用は却下する。また期末レポートにおける文章作成では使わないこととする。)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

『社会学で描く現代社会のスケッチ』(友枝敏雄・山田真茂留・平野孝典編、みらい、2019年)
『社会学入門』(盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功二編、ミネルヴァ書房、2017年)
『社会学のつばさ――医療・看護・福祉を学ぶ人のために』(早坂裕子・広井良典・天田城介編、ミネルヴァ書房、2010年)

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

・筑波大学人間学群教育学類　ティーチング・アシスタント
・早稲田大学文学部社会学コース　ティーチング・アシスタント
・板橋中央看護専門学校　非常勤講師(論理学)

【オフィスアワー】

特になし。メールで対応する。

【教員連絡先】

sikemoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

必修授業なので、やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。

授業科目名	家族社会学	担当教員名	池本　紗良			
コード	22HUM117	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
○	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

「家族」は、この100年で見ても大きく変動しており、現代では多様化が急速に進行している。それゆえ、「家族とはなにか」、「今後、家族はどのように変化するか」といった問いに対し、明確に答えることは難しい。看護や介護の場面でも、「在宅ケア」や「家族介護」が話題となり、それが「温かい」「安心した」ケアと結び付けられて語られている。だがそうした「家族」「家庭」のあり方は特定の時代に特有のものであり、変動する社会の中で特定の「家族」「家庭」に依拠したしくみは限界がある。そこで本講義では、社会学の視点から「家族」を学び、各ライフステージにおける家族の諸相をみていく。具体的には、家族社会学の基本概念と日本社会における家族変動の基本概念を学んだうえで、現代的なトピックである「結婚」「仕事」「介護」が「家族」とどのように関わっているのかを、テキストならびに映像資料等を用いて学んでいく。なお、本講義は、受講生のアクティブ・ラーニングを促すため、受講生同士のディスカッションや個人ワークを重視する。主体性および思考力の涵養のためにも、積極的な授業参加が求められる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 家族の成立・変動過程を理解し、現代家族が抱える諸問題について関心を持てるようになる。	○				○
2 医療・看護の社会的意味・意義について説明できる。					○
3 課題解決にむけて論理的かつ積極的に参加・応用できる。			○		○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	「家族」とは何か ・家族の定義、家族・親族・世帯 ・家族の多様なかたち	池本	予習(60分):テキストのなかで関心のある章を読み、家族の定義について考える。 課題(60分):基本用語を復習し、意味をきちんと把握する。自身の親族ユニバースを図示しておく。
2	近代家族の誕生 ・家族をとらえる基本概念 ・伝統家族から近代家族へ	池本	予習(60分):テキスト第1章を読み、家族変動について理解する。 課題(60分):伝統家族と近代家族の違いについて説明できるよう復習する。
3	恋愛と結婚(1) ・未婚化・晩婚化 ・ロマンティックラブイデオロギー	池本	予習(60分):テキスト第2章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):ロマンティックラブイデオロギーの成立と今後の展望について説明できるよう復習する。
4	恋愛と結婚(2) ・離婚と再婚の動向 ・ステップファミリー	池本	予習(60分):テキスト第6章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):離婚を経験した子どもたちの適応課題と中長期的影響を検討し、復習する。
5	子ども・若者と家族 ・現代日本における家庭教育 ・社会階層と教育	池本	予習(60分):教育格差について調べておく。 課題(60分):なぜ教育格差が生じるのか、説明できるようにする。
6	仕事と家族 ・女性活躍とはなにか ・ワークライフバランス	池本	予習(60分):テキスト第7章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(60分):女性の職業キャリア、「M字型就労」について説明できるよう復習する。
7	介護と家族(1) ・介護保険制度	池本	予習(60分):高齢期の家族が抱える問題を調べておく。 課題(70分):医療・看護職として、高齢者が抱える問題の解決にむけて どのようにかかわることができるか考える。
8	介護と家族(2) ・家族介護の現状 ・介護の社会化、再家族化	池本	予習(60分):テキスト第4章を読み、感想や疑問点を書いておく。 課題(70分):医療・看護職として、家族介護問題の解決にむけて どのようにかかわることができるか考える。 最終課題(370分):1～8回の講義をふまえ、自分なりの問題設定をしたレポートをまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う。
・返却課題やGoogleClassroomを活用して、個人にもフィードバックする。

【成績の評価方法】

小テスト:30%
定期試験:70%
合計:100%

・「小テスト」は授業後のコメントシートに基づいて評価する。
・定期試験は期末レポートを以て評価する。期末レポートは提示した条件をすべて満たしていることを前提に内容を評価する。評価基準は、「適切な課題設定」、「既存の学説・知見を踏まえている」、「論拠および論述が妥当かつ明確である」とする。

【生成AI利活用 (　有　※ただし吟味なしの使用は却下する。また期末レポートにおける文章作成では使わないこととする。)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

『入門家族社会学』(永田夏来・松木洋人編、新泉社、2017年)
『よくわかる家族社会学』(西野理子・米村千代編、ミネルヴァ書房、2019年)
『現代家族を読み解く12章』(日本家政学会編、丸善出版、2018年)

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

・筑波大学人間学群教育学類　ティーチング・アシスタント
・早稲田大学文学部社会学コース　ティーチング・アシスタント
・板橋中央看護専門学校　非常勤講師(論理学)

【オフィスアワー】

特になし。メールで対応する。

【教員連絡先】

sikemoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

必修授業なので、やむを得ない場合を除いて毎回出席すること。

授業科目名	日本国憲法	担当教員名	石黒　麻利子			
コード	22HUM118	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
○	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本講義では，憲法の歴史、憲法の存在意義，憲法と法律の違い、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違、日本国憲法が公布されるまでの経緯、日本国憲法の基本原理（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義），人権各論、新しい人権、人権を巡る諸問題、統治機構の制度的特徴と国際比較、憲法改正の手続きと憲法改正に関する論点を学び，看護専門職としてなぜ日本国憲法を学ぶ必要があるのかを理解し、人権に配慮した法的思考方法を会得する。また，日本国憲法が、個々人の社会生活、医療の現場、看護を実践する上でどのような役割を果たしているのかについて具体的な事例研究をとおして考察する。さらに、看護専門職として臨床で遭遇する人権問題について検討し、紛争防止・解決策を会得する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 憲法の存在意義、憲法と法律の違い、立憲的意味の憲法の内容と特徴を説明できる	○	○			
2 日本国憲法の定める国民主権の意義・内容を説明できる	○	○			
3 日本国憲法の定める基本的人権の尊重の意義・内容を説明できる	○	○			
4 日本国憲法の定める平和主義について意義・内容を説明できる	○	○			
5 日本国憲法の定める統治機構の制度的特徴を説明できる	○	○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	憲法の存在意義、憲法と法律の違い、立憲的意味の憲法の内容	石黒	予習（0.5時間）六法とは何か調べる、日本国憲法を読んでおく 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	憲法の歴史、日本国憲法誕生の経緯	石黒	予習（0.5時間）ポケット六法の大日本帝国憲法と日本国憲法を読み比べる 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	日本国憲法の三大原理、個人の尊重、法の支配	石黒	予習（0.5時間）日本国憲法の三大原理とは何か調べる 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	平和主義　憲法9条をめぐる問題点	石黒	予習（0.5時間）個別的自衛権と集団的自衛権の意味、違いを調べる 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	人権（1）総論　人権の歴史　個人の尊重・幸福追求権　公共の福祉　法の下の平等	石黒	予習（0.5時間）ポケット六法の日本国憲法第三章国民の権利及び義務を読んでおく 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	人権（2）精神的自由　思想良心の自由　信教の自由　表現の自由　学問の自由 職業選択の自由　家族生活における個人の尊厳と両性の平等	石黒	予習（0.5時間）精神的自由にはどのような権利が含まれるか調べる 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	人権（3）プライバシー権、自己決定権と医師の説明義務　最高裁判例解説	石黒	予習（0.5時間）プライバシー権とは何か、医師の説明義務と自己決定権の関係を調べる 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	人権（4）刑事手続きにおける権利　罪刑法定主義　法定の手続きの保障	石黒	予習（0.5時間）罪刑法定主義とは何かを調べる 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	人権（5）経済的自由　生存権　勤労の権利　財産権	石黒	予習（0.5時間）経済的自由にはどのような権利が含まれるか調べる 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	統治機構（1）権力分立の原理　大統領制と議院内閣制	石黒	予習（0.5時間）権力分立とは何か、なぜ必要か調べる 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	統治機構（2）国会　国会の地位　立法権　両院性　選挙制度	石黒	予習（0.5時間）ポケット六法の日本国憲法第四章国会を読んでおく 復習（0.5時間）課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

12	統治機構(3)内閣　行政権　内閣総理大臣の権限　衆議院の解散　内閣の職務	石黒	予習(0.5時間)ポケット六法の日本国憲法第五章内閣を読んでおく 復習(0.5時間)課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	統治機構(4)裁判所　司法権・裁判官の独立　特別裁判所の禁止　違憲立法審査権	石黒	予習(0.5時間)ポケット六法の日本国憲法第6章司法を読んでおく 復習(0.5時間)課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	統治機構(5)地方自治、憲法改正をめぐる問題点	石黒	予習(0.5時間)憲法改正がなぜ問題になるのか調べる 復習(0.5時間)課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	日本国憲法が医療にどのように関係するか　医療事故と医療過誤　医療訴訟	石黒	予習(0.5時間)日本国憲法が医療にどのように関係するのか調べる 復習(0.5時間)課題レポートの復習を行う 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	パワーポイントを使用。講義内容を踏まえた課題を与えレポートを作成させる。 次の講義で講評し、多様な考え方があることを理解させ、さらに問題意識を深める。 小テスト(確認テスト)
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義で行う。フィードバックとして、課題レポートについて講評を加える。

【成績の評価方法】

定期試験60%、課題レポート30%、小テスト10%

【生成AI利活用（　無　）】

【ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

ポケット六法令和7年版　有斐閣

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

脳神経科学者(医学博士)として専門分野において、医学的知識を講義する　弁護士として専門分野において、実際に担当した事件等について講義する

【オフィスアワー】

授業日の14:30～16:10

【教員連絡先】

mishiguro@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

パワーポイント原稿の撮影禁止、私語禁止、課題レポートは用紙縦置き・横書き・右上に学籍番号・氏名記入、違反者は零点

看護学部　　2025(令和7)年度

授業科目名	文章表現法	担当教員名	村松　香代子			
コード	22HUM119	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
◎	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

自分の考えを的確に文章化して表現することができると、自分で書いた文章が伝えたい相手の心に届き、相手があなたの考えていることに共感するにとどまらず、行動を起こすことまで促すことができるようになるだろう。文章表現のゴールは、読み手に文章を届けることにとどまらないのである。さて、本授業では，文章表現のゴールを探し当てていくと同時に、文章で表現するための基礎的な技術と方法を習得することを目的とする。自分の「考え」を他者に的確に伝える能力は，グループワーク，発表，レポート，卒業研究等に必須である。言葉を効果的に働かせ，相手に「伝える」「届く」「共鳴する」言葉のあり方を、共に考えていきたい。また，日本語の表現法の視点からも他者に的確に要点が伝わる表現方法を学んでいく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 テキスト批評や参考文献の扱い等，基礎的な形式を踏まえて、問題提起＋解答＋解答を導く議論が成り立っているレポートが書ける。					○
2 理解や納得させるのみならず、共感・共鳴を読み を呼てび、心に届くオリジナルな文章が書けるようになる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	「自己紹介で心がけたいこと五か条」―自己紹介は何を目的にししている？― まずはウォーミングアップ。相手に伝わる自己紹介の仕方を具体的に学んで いこう。実際に自己紹介をしてみよう。	村松	実習や履歴書等の場で必要となる自己紹介について、心がけたいことを文章上で実践して 身につけていく。 授業時間「自己紹介」を実際に書いてみる。復習(30分):授業内容を各自見返す。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して 行うこと。
2	「レポートの大原則」大学で学ぶための基礎的技術であるレポート・論文の 書き方を学んでいこう。レポートを書く意味五か条・文章のゴールを考えて みよう・どのように書けば相手の心に伝わるのか・伝わり方にはレベルが あることについて、順を追って学んでいこう。	村松	予習(60分): 「私の名前の由来・誕生エピソード」という共通の題名で20分程度で書ける文章に まとめる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して 行うこと。
3	「レポートのテーマの決め方」3ステップを踏んで、自分の意見を育てよう。 レポートや論文作成につながるレッスンとして、まず手始めに リアクションペーパー・エントリーシートの書き方から学んでいこう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「私にとっての不思議な話」を執筆するための構想を練ってくる。 適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して 行うこと。
4	「レポートの構成―基礎の基礎―」考えたつもりから脱却しよう。 視点を変えてみよう。連想と深化で、考えを適切に進めよう。 ダメレポート脱出法としての7つの大原則を身に着けよう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「私が抵抗を覚える言葉」を執筆するための構想を練ってくる。 適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して 行うこと。
5	「機能する文章としての6つの視点」描写とは、自分が知見した物事を正確に 伝えること。 看護日誌に必要な描写を学んでみよう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「一瞬の隣人」を執筆するための構想を練ってくる。 適時参考になる書籍も読んでくる。復習(30分):授業内容を各自見返す。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して 行うこと。
6	「論理的な文章」論理的とはどういうことか。 論理を作るポイントとなる3つの方法を学んでいく。「はじめに」で書くことの 目次、どこに位置付けるべき？ 考察の住所、レポートの着地点としての結論の書き方を具体的な事例を 参考にして学んでみよう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「青年の主張―私、言いたいことがあるんです―」を執筆するための 構想を練ってくる。適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して 行うこと。
7	「参考文献」参考文献とは何のためのものなのか。 参考文献をどう使うのか、どのように書くのか学んでいこう。 専門記事と仲良くなろう。	村松	予習(60分):エッセイ題名「トラブルの解決」を執筆するための構想を練ってくる。 適時参考になる書籍も読んでくる。 復習(30分):授業内容を各自見返す。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して 行うこと。
8	「書評レポート」読書感想文との違い。 書評レポートに必要な構成を失敗例から学んでいこう。	村松	予習(60分): この授業のまとめ。 復習(30分):授業内容を各自見返す。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して 行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	授業の後半に毎回「柔軟体操」として、こちらが指定したテーマで短い文章を ノートの端に書いてもらう。起承転結は構わない。優劣も問わない。 20分程度でまとめる要領で良い。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは翌週の講義で行う。毎回のテーマで書いた文章について、講評を行い。各受講生に適した指導を行う。

【成績の評価方法】

授業時間内に示すテーマに基づいた短文の提出60％（出来不出来は問わない）と積極的な発言30％、その他10％総合的を評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価:（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

授業前に適宜プリントを配布する

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

小説・エッセイの執筆。翻訳

【オフィスアワー】

水曜日11時～15時

【教員連絡先】

kmuramatsu@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	Humanities Basics	担当教員名	大竹聖美、井上救、田中路			
コード	22HUM120	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

「私・今・ここ から 共同体・歴史・世界へ」
　人文学諸学科のうち、ことに歴史、地理、古典に関する基礎を、日常生活の諸問題を契機として学ぶ。
具体的には、東京純心大学のリベラルアーツ教育の伝統を引継ぎ、意欲・態度・表現を育てる純心教育の実践的メソッドを用いる。表題の意識を持ちつつ、人文科学の幅広い基礎教養を養う目的で、本学の教育伝統と教育資源――【音楽】ハンドベル・トーンチャイム・ピアノ・パオプオルガン、【美術】造形表現・舞台表現・身体表現、【絵本】物語・読み聞かせ・パネルシアター・エプロンシアター・紙芝居等ナラティブ文化財――を活用し、アクティブラーニングの手法を用いて、人文科学の基礎を探究する。傾聴と対話と共創を重視した実践的な教養基礎力を身に付ける。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 大学生に求められる人文諸学の基礎知識＝教養が身につく。	○				
2 傾聴・対話・共創ができる。	○				
3 人文科学の教養基礎力に支えられた実践ができる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【オリエンテーション】授業概要・評価方法・授業の進め方 Humanities Basicsとは何か？	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(0時間)・復習・課題等(4時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
2	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムの基礎(楽器を知る・歴史を知る) 【美術】美術と歴史・地理・古典(入門) 【絵本】物語と歴史・地理・古典(入門)	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
3	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムの基礎(経験する) 【美術】美術と歴史・地理・古典(ジャンル別) 【絵本】物語と歴史・地理・古典(ジャンル別)	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
4	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムの基礎(傾聴する・協働する) 【美術】美術と歴史・地理・古典(テーマ別) 【絵本】物語と歴史・地理・古典(テーマ別)	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
5	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムのレッスン(入門) 【美術】美術と歴史・地理・古典(古代・中世・近代・現代) 【絵本】物語と歴史・地理・古典(古代・中世・近代・現代)	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
6	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムのレッスン(初級) 【美術】美術と実践 【絵本】ナラティブとは	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
7	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムのレッスン(グループ分け) 【美術】インスタレーション、環境芸術とは 【絵本】絵本の読み聞かせ	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
8	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムのレッスン(役割分担) 【美術】アートワークショップとは 【絵本】紙芝居	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
9	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムのレッスン(中級) 【美術】インスタレーション、環境芸術の実践(壁面装飾の準備) 【絵本】パネルシアター	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
10	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムの仕上げ 【美術】アートワークショップの実践(制作指導の方法と準備) 【絵本】エプロンシアター	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
11	【音楽】ハンドベル・トーンチャイムの完成 【美術】アートワークショップ、造形表現のアクティブラーニング 【絵本】ナラティブ文化をアクティブラーニングする	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
12	「純心こどもの国のクリスマス」準備	大竹 井上 田中(路)	【授業外学修(予習(1時間)・復習・課題等(3時間))】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。

13	「純心こどもの国のクリスマス」の実践（第一部）	大竹 井上 田中（路）	【授業外学修（予習（1時間）・復習・課題等（3時間））】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
14	「純心こどもの国のクリスマス」の実践（第二部）	大竹 井上 田中（路）	【授業外学修（予習（1時間）・復習・課題等（3時間））】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。
15	【ふりかえりとフィードバック】再び、Humanities Basicsとは何か。 傾聴とは？対話の価値、共創のよろこび	大竹 井上 田中（路）	【授業外学修（予習（1時間）・復習・課題等（3時間））】 ①授業で提示した図書・動画・資料で学修する。 ②授業で指示した課題に取り組み、期限までに提出する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	＊15回の授業を専門の異なる3人の教員で協働で展開する。 ＊各教員の専門領域からのアプローチにより、受講生は多角的な視点に立った学修を経験できる。 ＊担当者の専門は次の通り…①大竹（科目責任者）：絵本・児童文学・アジア、②井上：美術・造形・デザイン、③田中（路）：音楽 ＊最終的に「純心こどもの国のクリスマス」にて、ハンドベル・トーンチャイムの演奏、舞台表現、壁面装飾、アートワークショップ、インスタレーション制作、プレゼント制作、絵本の読み聞かせ、紙芝居・パネルシアター・エプロンシアターの実演などとして学修成果発表を行う。 ＊地域共創型のイベント運営実践のアクティブラーニングを通して、傾聴・対話・共創の意欲と態度を身に付け、 総合的な教養基礎力を身に付ける。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

毎回の授業の中で行われる。

【成績の評価方法】

授業参加度（課題への取り組み）： 30％
プレゼンテーション： 30％
提出物： 40％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

授業内で指示

【参考書】

授業内で指示

【オープンな教育リソース】

千葉大学アカデミックリンクセンター＜『児童文学事典』電子版＞ https://alc.chiba-u.jp/cl/

【担当教員の実務経験】

日本ペンクラブこどもの本委員、国立国会図書館国際子ども図書館外国語書籍調査員、八王子学園都市大学いちょう塾講師、大学コンソーシアム八王子夏休みこどもいちょう塾講師、
八王子ふれあいこども祭り講師、東京都保育士等キャリアアップ研修講師、日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス講師等

【オフィスアワー】

大竹：月・水・金の昼休み／井上：月・金の昼休み／田中（路）：火12:10～12:50、金12:10～12:50

【教員連絡先】

大竹： kootake@g.t-junshin.ac.jp
井上： sinoue@g.t-junshin.ac.jp
田中（路）： m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	文化人類学	担当教員名	金子　毅			
コード	22HUM121	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本講義は文化人類学の初学者に対しなされるものである。文化という言葉を聞くと何をイメージするだろうか。学生やサラリーマンに問えば、武士、忍者、パワースポットとしての神社、アニメの聖地巡礼などと答える者が多い。だが、自分たちが何気なく日頃行なっている行動そのものが「文化」であると理解する者は少ない。そこで本講義では誰もが暮らしの中で体験してきた各種のお話、およびその中で語られてきた地域の「祭り」や成人式などをはじめとする「通過儀礼」といった宗教行事などを中心に説明を試みることにしたい。また、文化の日常的実践(Practices)という点に着目して最後に「技術の身体化」という点についても触れることにしたい。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 無理な理論の運用を目指すのではなく、何気ない日常的なシーンに着目出来るようになる。			○		
2 1を通して、他者との相互理解の回路を開く上で不可欠となる「知」の存在に配慮することが出来るようになる。			○		
3 2を通して今後の不透明な世界情勢を透視し、かつ生き抜く上でのリテラシー能力が獲得出来るようになる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	プロローグ　文化はどこにあるの？	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	人類学の歴史　人類学のはじまり	金子毅	予習(30分):復習(45分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	文化の探し方　フィールドワークって？	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント3(調査法) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	様々なお話　その1　口伝えされる話	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	様々なお話　その2　都市は語り出す	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント5(説話2:都市伝説) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	様々なお話　その3　わたしのルーツって？	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント6(神話と儀礼) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	お話は語る　その1　闇に潜むもの	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント7(幽霊と妖怪) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	お話は語る　その2　根拠がなくても信じちゃう	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント8(予兆と禁忌)、プリント9(占いと呪術) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	お話は語る　その3　思っただけで災いが及ぶ	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント10(妖術と邪視) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	お話は語る　その4　儀礼をするから時が来る	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント11(年中行事と祭り) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	お話は語る　その5　異界から神がやって来る	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント12(祭礼・日本の伝統行事・来訪神・憑き物) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	お話は語る　その6　通過儀礼その1　7つ前の神の子って？	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	お話は語る　その7　通過儀礼その2　大人って何？	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	お話は語る　その8　通過儀礼その3　死んでも続くよ人生は	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント15(通過儀礼3:死と供養) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	お話は語る　その9　身体で技術を覚え込む	金子毅	予習(30分)、復習(45分):プリント16(身体技法) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		学生の理解をうながすために必要に応じて映像資料なども活用する予定である。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

学生の理解度を確認するために時折、授業時に小テストを実施する予定である。

【成績の評価方法】

課題レポート70％　、小テスト20％、これに授業への参加度10％を加えた総合的な評価を行なう。
合計100％

【生成AI利活用（　　無　　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

文化は人間関係の基礎を形作るものです。どうかアンテナを張り巡らして柔軟な思考で好奇心をもって臨んで下さい。

【教科書】

使用しません。代りに毎時プリントを配布する

【参考書】

受講時に随時指示します。

【オープンな教育リソース】

特にありません。

【担当教員の実務経験】

特にありません。

【オフィスアワー】

質問等がある場合は、学務課へ申し出ること。

【教員連絡先】

tkaneko@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	大輪 香菊			
コード	22HUM122	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

コミュニケーション不足による誤解が重大なトラブルや問題に発展することもある。本科目では，言語コミュニケーション・非言語的コミュニケーションの理論を学び，敬語表現や挨拶、感謝などが、より良いコミュニケーションに直結することを知る。また「傾聴」「説得」「感情表現」など，人間関係を豊かにするヒントとなるコミュニケーションの方策を学ぶ。さらに認知行動療法等の心理学的要素（ABC理論・自己肯定・アサーション）も取り入れ、自らの心を守る考え方を構築し、生活の中でも実践する。そして理論だけではなくワークや発表も組み込み，自己表現やチームワークを体感することでコミュニケーションの理解を深める。これにより、看護実践に必要なコミュニケーション技術に関する基本的な理論と方法を修得し，看護を効果的に提供する能力を養うことを目標とする。コミュニケーション論は，言語学，心理学，生理学などが関わる学際的な学問であるため，今後の学びに活かしていく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	礼儀を重んじ、敬語に慣れ、よりよい人間関係を築ける。	○				
2	建設的かつ解りやすく、言いたい事を伝えることが出来る。	○				
3	自己概念を持ち、自己紹介が出来る。	○				
4	自己理解から他者理解を深め、円滑にコミュニケーションがとれる。	○				
5	客観的かつ心理学的にも事象を捉え、自他ともに良好な関係を築ける。	○				

【授業計画】

	授業外計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	コミュニケーション概要　・提出小レポートの書き方 1. コミュニケーションとは何か・敬語のおさらい 2. なぜコミュニケーションが必要なのか 3. 理論と感情論について知る （以降、授業資料はパワーポイントで作成したものを活用）	大輪	予習（20分）:敬語ドリルを実施 復習（40分）:講義の内容を各自見返す 課題（90分）:授業中に課題を提示する。
2	コミュニケーションのルール違反について 1. ルール違反に合った時の考え方（ABC理論と自己肯定） 自己概念・自己理解 1.　自己理解を深める 2.　ディスカッションを通して自分と他人の違いを知る	大輪	予習（20分）:敬語ドリルを実施 復習（40分）:ディスカッションの感想を提出。 課題（90分）:授業中に課題を提示する。
3	社会スキルとアサーション 1. 様々な社会スキルの事例 2. アサーションについて	大輪	予習（20分）:敬語ドリルを実施 復習（40分）:アサーションチェックで自分の特徴を知る。 課題（90分）:授業中に課題を提示する。
4	考えを整理して伝える 1. 伝え方を考える（PREP法） 2. 構成を順序立てて話をする　（グループ内でチェックワーク）	大輪	予習（20分）:敬語ドリルを実施 復習（40分）:PREP法を実践してみて、課題点や注意点を探る。 課題（90分）:授業中に課題を提示する。
5	社会スキルとアサーションを鑑みたディスカッション（ワーク）→第2回のテーマを反映予定 1. 各チーム毎に言語、非言語を意識したコミュニケーションを図る 2. 自ら情報を発信し、かつ相手を承認しながらテーマについての見解を出す	大輪	予習（20分）:敬語ドリルを実施 復習（40分）:今日のディスカッションの内容を解りやすくまとめて結果を提出。 課題（90分）:授業中に課題を提示する。
6	【チームによるプレゼン】の為のディスカッション　（ワーク） 1. 次回のプレゼン内容について、アイディアを持ち寄る 2. 持ち寄ったアイディアをひとつに絞る。次回チームで発表する。	大輪	予習（20分）:敬語ドリルを実施 復習（60分）:次回の発表に向けて内容、構成、発表順、担当者を決めて練習しておく。 課題（100分）:授業中に課題を提示する。
7・8	【チームによるプレゼン】（発表当日のみ2コマ連続授業） 1.チーム毎のプレゼンテーション 2.ディスカッションし、話をまとめ、聴衆に伝える	大輪	予習（60分）:今日のプレゼン内容を確認する。 復習（120分）:グループの発表が良かったかをチェックし提出。 課題（240分）:授業中に課題を発表する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		予習では「敬語ドリル」を実施。冒頭で答え合わせと解説をしてから講義に入ります。 基本的にディスカッションやプレゼンを含め、対話は敬語とします。 また授業では動画を取り入れて学生の理解を深めます。 最終日にはグループ発表を実施。課題作成時にもコミュニケーションが必要となります。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業内ディスカッション終了後に、取り組みへの感想まとめを含めて提出

【成績の評価方法】

授業内容を振り返る小レポート:（40％ ）
グループ発表会参加度:（30％）
定期試験:（30％）　これらをもって総合評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用(　無　) 】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

「大学1年生からのコミュニケーション入門」 著者：中野美香　発行所：ナカニシヤ出版
「社会人の敬語ドリル」 編者：語研編集部　発行所：株式会社　語研

【参考書】

特になし

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

・フリーアナウンサーとして、ラジオ、テレビなどでキャスター、リポーター、ナレーションを担当。
　視覚障害者向けの音訳も手掛け、「わかりやすく伝えるための音声表現」の実践、中国帰国者の労苦を伝える語り部としても活動している。
・大学のほか、ビジネスマンや子ども向けの「アナウンスレッスン」講座も行っている。
・言語・非言語コミュニケーション、プレゼンテーション、留学生などの日本語教育指導にも携わる。

【オフィスアワー】

授業内容についての質問やコメントへの対応は、講義開始前もしくは終了後に教室で行う。

【教員連絡先】

授業への質問・問い合わせ先： tharaguchi@g.t-junshin.ac.jp
個人連絡先： ka.gi.ku.ohwa@gmail.com

【備考】

特になし

授業科目名	看護情報学	担当教員名	高柳　良太			
コード	22NBA123	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
○	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
◎	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本授業では、看護の現場で用いられる看護用語やカルテ用語を中心に、医療情報のIT化が進展する中でこれらの用語がどのように体系化され、活用されているかを学ぶ。また、看護情報を取り扱う際に重要なプライバシー保護や情報セキュリティの基本原則について、法的および倫理的視点から深く理解することを目指す。具体的には、個人情報保護法や医療関連データの取り扱い基準、患者情報の適正管理に加え、データの共有や電子カルテシステムの運用における課題を学びます。さらに、著作権や知的財産権に関する基礎知識を学び、教育資料や研究データの適正利用についても考察する。授業を通じて、看護実践における安全で適切な情報管理能力を養成し、患者の権利や情報の開示といった観点から、看護における倫理的かつ実践的な判断力を身につけることを目的としている。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 データ・情報・知識およびそれらの関係が概念化できる。		○			○
2 データ・情報・知識の観点から看護のさまざまな局面について論じることができる。		○			○
3 医療情報システムの概要を知り、情報を取り扱う上での留意点を説明できる。		○			○
4 関連する各種の法律・権利関係について理解し、説明することができる		○			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	授業内容説明 科目概要／評価方法 看護情報学とは	高柳	予習(30分)： 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと。 復習(60分)： 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。
2	医療情報とデータとAI	高柳	予習(30分)： 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分)： 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分)：授業中に出題される課題に取り組み提出すること。
3	情報と著作権、産業財産権	高柳	予習(30分)： 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分)： 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。
4	ソーシャルメディアと情報セキュリティ	高柳	予習(30分)： 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分)： 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(180分)：授業中に出題される中間課題に取り組み提出すること。
5	医療と個人情報、個人情報保護	高柳	予習(30分)： 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分)： 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。
6	医療情報システムについて	高柳	予習(30分)： 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分)： 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分)：授業中に出題される課題に取り組み提出すること。
7	データアーカイブとデータの利活用	高柳	予習(30分)： 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分)： 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(120分)：授業中に出題される課題に取り組み提出すること。
8	これからの技術展望と医療情報	高柳	予習(30分)： 事前にGoogleクラスルームに掲載される資料を読んでおくこと 復習(60分)： 授業中の説明に基づき、資料や提示されたWebサイト等を確認すること。 また、返却された課題について、不備がある場合は各自調べる、または教員に質問するなどして疑問点を解消しておくこと。 課題(180分)：最終課題に取り組み提出すること。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	LSM(GoogleClassroom)を利用し、学生からのリアクションはできるだけタイムラグなく受け入れ、レスポンスを返すようにしている。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク		
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

原則提出締め切り後の講義時の最初に解説を行う。

【成績の評価方法】

＜評価基準＞
講義を元に出題される評価レポート課題においては、以下の各内容を評価基準とする。
「情報やデータの概念、特徴および医療におけるそれらの特徴を論述し説明できる」
「医療・看護における情報システムについて、その成り立ちやシステムの特徴、セキュリティ上重視すべきことが具体的に論述し説明できる」
「情報倫理、及び関連する法規の内容について具体的に論述し説明できる」
＜割合＞
授業内課題（数回）50%、最終レポート課題50%で、総計60％以上を単位認定の条件とする。

【生成AI利活用（　有　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

講義中に教員が資料を配付

【参考書】

エッセンシャル看護情報学 第2版 太田勝正,前田樹海 医歯薬出版 ISBN978-4-263-23586-7
≪系統看護学講座 別巻≫看護情報学(第2版) 中山和弘,瀬戸山陽子,藤井徹也,篠崎惠美子,会田敬志,高木晴良,戸ヶ里泰典　医学書院 ISBN978-4-260-02771-7

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

業務用システム開発担当システムエンジニア（5年）

【オフィスアワー】

講義後1時間程度（火曜日） 随時メール等にて連絡は可能

【教員連絡先】

rtakayanagi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

課題、資料についてはGoogleクラスルームにてダウンロード可能

授業科目名	臨床心理学	担当教員名	河田　幸子			
コード	22NBA124	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

他者の気持ちを理解し，共感し，自分の気持ち，考えを伝える能力は，患者，他職種とのコミュニケーションの上で，非常に重要である。また，心と身体は密接につながっており，身体的問題の理解に際して，その心理的側面の理解は不可欠である。したがって「心の問題」の理解と制御を扱う臨床心理学の基礎の習得は，ヘルスバイオサイエンスを基盤とする医学，歯学，薬学，栄養学，保健学領域において重要と言える。そこで，本講義では，臨床心理学の定義，対象，方法(代表的な心理検査，心理療法)について，その基礎を概説する。講義とともに、体験学習を通し、自分・他者理解を深め、実践で活かせる基本的な臨床心理学の考え方や技術を学んでいく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 臨床心理学の概念について説明できる。		○			
2 自分の性格傾向を説明できる。		○			
3 心理検査・心理療法の基本的な理論について説明できる。		○			
4 心理学的援助の基本的態度を述べ、示すことができる。		○	○		
5 自己理解から他者理解を深め、対象者の問題の背景を推測することができる。		○	○		
6 自分を大切にしたうえで相手に応じた心理学的援助を工夫できる。		○	○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	臨床心理学とは 1　心と体のつながり 2. 定義　カウンセリングとは何か。 3. パーソナリティの理解　　自分のパーソナリティを知る。 (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(20分):シラバスに目を通し、臨床心理学のイメージをもつ。臨床心理学について調べる。 復習(60分):イメージと実際の違いについて考える。 自分のパーソナリティからパーソナリティについて考える。【小テスト・小レポート】
2	どのように心を理解するか 1. 心理的アセスメント 2. 心理検査を体験してみる。 (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(20分):前回の授業内容を確認する。 復習(70分)アセスメントの考え方、心理検査について復習する。【小レポート・小テスト】
3	どのように心を理解するか。 1. 防衛・転移 2. 転移・逆転移に巻き込まれないために (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(20分):前回の授業内容を確認する。 復習(70分)防衛、転移・逆転移を復習を通してしっかり理解する。【小レポート・小テスト】
4	どのように心のケアをしていくか。 1. 受容と共感 2. 共感のワーク (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(20分):前回の授業内容を確認する。 復習(70分)受容と共感のワークを通して体得する。 【小レポート・小テスト】
5	どのように心のケアをしていくか 1. ケアの力を知る 2. 傾聴　聴く力　問う力　ワーク (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(20分):前回の授業内容を確認する。 復習(70分):心理療法の基本的な態度を理解する。心理療法の流れをイメージできるようになる。 【小レポート・小テスト】
6	どのように心の問題を解決していくか 1. 心理療法とは何か 2. 多様な心理療法理論　心理療法の実習 (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(20分):前回の授業内容を確認する。 復習(70分):代表的な心理療法の技法の一部を体験し、自己理解を深めるとともに、 心理療法がイメージできるようになる。【小レポート・小テスト】
7	どのように心の問題を解決していくか 1. 事例を通して(PTSD) (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(20分):前回の授業内容を確認する。 復習(70分):臨床心理学の知識から他者理解を深め、支援に活かす力を知る。【小レポート・小テスト】
8	臨床心理学を支援に活かすために(応用編) 1. 他人との付き合い方 2. バーンアウトしないために (授業資料はパワーポイントで作成したものを活用します。)	河田	予習(40分):前回の授業内容を確認する。 復習(90分):臨床心理学の知識から他者理解を深め、支援に活かす力を知る。【小テスト・小レポート】 【課題レポート　①②】(600分) ここまでの授業を振り返り、授業内で指示した課題を作成する。(成績評価　①14%②30%)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	授業では自己理解に繋がるワークや実践的なワークを多く行う。 ワークを通して、心理的ケアの実践に役立つ知識を体験的に身につける。 毎回、心理療法内で活用されている技法の一つであるマインドフルネスの体験をし、 体験的な学びをする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

小レポート・小テストに対するフィードバックは次回の講義に行う。課題レポートは指定記述までに提出、コメントをつけて返却する。

【成績の評価方法】

授業毎に、小レポートや小テストの提出があります。
授業での取り組み(32%)　・　小テスト(24%)課題レポート(44%)

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　 無　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

講義資料を配布。

【参考書】

1. 竹森元彦編著『医療系のための臨床心理学』(講談社)2023.5
2. 樫村通子著『こころを大切にする看護　燃え尽きをふせぐための臨床心理学』(日本評論社), 2015.
3. 伊藤良子編著『臨床心理学-全体的存在としての人間を理解する-』(ミネルバ書房), 2009.
4. 岩壁茂監修『よくわかる臨床心理学』(ナツメ社), 2020.7
5. 古宮昇著『プロが教える共感的カウンセリングの面接術』(誠信書房), 2019.6

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

臨床心理士の経験をもとに、心理検査やカウンセリングに関する授業を行う。

【オフィスアワー】

授業内容についての質問やコメントは講義開始前もしくは終了後、教室で行う。

【教員連絡先】

skawada@g.t.junshin.ac.jp

【備考】

看護の仕事は燃え尽きやすい感情労働と言われています。自分を大切にしながら、相手がどのような体験をしているのか、その想像力をつけていくことが、心のケアに欠かせません。
そのために臨床心理学の基礎を学び、自己理解を通して他者理解を深めていく入口になればと思います。

授業科目名	英語 I	担当教員名	増田 光			
コード	22LAN125	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
○	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

「英語 I」は、看護学科の必修基礎科目に含まれ、コミュニケーション力の育成を目指して英語を学ぶ。グローバル化が進む今日、学生が将来、海外の医療機関で就業したり、医療ツーリズムなどで海外からの患者に接する、あるいは海外からの医療従事者達と英語でコミュニケーションをとったりする場合などに活躍できるよう、英語力の基礎を築く。聴く、話す、読む、書くといった英語の4技能をバランスよく学ぶ。2クラスに分けて少人数での実践的なコミュニケーション能力も磨く。定期試験の際には2クラス合同で共通問題を使用する。また、前期試験の結果に応じて後期の習熟度別クラスを編成する。外部の4技能英語検定試験(英検)の準2級プラス程度に相当する英語力の習得を目指している。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 基本的な英文法を復習することにより、4技能の向上に活かすことが出来る。			○		
2 リスニング教材が豊富に含まれているため、英文聴き取りのコツをつかみ、リスニング能力がつく。			○		
3 課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れて書く力が伸びる。			○		
4 場面を設定した会話練習を行うので、相手の立場を考えたコミュニケーション能力がつく。	○		○		○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	授業の進め方、Unit 1 Introductions (1)	増田	予習(30分): p.5のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 自己紹介の表現を復習する。
2	Unit 1 Introductions (2)	増田	予習(30分): p.9のReadingを予習する。 復習(15分): Reading復習する。
3	Unit 2 What a life! (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.11のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 日常生活の表現を復習する。
4	Unit 2 What a life! (2)	増田	予習(30分): p.15のReadingを予習する。 復習(15分): Reading復習する。
5	Unit 3 Free time (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.17のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 趣味の表現を復習する。
6	Unit 3 Free time (2)	増田	予習(30分): p.22のReadingを予習する。 復習(15分): Reading復習する。
7	Presentationについて (organizing your ideas)	増田	予習(30分): p.25のVocabularyを解いておく。 復習(15分): presentationについて復習する。
8	Unit 4 Places (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.29のReadingを予習する。 復習(15分): 場所を表す表現を復習する。
9	Unit 4 Places (2)	増田	予習(30分): p.31のVocabularyを解いておく。 復習(15分): Reading復習する。
10	Unit 5 Getting around (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.35のReadingを予習する。 復習(15分): 道順の表現を復習する。
11	Unit 5 Getting around (2)	増田	予習(30分): p.37のVocabularyを解いておく。 復習(15分): Reading復習する。
12	Unit 6 Shopping (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.41のReadingを予習する。 復習(15分): 買い物の表現を復習する。

13	Unit 6　Shopping (2)	増田	予習：小テストの学習のため予習はなし。 復習（45分）：Reading復習する。
14	Presentationについて (taking notes), 小テスト	増田	予習（30分）：writing課題から1つ選び、プレゼンテーションの準備をする。 復習（15分）：presentationについて復習する。
15	Presentation	増田	予習：最終授業のため、予習はなし。 復習（45分）：プレゼンテーションのフィードバックを振り返る。定期試験に向けて学習する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		authenticな素材の活用（DVD, 地図、英字新聞の切り抜きなど）
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

● 課題に対するフィードバックは、次回の授業で行う。
● 小テストを回収後、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

授業参加・課題：30%
小テスト: 30%
定期試験: 40%
合計 100%
1. 授業参加に関しては、ペアワークやグループワークへの参加度を毎回の授業で評価する。
2. 小テストは6回行う。授業で学んだ内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。
3.「定期試験」は試験期間に実施し、2クラス共通のテストとする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

看護学科1年生の必修科目であるため、全員、必ず履修すること。

【教科書】

Breakthrough Plus 2nd Edition Student's Book 1　　Miles Craven著、 Macmillan Education　（「英語Ⅱ」と同じ）

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

増田:　月曜日3, 4時限

【教員連絡先】

増田　hmasuda@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

2クラスに分かれるが、基本的には同じ進度で行い、定期試験問題も統一する。

授業科目名	英語Ⅱ	担当教員名	増田 光			
コード	22LAN126	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
○	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

前期の「英語 I」と同じテキストを用いて、前期「英語 Ⅰ」の試験結果に応じて習熟度別クラスを編成する。「英語Ⅱ」では、「英語 Ⅰ」で培った英語の基礎力に加えて応用力もつける。「英語Ⅱ」も看護学科の必修基礎科目に含まれ、英語の4技能とコミュニケーション能力の育成を目指して英語を学ぶ。「英語 Ⅰ」と「英語Ⅱ」を学ぶことで基礎的な文法や語彙が復習でき、場面に応じた会話力がつき，リスニングやライティングを訓練することで、苦手とされるこれらの技能にも抵抗感なく取り組め、自らの言葉で発信できるようになる。外部の4技能英語検定試験(英検)の2級程度に相当する英語力の習得を目指している。また、「英語I」「英語 II」は2年次英語必修科目である「看護英語」を履修する上での重要な基礎固めとなるため、英語の基本構文の習得を重視したい。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 基本的な英文法を復習することにより、4技能の向上に活かすことが出来る。			○		
2 リスニング教材が豊富に含まれているため、英文聴き取りのコツをつかみ、リスニング能力がつく。			○		
3 課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れて書く力が伸びる。			○		
4 場面を設定した会話練習を行うので、相手の立場を考えたコミュニケーション能力がつく。	○		○		○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	Introduction 後期授業の進め方、 Unit 7 What's happening? (1)	増田	予習(30分): p.45のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 進行形および家事の表現を復習する。
2	Unit 7 What's happening? (2)	増田	予習(30分): p.49のReadingを予習する。 復習(15分): Readingを復習する。
3	Unit 8 People (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.51のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 人物描写の表現を復習する。
4	Unit 8 People (2)	増田	予習(30分): p.55のReadingを予習する。 復習(15分): Readingを復習する。
5	Unit 9 Having fun (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.57のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 休日の過ごし方の表現を復習する。
6	Unit 9 Having fun (2)	増田	予習(30分): p.61のReadingを予習する。 復習(15分): Readingを復習する。 小テストのための復習。
7	Presentationについて (linking your ideas)	増田	予習(30分): p.65のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 小テストおよびPresentationについて復習する。
8	Unit 10 Vacation (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.69のReadingを予習する。 復習(15分): 休暇の過ごし方を表す表現を復習する。
9	Unit 10 Vacation (2)	増田	予習(30分): p.71のVocabularyを解いておく。 復習(15分): Readingを復習する。
10	Unit 11 Life stories (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.71のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 人生のイベントに関する表現を復習する。
11	Unit 11 Life stories (2)	増田	予習(30分): p.77のVocabularyを解いておく。 復習(15分): Readingを復習する。
12	Unit 12 Hopes and intentions (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.81のReadingを予習する。 復習(15分): 希望を伝える表現を復習する。

13	Unit 12 Hopes and intentions (2)	増橋	予習(30分): 小テストのための復習をする。 復習(15分): Readingを復習する。
14	Presentationについて (signposting your talk), 小テスト	増田	予習(30分):Writing課題から1つを選び、presentationの準備をする。 復習(15分): 小テストの復習、presentationの復習をする。
15	Presentation	増田	予習:最終授業であり、定期試験に向けての学習があるため予習はない。 復習(45分): 定期試験に向けての復習をする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		authenticな素材の活用(DVD, 地図、英字新聞の切り抜きなど)
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

● 課題に対するフィードバックは、次回の授業で行う。
● 小テストを回収後、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

授業参加 ・課題:30%
小テスト: 30%
定期試験: 40%
合計 100%

1. 授業参加に関しては、ペアワークやグループワークへの参加度を毎回の授業で評価する。
2. 小テストは6回行う。授業で学んだ内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。
3.「定期試験」は試験期間に実施し、2クラス共通のテストとする。

【生成AI利活用（ 無 ）】

【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】

【履修申請上の条件】

看護学科1年生の必修科目であるため、全員、必ず履修すること。 原則的には「英語Ⅰ」が履修済であること。

【教科書】

Breakthrough Plus 2nd Edition Student's Book 1　Miles Craven著、 macmillan education　（「英語Ⅰ」と同じ）

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

増田: 月曜日3,4時限

【教員連絡先】

増田 hmasuda@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

2クラスに分かれるが、基本的には同じ進度で行い、定期試験問題も統一する。

授業科目名	看護英語	担当教員名	増田 光			
コード	22LAN127	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

「医療ツーリズム」という言葉が頻繁に聞かれ，日本での治療を目的として海外から観光客が訪れるようになった。また，在日外国人の数も増加している。看護学生としては，そのような方々と英語でコミュニケーションをとり，看護に必要な語彙が使えることtが，おおいに求められている。この科目では，1年次の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」で学んだ文法基礎力，語彙力，表現力，リスニング力，ライティング力を基に，看護に特化した英語を学び，英語4技能である読む，書く，聞く，話す力の総合的な向上を目的とする。具体的な内容は，治療を必要とする外国人患者とのコミュニケーション力の養成に重点を置く。様々な医療現場を想定したロールプレイを通し，「医療英語コミュニケーション力」，「医学用語」，「看護に特化した英語表現」を修得することを目標にする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 海外で働くナースの様子を動画で視聴することで、看護職として大切な人間への尊厳と権利を擁護する気持ちを述べることができる。	○				
2 病院の診療科や身体部位など、看護師として必要な語彙の英語名を理解し、使用することが出来る。			○		
3 実践的な会話練習により、学んだ知識を活用することができる。			○		
4 基本的な英文法の復習をすることで、より正確な英語を読み取り、発信することができる。			○		○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	Introduction 授業の進め方, Unit 1	増田	予習(30分): シラバスを熟読する。Unit 1の予習をする。 復習(15分):Unit 1 の復習をする。
2	Unit 1 Meeting colleagues (1)	増田	予習(30分): p.4 – 6のLanguage、p.8のVocabularyを予習する。 復習(15分): 自己紹介、スケジュールの表現、家系図、面会者への注意書を復習する。
3	Unit 1 Meeting colleagues (2)	増田	予習(30分): p.11のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 病院の備品について復習する。
4	Unit 2 Nursing assessment (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.13のLanguageを予習する。 復習(15分): 患者情報の記入、職業の表現を復習する。
5	Unit 2 Nursing assessment (2)	増田	予習(30分): p.14のVocabulary p.16のReadingを予習する。 復習(15分):病状を表す表現を復習する。
6	Unit 3 The patient ward (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.22のVocabulary、 p.25のReadingを予習する。 復習(15分): 病院の科の名称、看護師の業務内容の表現を復習する。
7	Unit 3 The patient ward (2)	増田	予習(30分): p.27のReadingを予習する。 復習(15分): 責任ある看護師とは？について考える。小テストに向けて復習する。
8	Unit 3	増田	予習(30分): p.28のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 小テストの復習をする。
9	Unit 4 Food and measurements (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.32のメニューを読んでおく。 復習(15分): 食物、数量の数え方の表現を復習する。
10	Unit 4 Food and measurements (2)	増田	予習(30分): p.36のVocabularyを予習する。 復習(15分): 食事を注文する表現を復習する。
11	Unit 5 The body and movement (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.38のVocabularyを予習する。 復習(15分): 身体部位、身体動作の表現を復習する。
12	Unit 5 The body and movement (2)	増田	予習(30分): p.40のLanguage、p.42のReadingを予習する。 復習(15分): 目標設定および患者さんを励ます表現、運動療法の指示を復習する。
13	Unit 6 Medication (1), 小テスト	増田	予習(30分): p.44のVocabularyを解いておく。 復習(15分): 薬の種類を復習する。
14	Unit 6 Medication (2)	増田	予習(30分): p.47のReadingを予習する 復習(15分): 薬の副作用について復習する。小テストに向けて復習する。
15	小テスト	増田	予習:最終授業であるため、予習はなし。 復習(45分): 小テストの復習、定期試験に向けての復習。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		authenticな素材の活用(DVD, YouTubeなど)
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

● 定期試験、小テストを回収後、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

授業参加・課題：30%
小テスト：30%
定期試験：40%
合計 100％

1. 授業参加に関しては、ペアワークやグループワークへの参加度を毎回の授業で評価する。
2. 小テストは6回行う。授業で学んだ内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。
3.「定期試験」は試験期間中に実施し、2クラス共通のテストとする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

看護学科2年生の必修科目であるため、全員、必ず履修すること。 原則的には「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」を履修済が望ましい。

【教科書】

English for Nursing 1　Ros Wright and Bethany Cagnol著、 Pearson

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

増田：　月曜日3,4時限

【教員連絡先】

増田　hmasuda@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	Listening & Speaking	担当教員名	増田 光			
コード	22LAN128	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」を終了し，さらに，英語力をつける意欲がある学生対象に開かれる授業である。科目名にもあるように，英語の4技能の中でも特に，聴く・話すに特化した科目である。聴く力と話す力は連動しているため，双方を強化してゆく。学生の身近な題材の音声教材を視聴した上で，その内容について英語でデイスカッションを行う。関連する英文法も復習してゆくため，苦手意識のある学生も受講しやすい。定期試験だけではなく，小テストや課題提出も評価に加える。語学は特に復習が大切なので，地道な復習が求められる。外部の4技能英語検定試験(英検)の2級以上に相当する英語のListening & Speaking能力の習得を目指している。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 デイスカッションやプレゼンテーションを通じて、異なる考え方にも理解を示すことができるようになる。	○				
2 様々な問題について熟考することで、批判的思考力が養われる。	○				○
3 自分たちの意見をまとめて発表することで、英語での口頭発表能力が高められる。	○				○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	Introduction 授業の進め方、 Other Introduction(他己紹介)	増田	予習(30分):テキストを購入してUnit 1の英文を読む。 復習(15分): 他己紹介の表現を復習する。
2	Unit 1: Enjoy Your Presentation in English 自己発信の英語を学ぶ	増田	予習(15分): Unit 2の英文を読む。 復習(15分): 英語プレゼンテーションのコツを復習する。 課題(15分):「英語を学習する理由」についてのプレゼンテーション原稿を書く。
3	Unit 2: Talking about Yourself パワーポイントの利用	増田	予習(15分): Unit 3の英文を読む。 復習(15分): パワーポイントの使い方を復習する。 課題(15分):「私と家族」「私と友人」についてプレゼンテーション原稿を書く。
4	Unit 3: Express Yourself 50語で語ろう	増田	予習(15分): Unit 4の英文を読む。 復習(15分): 自分について語る方法を復習する。 課題(15分):「自分が考えていること」についてプレゼンテーション原稿を書く。
5	Unit 4: Talking about Hobbies and Interests ダイナミックな話し方	増田	予習(15分): Unit 5の英文を読む。 復習(15分): 趣味や興味について語る表現を復習する。 課題(15分):「好きなこと」についてプレゼンテーション原稿を書く。
6	Unit 5: Talking about Your University データの活用	増田	予習(15分): Unit 6の英文を読む。 復習(15分):デイベートの内容を復習する。 課題(15分):「私の大学」についてプレゼンテーション原稿を書く。
7	Unit 6: Your Future Plan パラグラフの構造	増田	予習(15分): Unit 7の英文を読む。 復習(15分): 英文パラグラフの構造を復習する。 課題(15分): 「自分の将来の計画」についてプレゼンテーション原稿を書く。
8	Unit 7: Expressing Appreciation 聞き上手になる	増田	予習(15分): Unit 8の英文を読む。 復習(15分): 謝意や感謝の表現を復習する。 課題(15分):「感謝と喜びの言葉」のプレゼンテーション原稿を書く。
9	Unit 8: Social Activities リスナーや目的に応じた工夫	増田	予習(15分): Unit 9の英文を読む。 復習(15分): 聴き手を意識したプレゼンテーションの工夫を復習する。 課題(15分):「学外の活動」についてプレゼンテーション原稿を書く。
10	Unit 9: Expressing Your Opinion 明瞭な発音	増田	予習(15分): Unit 10の英文を読む。 復習(15分): 意見の述べ方、賛成意見と反対意見の表現について復習する。 課題(15分):「私の提案」でプレゼンテーション原稿を書く。
11	Unit 10: Giving a Presentation about Japan 察しの文化を越えて	増田	予習(15分): Unit 11の英文を読む。 復習(15分): 日本文化に関する語彙を復習する。 課題(15分):「私が伝えたい日本」でプレゼンテーション原稿を書く。
12	Unit 11: Old Japanese Sayings スピーチの構造	増田	予習(15分): Unit 12の英文を読む。 復習(15分): スピーチの構造について復習する。 課題(15分):「私の好きなことわざ」でプレゼンテーション原稿を書く。
13	Unit 12: Describing Things Japanese ハンドアウトの用意	増田	予習(15分): Unit 13の英文を読む。 復習(15分): 描写の仕方、ハンドアウトの工夫について復習する。 課題(15分):「日本の物」でプレゼンテーション原稿を書く。
14	Unit 13: Current Issues in Japanese Society 国際言語としての英語	増田	復習(30分): 日本社会の問題について復習する。 課題(15分):「日本の社会問題」でプレゼンテーション原稿を書く。 最終プレゼンテーションの練習
15	プレゼンテーション	増田	復習(20分): プレゼンテーションのフィードバックを振り返る。 課題(25分): プレゼンテーションの内容を最終レポートにまとめて提出する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		authenticな素材の活用(DVD、 新聞記事、インターネットや書籍など)
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

● 課題レポートに対するフィードバックは後日、紙面にて個別に配布する。
● プレゼンテーションのフィードバックは、最終レポートの返却とともに行う。

【成績の評価方法】

リアクションペーパー：30%
課題：30%
プレゼンテーション：40%
合計 100％

1．毎回の授業終了前にリアクションペーパーを書かせ、授業内容の理解度を評価する。
2.「プレゼンテーション」は、パフォーマンスと最終レポートの総合評価とする。

「単位認定海外短期語学研修」(3週間)に参加することで「Listening & Speaking」の単位を修得する場合の評価方法は以下のとおりである。
事前学習 (Entry Test を含む): 20%
現地での成績: 60%
事後学習 (Exit Test を含む): 20%
合計 100%

【生成Ai利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

看護学科の選択科目である。3科目から1単位以上履修する選択必修科目であるので注意すること。原則として、「英語Ⅰ、Ⅱ」が履修済であること。

【教科書】

This is My Presentation!　本名信之、竹下裕子、Anthony Allan著　桐原書店

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

月曜日3,4時限

【教員連絡先】

hmasuda@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

積極的に授業に参加する姿勢が求められる。

授業科目名	Reading & Writing	担当教員名	増田 光			
コード	22LAN129	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

「英語 I」「英語 II」を終了し，さらに英語力をつける意欲がある学生対象に開かれる授業である。この授業では，「きちんとした英文が書けるようになる」を目標に基礎的な英語構文の積み上げからエッセイライティングへと展開してゆく。
まず，モデルとなるエッセイを読み、語彙や構文を確認した上で1文ずつのセンテンス・ライティングを行い，課題として毎回，英文エッセイを書いて提出する。エッセイの題材はインターネットや書籍で自ら調査し，必ず出典を明らかにすること。題材の言語は問わないが，英文の題材が好ましい。外部の4技能英語検定試験(英検)の2級以上に相当する英語のReading & Writing 能力の習得を目指している。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 招待状、レシピ、手紙、e-mailなど、様々な種類のwritingに触れることで教養が見につく。	○				○
2 モデルとなる英文を読むため、英語読解力がつく。			○		
3 基本的な英文法の復習をすることで、より正確な英語を読み取ることができる。			○		
4 課題として英文を書くため、ライティングへの抵抗感が薄れる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	Introduction 授業の進め方、英文読解とライティングの基本、Unit 1大学生のアルバイト	増田	予習(30分): テキストを購入し、通読する。 復習(15分): シラバスを熟読する。Unit 1 の復習。
2	Unit 2 健康志向国民	増田	予習(15分): Unit 2のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(15分): 「私の健康維持法」でエッセイを書く。
3	Unit 5 日本にとってアメリカとは	増田	予習(30分): Unit 5のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。
4	Unit 6 酒と大学生	増田	予習(15分): Unit 6のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(15分): 「飲酒の功罪」についてエッセイを書く。
5	Unit 7 帰国子女のカルチャーショック	増田	復習(45分): 小テストに向けて構文や語彙を復習する。
6	小テスト (Unit 1- 2, 5-7)、 Unit 8 働き甲斐とは何か？	増田	予習(30分): Unit 8のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 小テストの復習。
7	Unit 9 アジア vs. 日本	増田	予習(30分): Unit 9のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。
8	Unit 10 なぜ英語が話せない？	増田	予習(15分): Unit 10のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(15分): 「日本の英語教育」についてエッセイを書く。
9	Unit 11 当世親子関係	増田	予習(30分): Unit 11のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。
10	Unit 12 受験英語の功罪	増田	予習(15分): Unit 12のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(15分): 「自分の英語学習」についてエッセイを書く。
11	Unit 13 高齢化社会の行く末	増田	予習(15分): Unit 13のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(15分): 「高齢化社会」についてエッセイを書く。
12	Unit 14 不便に耐えよう ――― 環境問題	増田	予習(30分): Unit 14のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。
13	Unit 15 結婚はちょっと	増田	予習(15分): Unit 15のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。 課題(15分): 「私の結婚観」についてエッセイを書く。

14	Unit 18 勉強はあとから ――― 教育問題	増田	予習(30分): Unit 18のモデルエッセイを読んでおく。 復習(15分): 本文の内容、構文や語彙を復習する。課題発表の練習。
15	Writing課題の発表	増田	復習(45分):発表に関するフィードバックを復習する。 定期試験の勉強。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		authenticな素材の活用(DVD、新聞記事、インターネットや書籍など)
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

● 定期試験、小テストを回収後、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

授業参加・課題:30%
小テスト:30%
定期試験:40%
合計 100%

1. 英文課題の提出を「課題提出」として評価する。授業参加に関しては、ペアワークやグループワークへの参加度を毎回の授業で評価する。
2. 小テストは3回行う。授業で学んだ練習問題の内容から出題されるため、きちんと復習して臨むこと。
3.「定期試験」は試験期間中にReadingと練習問題の内容から出題する。

「単位認定海外短期語学研修」(3週間)に参加することで「Reading & Writing」の単位を修得する場合の評価方法は以下のとおりである。
事前学習 (Entry Test を含む): 20%
現地での成績: 60%
事後学習 (Exit Test を含む): 20%
合計 100%

【生成AI利活用 (無) 】

【 ルーブリック評価の活用 (無) 】

【履修申請上の条件】

看護学部の学生の場合は英語選択必修科目の1つとなる。きちんと復習をして、真面目に課題に取り組むことが求められる。

【教科書】

Read Better to Write Better Tatsuaki Tomioka, James Hill著 KINSEIDO

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

月曜日3,4時限

【教員連絡先】

hmasuda@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

英語を書く力は、「書く」ことで上達するので、とにかく英文を書き、添削されたものを見直して改定してゆくことが大切である。
また、インターネットや書籍などを使って調べた題材については、必ず出典を明らかにすること。

授業科目名	形態機能学Ⅰ	担当教員名	聖マリアンナ医科大学 幸田 和久・長谷 都			
コード	22NBA201	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
◎	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
○	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

人体を構成する細胞や組織の構造とシステムを学習し，解剖生理学的観点から「生命」と「生きること」への理解を深める。消化器系について特徴的な細胞，組織，臓器の名称を覚え，生理学的機能や調節システムを理解する。あわせて、栄養素の消化と吸収について理解する。また、呼吸器系、循環器系を構成する細胞・組織・臓器の名称を覚え、それらの生理学的機能や調節システムについて理解する。あわせて、血液の組成、機能、性質について理解する。
日常生活場面と関連させてこれらの理解を深め，看護における活用場面をイメージしながら学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 人体を構成する細胞・組織の特徴と機能について説明できる。	○	○			○
2 消化器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、およびそれらの機能や、機能の調節にかかわるシステムについて説明できる。	○	○			○
3 栄養素の消化と吸収について説明できる。	○	○			○
4 呼吸器系、循環器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、およびそれらの機能や、機能の調節にかかわるシステムについて説明できる。	○	○			○
5 血液の組成、機能、性質について説明できる。	○	○			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	第1章　解剖生理学のための基礎知識 構造からみた人体	幸田	予習(約20分):第1章Aを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
2	第1章　解剖生理学のための基礎知識 人体のさまざまな器官	幸田	予習(約20分):第1章Bを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
3	第1章　解剖生理学のための基礎知識 素材からみた人体(1): 細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生成、 細胞膜の構造と機能	幸田	予習(約20分):第1章C1～3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
4	第1章　解剖生理学のための基礎知識 素材からみた人体(2): 細胞の増殖と染色体、分化した細胞がつくる組織、 腔所を包む組織	幸田	予習(約20分):第1章C4～6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
5	第2章　栄養の消化と吸収 口・喉頭・食道の構造と機能	長谷	予習(約20分):第2章Aを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
6	第2章　栄養の消化と吸収 腹部消化管の構造と機能(1): 胃の構造と機能、小腸の構造と機能	長谷	予習(約20分):第2章B1～4を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
7	第2章　栄養の消化と吸収 腹部消化管の構造と機能(2): 栄養素の消化と吸収、大腸の構造と機能	長谷	予習(約20分):第2章B5～7を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
8	第2章　栄養の消化と吸収 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、腹膜	長谷	予習(約20分):第2章C,Dを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
9	第3章　呼吸と血液のはたらき 呼吸器の構造	長谷	予習(約20分):第3章Aを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
10	第3章　呼吸と血液のはたらき 呼吸(1): 内呼吸と外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸気量、ガス交換とガスの運搬、 肺の循環と血流	長谷	予習(約20分):第3章B1～5を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
11	第3章　呼吸と血液のはたらき 呼吸(2): 呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理	幸田	予習(約20分):第3章B6～7を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
12	第3章　呼吸と血液のはたらき 血液(1): 血液の組成と機能、赤血球、白血球	幸田	予習(約20分):第3章C1～3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
13	第3章　呼吸と血液のはたらき 血液(2): 血小板、血漿タンパク質と赤血球沈降速度　血液の凝固と線維素溶解、 血液型	幸田	予習(約20分):第3章C4～7を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
14	第4章　血液の循環とその調節 循環器系の構成、心臓の構造	幸田	予習(約20分):第4章A、Bを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
15	第4章　血液の循環とその調節 心臓の拍出機能(1): 心臓の興奮とその伝播、心電図	幸田	予習(約20分): 第4章C1～2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分):講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。

【成績の評価方法】

筆記試験　100％
本科目では、筆記試験を2回に分けて実施する。
各50％　合計:100％

【 生成AI利活用　無 】【 ルーブリック評価の活用　無 】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

板井建雄　岡田隆夫　宇賀貴紀 著、系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能1、第11版第2刷、医学書院、2023　¥3,800＋税

【参考書】

原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):骨単、エヌ・ティー・エス、2004　¥2600＋税
原島 広至 (著), 河合 良訓 (監修):肉単、エヌ・ティー・エス、2004　¥2600＋税
原島 広至 (著), 河合 良訓 (監修):脳単、エヌ・ティー・エス、2005　¥2600＋税
原島 広至 (著), 河合 良訓 (監修):臓単、エヌ・ティー・エス、2005　¥2600＋税

【オープンな教育リソース】

特に使用しない

【担当教員の実務経験】

解剖生理学に関連する分野の大学教育に長く携わってきた教員が、その経験を生かし、看護や日常生活の視点も含めながら講義を進める。

【オフィスアワー】

担当教員が非常勤であるため、講義内容について不明なことや疑問点などがある場合は、講義時間内かCLASS ROOMで対応する。

【教員連絡先】

科目に関する連絡は原則CLASS ROOMを利用することとする。

【備考】

科目内で行われる2回の試験を無断で欠席した場合は試験放棄とみなし、科目の単位取得の意思がないものとする。

授業科目名	形態機能学Ⅱ	担当教員名	聖マリアンナ医科大学 幸田 和久・長谷 都			
コード	22NBA202	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
◎	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
○	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

循環器系、泌尿器系、自律神経系、内分泌系について，特徴的な細胞，組織，器官の名称を覚え，生理学的機能や調節システムを理解する。さらに、循環器系，泌尿器系、自律神経系、内分泌系、および形態機能学Ⅰで学習した呼吸器系が、どのように連携して体液のpHや血糖値、血圧などを調節しているかを理解する。また、脳、脊髄、末梢神経からなる神経系の構造と機能、および視覚、聴覚、平衡覚、味覚などの情報の受容と処理について理解する。
あわせて、日常生活場面と関連させてこれらの理解を深め，看護における活用場面をイメージしながら学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 循環器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、およびそれらの機能や、機能の調節にかかわるシステムについて説明できる。	○	○			○
2 泌尿器系を構成する細胞・組織・臓器の特徴、およびそれらの機能や、機能の調節にかかわるシステムについて説明できる。	○	○			○
3 自律神経系および内分泌系による内臓機能の調節について説明できる。	○	○			○
4 脳、脊髄、末梢神経からなる神経系の構造と機能、および視覚、聴覚、平衡覚、味覚などの情報の受容と処理について説明できる。	○	○			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	第4章　血液の循環とその調節 心臓の拍出機能(2): 心臓の収縮	幸田	予習(約20分)： 第4章C3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
2	第4章　血液の循環とその調節 末梢循環系の構造	幸田	予習(約20分)：第4章Dを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
3	第4章　血液の循環とその調節 血液の循環の調節(1): 血圧、血液の循環、血圧・血流量の調節	幸田	予習(約20分)：第4章E1～3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
4	第4章　血液の循環とその調節 血液の循環の調節(2): 微小循環、循環器系の病態生理 リンパとリンパ管	幸田	予習(約20分)：第4章E4～5、およびFを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
5	第5章　体液の調節と尿の生成 腎臓	幸田	予習(約20分)：第5章Aを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
6	第5章　体液の調節と尿の生成 排尿路、体液の調節	幸田	予習(約20分)：第5章BおよびCを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
7	第6章　内臓機能の調節 自律神経による調節、内分泌系による調節	幸田	予習(約20分)：第6章AおよびBを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
8	第6章　内臓機能の調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞(1): 視床下部−下垂体系、甲状腺と副甲状腺、膵臓	長谷	予習(約20分)：第6章C1～3を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
9	第6章　内臓機能の調節 全身の内分泌腺と内分泌細胞(2): 副腎、性腺、その他の内分泌腺	長谷	予習(約20分)：第6章C4～6を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
10	第6章　内臓機能の調節 ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際	長谷	予習(約20分)：第6章DおよびEを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
11	第7章　情報の受容と処理 神経系の構造と機能 脊髄と脳(1): 脊髄の構造と機能	幸田	予習(約20分)：第8章AおよびB1を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
12	第7章　情報の受容と処理 脊髄と脳(2): 脳の構造と機能	幸田	予習(約20分)：第8章B2を読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
13	第8章　情報の受容と処理 脊髄神経と脳神経、運動機能と下行伝導路、感覚機能	幸田	予習(約20分)：第8章C～Eを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
14	第8章　情報の受容と処理 体性感覚と上行伝導路、眼の構造と視覚	幸田	予習(約20分)：第8章FおよびGを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。
15	第8章　情報の受容と処理 耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚	幸田	予習(約20分)：第8章HおよびIを読み、疑問点や不明なところをチェックしておく。 復習(約25分)：講義ノートの作成し、疑問点や不明なところの理解を深める。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		講義のCLASS ROOMを立ち上げ、講義内容の配信や質問などの対応する。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク		
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義内容の不明点や疑問点について、次の講義内で補足を行う。

【成績の評価方法】

筆記試験　100％
本科目では、筆記試験を2回に分けて実施する。
各50％　合計:100％

【 生成AI利活用　無 】【 ルーブリック評価の活用　無 】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

板井建雄　岡田隆夫　宇賀貴紀 著、系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能1、第11版第2刷、医学書院、2023　¥3,800＋税

【参考書】

原島 広至 (著)、河合 良訓 (監修):骨単、エヌ・ティー・エス、2004　¥2600＋税
原島 広至 (著), 河合 良訓 (監修):肉単、エヌ・ティー・エス、2004　¥2600＋税
原島 広至 (著), 河合 良訓 (監修):脳単、エヌ・ティー・エス、2005　¥2600＋税
原島 広至 (著), 河合 良訓 (監修):臓単、エヌ・ティー・エス、2005　¥2600＋税

【オープンな教育リソース】

特に使用しない

【担当教員の実務経験】

解剖生理学に関連する分野の大学教育に長く携わってきた教員が、その経験を生かし、看護や日常生活の視点も含めながら講義を進める。

【オフィスアワー】

担当教員が非常勤であるため、講義内容について不明なことや疑問点などがある場合は、講義時間内かCLASS ROOMで対応する。

【教員連絡先】

科目に関する連絡は原則CLASS ROOMを利用することとする。

【備考】

科目内で行われる2回の試験を無断で欠席した場合は試験放棄とみなし、科目の単位取得の意思がないものとする。

授業科目名	薬理学	担当教員名	武半優子・太田有紀・木田圭亮			
コード	22NBA206	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

薬理学の基本的概念と薬物の特徴、薬理作用に関連する基本的知識を学習する。人体の生理学的および生化学的知識を踏まえたうえで、疾患の治療や症状の緩和に用いられる薬物の種類、名称、作用機序や薬物の特徴などについて学修する。既に履修した形態機能学や疾病治療論学と結びつけて理解する。またヘルスアセスメントや看護学実習を実践するための基礎的知識を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 薬物の種類(剤形など)、作用する仕組み、薬物の体内動態について理解し、薬物治療に対する看護の役割を説明できる。		○			
2 医薬品の開発および薬害など医薬品に関する法律について説明できる。		○			
3 疾患に対する主な治療薬を分類・列挙でき、その作用機序、薬理作用、有害作用を説明できる。		○			
4 薬物の組み合わせによる相互作用や有害反応または薬害について説明できる。		○			
5 特殊疾患、特殊患者(妊婦、小児、高齢者)に対する薬物治療について説明できる。		○			

【授業計画】

	授業日	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	第1章　薬理学総論 (1) 薬に対する一般知識、薬物の分類、薬と法律	武半 優子	予習(40分):教科書の「薬理学総論」の項目を読み、分からない箇所を抽出する。 復習(20分):教科書と配布プリントを見返し、薬物治療と看護師の役割をまとめる。
2	第2章　薬理学総論 (2) 薬力学と薬物動態学、投与経路、薬物が作用するしくみ、薬物相互作用	武半 優子	予習(40分):「薬物動態」の項目を読み、分からない箇所を抽出する。 復習(20分):薬物の体内動態についてまとめる。
3	第7章　末梢での神経活動に作用する薬物 (1) 自律神経系の基礎知識、神経系の情報伝達、交感神経作用薬および受容体遮断薬	武半 優子	予習(40分):「自律神経系作用薬」の項目を読み、分からない箇所を抽出する。 復習(20分):自律神経の伝達物質と作用についてまとめる。
4	第7章　末梢での神経活動に作用する薬物 (2) 副交感神経作用薬、受容体遮断薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬、消化器系に作用する薬物	武半 優子	予習(40分):自律神経と支配臓器の関連性についてわからない箇所を抽出する。 復習(20分):自律神経の受容体作用薬と遮断薬の臨床応用をまとめる。
5	第9章　循環器系に作用する薬物 (1) 循環器の生理、高血圧治療薬、狭心症・心不全・不整脈治療薬	木田 圭亮	予習(40分):「循環器系作用薬」の項目を読み、関連する解剖生理学を復習する。 復習(20分):循環器の生理と疾患に対する薬物治療をまとめる。
6	第9章　循環器系に作用する薬物 (2) 利尿薬・脂質代謝異常症治療薬、血液凝固および線溶系の生理および血液に作用する薬物	木田 圭亮	予習(40分):「循環器系作用薬」の項目を読み、関連する解剖生理学を復習する。 復習(20分):循環器系疾患対する薬物治療についてまとめる。
7	第8章　中枢神経系に作用する薬物 (1) 中枢神経の生理、全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、気分障害治療薬	武半 優子	予習(40分):「中枢神経系薬物」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):中枢の神経伝達物質と疾患との関連性、薬物治療についてまとめる。
8	第8章　中枢神経系に作用する薬物 (2) パーキンソン病治療薬抗てんかん薬、麻薬性鎮痛薬、認知症治療薬	武半 優子	予習(40分):「中枢神経系薬物」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):中枢神経系疾患の薬物治療についてまとめる。
9	第10章　生殖器・泌尿器系に作用する薬物 第11章　物質代謝に作用する薬物　糖尿病治療薬、骨粗鬆症治療薬、ホルモン関連薬等	武半 優子	予習(40分):生体の内分泌系の働きとホルモン作用について復習しておく。 復習(20分):内分泌疾患の病態と薬物治療についてまとめる。
10	第5章　免疫治療薬 免疫の基礎知識、免疫抑制薬、免疫増強薬/予防接種薬)	太田 有紀	予習(40分):「免疫治療薬」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):免疫について、また免疫を修飾する薬物の作用機序についてまとめる。
11	第6章　抗アレルギー薬・抗炎症薬 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬、関節リウマチ、痛風、高尿酸血症治療薬	太田 有紀	予習(40分):「抗アレルギー薬」の項目を読み、分からない事を抽出する。 復習(20分):炎症の機序と各種抗炎症作用薬の機序についてまとめる。
12	第3章　抗感染症薬 感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論	太田 有紀	予習(40分):「感染症治療薬」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):感染症の種類と抗感染症薬の作用機序・耐性等についてまとめる。
13	第4章　抗がん薬 がん治療に関する基礎事項、抗がん薬各論	太田 有紀	予習(40分):「抗がん薬」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):抗がん作用のしくみと耐性・副作用についてまとめる。

14	第10章　呼吸器系に作用する薬物 第12章　皮膚科、眼科薬、臨床薬理学　看護業務に必要な薬の知識	太田 有紀	予習(40分):「呼吸器系作用薬」の項目を読み、分からない用語を抽出する。 復習(20分):呼吸器疾患の薬物治療と薬物の剤形と与薬上の注意点をまとめる。
15	新薬の開発(臨床研究を含む)と薬害 第14章　漢方薬 第15章　消毒薬	太田 有紀	予習(40分):「薬理学総論」の新薬開発、副作用について復習しておく。 復習(20分):新薬の開発過程について、また薬害の事例をまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

教科書、授業プリント、参考書により自学自習する。授業中または授業終了後に質問を受け付け、その講義内で解説または次回の講義で解説する。

【成績の評価方法】

〈評価基準〉 到達目標に明示している内容を問う定期試験を評価基準とする。〈割合〉 定期試験 (100%)

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　) 】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

①吉岡　充弘ほか. (2022). 系統看護学講座　薬理学　疾病のなりたちと回復の促進③　第15版. 医学書院.

【参考書】

① 板井 建雄ほか. (2022). 系統看護学講座　解剖生理学　人体の構造と機能①　第11版. 医学書院.
② 赤瀬智子ほか. (2022). ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ちと回復の促進2　臨床薬理学. メディカ出版.
③ 時政孝行. (2023). はじめる！つかえる！看護のための薬理学. 南山堂. ④木田圭亮. (2019). ナースが知りたい心不全のキホン. メディカ出版.

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

医師として医学的知識、臨床経験に即し、看護に必要な知識を講義する。
薬剤師として臨床現場で多く処方される薬剤、与薬の知識等、実践に即した講義を行う。

【オフィスアワー】

各授業終了後～1時間

【教員連絡先】

takebay@marianna-u.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	栄養生化学	担当教員名	吉田　稔・熊谷　晶子・川島　由紀子			
コード	22NBA207	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】					
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力					
◎	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力					
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力					
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力					
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力					

【授業の概要】

ヒトはタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルなどを食物として取り入れ、エネルギー源やからだの構成材料として必要な物質に変換して正常な機能や形態を維持している。栄養素と呼ばれるこれら物質は水と酸素の存在下に酵素反応によって必要な物質に合成される。本講義では3大栄養素であるタンパク質、糖質、脂質の生化学的構造と特性、生体内での代謝とエネルギー産生・貯蓄そして身体にとって重要な水・電解質の特徴と機能を学習する。またこれらの栄養素の働きを理解することは、日常生活での栄養素の過剰摂取に起因する生活習慣病の予防や改善そして健康の維持を考える上で重要である。とくに生活習慣病の予防は食品を介して摂取する栄養素の種類、量、摂取のタイミングが重要であることを理解する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 栄養素の生体内のでの反応や酵素の役割を説明できる。		○			
2 糖質、脂質、タンパク質の構造、消化、吸収、代謝を説明できる。		○			
3 生体内におけるエネルギー産生の過程を説明できる。		○			
4 遺伝情報とその発現について説明できる。		○			
5 食品の栄養学的特徴と食事摂取基準を説明できる。		○			
6 それぞれのライフステージにおける栄養を説明できる。		○			
7 臨床栄養について学び、主な疾患の栄養管理や食事療法を説明できる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	栄養と生化学の基礎 ・消化と吸収、同化と異化反応、細胞の構造、三大栄養素の代謝の概要等を学ぶ。	吉田稔	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
2	酵素の栄養生化学 ・酵素の性質と酵素反応、酵素と補酵素等にC30:Q43ついて学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
3	糖質の栄養生化学 ・糖質の分類と構造、糖質の消化、吸収、代謝等について学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
4	脂質の栄養生化学 ・脂質、脂肪酸、コレステロールと胆汁酸の構造・消化・吸収・代謝および リポたんぱく質の構造と代謝等について学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
5	タンパク質の栄養生化学 ・アミノ酸、タンパク質の構造・消化・吸収・代謝等を学ぶ。 また血漿タンパク質について理解する。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
6	エネルギーの栄養生化学 ・呼吸とエネルギー産生、糖質・脂質・タンパク質代謝の 相互の関連について学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
7	ポルフィリン代謝と異物代謝 ・ヘムの合成と分解、ビルルビンの代謝、生体異物代謝、 活性酸素とその除去反応について学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
8	ビタミンと無機質の栄養生化学 ・各種ビタミンの消化・吸収、構造、機能と疾患そして各種無機質の機能等を学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
9	遺伝子の生化学(1) ・核酸の構造と代謝、遺伝子と染色体の構造、遺伝子とタンパク質の合成等を学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
10	遺伝子の生化学(2) ・遺伝子異常と疾患、がんの生化学、遺伝子工学の応用等を学ぶ。	熊谷晶子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
11	食物と栄養 ・食物と栄養、栄養素と栄養価、主要食品の栄養的特徴、食生活指針等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
12	栄養摂取基準(1) ・栄養摂取基準、日本人の食事摂取基準の基本的考え方、 食事摂取基準の使用の際の留意点、活用に関する基本的考え方、 エネルギーの食事摂取基準等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。

13	栄養摂取基準(2) ・タンパク質・脂質・糖質・食物繊維の食事摂取基準、 エネルギー産生栄養素バランス、水溶性ビタミンの食事摂取基準、 多量・微量ミネラル等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
14	成長・生活と栄養 ・乳幼児の栄養、学童期・青少年期の栄養と問題、中年期・老年期の栄養と問題、妊産婦の栄養、エネルギー必要量と栄養等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
15	栄養療法 ・食事療法、経管栄養、輸液等を学ぶ。	川島 由起子	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

フィードバックとして小テストを実施し、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

＜評価基準＞
・「到達目標」に明示している1～7について行う定期試験を評価基準とします。
・講義担当者が行う小テストを評価基準とします。
※ 補習授業で実施する確認試験等も評価の対象とします。

＜割合＞
・定期試験80%、小テスト20%で総合評価します。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】

この科目は形態機能学(解剖生理学)と関連しており、予習・復習には解剖生理学の教科書も活用することが望ましい。

【教科書】

畠山鎮次:系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　人体の構造と機能 ❷ 医学書院
小野章史ほか:系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能 ❸ 医学書院

【参考書】

脊山洋右・島野仁・松島照彦編集:新体系 看護学全書、人体の構造と機能、栄養生化学

【オープンな教育リソース】

本講義では使用しません。

【担当教員の実務経験】

本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。

【オフィスアワー】

月曜日　15:00～16:30　事前に連絡をしてから訪問すること

【教員連絡先】

myosida@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	感染予防学	担当教員名	竹村　弘／稚井　之雄／國島　広之／大神田　敬／中谷　佳子			
コード	22NBA208	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
◎	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
○	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

この授業は、病原微生物と感染症について学び、感染症の予防および治療のための基本的知識の獲得を目指す。病原微生物として、細菌・ウイルス・真菌などの性質を理解し、それらが引き起こす感染症とそれに伴う生体反応、薬物療法、予防方法を学ぶ。また、近年医療現場で問題となっている、薬剤耐性菌や医療関連感染、新興感染症、再興感染症に関する感染経路やその予防方法を学ぶ。さらに、看護師として患者や自分自身を感染から守るための感染予防に関する一般的な考え方を学ぶ。演習では微生物を可視化し、医療現場で最も重要な感染予防の技術である手洗いについて総合的に学ぶ。病原微生物に関する基本的知識の獲得にとどまらず、その知識を応用した医療現場における感染予防策を理解することを目的とする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 細菌・ウイルス等の病原微生物の形態学的・生化学的・生理学的な性状について説明できる。		○			
2 病原微生物の特性に応じた感染予防の方法に関する基本的な概念を説明できる。		○			
3 免疫の基本を理解し、宿主となるヒトと病原微生物の相互関係として現れる感染症の成立について説明できる。		○			
4 看護師として、臨床実践で必要とされる感染予防の具体策について説明できる。		○	○		
5 社会生活での感染予防における看護師の役割について説明できる。		○	○		

【授業計画】

	授業計画（令和4年度実績）	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	感染・感染症の基本 感染の仕組みと発生要因、感染症の種類について学ぶ。水平感染、垂直感染、内因性感染、日和見感染症、人獣共通感染症、節足動物媒介感染症等の概念について学ぶ。 感染症の検査、敗血症と菌血症の違いなどについて学ぶ。 （稚井 之雄）	稚井	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
2	細菌感染症(1) 細菌の形態、グラム染色性、一般的な特徴を学ぶ。 ブドウ球菌、レンサ球菌を中心にグラム陽性菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 （稚井 之雄）	稚井	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
3	細菌感染症(2) 腸内細菌科、Clostridioides difficileなど腸管感染症の原因となる細菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。梅毒、淋病、クラミジアなどの性行為感染症について学ぶ。 （稚井 之雄）	稚井	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
4	細菌感染症(3) 肺炎球菌、インフルエンザ菌、髄膜炎菌、緑膿菌、レジオネラ菌、マイコプラズマ、クラミジアなど呼吸器感染症、中枢神経感染症（髄膜炎）の原因となる細菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 （稚井 之雄）	稚井	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
5	感染症の治療　化学療法と薬剤耐性 抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の特徴、副作用、細菌の薬剤耐性機構などについて学ぶ。 （國島広之）	國島	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
6	新興・再興感染症と感染症法 新型インフルエンザ、MERSなどの新興・再興感染症、感染症法で届出が規定された感染症などについて学ぶ。 （國島広之）	國島	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
7	免疫と生体防御機構 ヒトのバリア機能、および免疫の種類とそのメカニズムなどを学ぶ。 （大神田　敬）	大神田	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
8	ウイルス感染症(1) ウイルスの特徴を学ぶ。 呼吸器系、消化器系への感染症を引き起こすウイルスの性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 （大神田　敬）	大神田	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
9	ウイルス感染症(2) 肝炎および血液疾患の原因となるウイルスの性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 （大神田　敬）	大神田	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。

10	細菌感染症(4) 結核菌、非結核性抗酸菌の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 結核菌の院内感染対策のグループディスカッションなどを含む。 （竹村　弘）	竹村	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
11	真菌・原虫による感染症 主な真菌、原虫の性状および病原性、感染予防策などについて学ぶ。 （竹村　弘）	竹村	予習：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む（30分）。 復習：授業内容をまとめる(30分)。
12	感染症の予防(1)　組織による感染予防対策 感染制御チーム、抗菌薬適正使用チームの実際の活動などについて学ぶ。 （中谷佳子）	中谷	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
13	感染症の予防(2)　医療関連感染予防対策① 標準予防策、感染経路別予防策などを学ぶ。 病院施設等で行われている感染予防対策の実際を学ぶ。 （中谷佳子）	中谷	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
14	感染症の予防(3)　医療関連感染予防対策② 滅菌、消毒、洗浄の概念を理解し、各種病原体の滅菌・消毒方法などを学ぶ。 手術部位感染対策、医療環境整備などについて学ぶ。 （中谷佳子）	中谷	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。
15	感染症の予防(4)　職業感染予防対策 ワクチン接種、針刺し・切創などの職業感染対策などを学ぶ。 職業感染対策のグループディスカッションなどを含む。 （中谷佳子）	中谷	予習（15分）：教科書の該当箇所を熟読してから授業に臨む。 復習（30分）：授業内容をまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		特になし
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク		
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

特になし。

【成績の評価方法】

定期試験：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

教科書の該当箇所を予習して授業に臨むこと。
復習としてノートに授業内容をまとめること。

【教科書】

吉田真一、他：疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 第14版 系統看護学講座 専門基礎分野（医学書院）

【参考書】

染方史郎（金子幸弘）：染方史郎の楽しく覚えず好きになる感じる細菌学×抗菌薬（じほう）
藤本秀士、他：わかる！身につく！病原体・感染・免疫　改訂第3版（南山堂）
医療情報科学研究所編：看護技術がみえる2 臨床看護技術（メディックメディア）
水口康雄、他：ナースのための微生物学　改訂6版（南山堂）

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

特になし。

【オフィスアワー】

特になし。

【教員連絡先】

学務課へ連絡をする。
学務課メールアドレス：u_gakumu@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・2コマまたは3コマ連続の講義となる。
・現在、臨床で必要とされている最新の知識やトピックスは教科書には記載されていないことが多いので、メモを取りながら授業を聴講し、復習できるよう努めること。

授業科目名	疾病治療論 I	担当教員名	聖マリアンナ医科大学教員			
コード	22NBA209	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
○	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
◎	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

疾病治療論Iでは、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患を中心に学習する。特に地域社会や各療養・治療機関で遭遇しやすい代表的疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査・診断を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに習得している形態機能学と結び付けて理解する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 疾病の診断に関する基本と方法および治療について記述できる。		○		○	
2 感覚器及び呼吸器系の疾患・病態・診断(検査)、治療について記述できる。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	≪疾病診断・治療≫ ・一般検査、免疫・血清検査など	右田　王介	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。
2	≪疾病診断・治療≫ ・負荷検査、生理機能検査など	右田　王介	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	≪感覚器系・耳鼻咽頭系の疾患の病態と診断・治療≫ a. 嗅覚・味覚障害 b. 聴覚障害(難聴、Ménière＜メニエール＞病)	岩武　桜子	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	≪感覚器系・耳鼻咽頭系の疾患の病態と診断・治療≫ c. 炎症性疾患(咽頭炎、扁桃炎) d. 腫瘍(舌癌、咽頭がん)	岩武　桜子	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	≪眼科系の疾患の病態と診断・治療①≫ e. 視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)	遠藤　誠子	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	≪眼科系の疾患の病態と診断・治療②≫ e. 視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)	遠藤　誠子	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	≪皮膚科系の疾患の病態と診断・治療①≫ f. 皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、熱傷)	門野　岳史	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	≪皮膚科系の疾患の病態と診断・治療②≫ f. 皮膚障害(湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎、熱傷)	門野　岳史	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療①≫ a. 炎症性疾患(気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎) b. 気管支喘息 c. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)	井上　健男	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療②≫ a. 炎症性疾患(気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎) b. 気管支喘息 c. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)	井上　健男	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療③≫ d. 肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症) e. 肺結核　f. 気胸　g. 腫瘍(肺癌、中皮腫)	井上　健男	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・内科的治療④≫ d. 肺循環障害(肺高血圧、肺塞栓症) e. 肺結核　f. 気胸　g. 腫瘍(肺癌、中皮腫)	井上　健男	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

13	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・外科的治療①≫ a. 気胸 b. 腫瘍(肺癌、中皮腫)	丸島　秀樹	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	≪呼吸器系の疾患の病態と診断・外科的治療②≫ a. 気胸 b. 腫瘍(肺癌、中皮腫)	丸島　秀樹	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	≪疾病診断・治療≫ ・画像診断	境野　晋二朗	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。

【成績の評価方法】

臨時試験:100％

【生成AI活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

系統看護学講座　成人看護学〔2〕〔12〕〔13〕〔14〕医学書院

【参考書】

特になし。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。

【オフィスアワー】

授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。

【教員連絡先】

連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。

【備考】

授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。

授業科目名	疾病治療論Ⅱ	担当教員名	聖マリアンナ医科大学教員			
コード	22NBA210	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
○	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
◎	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

疾病治療論Ⅱでは、中枢神経系・末梢神経系の疾患、骨・関節疾患、筋肉・神経筋接合部の疾患を中心に学習する。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 放射線治療、麻酔法、手術療法、リハビリテーションの基本について記述できる。		○		○	
2 栄養の摂取・消化吸収・代謝機能に関連した疾患の病態、診断、治療について記述できる。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	≪疾病診断・治療≫ ・放射線治療	境野　晋二朗	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。
2	≪上部消化管の疾患の病態と診断・内科的治療①≫ a. 炎症性疾患 (逆流性食道炎、急性胃炎、慢性胃炎、ヘリコバクターピロリ感染症) b. 潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍)	前畑　忠輝	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	≪下部消化管の疾患の病態と診断・内科的治療②≫ a. 炎症性疾患(潰瘍性大腸炎、Crohn＜クローン＞ 病) b. イレウス c. 排便障害(便秘、下痢)	前畑　忠輝	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	≪疾病診断・治療≫ リハビリテーション①	佐々木　伸行	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	≪疾病診断・治療≫ リハビリテーション②	佐々木　伸行	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	≪上部消化管の疾患の病態と診断・外科的治療①≫ a. 潰瘍性疾患(胃潰瘍、十二指腸潰瘍) b. 腫瘍(食道癌、胃癌)	塚本　芳嗣	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	≪下部消化管の疾患の病態と診断・外科的治療②≫ a. 炎症性疾患(虫垂炎、痔瘻) b. イレウス c. 腫瘍(大腸ポリープ、結腸癌、直腸癌)	塚本　芳嗣	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	≪肝臓・胆 ・膵臓の疾患の病態と診断・内科的治療①≫ a. 炎症性疾患(肝炎、胆管炎、膵炎)	立石　敬介	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	≪肝臓・胆 ・膵臓の疾患の病態と診断・内科的治療②≫ b. 脂肪肝、アルコール性肝炎、肝硬変	立石　敬介	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	≪肝臓・胆 ・膵臓の疾患の病態と診断・外科的治療①≫ a. 胆石症 b. 腫瘍(肝癌、胆嚢癌、胆管癌、膵癌)	土橋　篤仁	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	≪腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・外科的治療②≫ a. 鼠径ヘルニア　b. 腹膜炎　c. 横隔膜ヘルニア	土橋　篤仁	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	≪疾病診断・治療≫ ・麻酔法	佐藤　茉祐奈	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	≪疾病診断・治療≫ ・手術療法と生体侵襲 (1)開腹術	佐藤　茉祐奈	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

14	≪疾病診断・治療≫ ・手術療法と生体侵襲 (2)開胸術	丹羽　康則	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	≪疾病診断・治療≫ ・手術療法と生体侵襲 (3)開頭術	丹羽　康則	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。

【成績の評価方法】

定期試験:100％

【生成AI活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

系統看護学講座　成人看護学 〔5〕医学書院
系統看護学講座　成人看護学 〔15〕医学書院
系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院

【参考書】

特になし。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。

【オフィスアワー】

授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。

【教員連絡先】

連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。

【備考】

授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。

授業科目名	疾病治療論Ⅲ	担当教員名	聖マリアンナ医科大学教員			
コード	22NBA211	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】
疾病治療論Ⅲでは、内分泌系の疾患、代謝異常の疾患、体液の調節の疾患、血液・造血器の疾患、自己免疫疾患を中心に学習する。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 骨・関節疾患、神経筋接合部の疾患の病態、診断、治療について記述できる。		○		○	
2 血液系および免疫系の疾患の病態、診断、治療について記述できる。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	≪運動機能①≫ 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 a. 骨折、脱臼、捻挫 b. 骨粗鬆症	市川 翔太	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。
2	≪運動機能②≫ 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 c. 腫瘍(骨肉腫) d. 変形性関節症	市川 翔太	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	≪運動機能③≫ 骨・関節の疾患の病態と診断・治療 e. 腰痛症(椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症) f. 炎症性疾患(骨・骨髄炎、関節炎)	友近 顕	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	≪運動機能④≫ 神経障害の病態と診断・治療 g. 脊髄損傷 h. 末梢神経障害	友近 顕	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	≪血液機能①≫血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 a. 貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血)	富田 直人	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	≪血液機能②≫血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 a. 貧血(鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、二次性貧血)	富田 直人	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	≪血液機能③≫血液・造血器の疾患の病 態と診断・治療 b. 白血球減少症 c. 出血性疾患 血栓性血小板減少性紫斑病〈TTP〉 免疫性血小板減少性紫斑病〈ITP〉 播種性血管内凝固〈DIC〉	富田 直人	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	≪血液機能④≫血液・造血器の疾患の病 態と診断・治療 b. 白血球減少症 c. 出血性疾患 血栓性血小板減少性紫斑病〈TTP〉 免疫性血小板減少性紫斑病 〈ITP〉 播種性血管内凝固〈DIC〉	富田 直人	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	≪血液機能⑤≫血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 d. 腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)	富田 直人	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	≪血液機能⑥≫血液・造血器の疾患の病態と診断・治療 d. 腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)	富田 直人	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

11	≪免疫機能③≫アレルギー性疾患の病態と診断・治療 a. 花粉症（アレルギー性鼻炎） b. 蕁麻疹 c. 接触性皮膚炎	櫻井 恵一	予習（30分）：テキストの授業計画部分の予習。 復習（30分）：前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	≪免疫機能④≫アレルギー・免疫低下に関連する疾患の病態と診断・治療 a. アナフィラキシーショック b. 敗血症	櫻井 恵一	予習（30分）：テキストの授業計画部分の予習。 復習（30分）：前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	≪免疫機能①≫自己免疫疾患の病態と診断・治療 a. 全身性エリテマトーデス〈SLE〉	永渕 裕子	予習（30分）：テキストの授業計画部分の予習。 復習（30分）：前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	≪免疫機能②≫自己免疫疾患の病態と診断・治療 b. 関節リウマチ c. Sjögren〈シェーグレン〉症候群	永渕 裕子	予習（30分）：テキストの授業計画部分の予習。 復習（30分）：前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	≪免疫機能⑤≫免疫低下に関連する疾患の病態と診断・治療 c. ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症	永渕 裕子	予習（30分）：テキストの授業計画部分の予習。 復習（30分）：前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク		
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。

【成績の評価方法】

臨時試験：100％

【生成AI活用（ 無 ）】

【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

系統看護学講座 成人看護学 〔4〕〔10〕〔11〕医学書院

【参考書】

特になし。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。

【オフィスアワー】

授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。

【教員連絡先】

連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。

【備考】

授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。

授業科目名	疾病治療論Ⅳ	担当教員名	(聖マリアンナ医科大学教員) 高月病院 教員他			
コード	22NBA212	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】　170

疾病治療論Ⅳでは、感覚器系の疾患、腎・泌尿器系の疾患、生殖器系の疾患を中心に学習する。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 中枢神経系、末梢神経系および筋肉・神経筋接合部の疾患の病態、診断、治療について記述できる。		○		○	
2 精神疾患の病態、診断、治療について記述できる。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療①≫ a. 脳血管障害(脳内出血、くも膜下出血) b. 頭蓋内圧亢進症	深野　崇之 (聖マリアンナ医科大学)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。
2	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療①≫ c. てんかん ≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療②≫ d. 脳血管障害(脳梗塞、もやもや病)	清水　高広 (聖マリアンナ医科大学)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療③≫ e. 頭部外傷 f. 腫瘍(脳腫瘍)	清水　高広 (聖マリアンナ医科大学)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療④≫ g. 変性疾患〔パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症〈ALS〉、脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を含む)〕 h. 感染症(脳炎、髄膜炎)	辰野　健太郎 (聖マリアンナ医科大学)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	≪末梢神経系の疾患の病態と診断・治療①≫ a. Guillain-Barré〈ギラン・バレー〉症候群 ≪末梢神経系の疾患の病態と診断・治療②≫ b. 顔面神経麻痺(Bell〈ベル〉麻痺)　c. 自律神経失調	臼杵　乃理子 (聖マリアンナ医科大学)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	≪筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療≫ a. 筋ジストロフィ　b. 重症筋無力症	櫻井　謙三 (聖マリアンナ医科大学)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	≪中枢神経系の疾患の病態と診断・治療⑤≫ c. 脱髄疾患(多発性硬化症)	櫻井　謙三 (聖マリアンナ医科大学)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	・脳の仕組みと精神機能 ・検査、診断基準症状(妄想・幻覚、うつ状態、不安、思路の障害、意志の障害)	渡辺　岳海 (高月病院)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	・精神の構造、心理学的側面 (防衛機制、転移、アンビバレンス、エディプスコンプレックス) ・こころのバリアフリー宣言	渡辺　岳海 (高月病院)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	≪精神疾患の病態と診断・治療⑤≫ 器質性精神障害(てんかん)、物質関連障害および嗜癖性障害群	渡辺　恵美 (高月病院)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	≪精神疾患の病態と診断・治療⑥≫ 発達障害	渡辺　恵美 (高月病院)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	≪精神疾患の病態と診断・治療③≫ 神経性障害、ストレス関連障害	一條　慧 (高月病院)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
13	≪精神疾患の病態と診断・治療④≫ パーソナリティ障害、摂食障害、睡眠障害	一條　慧 (高月病院)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	≪精神疾患の病態と診断・治療①≫ 気分障害	南部　真紀子 (高月病院)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	≪精神疾患の病態と診断・治療②≫ 統合失調症	南部　真紀子 (高月病院)	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。

【成績の評価方法】

定期試験:100％

【生成AI活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

系統看護学講座　成人看護学〔7〕医学書院

【参考書】

特になし。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。

【オフィスアワー】

授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。

【教員連絡先】

連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。

【備考】

授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。

授業科目名	疾病治療論Ⅴ	担当教員名	聖マリアンナ医科大学教員			
コード	22NBA213	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

疾病治療論Ⅴでは、小児期における代表的疾患、生殖器系の疾患、周産期における産科系の疾患、精神系の代表的疾患を中心に学習する。更に、老年期の老いの特徴とフレイルの視点から代表的疾患について学ぶ。地域社会や各療養・治療期間で遭遇しやすい代表的疾患や学生自身の健康管理に重要な疾患について、その病態やそれぞれの疾患に準じた検査や検査結果の特徴を学び、病院などで実際に行われている治療とその根拠について、すでに修得している形態機能学と結び付けて理解する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 内分・代謝異常の疾患、循環器系、生殖器系、内分泌・代謝・腎系の疾患の病態・診断・治療について学ぶ。		○		○	
2 小児や老化に伴う高齢者特有の疾患、さらに周産期における病態・診断・治療について学ぶ。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	≪小児特有の疾患　病態と診断・治療 ①≫ 口唇・口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、ヘルニア、 胆道閉鎖症、腸重積症	北川　博昭	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。
2	≪小児特有の疾患　病態と診断・治療 ②≫ 先天性股関節脱臼、先天性筋性斜頸、骨折、ペルテス病、脊髄損傷	北川　博昭	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	≪小児特有の疾患　病態と診断・治療 ③≫ 遺伝子病概論(遺伝病、配偶子病、多因子遺伝病、胎芽病、胎児病) 先天性心疾患(VSD、ASD、ファロー四徴症)	清水　直樹	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	≪小児特有の疾患　病態と診断・治療 ⑥≫ 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、気管支炎、肺炎、髄膜炎、小児感染症、 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、アデノイド増殖症、口蓋扁桃肥大、 予防接種について	清水　直樹	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	≪小児特有の疾患　病態と診断・治療 ④≫ 白血病、脳腫瘍、神経芽腫	長江　千愛	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	≪小児特有の疾患　病態と診断・治療 ⑤≫ 二分脊椎、水頭症、てんかん(概論、West症候群)、脳性麻痺	長江　千愛	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	≪内分泌系の疾患の病態と診断・治療 ①≫ a. 間脳・下垂体疾患 b. 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺炎)	久保　ゆい	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	≪内分泌系の疾患の病態と診断・治療 ②≫ c. 副甲状腺＜上皮小体＞疾患 d. 副腎皮質・髄質疾患 e. 腫瘍(下垂体腫瘍、甲状腺癌)	久保　ゆい	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	≪代謝異常の疾患の病態と診断・治療 ①≫ a. メタボリックシンドローム、肥満症 b. 糖尿病	中村　祐太	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
10	≪代謝異常の疾患の病態と診断・治療 ②≫ c. 脂質異常症 d. 高尿酸血症、痛風 e. ビタミン欠乏症	中村　祐太	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
11	≪高齢者の加齢的身体変化と病態の特徴≫ 生理的老化、病的老化、老化学説、老年症候群	中川　禎介	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
12	≪栄養障害と運動機能障害の病態の診断と治療≫ a. 低栄養(PEM)、過栄養　b. 骨粗鬆症、骨折 c. サルコペニア d. 高齢者総合機能評価(CGA)	中川　禎介	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

13	≪体液調節の疾患の病態と診断・治療 ①≫ a. 水・電解質の異常(脱水、浮腫、低ナトリウム 血症、高カリウム血症)	菱田　吉明	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
14	≪体液調節の疾患の病態と診断・治療 ②≫ b. 酸塩基平衡の異常(アシドーシス、アルカローシス)	菱田　吉明	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
15	≪腎臓系・男性生殖器系の疾患の病態と 診断・治療　②≫ d. 腎・尿路結石　e. 腫瘍(腎癌、尿管癌、膀胱癌)　f. 前立腺(炎症、肥大、癌)	相田　紘一朗	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
16	≪認知症の診断と治療≫ a. アルツハイマー型認知症 b. レビー小体型認知症		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習をする。
17	≪認知症の診断と治療≫ c. 血管性認知症 d. 前頭側頭葉変性症		予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
18	≪心臓の疾患の病態と診断・治療　①≫ a. 虚血性心疾患(狭心症、急性冠症候群)	水越　慶	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
19	≪心臓の疾患の病態と診断・治療　②≫ b. 心筋症(肥大型心筋症、拡張型心筋症) c. 心不全(急性心不全、慢性心不全) d. 心タンポナーデ	水越　慶	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
20	≪心臓の疾患の病態と診断・治療　③≫ e. 不整脈(上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、徐脈性不整脈) f. 炎症性疾患(感染性心内膜炎、心筋炎、収縮性 心膜炎) g. 弁膜症(大動脈弁疾患、僧帽弁疾患)	水越　慶	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
21	≪血管系の疾患の病態と診断・治療≫ a. 大動脈瘤、大動脈解離　b. 閉塞性動脈硬化症 c. 挫滅症候群 d. 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症	古賀　将志	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
22	≪血圧異常の病態と診断・ 治療≫ a. 動脈硬化症 b. 本態性高血圧　c. 二次性高血圧　d. 起立性低血圧	古賀　将志	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
23	≪ショックの病態と診断・ 治療≫ a. 心原性ショック b. 出血性ショック c. 血流分布異常性ショック	水野　幸一	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
24	≪腎臓系の疾患の病態と 診断・治療　①≫ a. 腎炎、慢性腎臓病 b. 炎症性疾患(腎盂腎炎、膀胱炎) c. 腎不全	小波津　香織	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
25	≪女性生殖器疾患の病態と診断・治療①≫ 腫瘍:子宮体がん、子宮頚がん、卵巣がん	近藤　春裕	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
26	≪女性生殖器疾患の病態と診断・治療①≫ 腫瘍:子宮体がん、子宮頚がん、卵巣がん	近藤　春裕	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
27	≪女性生殖器疾患の病態と診断・治療②≫ 子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫	近藤　春裕	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
28	≪女性生殖器疾患の病態と診断・治療③≫ 乳腺炎、乳腺症、乳がん	黒田　貴子	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

29	≪周産期における疾患の病態と診断・治療①　妊娠期の異常≫ 切迫流早産、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、胎児機能不全	高江　正道	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
30	≪周産期における疾患の病態と診断・治療②　産科手術と産科救急≫ 帝王切開・無痛分娩と産科麻酔、周産期医療 ≪周産期における疾患の病態と診断・治療③　産褥期の異常≫ 子宮復古不全、産褥熱、マタニティーブルーズと産褥うつ	高江　正道	予習(30分):テキストの授業計画部分の予習。 復習(30分):前回授業の復習。 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業計画にある予習・復習を行い、その成果を授業のなかで確認する。

【成績の評価方法】

中間試験:50%
定期試験:50%
合計:100%

【生成AI活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　　無　　）】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

系統看護学講座　成人看護学 〔3〕〔6〕〔8〕〔9〕医学書院
系統看護学講座　母性看護学〔2〕母性看護学各論　医学書院
系統看護学講座　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論　医学書院

【参考書】

特になし。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

聖マリアンナ医科大学を中心に、医学専門分野における臨床学的研究活動ならびに教授活動の実績がある。

【オフィスアワー】

授業の前後において、質問等を受ける時間を設ける。

【教員連絡先】

連絡を必要とする要件がある場合、学務課に申し出ること。

【備考】

授業終了後に試験を実施する。試験日程は、試験1ヶ月前に公示する。

授業科目名	医療概論	担当教員名	上谷いつ子・三宅良彦・望月篤・松本伸行・黄世捷			
コード	22NBA214	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
○	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

医療を取り巻く変化は大きく、かつ多様化している。医療技術の高度化・複雑化に伴い、医療者自身の価値観による判断・行動が問われる課題は多い。この科目は、医療を学ぶイントロダクションとしての位置づけであり、講義を通して医学、医療、保健、福祉の基本理念を理解する。それぞれの歴史と現況、保健医療福祉システム、関わっている職種の役割・責務を学び、医療と付随する課題や医療の倫理的・社会的側面について考えを深める。また、将来医療に携わるものとしての自覚を持ち、学修する態度を身につけるために、医療の様々な側面を知り、患者の思いや立場に配慮しながら学ぶことの大切さを理解する。医療者としてどうあるべきかを考え、看護専門職者として対象を尊重する価値観・態度を養う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 医療の基本理念、歴史的背景について説明できる。	○			○	
2 社会における医療の現状および課題を理解し、課題を達成するために必要な専門職の役割について説明できる。	○			○	
3 医療の仕組みを理解し、今後のあるべき将来像および医療者としてのあり方について論じることができる。	○			○	
4 医療者としての対象を尊重する価値観、態度について論じることができる。	○			○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	科目ガイダンス (上谷) 医学と医療(三宅) 1. 医療とは 2. 医療人とは 3. 医学・医療の歴史 4. 保健・医療・介護を取り巻く社会環境の変化	上谷 三宅	【予習】(60分) ①テキスト第2章p41-58、第3章p60-63を読み、整理する。 【復習】(60分) 講義ノート、ワークブックを整理する。 ①「ヒポクラテスの誓い」を読み感想を整理する。 ②「主要死因別にみた死亡者数の年次推移」の図を読み、日本における傾向を整理する。 ③医療人のあり方について整理する。 ＊授業内容のリフレクションシートは、**毎回授業終了後**に**Google Formで配信**する。 ＊確認テストは**適宜**Google Formで配信する。
2	医の倫理 1. 倫理とは・生命倫理とは 2. 患者の権利 3. 研究倫理	望月	【予習】(60分):ワークブックに取り組む。 ①テキスト第4章p144-151を読み、整理する。 ②日本医師会のホームページからサイト内検索し、、世界医師会のジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言について調べ、整理する。 https://www.med.or.jp/doctor/international/wma/003453.html 【復習】(60分):講義ノート・ワークブックを整理する。 ①医療倫理の4原則について調べ、整理する。 ②パターナリズム、インフォームドコンセント、SDMについて整理する。 ③書面による同意(同意書)について整理する。
3	医療の現状と課題① 1. 医療者としてのプロフェッショナリズム 2. 最先端医療 3. 医療情報	望月	【予習】(60分):ワークブックに取り組む。 ①テキスト第4章p166-178を読み、整理する。 ②プロフェッショナル、プロフェッショナリズムについて調べ、整理する。 【復習】(90分):講義ノート・ワークブックを整理する。 ①生命倫理の対象となる代表的なテーマの1つである「脳死、臓器移植」について、現状と課題について整理する。 ②尊厳死と安楽死についての現状と課題を調べ、自身の考えを整理する。 ③医療情報の取り扱いについて医療者として遵守すべきことについて整理する。
4	医療の現状と課題④ 1. 患者と医療者との関係 2. 性的マイノリティと医療	黄	【予習】(60分):ワークブックに取り組む。 ①テキスト第4章p147-150を読み、整理する。 ②患者-医療者関係におけるパターナリズム、パートナーシップについて、復習しておく。 【復習】(90分):講義ノート・ワークブックを整理する。 ①「患者主体の医療」について、自分の考えを整理する。 ②性的マイノリティについて、厚生労働省、法務省、内閣府の各ホームページにアクセスし、国としての取組みについて調べ、整理する。また、自身の考えを整理する。 検索キーワード「性的マイノリティ」。
5	医療の現状と課題⑤ 1. 地域在宅医療の現状と課題 2. 終末期の意思決定:ACP	黄	【予習】(60分):ワークブックに取り組む。 ①テキスト第3章p132-142、第5章p199、第1章p33-40を読み、整理する。 ②地域包括ケアシステムについて復習しておく。 【復習】(90分):講義ノート・ワークブックを整理する。 ①人が住み慣れた地域で暮らすことの意味について考えを整理する。 ②厚生労働省ホームページにアクセスし、「人生会議ACP」について調べ、整理する。 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html

6	医療の現状と課題② 1. 社会保障制度 2. わが国の医療システム	松本	【予習】(60分):ワークブックに取り組む。 ①テキスト第3章p60-72、p101-110、第5章p195-201を読み、整理する。 ②テキスト第5章p195の図5-2、もしくは**厚生労働省のホームページにアクセスし、** 国民医療費の推移について最新データを調べ、整理する。 ＊検索キーワード「国民医療費・対国内総生産・ 対国民所得比率の年次推移 」 ③医療職の職種と資格について調べ、整理する。 【復習】(90分):講義ノート・ワークブックを整理する。 ①厚生労働省ホームページ、もしくはe-Gov法令検索で「医療法」を読み、どのような法で、 どのようなことが述べられているかを整理する。 ②退院支援の現状と課題について調べ、整理する。 ③厚生労働省のホームページにアクセスし「へき地医療」について調べ、整理する (https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_20900.html)。検索Keyword「へき地医療」
7	医療の現状と課題③ 1. 医療安全 2. 医薬品の有害事象 3. チーム医療と多職種連携協働	松本	【予習】(60分):ワークブックに取り組む。 ①テキスト第4章p151-166、第3章p122-127を読み、整理する。 ②厚生労働省のホームページにアクセスし、「チーム医療の推進に関する検討会」が取りまとめた 「チーム医療の推進について」(チーム医療の推進に関する検討会 報告書、平成22年3月19日、 厚生労働省)をダウンロードして、報告書の「1. 基本的な考え方」、「2. 看護職の役割の拡大」について 整理する。 https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_127348.html ➡ https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/s0319-9.html 【復習】(60分):講義ノート・ワークブックを整理する。 ①日常生活でインシデント、アクシデントにつながる可能性があるリスクを3つ以上あげ、 リスク回避の対策を考える ②日本における薬害の現状と課題について調べ、整理する 【事後課題】(90分) ①関心のあるテーマを2つ選び、理由についてワークブックに整理し、第8回の授業に備える。 ②第8回の事例をよく読み、課題に取り組む。(事例課題集は事前に配布予定)
8	医療における看護専門職者の役割 1. 医療に関連する概念の整理 2. 関心のあるテーマの言語化 :グループディスカッション 3. 事例から学ぶ看護職の役割 :個人ワークとペアシェア	上谷	予習(60分): ①関心のあるテーマを2つ選び、理由についてワークブックに整理し、授業で意見が言えるように備える。 ②事前課題の事例をに取り組み、ディスカッションに備える。 復習(60分): ①グループ討議について参加度、貢献度、協調性等について振り返る。 ②講義ノート・ワークブックを整理し、レポート課題の準備を行う。 【最終レポート課題】(180分) ①これまでの講義の中で興味・関心を抱いたテーマを1つ選び、現状と課題についてリサーチし、 自身の考えについてまとめる。 ②「医療者としてあるべき将来像」について自身の考えをまとめる。 ＊レポート様式、〆切等については講義中に提示する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		授業前の日本医師会HP https://www.med.or.jp/ 、 世界医師会HP https://www.wma.net/ 、 厚生労働省・法務省・内閣府のHPにアクセスし、事前課題に取り組み、授業に臨む。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは、授業内で行う。
毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Crass Roomで個別もしくは全体にフィードバックする。

【成績の評価方法】

レポート(60%)、ワークブックの取り組み等の提出物(40%)による総合評価
目標1・目標2・目標3 :授業後のレポート・各授業の学修ポートフォリオを評価する。
目標3・目標4 :最終レポート課題により評価する。

【レポート評価基準(ルーブリック)】
・評価項目:①課題に沿ったタイトルの設定、②テーマとして取り上げた理由、③問題の背景の記述、④論理的構成、⑤文献引用等による考察の深まり、
⑥文章の体裁・適切な表現(段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等)、の項目について評価する。
・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。
・盗用、剽窃行為は禁止、評価対象外とする。

【生成AI利活用(無)】

【 ルーブリック評価の活用(有)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

電子テキスト 康永秀生:系統看護学講座 基礎専門分野 医療概論 健康支援と社会保障制度1, 医学書院, 2023

【参考書】

小泉俊三, 平尾智広, 有吉浩美, 系統看護学講座 別巻 総合医療論, 2024
千代豪昭, 黒田研二編集, 学生のための医療概論, 第3版, 増補版, 医学書院, 2019
柳澤信夫著, 現代医学概論, 第2版, 医歯薬出版株式会社, 2020
厚生労働省編:厚生統計要覧, 厚生統計協会, 各年.
厚生労働統計協会編:国民衛生の動向 2022/2023, 一般財団法人 厚生労働統計協会

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

講師は医師と看護師であり、医療者としての臨床経験は豊富である。臨床での実践を踏まえ、医療全般の現状と課題について講義・演習を行う。

【オフィスアワー】

月・火・木 12-13時、16-18時 Gmailでの問合せ可能

【教員連絡先】

iuetani@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

医学・医療の歴史を知ることは、現状と問題点を理解する上で基礎となる学習である。
各種書籍やインターネットでの情報を活用して理解を深め、さらに、各種メディア、一般書で取り上げられる医学・医療に関する問題について常に関心を寄せ、
その内容について積極的にアプローチする姿勢を期待している。

授業科目名	保健医療福祉行政論	担当教員名	山本裕美、戸塚恵子			
コード	22NBA215	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

保健医療福祉行政論では，保健医療福祉行政の理念やしくみを学ぶ。国民の生活実態に即して、保健・医療だけでなく、社会保障・社会福祉の理念と制度を体系的に学修する。社会保障制度では、 医療保障、所得保障、公的扶助について学ぶ。社会福祉で は、介護保険制度をはじめ、障害者福祉など、病気や障害を持ちながら住み慣れた地域で生活するための法律や制度を学び、必要なサービスや社会資源を適切につなげら れるよう、知識を深める。特に地域包括ケアシステムにおける互助の重要性を学び、住民と共に健康づくりを行う看護職の役割について学修する。また、子どもを取り巻く環境の変化に伴い、子どもと子 どもを育てる家庭を支援するための福祉について学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 日本における社会保障の理念と目的、社会保障制度について説明できる。		○	○		
2 保健・医療・福祉に関する法や施策について説明できる。		○	○		
3 保健医療福祉制度の活用を支援するための看護師の役割について述べることができる。		○	○		
4 医療福祉に携わる多職種の役割と地域住民との協働のあり方について述べることができる。			○		
5 保健医療福祉を取り巻く現状と課題について説明ができる。		○	○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1 5/15	・オリエンテーション 社会保障制度と社会福祉(教科書:p1～26) 1)社会保障制度 2)社会福祉の法制度	山本	予習(60分):第1章「社会保障制度と社会福祉」を読んでおくこと。 日本の保健医療制度の身近な課題点を考えてくる。 復習(90分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。
2 5/15	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向(教科書:p28～50) 1)現代社会の変化 2)社会保障・社会福祉の動向 (グループワークで、わが国の人口変化その特徴、家族や個人のライフスタイルの変化をまとめ、社会保障や社会福祉にどのような影響があるのか話し合う)	山本	**予習(60分)::第2章「現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向」を読んでおくこと。** **復習(90分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。**
3 6/5	介護保障　(教科書:p83～110) 1)介護保険制度の創設の背景と介護保障の歴史 2)介護保険制度の概要 3)介護保険制度の課題と展望	山本	予習(60分):関連する項目を熟読しておくこと。第4章「介護保障」読んでおくこと。 復習(60分):講義内容の振り返り、ノート等にまとめておく。
4 6/5	所得保障 1)所得保障制度のしくみ (p112～114) 2)年金保険制度(p115～127上部) 3)社会手当 (p127～129上部) 4)労働保険制度(p129～136)	山本	予習(60分):教科書第5章「所得保障」を読んでおくこと。 復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。
5 6/19	公的扶助 (教科書:p138～155) 1)貧困・低所得者問題と公的扶助制度 2)生活保護制度のしくみ 3)低所得者対策 (グループワークで、P150～152事例①について看護職としてどのような支援が必要か、 どのような法令が関係しているのか話し合う)	山本	予習(120分):教科書第6章　公的扶助　p138～156　まで読んでおくこと。 復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。
6 6/19	高齢者に関する法や施策(教科書:p157～165上部、p70～76の上部) 1)高齢者福祉(第7章　高齢者福祉p157～165上部) 2)高齢者医療制度 (p70～76の上部) 3)地域包括ケアシステム(p43～45地域包括ケアシステムと互助) 4)八王子センター元気の活動ボランティアの紹介 (グループワークで、高齢者に対する医療保障制度をまとめ、医療費増大の背景に何があるのか話し合う)	山本 戸塚	予習(60分):教科書p157～165、p43～45　を読んでおくこと。 復習(90分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。
7 7/3 8 7/3	地域包括ケアシステム ＊地域包括ケアシステムとは何かを復習 1)高齢者の現状と対策 2)地域住民との協働(八王子センター元気の活動ボランティアメンバーへのインタビュー) (グループワークで高齢者の「生きがい」と「互助」がどのように関連しているのか話し合う)	山本 戸塚 八王子元気	予習(90分):八王子センター元気のボランティアの方々の自身の健康に対する思いなどインタビュー内容をまとめておくこと。 復習(90分):八王子センター元気の活動からの学びをノートにまとめる。
9 7/10	医療保障(教科書:p52～82)　　＊ゲストスピーカー健康保険組合連合会 1)医療保障制度の構造と体系 2)健康保険と国民健康保険 3)高齢者医療制度 4)保険診療のしくみ 5)国民医療費 医療保険制度の危機的な状況	山本 三宅*	予習 (60分) ：第3章「医療保障」を読んでおくこと。 復習 (90分) ：講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。
10 7/10		山本 三宅*	予習 (60分) ：第3章「医療保障」を読んでおくこと。 復習 (90分) ：講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。

11 7/11	・小テスト(1回目～10回目までの確認テスト) 障害者福祉(教科書:第7章　障害者福祉p165～187) 1)障害者の定義と実態 2)障害者福祉の理念 3)障害者福祉制度の変遷 4)新たな法体系 5)障害者福祉の関連施策 事例紹介:事例③(p186)	山本	**予習(90分):教科書第7章　障害者福祉p165～191　まで読んでおくこと。** **復習(120分)::講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。**
12 7/11	児童家庭福祉(教科書p193～203上部) 1)児童に関わる法と施策 2)少子化対策と子育て支援 (グループワークで、少子化対策としてどのような施策が必要か話し合う)	山本	予習(120分):教科書第7章　児童家庭福祉p193～206 復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。
13 7/17	児童家庭福祉(教科書p203～206) 1)児童虐待対策難病対策 (グループワークで、P208事例④について看護職としてどのような支援が必要か、どのような法令が関係しているのか話し合う) 難病対策と患者への支援 (グループワークで難病事例について看護職がどのような支援をしていたか、どのような法令が関係しているのか話し合う)	山本	**予習(60分):教科書第7章　児童家庭福祉　p205～206　まで読んでおくこと。** **事前に提示された難病事例を熟読し、事例の中で分からなかった法や制度を調べ、また事例中** **にどのような看護職の支援があったか等まとめておくこと** **復習(120分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。**
14 7/17	社会福祉の歴史(教科書:第9章社会福祉の歴史p256～276　) (グループワークで、日本の社会福祉の歴史やこれまで授業で触れた内容を踏まえて、今後どのような社会福祉制度が必要か話し合う)	山本	**予習(60分):教科書第9章　社会福祉の歴史　p256～276　読んでおくこと。** **復習(60分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。**
15 7/24	社会福祉実践と医療・看護 (グループワークで、P243～246事例⑤について看護職としてどのような支援が必要か、多職種とはどのような連携が必要か、関連する法令と制度とそのために抱える看護職の倫理上の課題を話し合う)	山本	予習(90分):教科書第8「章　社会福祉実践と医療・看護　p214～253まで読んでおくこと。 復習(120分):講義内容を振り返り、ノート等にまとめておく。課題レポートに取り組む 課題レポートを授業内で提示するので、期日までに提出すること。 時間外学修時間は60時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題や質問のフィードバックは、授業もしくは個別に行う。

【成績の評価方法】

課題レポート:20%(提出期限が過ぎた場合も受け取るが、減点対象となる)
小テスト:20%
定期試験:60%
合計:100%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　 有　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

医学書院　社会保障・社会福祉　健康支援と社会保障3
図説　国民衛生の動向2023/2024厚生労働統計協会

【参考書】

必要時授業内で紹介

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

山本裕美:精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神障害のかたへの支援などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。
戸塚恵子:社会福祉士・精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

山本裕美:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00
戸塚恵子:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00

【教員連絡先】

山本裕美:hiyamamoto@g.t-junshin.ac.jp
戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	保健医療福祉行政展開論	担当教員名	戸塚恵子・山本裕美			
コード	22NBA216	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
				○		
年次／期間	2年次／ 後期	単位／時間数／形態	1単位/15時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

保健医療福祉行政展開論では、保健医療福祉行政論を踏まえ、保健師として公衆衛生看護を実践するうえで必要な知識である保健医療福祉制度、行政のしくみ、行政と保健師活動等について理解を深める。個別支援については、高齢者支援等、生活支援をはじめ、介護保険サービス、ケアプランについて学びを深め、制度や社会資源を活用したケアマネジメントの実際について演習を通して学修する。また、保健医療福祉計画の策定、実施、評価など策定プロセスについて学修する。さらに、演習を通して、保健事業の企画・立案、実施、評価などのプロセスを体験し、保健師に求められている施策化能力の基礎を養う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 保健医療福祉行政について説明できる。				○	
2 地域保健行政における保健師活動の役割が理解できる。			○		
3 対象者に適した社会資源を選択し、ケアマネジメントの過程が説明できる。			○		
4 保健師活動における関係機関、多職種連携の意義が説明できる。				○	
5 保健医療福祉計画策定から評価に至るプロセスについて理解できる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 1)保健医療福祉行政について 2)行政における保健師の役割と活動 3)介護保険法・障害者総合支援法におけるサービスの活用	戸塚 山本	【予習】(90分): 教科書　第3章を熟読し、公衆衛生行政に関する主な法律をまとめておくこと。 【復習】(90分): 行政における保健師の役割と活動についてまとめておくこと。
2	介護保険制度・障害者総合支援法 ＜グループワーク＞ グループごとに国際福祉機器展見学の計画立案	戸塚 山本	【予習】(90分): 教科書　第5章C熟読し、まとめておくこと。 【復習】(90分): 授業内容の確認テストを実施すること。
3 4	国際福祉機器展見学 ＜フィールドワーク＞ グループごとに立案した計画に沿い国際福祉機器展見学	戸塚 山本	【予習】(90分): 国際福祉機器展の見学のための行動計画を立案しておくこと。 【復習】(90分): 国際福祉機器展を見学した学びをまとめておくこと。
5	国際福祉機器展から得た学びの共有と発表 ＜グループワーク＞ 国際福祉機器展の見学で得た学びをグループ内で共有し、発表準備を行う。	戸塚 山本	【予習】(60分): 国際福祉機器展を見学した学びから、事例のケアプランを作成しておくこと。 【復習】(120分): 意見交換をし、気が付いたこと、不足していたことをワークシートに追加しておくこと。
6	1)国際福祉機器展見学のまとめ ＜プレゼンテーション＞ 国際福祉機器展見学の発表と講評 2)介護保険制度とケアマネジメント ＜グループワーク＞ 高齢者(認知症)事例の初回訪問時における情報収集の視点の検討	戸塚 山本	【予習】(60分): 事例のケアプラン発表に向け、準備をしておくこと。 【復習】(90分): 意見交換をし、気が付いたこと、学びをまとめておくこと。
7	地域保健行政と保健師活動① 1)地域保健体系における都道府県と市町村の役割分担 2)関係機関・多職種との連携 ＜グループワーク＞ 高齢者(認知症)事例のケアプラン作成し、保健医療福祉サービスの活用方法、 関係機関・多職種との連携のあり方の検討	戸塚	【予習】(90分): 教科書　第4章を熟読し、都道府県型保健所・政令市保健所・市町村保健センターの役割や業務についてまとめておくこと。 【復習】(90分): 授業内容の確認テストを実施すること。
8	1)地域保健行政と保健師活動② ＜プレゼンテーション＞ 高齢者(認知症)事例のケアプラン発表と講評 2)保健医療福祉計画と評価 ・地方公共団体の保健医療福祉計画 ・保健計画の策定のプロセス・評価 3)まとめ	戸塚	【予習】(90分): 教科書 第6章を熟読し、保健計画策定プロセスについてまとめておくこと。 【復習】(180分): 授業全体の復習と課題レポートを行うこと。 ＊授業外学習時間は、30時間必要であるため、不足分は休日等を活用し復習すること。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

課題や質問のフィードバックは、授業もしくは個別に行う。

【成績の評価方法】

課題レポート：40％(レポート課題について、遅れて提出した場合も受け取るが5割の評価となる。)
定期試験：60％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

標準保健師講座別巻1　保健医療福祉行政論　医学書院

【参考書】

医学書院　社会保障・社会福祉　健康支援と社会保障3
図説　国民衛生の動向2024/2025厚生労働統計協会

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

戸塚恵子：社会福祉士・精神保健福祉士の資格や看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。
山本裕美：実務経験：精神保健福祉士の資格、看護師経験、母子、成人、高齢者、精神障害の方への支援などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

戸塚恵子：月～金（水を除く）昼休み12：10～13：00
山本裕美：月～金　昼休み12：10～13：00

【教員連絡先】

戸塚恵子：ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp
山本裕美：hiyamamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	公衆衛生学	担当教員名	吉田　稔			
コード	22NBA217	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
○	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

公衆衛生学では、健康の保持・増進を組織化された共同社会の中で社会努力によって、疾病の予防、寿命の延長そして身体的・精神的健康と能率の増進を目指す学問である。ここでは健康に関係する様々な要因を認識し、健康障害を予防するための一生を通した様々な保健活動や産業活動に起因する疾病予防について学ぶ。さらに健康は環境、病因そして宿主(ヒト)のバランスの下で成立している。とくに人間の生命維持に不可欠なものは内部環境(人体の恒常性)に加え、外部環境(自然的環境、人為的環境)の保持である。しかし、我々を取り巻く外部環境は近年、多様化を模様し、人々の疾病構造や健康問題にも大きく影響を与えている。健康を取り巻く要因について個人レベル・集団レベルで学び、疾病の予防の在り方についても総合的に考える。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 健康の概念やそれに関わる保健の概念を説明することができる。		○			
2 我が国の健康状況の実態と疫学的概念を説明できる。		○			
3 感染症の成立とその対策を説明できる。		○			
4 種々な保健とその活動の意義について説明できる。		○			
5 生活環境および住居環境に関する健康問題を説明できる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	「公衆衛生を学ぶにあたって 」 ・公衆衛生の定義と役割や健康の概念を理解する。とくに「健康」については、 グループワークを行いその結果を提出し、理解度を深める。	吉田	事前学習(15分):「健康とは何か」を考え、完結にまとめる。 事後学習(10分):講義とグループワークを踏まえて、「健康」を定義する。 復習(20分):授業内容を整理する。
2	「ヘルスプロモーションと公衆衛生の歴史」 ・ヘルスプロモーションの基本理念と目的、意義を理解する。 公衆衛生の歴史を学ぶ。ヘルスプロモーションについては、 関連するテーマについて、グループワークを行い、その内容を提出する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
3	「現代の健康問題」 ・健康日本21の目的を踏まえて、現代社会の生活基盤、 ライフスタイルと健康との関係について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
4	「疫学」 ・疫学の概念、疫学研究方法、疫学の効果指標を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
5	「感染症とその予防」 ・感染症の現状、主な感染症とその対応、感染症対策のシステム、 感染症患者の看護と保健活動について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
6	「母子保健」 ・母子保健の統計、地域母子保健対策の体系、主な母子保健施策について 理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
7	「学校保健」 ・学校保健の概要、目的、学校保健行政の内容(保健・安全・体育・給食)について 理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
8	「成人保健」 ・成人保健の意義と目的、健康問題の現状と課題、 制度とシステムについて理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
9	「高齢者保健」 ・高齢者保健の目的と地域保健の役割、高齢者を支えるシステム・制度について 理解する。高齢者特有の健康に関する問題や社会での問題について学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(5分):授業内容を整理する。
10	「地域保健とソーシャル・キャピタル」 ・地域の保健活動、地域住民に対する保健サービス、 その実現のための地域保健法を理解する。 また保健活動におけるソーシャル・キャピタルの意義について学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
11	「産業保健」 ・産業保健の目的と特徴、労働衛生関係法令の概要、職業性疾病と その予防対策について理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。

12	「食品保健」 ・食品保健の目的・制度について理解する。健康栄養、食品管理、 食中毒に関する課題について理解する	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
13	「環境保健」 ・地球環境の保全、我が国の公害問題、大気汚染に関する問題について 理解する。 そして環境保全に関する基本理念や施策を定めた環境基本法を学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
14	「生活環境と健康」 ・温熱要素と温熱指数、上水道と下水道、悪臭、 騒音に関する健康や生活環境に関わる課題を理解する。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。
15	「住居環境と健康」 ・室内空気の環境、シックハウス症候群・化学物質過敏症に関する 健康問題を理解する。 ごみ・廃棄物問題ついて学ぶ。	吉田	予習(20分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(25分):授業内容を整理する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

フィードバックとして小テストを実施し、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

＜評価基準＞
・「到達目標」に明示している1～5について行う定期試験を評価基準とします。
・講義後に行う小テストを評価基準とします。
・グループワークによる課題を評価基準とします。

＜割合＞
・定期試験50%、小テス40%、課題10%で総合評価します。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

系統看護学講座　専門基礎分野　公衆衛生学　医学書院

【参考書】

・公衆衛生がみえる2024-2025、メディックメディア

【オープンな教育リソース】

本講義では使用しません。

【担当教員の実務経験】

本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。

【オフィスアワー】

月曜日　15:00～16:30　事前に連絡をしてから訪問すること

【教員連絡先】

myosida@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

2024年11月11日

看護学部

2025(令和7)年度

授業科目名	健康教育学	担当教員名	山本裕美　戸塚恵子			
コード	22NBA218	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	1年次/後期	単位／時間数／形態	2単位/30時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】
この教科では、健康づくりのために重要な方法の一つである健康教育の方法と実際を学ぶ。健康教育学の対象者は，妊産婦から子ども，成人，高齢者まであらゆる人々が対象となり、健康教育を行う場面も学校、企業、地域など様々である。対象者のニーズに合わせた健康教育が実施できるよう，知識と技術を学修する。また、健康教育では対象者が健康問題に気づき、主体的に自己の健康課題の解決に取り組む態度や、行動する力を育むことができるような援助技術を学修する。具体的には，健康教育の概念，コミュニティ・オーガニゼーション，自主グループやネットワーキング，住民参加など地域力の向上を目指した健康教育の実施方法や媒体，企画・評価などについて、講義や演習を通して学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 健康教育の基本理念を述べることができる。		○			
2 健康行動に関する理論を述べることができる。		○			
3 あらゆる人々に応じた健康教育を述べることができる。			○		
4 あらゆる活動場面に応じた健康教育を述べることができる。			○		
5 健康教育の企画、指導案、評価の方法を述べることができる。		○			
6 対象や場の特徴をふまえた健康教育の企画をグループで行うことができる。			○		
7 健康教育の実演(発表)を実施することができる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス 健康教育の理念 健康 健康教育の考え 健康教育の目的、定義、理念 【講義】<グループワーク:講義を聞いて健康とはどういうことか話し合う>	山本	予習(60分)「個人の健康・集団の健康とは何か」を、考えノート等にまとめる。 復習(90分)授業の振り返りを行い要点をノート等にまとめる。
2	健康教育の基礎理論 ・KAPモデル、健康信念モデル、行動変容ステージモデル、自己効力感等 【講義】	山本	予習(60分)「どうしたら行動に移すことができるのか」を、3つ以上考えノート等にまとめる。 復習(90分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノート等にまとめる。
3	健康づくりにおける健康教育 ・保健・医療からの健康教育(健康増進、病気の予防、早期発見・早期治療、治療(悪化防止)、リハビリテーションと健康教育) ・健康づくりの考え方 ・健康づくりと国の動き 【講義】	山本	予習(60分)今まで学習してきた「健康づくり」関することを調べ、調べた内容をノート等にまとめる。 授業内で確認問題を行うため、2回目までの復習をしておく。 復習(90分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノート等にまとめる。
4	集団、個別の健康教育・健康相談 ・個別への健康教育・健康相談、集団への健康教育 ・コミュニティ・オーガニゼーション、自主グループ、ネットワーキングと健康教育 ・住民参加と健康教育　健康教育を行う対象と場 ・学校保健、産業保健、親と子ども、高齢期における健康教育 【講義】 <グループワーク:講義を聞いて健康とはどういうことか話し合う>	山本	予習(60分)小中高校生、母子、成人、高齢者の健康問題を新聞、教科書、統計資料等から調べ、ノート等にまとめる。 復習(90分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノート等にまとめる。
5	行動変容をうながすための健康教育 ・健康教育における心構え、マナー 【講義】 <グループワーク:講義を聞いて健康とはどういうことか話し合う>	山本	予習(60分)メディア、広報、掲示等身の回りにある健康教育の資料を集めてくる。 復習(90分)配布資料の整理と授業の振り返りを行い、要点をノート等にまとめる。
6	健康教育の企画書作成 【演習】	山本 戸塚	予習(60分)グループで健康教育を行うにあたり、テーマを考え参考となる資料を持参する。 復習(90分)グループで企画書作成を仕上げをする。
7	健康教育の企画書発表 プレゼンテーション	山本 戸塚	予習(60分)グループで企画書が発表できるように仕上げておく。 復習(90分)プレゼンテーション後の、指摘部分の見直しを行う。
8	企画書作成について 【講義】 健康教育の企画書作成 【演習】	山本 戸塚	予習(60分)構築した企画書を考え、グループ演習がスムーズに進むようノート等に要点をまとめる。、 復習(120分)グループで企画書作成の仕上げをする。
9	健康教育の指導案作成1 【演習】	山本 戸塚	予習(60分)指導案を考え、グループ演習がスムーズに進むようノート等に要点をまとめる。 復習(120分)グループで指導案作成を仕上げる。
10	健康教育の指導案作成2 【演習】	山本 戸塚	予習(60分)指導案を考え、グループ演習がスムーズに進むようノート等に要点をまとめる。 復習(120分)グループで指導案作成を仕上げる。
11	健康教育の指導案、媒体作成 【演習】	山本 戸塚	予習(60分)指導案・媒体を考え、グループ演習がスムーズに進むようノート等に要点をまとめる。 復習(120分)グループで指導案作成を仕上げる。
12	健康教育の媒体作成、発表の準備 【演習】	山本 戸塚	予習(60分)媒体を考え、グループ演習がスムーズに進むようノート等に要点をまとめる。 復習(120分)グループで媒体作成と発表準備をする。
13 14 15	健康教育の発表 【演習】 プレゼンテーション 教員からの講評	山本 戸塚	予習(240分)発表の練習 復習(240分)課題レポート「健康教育の演習からの気づきと学び」を800～1000字でまとめる。 ＊授業外学習時間は、60 時間必要であるため、不足分は休日等を活用し復習すること。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題や質問のフィードバックは、授業もしくは個別に行う。

【成績の評価方法】

課題レポート:20%(提出期限が過ぎた場合も受け取るが、減点対象となる)
健康教育の企画書30%、演習の貢献度10%、発表の評価10%
定期試験:40%
合計:100%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　 有　) 】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】
・最新保健学講座＜別巻1＞健康教育論　冨坂忠夫　メヂカルフレンド社　2013
・標準保健師講座2　公衆衛生看護技術　医学書院　2023
・実践行動変容のためのヘルスコミュニケーション　奥原剛　大修館書店　2021

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

山本裕美:精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神障害のかたへの支援などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。
戸塚恵子:社会福祉士・精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

山本裕美:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00
戸塚恵子:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00

【教員連絡先】

山本裕美:hiyamamoto@g.t-junshin.ac.jp
戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】
特になし

授業科目名	保健統計学Ⅰ	担当教員名	吉田　稔			
コード	22NBA219	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
○	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

統計学は集団に関する数量的研究方法を対象とする科学であり、集団の特徴を数値で把握し、活用する学問である。この集団の取り扱いの違いにより記述統計学と推測統計学(推計学)に分けられ、集団の特徴が健康に関連するものであるものが保健統計学である。看護の領域でも、根拠に基づく看護evidence-based nursing(EBN)が求められている。統計学はその根拠を導き出す手法であり、医療現場で得られたデータの性質の把握やデータ間の比較のために解析に用いられる。集団における健康事象に関するデータ収集や解析に関する基礎的知識としての統計学を身につけるとともに、統計解析正しく行うための基礎的な考え方についても学ぶ。さらに疾患の原因の探索や予防法の評価に疫学が用いられており、統計的手法は疫学を学ぶための基礎となる。□

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 統計学の基礎的な考え方を説明できる。		○			
2 基本統計量(平均、標準偏差など)の意味を理解し、計算方法と利用方法を説明できる。		○			
3 確率分布、検定と推定、回帰分析について説明できる。		○			
4 分析すべき問題に対し、適切な統計学的手法を用いて計算できる。		○			
5 論文に記載された統計処理の意味を理解できる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	統計学の基礎 ・母集団と標本、統計調査の種類を理解する。	吉田	予習(40分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
2	データの整理 ・度数分布とヒストグラム、中心的傾向を示す指標、 散らばりを示す指標を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
3	確率分布 ・正規分布、標準正規分布の応用、標本平均の分布、χ2分布、t分布、 F分布を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
4	区間推定 ・平均の区間推定、分散の区間推定を理解する	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
5	2群の平均値の比較-t検定- ・対応のない2群の差の検定と対応がある2群の差の検定を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
6	F分布検定-等分散検定- ・F分布を応用した等分散の検定と分散分析 (3群以上の平均値の一様性を検定)を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
7	独立性の検定-χ^2検定- ・2群の割合の差の検定、Yatesの補正、Fisher直接確率検定について理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
8	2つのデータの関わり合いを示す指標 ・ピアソン相関係数と回帰直線について理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

フィードバックとして小テストを実施し、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

＜評価基準＞
・「到達目標」に明示している1～5について行う定期試験を評価基準とします。
・講義後の課題を評価基準とします。

＜割合＞
・定期試験90%、課題10%で総合評価します。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】

授業中に電卓を使用するので電卓を持ってくること。

【教科書】

標準保健師講座　疫学・保健統計学　医学書院

【参考書】

加納克己・高橋秀人共著：基礎医学統計学　改定第7版、南江堂
石村貞夫、劉晨、石村友二郎共著：やさしく学ぶ統計学　Excelによる統計解析　東京図書

【オープンな教育リソース】

本講義では使用しません。

【担当教員の実務経験】

本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。

【オフィスアワー】

月曜日　15：00～16:30　事前に連絡をしてから訪問すること

【教員連絡先】

myosida@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	保健統計学Ⅱ	担当教員名	吉田　稔			
コード	22NBA220	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

統計は国民の健康状態の把握や健康に影響を及ぼす諸因子の解明などにも用いられ、我が国の保健衛生の向上に役立てられている。このような統計には人口静態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計、医療統計などの衛生関連統計も含まれる。得られた統計データは国や都道府県などの衛生行政施策の基礎となるほか、外国との比較にも活用されている。ここでは毎年発行される「国民衛生の動向」をもとに保健統計データから我が国の健康(衛生)状態の現状や健康づくり対策などについて学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 主な保健統計の概要を理解し、その目的を説明できる。		○			
2 人口静態・動態統計に関する統計調査より得られた統計指標から、健康の状況を説明できる。		○			
3 国民生活基礎調査、患者調査より得られた統計指標から、疾病の状況を説明できる。		○			
4 感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、医療経済統計など統計データから健康や疾病の課題を説明できる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	人口静態統計 ・日本の人口、年少人口と老年人口、労働人口、配偶者人口、将来推計人口の現状と動向を理解する。	吉田	予習(40分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
2	人口動態統計 ・出生、人口の増減、死亡、婚姻と離婚の現状と動向を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
3	主要死因の統計 ・我が国の悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎、外因死(不慮の事故・自殺)の現状と動向を理解する。 死因の国際比較によって我が国の健康課題を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
4	生命表 ・平均寿命と平均余命、健康寿命の現状と動向そして平均余命の計算方法を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
5	健康状態と受療状況 ・国民生活基礎調査による自覚症状、通院者、悩みストレスの状況や患者調査による推計患者数、受療率、平均在院日数の現状と動向を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
6	感染症発生動向調査および食中毒統計 ・我が国における5類感染症疾患のうち全数把握対象疾患と定期対象疾患感染者の現状と動向を理解する。 ・食中毒統計調査に基づく食中毒事件に関する原因、患者数・死者数などの現状と動向を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
7	国民健康・栄養調査 ・健康増進法に基づいて実施される国民生活基礎調査による身体状況、栄養摂取状況、生活習慣に関する現状と動向を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。
8	その他の統計調査－医療経済統計－ ・国民医療費に関わる統計、介護サービス施設・事業調査に関する統計を理解する。	吉田	予習(50分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理し、提出された課題を解く。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

フィードバックとして小テストを実施し、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

＜評価基準＞
・「到達目標」に明示している1～4について行う定期試験を評価基準とします。
・講義後の小テストを評価基準とします。

＜割合＞
・定期試験60％、小テスト40％で総合評価します。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

公衆衛生学の履修し、単位を修得していることが望ましい。

【教科書】

「厚生の指標・臨時増刊号－国民衛生の動向－」厚生統計協会（財）

【参考書】

・標準保健師講座　疫学・保健統計学　医学書院
・公衆衛生がみえる2024-2025、メディックメディア

【オープンな教育リソース】

本講義では使用しません。

【担当教員の実務経験】

本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。

【オフィスアワー】

月曜日　15:00～16:30　事前に連絡をしてから訪問すること

【教員連絡先】

myosida@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	疫学	担当教員名	吉田　稔			
コード	22NBA221	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

疫学とは人間集団を対象とし，その集団における健康に関連する状態や事象の分布や頻度を測定し，それに関わる要因を推測し，病気の予防・健康の増進に応用を研究する学問である。従来，疫学は急性感染症の流行を明らかにすること目的として発達した学問であったが，昨今は非感性性疾患および環境汚染に基づく健康障害，社会環境の変化に起因する疾患などの幅広い健康問題の原因解明に用いられるようになった。疫学を学習し，疫学的な考え方を身に付けることで，集団を対象とした健康や疾病に関する情報，とくに統計的な調査を正しく理解する力を養う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 疫学の概念や考え方を説明することができる。		○			
2 疫学研究法とそのバイアスについて説明できる。		○			
3 スクリーニングの目的と意義について説明できる。		○			
4 疫学手法を用いて発生原因の探究ができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	はじめに ・疫学の考え方と歴史上の疫学の業績について理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
2	疫学で用いられる指標−疾病頻度の指標 I− ・頻度の測定としての割合・率・比、罹患率、有病率、致命率、死亡率を理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
3	疫学で用いられる指標ー曝露効果の指標 II ー ・年齢調整死亡率(直接法、間接法、標準化死亡比)、相対頻度、PMIを学ぶ。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
4	疫学で用いられる指標−曝露効果の指標 III− ・相対危険、寄与危険の意味や相対危険、寄与危険の役割を理解する。 オッズ比を学ぶ。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
5	疫学的研究法−記述疫学− ・主な記述要因とその目的、仮説の設定方法について理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
6	疫学的研究法−分析疫学− ・生態学的研究、横断研究について理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
7	疫学的研究法−分析疫学− ・症例対照研究による分析、症例および対照の選定、 症例対照研究の長所・短所を理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
8	疫学的研究法−コホート研究− ・コホート研究による分析、コホート研究の長所・短所を学ぶ。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
9	疫学的研究法−介入研究− ・介入研究の特徴、無作為割付と盲検法、クロスオーバー法、効果判定、 地域介入研究を理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
10	疫学研究における誤差 ・偶然誤差と系統誤差、精度と妥当性を理解する。選択バイアス、情報バイアス、 交絡因子とその制御方法について理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
11	疫学における因果関係の立証 ・因果関係の判定について理解する。 アウトブレイク時の流行調査の基本 ・アウトブレイクの定義、流行曲線による発生パターンの把握について理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
12	スクリーニング ・スクリーニングの目的、検査の評価(感度と特異性)と評価における バイアスを理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
13	疫学の応用ー生活習慣の疫学ー ・生活習慣に起因する健康課題の頻度と分布、危険因子を理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。

14	疫学の応用-社会疫学と政策疫学- ・社会疫学における社会格差の指標と健康関連について理解する。 ・政策疫学におけるハイリスク・アプローチとポピュレーション・アプローチを理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。
15	疫学の応用-臨床疫学とEBN- ・臨床疫学と役割を理解する。 EBM/EBNの定義とプロセスを理解する。	吉田	予習(60分):教科書の該当部分を読み、整理しておく。 復習(120分):授業内容を整理する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

フィードバックとして小テストを実施し、解答の解説を行う。

【成績の評価方法】

＜評価基準＞
・「到達目標」に明示している1～4について行う定期試験を評価基準とします。
・講義後に行う小テストを評価基準とします。

＜割合＞
・定期試験60%、小テス40%で総合評価します。

【生成AI利活用(無)】

【 ルーブリック評価の活用(無)】

【履修申請上の条件】

保健統計学Ⅰの単位を修得していることが望ましい。

【教科書】

牧本清子他:標準保健師講座 疫学・保健統計学 医学書院

【参考書】

柳川 洋、坂田清美 編集:「疫学マニュアル」 南山堂
大木秀一 著:「基本からわかる 看護疫学入門」 医歯薬出版

【オープンな教育リソース】

本講義では使用しません。

【担当教員の実務経験】

本講義は実務経験を生かした授業内容ではありません。

【オフィスアワー】

月曜日 15:00～16:30 事前に連絡をしてから訪問すること

【教員連絡先】

myosida@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	看護学概論	担当教員名	安藤幸枝			
コード	22NPR301	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
○	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
◎	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本科目は、看護の基盤を学修するにあたり理解しておきたい看護の歴史や概念について学修する。フローレンス・ナイチンゲールの活躍を原点として、看護の歴史的変遷を概観し、看護が看護学として発展した経緯や先人の活躍を学修する。特に主要な看護理論家の看護概念を学び、看護の定義を理解する。更に、自らの日常生活を振り返り、看護の対象である人間が生活する意味を理解することを目指す。看護の捉え方を示し看護学の概念を構成している人間、健康、環境、看護および看護の機能と役割について学習し、看護学の基本を理解する。個々の課題の取り組みをもとにして、グループワークで見分を広げ、発表会やレポートを通して看護観を養う。本科目の履修により、看護への興味を増し、関心が深まることで学習への動機づけを図る。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護の歴史的変遷を説明できる。					○
2 看護の概念を説明できる。	○				
3 看護の専門性、看護の機能・役割を述べることができる。				○	
4 看護の本質を考察できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス:看護学、基礎看護学、科目概要、看護を学ぶ意義 看護の歴史的変遷①:歴史を学ぶ意義(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):シラバスを熟読し、授業概要を理解する。テキスト1. 序章、第4章Aを読み、 看護学を学ぶ動機と看護職のイメージや仕事内容をノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護を学ぶ意義と看護の歴史的変遷について 学んだ内容をノートにまとめる。Google formsにより学修の理解度を確認する。
2	看護の歴史的変遷②:看護職が活躍する場(プレゼンテーション)、 医療・福祉・介護施設	安藤	予習(90分):看護職が活躍する場について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
3	看護の対象①:人間の特徴、基本的欲求、人間と発達、人間と生活、 学習支援(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1. 第2章を読み、看護の対象である人間の身体的・精神的・社会的特徴を ノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護の対象について学んだ内容をノートにまとめる。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
4	看護の対象②:人間と生活(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):人間と生活について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
5	健康のとらえ方①:健康に影響を与えるもの、健康の定義、 健康・障害・生活との関連(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1. 第3章を読み、国民の健康状態と生活について、ノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、健康のとらえ方について学んだ内容をノートにまとめる。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
6	健康のとらえ方②:健康に影響を与えるもの(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):国民の健康について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
7	看護の提供者①:看護職の資格と養成制度、 教育課程の変遷(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1. 第4章BCDを読み、看護職の資格と養成制度をノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護の提供者について学んだ内容をノートにまとめる。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
8	看護の提供者②:看護の資格と教育(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):看護の資格と教育について、グループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
9	看護の専門性①:看護のマネジメント、チーム医療(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1. 第6章を読み、看護サービスとは何かについてノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
10	看護の専門性②:看護方式(プレゼンテーション)	安藤	予習(90分):看護方式についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習(90分):グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
11	看護における倫理①:倫理の原則、ICN看護師の倫理綱領、 日本看護協会の看護者の倫理綱領(課題解決型授業学修)	安藤	予習(90分):テキスト1. 第5章を読み、看護における倫理とは何かについてノートにまとめる。 復習(90分):講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。 Google formsにより学修の理解度を確認する。

12	看護における倫理②：倫理的事例（プレゼンテーション）	安藤	予習（90分）：倫理的事例についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習（90分）：グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
13	看護の理論①：看護の構成要素（課題解決型授業学修）	安藤	予習（90分）：テキスト1．第1章を読み、看護とは何かについてノートにまとめる。 復習（90分）：講義とグループワークを通して、看護について学んだ内容をノートにまとめる。 Google　formsにより学修の理解度を確認する。
14	看護の理論②：私たちが考える看護の構成要素（プレゼンテーション）	安藤	予習（90分）：看護の理論についてグループで取り組み、資料にして、プレゼンの準備をする。 復習（90分）：グループ毎の発表を通して、要点をノートにまとめる。
15	看護の国際化と看護：看護における国際化の視点、 国際社会における看護の対象、多様な文化と看護、 国際協力活動と看護 看護の役割と機能・課題：看護の将来ビジョン（グループワーク）、 まとめ　授業評価アンケート	安藤	予習（90分）：テキスト1．第7章を読み、看護の国際化の現状、看護専門職とは何か、 期待される看護者像をノートにまとめる。 復習（90分）：授業の第1回～第15回までの学びをノートにまとめる。 Google　formsにより学修の理解度を確認する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	・Google classroomを活用して、授業内容の指示をしたり、 Google　formsにより学修の理解度を確認する。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・課題・レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。
・レポート・レスポンスシートにコメントを入れて返却する。

【成績の評価方法】

7回のグループ課題35%、評価視点…課題内容・構成・情報の伝達・質疑応答・提出を3段階ABCで評価（5点×7回＝35点）
1回の個人レポート：65%、評価視点…課題内容・論理的思考・体裁・文章表現・提出を5段階ABCDEで評価（65点）
合計：100%
課題やレポートの取り組み内容が6割に満たない場合は、課題の再提出を課す。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

・特になし。

【教科書】

・①専門分野32　DT番号1　基礎看護学(1)　基礎看護学概論

【参考書】

1．フローレンス・ナイチンゲール著，小玉香津子，尾田葉子訳：看護覚え書きー本当の看護とそうでない看護，日本看護協会出版会．
2．ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯槇ます，小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版．

【オープンな教育リソース】

・特になし。

【担当教員の実務経験】

・看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護学概論について教授する。

【オフィスアワー】

＜月曜日～木曜日＞12:10～13時、必ずアポイントメントを取ってください。

【教員連絡先】

yando@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・本科目の単位修得が、2学年への進級要件となっている。

授業科目名	基本援助技術	担当教員名	岩淵正博　・原口真由美　・　安藤幸枝　・　髙山由利江　　他			
コード	22NPR302	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30 時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目は人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活援助に関わる基本的看護技術であり、科学的根拠を踏まえた修得をめざす。
技術項目は看護技術に共通しているコミュニケーション、感染予防技術、観察の技術、環境調整の技術、ボディメカニクスと安楽な体位の援助技術などである。特に、コミュニケーションや感染予防の技術は全て の援助技術に共通し、看護師として対象である患者の生活を支援する上で最も基本となる技術である。看護技術は、安全・安楽・自 立という看護の原理原則に則り、対象者の個別性をふまえて実施される。単に 技術を実施するのではなく、演習を通して対象者とのコミュニケーション、対象者の観察などを体験的に学び、技術の一般的な手技のみならずエビデンスをふまえた安全で安楽な技術の修得をめざす。授業ではワークシートや援助計画書等を使用し、援助前から計 画的に学修し振り返りができるようにする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	看護技術の概念を説明できる。		○			
2	看護の共通技術となるコミュニケーションに必要な知識と方法を説明できる。	○		○		
3	日常生活援助技術の基本となる対象者の安全、安楽を守る技術を実施できる。		○	○		
4	患者・看護者の役割体験から学んだ内容を述べることができる。	○		○		
5	自己の看護技術を振り返り、課題を述べることができる。		○	○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	ガイダンス:演習での学習方法と実習室の使い方を学ぶ (演習の進行、身だしなみ・実習室の使用方法、評価等) 1. 看護技術の概念　看護技術の基本原則と習得のプロセス 2. 対象理解のための観察 対象者の全体をみるとは 3. コミュニケーション① コミュニケーションに関する基礎知識 ＜講義＞コミュニケーションの意義と目的、構成要素、 関係構築のためのコミュニケーション	原口	予習(30分):シラバスを熟読する。 看護技術の概念、対象理解のための看護、コミュニケーション該当箇所の熟読 復習(30分):授業内容を振り返り、資料やノートを整理する
2	4. 感染防止の技術① ＜講義＞　スタンダードプリコーションと感染経路別予防策	原口	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する
3	4. 感染防止の技術②　(反転授業・課題解決型学習) 【演習】 患者・医療者双方を守る安全の技術(手洗い・PPE) 流水による手洗い、手指衛生、マスク・アイガード・エプロン・ 手袋の装着と脱着	原口 他	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
4	5. 環境調整技術　① ＜講義＞　療養生活の環境と援助の実際	高山	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する
5	3. コミュニケーション②　(反転授業・課題解決型学習) 【演習】 関係構築のためのコミュニケーション 5. 環境調整技術　②　(反転授業・課題解決型学習) 【演習】 療養生活の環境と援助の実際・環境整備	岩淵 他	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
6	5. 環境調整技術　③(反転授業・課題解決型学習) 【演習】 臥床患者のシーツ交換	高山 他	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む (事例にあわせた)援助計画書の立案 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークや援助計画書の整理をする 【課題】 演習に関するワークに取り組む 援助計画書の追記・修正
7	7. 苦痛の緩和・安楽確保の技術　① ＜講義＞　休息の援助に関する基礎知識(睡眠の援助　含む) 体位保持(ポジショニング) 罨法	岩淵	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する
8	7. 苦痛の緩和・安楽確保の技術　②　(反転授業・課題解決型学習)【演習】 ポジショニング・罨法 仰臥位　側臥位　半側臥位　ファーラー位 氷枕・氷嚢の作成	岩淵 他	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
9	6. 活動・休息援助技術　① ＜講義＞　基本的活動の基礎知識(ボディメカニクスとよい姿勢、体位) 運動機能の低下した人への援助に関する基礎知識 移動を援助する方法	岩淵	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、整理する
10 11	6. 活動・休息援助技術　②　(反転授業・課題解決型学習) 【演習】 ボディメカニクスを活用による体の動きの体感 【演習】 体位変換 左右への移動　仰臥位から側臥位　側臥位から仰臥位 仰臥位からファーラー位　仰臥位から長坐位　長坐位から端坐位　端坐位から立位　端坐位から仰臥位	岩淵 他	予習(30分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習(30分):授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む

12 13	6. 活動・休息援助技術 ④⑤　（反転授業・課題解決型学習） 【演習】 杖歩行・車いすの移乗と移送・ストレッチャー① 【演習】 杖歩行・車いすの移乗と移送・ストレッチャー②	岩淵 他	予習（30分）：指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、事前課題に取り組む 復習（30分）：授業内容を振り返り、ワークの整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む
14 15	【技術確認】 臥床患者のシーツ交換　　ルーブリックを基に実施 基本技術のまとめ	高山 他	**予習（60分）：技術確認は、事例をもとに、学生間で援助計画書を立案し、技術の練習をする。復習（30分）：授業内容を振り返り、整理する** **【課題・提出】** **演習に関するワークに取り組む** **援助計画書の追記・修正**

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	Webでの事前課題や確認課題の配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できるよう 工夫をする。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

事前課題は、講義や演習中使用し適宜フィードバックを行う。

【成績の評価方法】

定期試験：70％
技術確認：10％　　評価基準：ルーブリック評価に則る
事前又は事後課題:10%　　評価基準：期限までに提出され、全ての必要項目を満たした記述となっている。
参加態度:10%　　評価基準：授業及び演習中に使用するもの以外の物（飲食物・スマホ等）を机上に置いたり、操作しない。私語をしない。
合計：100％
【生成AI利活用（　無　）】
【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

・特になし。

【教科書】

・科目番号54　①-2　基礎看護学Ⅰ　基礎看護技術2. 2024年度　医学書院. 系統看護学講座テキスト
・科目番号54　①-3　基礎看護学Ⅱ　基礎看護技術3. 2024年度　医学書院. 系統看護学講座テキスト

【参考書】

・医療情報科学研究所編：看護がみえるVol.1 基礎看護技術, メディックメディア.

【オープンな教育リソース】

・特になし　必要時、クラスルームで事前に確認する動画コンテンツ等は紹介する

【担当教員の実務経験】

・看護師として臨床経験のある教員および、看護教育に従事した経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護の思考過程や援助技術の実践などについて教授する。

【オフィスアワー】

・事前にアポイントメントをとると、スムーズに対応できます。

【教員連絡先】

岩淵正博〈　　@g.t-junshin.ac.jp〉

【備考】

・「看護学概論」「基本援助技術」の単位修得が望ましい。
・「生活援助技術」の履修中が望ましい。
・実習オリエンテーションでは、事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。
・基礎看護技術実習の翌週には、評価面接と記録提出日を設けるため、出席すること。
・健康管理に十分留意して実習に臨むこと。

2024年11月11日

看護学部

2025(令和7)年度

授業科目名	生活援助技術	担当教員名	岩淵正博 ・ 高山由利江 ・ 原口真由美 ・ 安藤幸枝			
コード	22NPR303	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし，かけがえのない存在である人間を尊び，よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと，科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が，自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し，多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び，看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

この科目は，看護技術の中でも人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活援助に関わる基本的看護技術について体験的に学ぶ。また，技術の一般的な手順のみならず，科学的根拠を踏まえた技術の習得をめざす。具体的には，移動・移送，寝衣交換，部分浴，清拭，洗髪，排泄の援助，栄養と食事援助，罨法などである。対象の日常生活行動，特に，清潔(清拭，洗髪，部分浴)，食事・排泄援助について講義・演習・グループワークを通して学修する。日常生活行動における援助に必要な看護の基本的知識や考え方について講義で学び，援助技術は，手順を覚えるだけではなく，事例を通して対象の安全・安楽，心地よさやプライバシーへの配慮等を考慮した技術の方法を習得する。看護技術の習得方法として，動画などの教材を視聴し，技術の手順の根拠を考え明確にする。また,学生同士で患者役・看護師役をローテーションしながらグループ学習を行い，体験を振り返る。技術の統合では,前期に学修した基本援助技術(移動・移送，罨法)の活用,患者に合わせた援助となるよう看護技術の統合と応用の考え方を学ぶとともに,プレゼンテーションと意見交換を行い,気づきを課題につなげる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	日常生活援助技術を実施するために必要な知識と方法を説明することができる。		○			
2	日常生活援助技術を安全・安楽・自立に基づき実施することができる。			○		
3	看護師，患者の役割体験から学んだ内容を述べることができる。	○				
4	自己の看護技術を振り返り，課題を述べることができる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1 2	ガイダンス:本時の学習方法・進め方 (演習の進行，評価について) 1. 観察の技術　一般状態のアセスメント①　:バイタルサイン測定 【講義】 バイタルサインに関する基礎知識 (体温・脈拍・呼吸に関する基礎知識)	岩淵	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読し，提出課題に取り組む 復習(90分):授業内容振り返り，整理する
3 4	1. 観察の技術　一般状態のアセスメント②　:バイタルサイン測定 バイタルサインの測定・観察方法 【演習】バイタルサイン測定①　体温・脈拍・呼吸・血圧(触診法)	岩淵他	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り，整理。演習に関するワークに取り組む
5 6	1. 観察の技術　一般状態のアセスメント③　:バイタルサイン測定 バイタルサインの測定・観察方法 【演習】バイタルサイン測定　血圧(聴診法)	岩淵他	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り，整理。演習に関するワークに取り組む
7 8	2. 清潔にし，身だしなみを整える技術　① 【講義】 衣生活の援助に関する基礎知識／衣生活を整える方法 清潔援助に関する基礎知識 清潔を整える方法(入浴・シャワー浴・足浴・清拭)，　整容	岩淵	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り，整理する
9 10	2. 清潔にし，身だしなみを整える技術　② 【演習】寝衣交換，清潔援助技術	高山他	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り，整理。演習に関するワークに取り組む
11 12	2. 清潔にし，身だしなみを整える技術　③ 【演習】 足浴	高山他	予習(90分):指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習(90分):授業内容を振り返り，整理。演習に関するワークに取り組む
13 14 15	2. 清潔にし，身だしなみを整える技術　④ 【演習】 洗髪	高山他	予習(135分):指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習(135分):授業内容を振り返り，整理。演習に関するワークに取り組む

16 17 18	2. 清潔にし，身だしなみを整える技術 ⑤ 【演習】清拭	岩淵他	予習（135分）：指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習（135分）：授業内容を振り返り，整理。演習に関するワークに取り組む
19 20	【技術の統合】 事例に対して，必要な援助とその根拠を考え，援助計画を立案する。 援助：清潔に関する援助，移動・移送，罨法など 立案した援助計画をもとに患者に実施する。（グループワーク） 援助の実施場面の動画撮影 （29・30回目プレゼンテーションを行う）	岩淵他	予習（90分）：テキストを使用し課題に取り組む。援助計画書の作成 復習（90分）：援助の検討と援助計画書作成,技術練習、プレゼンテーションの準備
21	3.「食べる」ことと「排泄すること」の援助 ① 3－1）食事の援助（経口的栄養摂取）① 【講義】 食事・栄養状態に関する基礎知識 食事の援助方法，口腔ケア	岩淵	予習（45分）：指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載する 復習（45分）：授業内容を振り返り，整理する。
22 23	3.「食べる」ことと「排泄すること」の援助 ③ 3－1）食事の援助 【演習】 食事援助と口腔ケア	岩淵他	予習（90分）：指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習（90分）：授業内容を振り返り，整理する。演習に関するワークに取り組む
24	3.「食べる」ことと「排泄すること」の援助 ② 3－2）排泄の援助① 【講義】排泄に関する基礎知識 ／ 自然排泄を促す援助 ／ 床上排泄の援助方法 ／ オムツ交換 ／ 陰部洗浄	岩淵	予習（45分）：指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載する 復習（45分）：授業内容を振り返り，整理する。
25 26	3.「食べる」ことと「排泄すること」の援助 ④ 3－2）排泄の援助② 【演習】 便器・尿器を使用した排泄の援助 オムツ交換排泄の援助（便・尿器・オムツ交換）	岩淵他	予習（90分）：指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習（90分）：授業内容を振り返り，整理する。演習に関するワークに取り組む
27 28	3.「食べる」ことと「排泄すること」の援助 ⑤ 3－2）排泄の援助③ 2. 清潔にし，身だしなみを整える技術 ⑥ 【演習】 陰部洗浄	岩淵他	予習（90分）：指定したテキストの該当部分を熟読，Web教材の視聴をし，援助計画書を記載し提出する 復習（90分）：授業内容を振り返り，整理する。演習に関するワークに取り組む
29 30	生活援助技術まとめ① 【技術の統合 発表会】 事例に対する看護援助の内容，留意点や援助の工夫についてプレゼンテーションを行う プレゼンテーションおよび援助に対して，自己評価・他者評価を行う。 【インベントリ】 【授業評価アンケート】	岩淵他	予習（90分）：19・22・23回で取り組みのまとめ，プレゼンテーション準備と看護援助技術の練習,援助計画書の提出 復習（90分）：援助および援助内容の振り返り,整理

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ，各自が主体的に学修できる工夫をする。 事例に合わせて，援助を統合させて実施する視点を学ぶ。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義・演習時に適宜フィードバックする。

【成績の評価方法】

筆記試験70％
事例演習発表会20％（ルーブリック評価とし，授業内で評価内容・方法を説明する）
援助計画書の記載・提出 10％
合計100％
【生成AI利活用（　無　）】
【ルーブリック評価 （ 有 ） 】 評価視点は，授業内に配布する。

【履修申請上の条件】

・特になし

【教科書】

①専門分野32 DT番号3 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座テキスト

【参考書】

・医療情報科学研究所編：看護がみえるVol.1 基礎看護技術，メディックメディア.

【オープンな教育リソース】

・動画コンテンツを紹介することがある。

【担当教員の実務経験】

・看護師としての臨床経験のある教員が，実務経験を踏まえて看護技術のエビデンスや実践などについて教授する

【オフィスアワー】

事前にアポイントメントをとると，スムーズに対応できます。
・ メール受付時間　　：平日　9:00～18:00
・ メールタイトル（件名）　：①科目名「生活援助技術」 ②学籍番号　③氏名を記載する。
・ 宛名とメール内容　　：④宛名を記載し，⑤簡潔・明瞭に用件を記載する。
※課題の提出確認は，原則自己管理とする

【教員連絡先】

・髙山：ytakayama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・1年後期の基礎看護技術実習に向けて，本科目を履修しておくことが望ましい。
・演習における準備品は，授業内もしくはWeb上のグーグルクラスルームで伝達する。

看護学部

2025(令和7)年度

授業科目名	診療援助技術	担当教員名	原口真由美・安藤幸枝・岩淵正博・髙山由利江　他			
コード	22NPR304	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目では、看護を必要としている人々に的確な看護判断のもとで確実に実践できる、基礎的能力を身につける上で基盤となる看護技術力を養うものである。1年次に学修した生活援助技術を基本に、健康問題を持つ対象が外来や入院中に体験する検査や治療に伴う基礎的看護技術について、患者・看護者体験やモデルを活用しながら援助の必要性と援助方法について学ぶ。具体的には無菌操作などを含む感染予防、採血、注射法を含む検査や与薬、経管栄養、導尿などの技術について対象者の安全・安楽に配慮しながら科学的根拠を踏まえた技術の習得をめざす。また、看護技術の習得のみならず、医療事故の事例と危険を排除する考え方から、検査や治療に携わる看護者としての役割についても学びを深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 治療・検査を受ける対象の理解と看護の役割について述べることができる。		○			
2 検査・治療に関連する援助の方法とその根拠を説明でき、かつ主な援助技術を実施できる。		○			
3 身体的侵襲を伴う検査・治療に伴うリスクおよびリスク回避の方法について述べることができる。		○			
4 看護師、患者の役割体験から学んだ内容を表現できる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1・2	ガイダンス:本時の学習方法・進め方(演習の進行、評価について) ＜講義＞ 1. . 感染予防の技術 スタンダードプリコーション・無菌操作・洗浄・消毒・滅菌に関する基礎知識 感染性廃棄物の取り扱い ＜講義＞ 2. 検査に伴う看護技術(生体検査全般)Sp02モニター 治療・検査時の看護者の役割	原口	予習各(90分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取り組む 復習各(90分):授業内容を振り返り、整理する。 テキストリーディング1 (感染予防) 2 (診察・検査・処置) ＜※テキストリーディング:　下段の「教科書」参照＞
3・4	【演習①】感染予防と無菌操作 滅菌手袋の装着とガウンテクニック 滅菌物の取り扱い	原口 他	予習各(90分):演習に該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)
5・6	＜講義＞ 3. 食事援助技術 ① 非経口的栄養法/中心静脈栄養法 非経口栄養法で食事を摂取する対象への援助 経鼻チューブによる栄養摂取の援助技術 ＜講義＞ 4. 排泄援助技術 ① 排尿障害・排便障害に関する基礎的知識 排尿障害・排便障害に対する具体的な援助方法(浣腸・導尿)	原口	予習各(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 援助計画書の作成 テキストリーディング3.(食事) 4. (排泄) 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)
7・8	3. 食事援助技術 ② 【演習】 経管栄養の管理(反転授業、課題解決型学習) ・経鼻胃チューブ挿入の確認方法 ・経鼻胃チューブの固定 経管栄養中の姿勢、留意すること(注入速度含む)	原口 他	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 援助計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)
9・10	4. 排泄援助技術 ② 【演習】 ・一時的導尿(反転授業、課題解決型学習)	原口 他	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 援助計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)
11・12	4. 排泄することに関連した治療的な看護技術 ③ 【演習】 ・浣腸(反転授業、課題解決型学習)	原口 他	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 援助計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)
13・14	＜講義＞ 5. 与薬の技術 ① 薬物療法を受ける対象への基礎知識 (経口・経皮・点眼・吸入・注射) 薬物投与の具体的な援助方法／与薬の6R 薬効と副作用(有害事象)の観察	原口	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分) テキストリーディング　5-①. (与薬)　p.310-367
15・16	＜講義＞ 5. 与薬の技術 ② 〈輸血管理〉 ＜講義＞ 6. 症状・生体機能管理技術 検体検査:尿、便、痰、静脈血採血法	原口	予習各(90分):指定したテキストの該当部分を熟読し、提出課題に取りくむ。 復習各(90分):授業内容を振り返り、整理する テキストリーディング　5-②. (輸血) 6.(検査・検体検査)

17・18	5. 与薬 ③ a.注射法(皮下注射) 【演習】皮下注射の準備から患者へ実施(反転授業、課題解決型学習) 薬物の確認方法／注射器で薬液を吸う 腕モデルを使用した皮下注射 (部位の選定) 患者確認／実施	原口 他	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)
19・20	7. 呼吸を整える看護技術 ① ＜講義＞ 呼吸を整えるための基礎的知識 排痰法(体位ドレナージ、ハフィング、スクイージング、吸引) 酸素療法・酸素の取り扱い・酸素の残量計算・吸入療法	原口	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)
21・22	＊技術確認(グループでの取り組み) 与薬 ＜皮下注射＞ (6Rの確認、無菌操作を中心とした準備までの範囲)	原口 他	予習各(90分):与薬に関する単元の知識や技術を再確認する。提出課題に取り組み、技術確認の準備を行う。 復習各(90分):演習内容・技術の振り返り、理解できた技術や自己の課題を明確にしておく。 技術確認の詳細に関しては、別途「要項」を配布する。
23・24	7. 呼吸を整える看護技術 ② 【演習】 酸素療法(酸素ボンベ・マスク＆カヌラの取り扱い) 中央配管による酸素療法 一時的吸引〈口腔・鼻腔・気管内吸引 (反転授業、課題解決型学習)	原口 他	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む各(30分)
25・26	5. 与薬 ④ b.注射法(点滴) 【演習】 静脈内注射〈点滴の準備～管理まで〉 (反転授業、課題解決型学習) 薬物の確認方法／点滴準備 腕モデルを使用した部位 (静脈)の選定 患者確認／刺入／固定＆ラインの適切な取り扱い 滴下計算・滴下調整	原口 他	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む各(30分)
27・28	【演習】 5. 生体検査＜静脈血採血＞ (反転授業、課題解決型学習) 「技術確認」のまとめと振り返り および、診療の補助に関する技術の振り返りと習熟度の確認	原口 他	予習各(90分):演習の該当する部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む 実施計画書の作成 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む各(30分)
29・30	8. 創傷管理技術 ＜講義＞ 創傷管理・包帯法に関する基礎知識 褥瘡の予防と処置 【演習】 包帯法(巻軸包帯の取り扱い・環行帯・らせん帯) 診療の補助技術 まとめ	原口 他	予習各(90分):指定したテキストの該当部分を熟読、Web教材の視聴をし、 事前課題に取り組む テキストリーディング 創傷管理・包帯法 復習各(60分):授業内容を振り返り、整理する 【課題・提出】 演習に関するワークに取り組む(30分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できる工夫をする。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・事前課題、演習での振り返り内容、確認テストなどに関して、講義・演習時に、原則フィードバックを行う。
また、Google classroomに掲示も行う。

【成績の評価方法】

定期試験:70%
技術確認:10%　　評価基準:ルーブリックに則る。
事前・事後課題:10%　評価基準:期限までに提出し、必要項目が満たされた記述となっていること。
参加態度:10%　　評価基準:単元全てに参加(演習途中参加は見学のみ)。授業に使用するもの以外を机上に置いたり操作しない。私語をしない。
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用 :有＜技術確認＞ 】

【履修申請上の条件】
特になし

【教科書】
科目番号54　①-2　基礎看護学Ⅰ　基礎看護技術2. 2024年度　医学書院. 系統看護学講座テキスト【電子版】
科目番号54　①-3　基礎看護学Ⅱ　基礎看護技術3. 2024年度　医学書院. 系統看護学講座テキスト【電子版】

【参考書】

・医療情報科学研究所編:看護がみえるVol.2　臨床看護技術, メディックメディア.

【オープンな教育リソース】
看護roo! 動画でわかる看護技術　https://www.kango-roo.com/mv/
その他、動画コンテンツの紹介

【担当教員の実務経験】
看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護技術のエビデンスや実践などについて教授する。

【オフィスアワー】
月～木　12:10～13時、(必ずアポイントを取ってください)

【教員連絡先】

mharaguchi@g.t-junshin.ac.jp

【備考】
演習に備えて、必ず事前課題に取り組む。
前週の演習・学習内容について、課題をWeb上で実施する。
演習は、身支度を整え、手洗いを済ませた状態で開始する(昨年度と同様)

授業科目名	看護とコミュニケーション	担当教員名	安藤幸枝			
コード	22NPR305	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
○	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本科目は，コミュニケーション論や基本援助技術で学修した基本的知識に基づき，看護実践に必要なコミュニケーションの理論と方法について学ぶ。また，特に，対象－看護者関係に焦点を当て，信頼関係を構築するための基本的な内容を学び，さらに援助的コミュニケーションについて学修する。看護者が用いる質問の方法や誠実な対応，共感的理解に焦点を当て，沈黙の意味やコミュニケーションの時間帯などを学ぶ。看護者に求められるコミュニケーションは、相互作用であること、挨拶や身だしなみなどの基本的態度が求められること、コミュニケーションの成立から関係性の構築が必要であること、コミュニケーションに障害を持つ患者には様々な状態があり、それらの障がいに応じてコミュニケーションの対応の特徴があること、などを含めて一連の内容がコミュニケーションスキルに繋がることを学修する。ロールプレイングを実施し、その体験を逐語録にして、自分のコミュニケーションの過程を振り返り、よりよいコミュニケーションを考える。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	コミュニケーションの目的を想起できる。	○			○	
2	接近的コミュニケーションの原理を説明できる。	○		○		
3	効果的なコミュニケーションの技術を説明できる。			○	○	
4	コミュニケーション障害がある人への対応を考えることができる。			○		
5	ロールプレイングにより自己の特徴を述べることができる。	○		○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【ガイダンス】 1. コミュニケーションの目的の想起 1)看護や医療におけるコミュニケーションの目的・特徴 2)対人関係プロセスとしての看護 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):シラバスを熟読し、授業概要を理解する。テキスト第1章A.コミュニケーションの意義と目的、B.コミュニケーションの構成要素と成立過程を復習する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
2	1. 看護におけるケアリングとコミュニケーション 1)ケアリングの概念と今日的意味 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	**予習(90分):看護学概論第1章B.看護の役割と機能を熟読する。** **復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。**
3	1. 関係構築のためのコミュニケーション__① 1)接近的コミュニケーションの原理 2)接近的行動の前提となる基本的な態度 3)接近的行動と非接近的行動 4)接近的コミュニケーションの成立 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):テキスト第1章C.関係構築のためのコミュニケーションの基本を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
4	1. 関係構築のためのコミュニケーション__② 1)接近的コミュニケーションの原理 2)接近的行動の前提となる基本的な態度 3)接近的行動と非接近的行動 4)接近的コミュニケーションの成立 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	**予習(90分):テキスト第1章C.関係構築のためのコミュニケーションの基本を熟読する。** **復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。**
5	1. 効果的なコミュニケーションの実際__① 1)傾聴 2)情報収集 3)説明 4)アサーティブネス 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	予習(90分):テキスト第1章D.効果的なコミュニケーションの実際を熟読する。 復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
6	1. 効果的なコミュニケーションの実際__② 1)傾聴 2)情報収集 3)説明 4)アサーティブネス 2. ロールプレイング(ディスカッション、グループワーク)	安藤	**予習(90分):テキスト第1章D.効果的なコミュニケーションの実際を熟読する。** **復習(90分):ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。**

7	1. コミュニケーション障がいがある人への対応__① 1)コミュニケーションに障がいのある人の特徴 2)言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3)コミュニケーション障がいがある人への対応 2. ロールプレイング（ディスカッション、グループワーク）	安藤	予習（90分）：テキスト第1章E.コミュニケーション障がいへの対応を熟読する。 復習（90分）：ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。
8	1. コミュニケーション障がいがある人への対応__② 1)コミュニケーションに障がいのある人の特徴 2)言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3)コミュニケーション障がいがある人への対応 2. ロールプレイング（ディスカッション、グループワーク） 3. まとめ 授業評価アンケート	安藤	**予習（90分）：テキスト第1章E.コミュニケーション障がいへの対応を熟読する。** **復習（90分）：ロールプレイングを通して、気づきや要点をノートにまとめる。**

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		・Google classroomを活用して、授業内容の指示をしたり、 Google formsにより学修の理解度を確認する。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う。
・フィードバックとして、毎回の課題にコメントを入れて返却する。

【成績の評価方法】

課題レポートや毎回の課題とロールプレイングの取り組み：100％（提示された課題に取り組んでいない場合、減点対象となる。課題の取り組み内容が6割に満たない場合は、再提出を課す。）
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

・特になし。

【教科書】

・①専門分野32　DT番号1　基礎看護学(1)　看護学概論，医学書院　系統看護学講座テキスト
・②専門分野32　DT番号2　基礎看護学(2)　基礎看護技術Ⅰ，医学書院　系統看護学講座テキスト

【参考書】

・宮脇美保子編：新体系看護学全書　基礎看護学[1]　看護学概論，メヂカルフレンド社.
・松木光子編著：看護学概論，ヌーベルヒロカワ.

【オープンな教育リソース】

・特になし。

【担当教員の実務経験】

・看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護とコミュニケーションを教授する。

【オフィスアワー】

＜月曜日～木曜日＞12:10～13時、必ずアポイントメントを取ってください。

【教員連絡先】

yando@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・特になし。

授業科目名	看護展開論	担当教員名	原口真由美 ・ 安藤幸枝 ・ 新任教員・高山由利江			
コード	22NPR306	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目は、これまでの看護学概論、共通援助技術・生活援助技術、フィジカルアセスメントでの学修を統合し、形態機能学や疾病治療論の知識を加えて、看護を系統的に実践するための思考過程に沿った看護過程のツールを学修し、看護を展開する基礎を学ぶ。看護過程が、対象の健康の保持・増進、健康上の問題・課題を解決するための道筋を示し、科学的に看護実践を進めるための問題解決方法であることを理解する。 健康が障害された対象の個別的状態の身体的・精神的・社会的側面に応じた看護を実践できるようになることを目指している。看護過程を効果的・効率的に展開するための5つのステップであるアセスメント・問題の明確化・計画立案・実施・評価について学修する。紙上事例を通して、V.ヘンダーソンの考えに基づき、看護過程を展開する。更に、計画に基づき対象の安全・安楽・自立に配慮しながら実習室で援助を実施し、援助の評価を行うまでの過程を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	看護実践における看護過程の必要性を説明できる。	○				
2	看護過程の構造およびアセスメント、問題の明確化(看護診断)、計画立案、実施、評価のステップを説明できる。			○		
3	紙上事例を通して、ヘンダーソンの考えに基づく看護過程を展開できる。		○			
4	事例の個別性に合わせた看護計画に沿って、安全・安楽・自立の視点から援助を実施できる。		○	○		
5	看護過程の学修を通して、自己の課題を述べることができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【ガイダンス】 1. 授業目標:授業の展開方法、評価 2. 事前に提示した課題の提出:グループ担当教員による確認 3. 看護過程の意義、看護過程と問題解決法・クリティカルシンキング・ 看護理論の関係、(振り返り) 4. 事例の生活情報の共有(グループワーク):入院前に自身でできたこと、 入院後困っていること、予測される退院後の生活像 5. 事例の病態共有(グループワーク):疾患の原因、症状の発生機序、合併症 6. ヘンダーソンの看護論:看護の基本概念(振り返り)	原口	予習(90分):メジカルフレンド社の基礎看護技術Ⅰ第2章「看護過程の構成要素」を熟読し、 要点をまとめる。 ②ヘンダーソン「看護の基本となるもの」を復習し、概要をまとめる。 復習(90分):授業内容及び、グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
2	【アセスメント】 1. 情報の意味、情報の種類、情報収集の方法 2. 情報の整理、分析・解釈の意味、分析解釈の方法 3.「データベースシート」:患者の基本情報の記載 4.「1. 正常に呼吸する」:情報の整理、分析・解釈 5. まとめ、次回の課題	原口	予習(90分):【事前課題】①事前に提示した事例を熟読し、解剖生理、疾患の特徴や症状の機序、 薬の作用・副反応、発達課題、看護援助を具体的に調べてノートに 記載する。 復習(90分):授業内容及び、不足内容を調べて追記したり修正する。
3	【アセスメントー基本的欲求項目2. 3. 4】(グループワーク・プレゼンテーション): 1. 個人の事前課題の確認:アセスメント2. 3. 4の情報整理、分析・解釈 2. 基本的欲求の充足・未充足を判断するための根拠をグループで述べ、 意見の統合によりグループのアセスメントを資料へ記載する。 (課題解決型学修)	原口	予習(90分): 【事前課題】アセスメント2. 3. 4を記載する。 ・情報の整理、分析・解釈から、基本的欲求の充足・未充足を判断し、未充足の場合はその原因・誘因を 明らかにし、援助の方向性までを記載する。 復習(90分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
4	3. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、 意見を参考にする。 4. まとめ、次回の課題	原口	予習(90分): 【事前課題】アセスメント2. 3. 4を記載する。 ・情報の整理、分析・解釈から、基本的欲求の充足・未充足を判断し、未充足の場合はその原因・誘因を 明らかにし、援助の方向性までを記載する。 復習(90分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
5	【アセスメントー基本的欲求項目5. 6. 7. 8】 (グループワーク・プレゼンテーション): 1. 個人の事前課題の確認:アセスメント5. 6. 7. 8の情報整理、分析・解釈 2. 基本的欲求の充足・未充足を判断するための根拠をグループで述べ、 意見の統合によりグループのアセスメントを資料へ記載する。 (課題解決型学修)	原口	予習(90分): 【事前課題】アセスメント5. 6. 7. 8を記載する。 ・情報の整理、分析・解釈から、基本的欲求の充足・未充足を判断し、未充足の場合はその原因・誘因を 明らかにし、援助の方向性までを記載する。 復習(90分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
6	3. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、 意見を参考にする。 4. まとめ、次回の課題	原口	予習(90分): 【事前課題】アセスメント5. 6. 7. 8を記載する。 ・情報の整理、分析・解釈から、基本的欲求の充足・未充足を判断し、未充足の場合はその原因・誘因を 明らかにし、援助の方向性までを記載する。 復習(90分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
7	【アセスメント9. 10・11・12・13・14】(グループワーク・プレゼンテーション): 1. 個人の事前課題の確認:アセスメント. 9. 10・11・12・13・14の情報整理、 分析・解釈 2. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、 意見を参考にする。 (課題解決型学修)	原口	予習(90分): 【事前課題】アセスメント9・10・11・12・13・14を記載する。 ・情報の整理、分析・解釈から、基本的欲求の充足・未充足を判断し、未充足の場合はその原因・誘因を 明らかにし、援助の方向性までを記載する。 ・グループでの発表内容をアセスメント資料へ記載して準備する。 復習(90分):グループワーク及び授業内容を振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
8	【全体像;関連図】 1. 全体像を描く意味:健康課題の誘因・原因の因果関係を明らかにする。 2. 描き方のルール:常在条件・病理的状態・充足状態から看護課題を導き出す。 3. まとめ、次回の課題	原口	予習(90分): 【事前課題】全体像を記載する。 ・基本的欲求の未充足の原因・誘因を関連させて、看護上の問題までを記載する。 ・グループでの発表内容を全体像へ記載して準備する。 復習(90分):グループワーク及び授業内容を振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。

9	【全体像;関連図】(グループワーク・プレゼンテーション) 1. 個人の事前課題の確認:全体像 2. 病態、アセスメントを振り返り、グループの全体像を資料へ記載する。 (課題解決型学修)	原口	予習(90分): 【事前課題】全体像を記載する。 ・基本的欲求の未充足の原因・誘因を関連させて、看護上の問題までを記載する。 ・グループでの発表内容を全体像へ記載して準備する。 復習(90分):グループワーク及び授業内容を振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
10	【看護問題の明確化】(グループワーク・プレゼンテーション) 1. 全体像から基本的欲求の未充足状態を導き、看護課題を抽出し、 資料へ記載する。 2. 看護課題の優先順位の決定とその根拠を検討し、資料へ記載する。 3. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、 意見を参考にする。 【看護計画】 1. 看護計画立案のプロセス:優先順位の決定、看護目標の設定、 看護計画の立案、評価 2. まとめ、次回の課題	原口	予習(90分): 【事前課題】全体像を記載する。 ・基本的欲求の未充足の原因・誘因を関連させて、看護上の問題までを記載する。 ・グループでの発表内容を全体像へ記載して準備する。 復習(90分):グループワーク及び授業内容を振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
11	【看護計画】(グループワーク・プレゼンテーション) 1. 個人の事前課題の確認:看護計画 2. グループ内で最も優先度の高い看護問題を決定し、その根拠を明確にする。 (課題解決型学修)	原口	予習(90分): 【事前課題】個人の最も優先度の高い看護問題について、根拠を記載し、看護計画を立案する。 復習(90分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
12	3. 2. で決定した看護問題1つの看護目標・看護計画・評価日程を検討し、 資料へ記載する。 4. 担当グループが発表し、担当以外のグループより質問を受け、 意見を参考にする。 5. まとめ、次回の課題 【行動計画】 1. 本日の目標、行動計画の項目、援助の留意点や根拠・評価、 本日の目標の振り返り 2. まとめ、次回の課題	原口	予習(90分): 【事前課題】個人の最も優先度の高い看護問題について、根拠を記載し、看護計画を立案する。 復習(90分):グループワークを振り返り、不足内容を調べて追記したり修正する。
13	【行動計画】(グループワーク) 1. 個人の事前課題の確認:行動計画表 2. 行動計画の目標に到達できるよう、援助の目的・準備・手順・留意点などを 話し合う。(課題解決型学修) ・提供するケア:(例)バイタルサイン測定を含むフィジカルアセスメント、環境整備、 シーツ交換、寝衣交換、移動・移送、湯水を使用せずに足浴・上半身清拭　他 ・役割決定:患者役、看護師役2名、観察者・記録役	原口他	予習(90分): ・アセスメントした事例の状態から行動計画を立案する。 ・事例の看護過程を全体的に見直し、加筆・修正をする。 復習(90分): ・実施した援助の経過記録を見直す。 ・記録類の最終提出に向けて、演習事例の看護過程を全体的に見直す。
14	【援助の実施】(実習室へ移動しグループで実施)(グループワーク) 1. 援助の準備 2. 援助の実施 ・1グループ1ベッドを使用して、看護師役2名は患者役に援助を実施する。 ・観察者・記録役は、S情報・O情報を観察・記録する。 ・学生・教員からの意見や助言をフィードバックする。 【評価・計画修正】 1. 評価の意味・時期・進め方・実施者・記載 2. まとめ、次回の課題	原口他	予習(90分): ・立案した看護計画に沿って援助を実施し、看護目標の到達度を評価する。 ・事例の看護過程を全体的に見直し、加筆・修正をする。 復習(90分): ・実施した援助の経過記録を見直す。 ・記録類の最終提出に向けて、演習事例の看護過程を全体的に見直す。
15	【記録・報告、評価・計画修正】(グループワーク・プレゼンテーション) 1. 実施した援助の報告、看護計画の評価・修正 2. まとめ…動画事例を観察し、基本的欲求項目に沿って記載する。 3. 提出物 1)個人課題…演習事例の看護過程の展開 2)評価表…評価項目に沿った自己評価・自己課題の記載	原口	予習(90分): ・評価表に基づいて自己評価を行う。 ・全体を振り返り、基礎看護展開実習に向けた自己課題をまとめる。 復習(90分): ・最終提出に向けて、演習事例の看護過程を全体的に見直し、必要時、加筆・修正をする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	・各自が事前課題に取り組み、学習の準備をすることにより、 グループワーク内での意見交換を活発にする。 更に、グループ発表を通じて、学習効果を高める工夫をする。 ・Google classroomを活用して、課題の送受信や記載例の提示などを行うことがある。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

事前課題、演習での振り返り内容などに関して、講義・演習時にフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

個人課題:80%(毎回、演習開始時に事前課題の結果を提出し、確認を受ける。提示された課題に取り組んでいない・遅れた場合は、減点対象となる。)
グループワーク・グループ課題:20%(提示された課題に取り組んでいない場合、遅れた場合は、減点対象となる。)
合計:100%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　有　)】

【履修申請上の条件】

・基礎看護展開実習とリンクする演習である。

【教科書】

・①専門分野32　基礎看護学(2)　基礎看護技術Ⅰ

【参考書】

1. 看護診断ハンドブック第12版、リンダJ.カルペニート著　黒江百合子 訳, 医学書院
2.フローレンス・ナイチンゲール著, 小玉香津子, 尾田葉子訳:看護覚え書きー本当の看護とそうでない看護, 日本看護協会出版会
3. ヴァージニア・ヘンダーソン著, 湯槇ます, 小玉香津子訳:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版

【オープンな教育リソース】

・特になし。

【担当教員の実務経験】

・看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護展開論について教授する。

【オフィスアワー】

注意事項…事前にアポイントメントをとると、スムーズに対応できます。
・メール受付時間　　:平日　9:00-18:00
・メールタイトル(件名)　:①科目名「看護展開論」　②学籍番号　③氏名　を記載する。
・宛名とメール内容　:④宛名　を記載し、⑤簡潔・明瞭に要件を記載する。

【教員連絡先】

・原口真由美　＜mharaguchi@g.t-junshin.ac.jp＞

【備考】

・3学年への進級要件科目になっている。
・毎回の演習が連続し関連した内容であるため、個人学習した内容をグループメンバー全員で共通理解し、活発な意見交換を行い、学修を発展させていく。
　また、計画した援助について発表し、学生相互で援助を評価することにより、援助の多様性を理解する機会とし、各自が看護過程を展開できることを到達目標とする。

看護学部

2025(令和7)年度

授業科目名	フィジカルアセスメント	担当教員名	髙山由利江・安藤幸枝・岩淵正博・原口真由美			
コード	22NPR307	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目は、看護におけるヘルスアセスメントの意義や活用方法を学び、実践する。また個人を対象としたフィジカルアセスメントの具体的技法である、フィジカルイグザミネーション(視診・触診・打診・聴診)を用いて、生活者の視点から、客観的かつ正確にアセスメントするための知識・技術・態度を修得することを目的とする。形態機能学の知識を活かし、身体各部位のアセスメントとしての正常とは何か、また健康から逸脱した状態とは何かについて根拠をもとに明確に表現し、結果について評価ができるよう講義と演習を通して学修する。**具体的には、「腹部・消化器系」「胸部・呼吸器系」「循環器系」「脳・神経系」「筋・骨角器系」である。適時、事例を用いながら、講義、演習、グループワークを活用した授業を実施する。講義には、形態機能学の復習を行い、授業外学習に書かれた内容に取り組んだ上で出席する必要がある。演習は、学生同士で実施する演習と、シミュレーター等を用いた演習とがある。予め、演習内容を自主的に練習してくることが必要となる。**

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	看護におけるフィジカルアセスメントの意義を説明できる。					○
2	フィジカルアセスメントに必要な基本的知識・技術について説明できる。		○			
3	系統別のフィジカルアセスメントの方法と留意点について、看護者、対象者の両方の視点で説明できる。			○		
4	フィジカルイグザミネーションの基本技術を、正確かつ安全に実施し評価ができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	＜講義＞「ガイダンス:講義・演習の進め方、評価の説明」 ・看護におけるヘルスアセスメント、フィジカルイグザミネーションの基本技術、 ・面接・インタビュー	髙山	予習(30分):シラバスを熟読し、授業の概要を理解する。 テキスト:ヘルスアセスメント該当部分を熟読し、要点をまとめる。 復習(15分):テキスト・講義資料を再読し、疑問点や不明なところを明確にする。課題に取り組みむ。
2	＜講義＞ ・視診・触診・打診・聴診の方法と留意点	髙山	予習(30分)テキスト:視診・触診・打診・聴診ト該当部分を熟読し、要点をまとめる。 基本技術「触診・打診」の手技の練習やイメージをして疑問点を授業で質問できるように準備する。 復習(15分):視診・触診・打診・聴診の方法を復習する。講義資料を再読し、疑問点や不明なところを明確にする。課題に取り組みむ。
3	＜講義＞:「腹部・消化器系のフィジカルアセスメント」 ・消化器に関する確認テスト ・腹部・消化器系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント ・腹部・消化器系のフィジカルイグザミネーションの方法	髙山	予習(60分):テキスト:腹部の該当部分 を熟読し、腹部・消化器系のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。課題に取り組み持参する。疑問点を授業で質問できるように準備する。 復習(30分):腹部を4分割し、聴診、触診、打診の技術を復習する。正常な腸蠕動音について説明できるように学習をする。
4	【演習①】:　消化器系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 (反転授業、課題解決型学習) 腹部の4区分＜視診、聴診、打診、触診(浅い触診・深い触診)の実施＞	髙山他	
5	＜講義＞:「 胸部・呼吸器系のフィジカルアセスメント」 ・呼吸器に関する確認テスト ・呼吸器系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント ・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの方法	髙山	予習(60分):テキスト:呼吸器系箇該当部分を熟読し、呼吸器のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。課題に取り組み授業に持参する。疑問点を授業で質問できるように準備する。 復習(30分):呼吸音聴取部位の決定と聴診・打診技術の方法を説明できるよう学習する。 正常呼吸音及び異常な呼吸音について説明できるように学習をする。
6	【演習②】:　呼吸器系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 (反転授業、課題解決型学習) シミュレーターを用いた演習、学生同士での演習を実施する	髙山他	
7	＜講義＞:「循環系のフィジカルアセスメント」 ・循環器に関する確認テスト ・循環系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント ・循環系のフィジカルイグザミネーションの方法	髙山	予習(60分):テキスト:循環系の該当部分を熟読し、循環系のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。課題に取り組み授業に持参する。疑問点を授業で質問できるように準備する。 復習(30分):心音聴診部位の決定方法を説明し実践できるよう学習をする。心音聴取部位と正常な心音が聴診できるよう技術の復習をする。
8	【演習③】:　循環系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 (反転授業、課題解決型学習) シミュレーターを用いた演習、学生同士での演習を実施する	髙山他	
9	＜講義＞:「脳・神経系のフィジカルアセスメント」 ・脳神経に関する確認テスト ・脳・神経系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント 〈視覚、嗅覚、聴覚、味覚　各障害と生活への影響〉	髙山	予習(25分):テキスト:脳神経系の該当部分を熟読し、脳神経系のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。。疑問点を授業で質問できるように準備する。 復習(20分):テキスト・脳神経系の機能、意識障害のみかた(JCS,GCS)を覚える。
10	＜講義＞:「筋・骨格系のフィジカルアセスメント」 ・筋骨格系に関する小テスト ・筋・骨格系の特徴とフィジカルアセスメントのポイント ・筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションの方法	髙山	予習(60分):テキスト:筋骨格系の該当部分を熟読し、筋骨格系のフィジカルイグザミネーションの要点をまとめる。 復習(30分):テキスト・講義資料等の再読と、疑問点や不明なところの明確化、演習にむけたフィジカルイグザミネーションの振り返りをする。
11	【演習④】: 筋・骨格系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 ROM検査、MMT検査 : 脳・神経系に関するフィジカルイグザミネーションの実際 12脳神経の観察(、小脳検査 (反転授業、課題解決型学習) 学生同士での演習を実施する	髙山他	予習(25分):テキスト:筋骨格系、脳神経系のフィジカルイグザミネーションの知識の再確認と要点をまとめる。 復習(20分):技術の振り返りと、達成できたところ、疑問点や不明なところの明確化、「技術確認」にむけたフィジカルイグザミネーションの振り返りをする。

12	【技術確認①】 対象へのフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメント 問診・腹部・呼吸・循環・脳神経・筋骨格など 学生同士での演習を実施する	髙山他	予習(40分):テキスト:講義資料等の試読、系統別フィジカルイグザミネーションの要点と技術を復習する。 復習(50分):テキスト:講義資料等の試読、系統別フィジカルイグザミネーションの要点と技術を復習する。 対象への配慮についてまとめる。
13	【技術確認②】 対象へのフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメント 問診・腹部・呼吸・循環・脳神経・筋骨格など 学生同士での演習を実施する	髙山他	
14	【技術確認③】 対象へのフィジカルイグザミネーションの実施とアセスメント フィジカルアセスメント結果の判断と対象への説明、看護への活用 学生同士での演習を実施する	髙山他	予習(40分):テキスト:講義資料等の試読、系統別フィジカルイグザミネーションの要点と技術を復習する。 復習(50分):テキスト:講義資料等の試読、系統別フィジカルイグザミネーションの要点と技術を復習する。 対象への配慮についてまとめる。ワークを振り返り、情報を共有し理解したこと、疑問点や不明なところを再学習する。
15	【技術確認まとめ】 対象へのフィジカルイグザミネーションアセスメント結果の説明、 看護への応用 まとめ・発表	髙山他	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	Webでの事前課題配信や確認課題配信などを取り入れ、各自が主体的に学修できる工夫をする。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・事前課題、演習での振り返り内容、確認テストなどに関して、講義・演習時に、原則フィードバックを行う。
また、Google classroomに掲示も行う。

【成績の評価方法】

定期試験:60%
課題提出:20%
確認テスト:20%
合計:100%（定期試験、課題提出、確認テストの合計評価点の6割以下を再試験とする。）

【生成AI利活用（　無　）】
【 ルーブリック評価の活用 :（無）】

【履修申請上の条件】

・特になし

【教科書】

科目番号57　①-2　基礎看護学Ⅰ　基礎看護技術2.　医学書院. 系統看護学講座テキスト

【参考書】

・横山美樹著 :はじめてのフィジカルアセスメント,メヂカルフレンド社

【オープンな教育リソース】

・特になし

【担当教員の実務経験】

・看護師としての臨床経験のある教員が、実務経験を踏まえてフィジカルイグザミネーションの実際について教授する。

【オフィスアワー】

事前にアポイントメントをとると、スムーズに対応できます。
- メール受付時間　　:平日　9:00～18:00
- メールタイトル（件名）　:①科目名「フィジカルアセスメント」 ②学籍番号　を記載する。
- 宛名とメール内容　　:④宛名を記載し、⑤簡潔・明瞭に用件を記載する。

※課題の提出確認は、原則自己管理とする。

【教員連絡先】

・髙山:ytakayama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・毎回、聴診器(講義・演習)を持参すること。
・フィジカルイグザミネーションは、他者に触れること、触れられること、診ること、診られることが必要となるため、何らかの配慮が必要となる学生は、事前に教員に申し出ること。
必要時、Google　classroomを活用して授業の連絡等を行う。

授業科目名	暮らしの理解	担当教員名	川込あゆみ　神田千春			
コード	22NPR308	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

人々には様々な暮らしがある。「暮らし」には，日々を過ごしていくこと，生活の方法や様式、ライフスタイルという意味がある。この科目では，地域における人々の暮らしを理解するとともに，暮らしが健康に与える影響について学修する。人の一生には，「学ぶこと」，「働くこと」，「子どもを産み育てる」，「病気を治す」，「老いとともに生きる(定年後の生活)」，「障害をもちながら暮らす」等，様々な暮らしがあることを理解する。また，地域で暮らす人々は，「家族」，「仲間」，「近隣の人々」，「学校や職場」の中で支えあって生きていることを理解する。さらに，地域の生活環境(文化的環境・社会的環境・自然環境)が健康に及ぼす影響について学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 「暮らし」の意味を述べることができる。			○		
2 様々な人々の暮らしを述べることができる。	○		○		
3 生活環境が健康に及ぼす影響を述べることができる。			○		
4 人々が「学ぶこと」・「働くこと」の意味、「子どもを産み育てること」、「病を治すこと」、「定年後の暮らし」を述べることができる。	○		○		
5 地域で暮らす人々の「家族」、「仲間」、「近隣の人々」の暮らしを述べることができる。	○		○		
6 地域包括ケアシステムと地域包括支援センターの概要を説明することができる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1 2	授業オリエンテーション 【「暮らし」・「生活」の概念】 ①「暮らし」とは ②暮らしと健康の関係 ③「地域」の定義 ④暮らしと地域を関係づける考え方 【人々の暮らし】 生活習慣・生活環境が健康に与える影響についてディスカッションをする。 ・「食生活指針」(平成28年6月)に則り、自身の食生活を考える ・生活習慣(運動・睡眠・学習・趣味・買物等)と健康を考える ・生活環境(居住環境・家族等)と健康を考える ・経済面と生活を考える 発表会と全体討論を通して、「生活習慣や生活環境が健康に与える影響」について、自分の考えをまとめる。	川込あゆみ 神田千春	予習(15分): ①シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。 ②自らの食生活や生活習慣、生活環境の傾向と改善の必要性について考えておく。 復習(30分):課題①「生活習慣・生活環境が健康に与える影響」についてレポートをGoogleフォームに入力して提出する。
3 4	【人の一生の中の暮らしを考える】 ・学生の経験と予習のインタビュー内容を基に、「学ぶこと」・「働くこと」の意味についてディスカッションをする。 ①「学ぶ」意味を考える(小学校⇒中学校⇒高等学校⇒大学⇒生涯学習) ②「働く」意味を考える(アルバイト⇒看護師・一般企業等) 【人の一生の中の暮らしを考える】 ・発表会と全体討論を通して、「学ぶこと」・「働くこと」意味を考え、自分の考えをまとめる。	川込あゆみ 神田千春	予習(60分): ①「学ぶこと」、「働くこと」についてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「学ぶこと」、「働くこと」についてインタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 復習(30分): 課題②人の一生の中で、「学ぶこと」、「働くこと」ことの意味について自分の考えをまとめて、レポートをGoogleフォームに入力して提出する。
5 6	【人の一生の中の暮らしを考える】 ・予習のインタビュー内容を基に、「子どもを産み育てること」についてディスカッションをする。 【人の一生の中の暮らしを考える】 ・発表会と全体討論を通して、「子どもを産み育てること」を考え、自分の考えをまとめる。	川込あゆみ 神田千春	予習(60分): ①人の一生の中で、「子供を産み育てること」についてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「子供を産み育てること」についてインタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 復習(30分): 課題③人の一生の中で、「子供を産み育てること」について自分の考えをまとめる。
7 8	【人の一生の中の暮らしを考える】 ・予習のインタビュー内容を基に、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことについてディスカッションをする。 【人の一生の中の暮らしを考える】 ・発表会と全体討論を通して、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことを考え、自分の考えをまとめる	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ①人の一生の中で、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことについてインタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 復習(30分): 課題④人の一生の中で、「健康を害する」「病を治す」「病と付き合う」ことについて自分の考えをまとめる。
9 10	【人の一生の中の暮らしを考える】 ・予習のインタビュー内容を基に、「定年後の暮らし」についてディスカッションをする。 【人の一生の中の暮らしを考える】 ・発表会と全体討論を通して、「定年後の暮らし」を考え、自分の考えをまとめる。	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ①人の一生の中で、「定年後の暮らし」についてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「定年後の暮らし」についてインタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 復習(30分): 課題⑤人の一生の中で、「定年後の暮らし」について自分の考えをまとめる。

11 12	【地域における暮らしの理解】 ①地域の人々との暮らし ②予習のインタビュー内容を基に、「家族」「仲間」「近隣の人々」「学校や職場」の暮らしについてディスカッションをする。 【地域包括ケアシステム】 ①地域包括ケアシステムとは 【地域包括ケアシステム】(外部講師) ①地域包括支援センターとは ②地域で暮らす:八王子市加住・滝山・左入地区 ③地域包括支援センター加住の取り組み事例	川込あゆみ 神田千春	予習(60分): ①「家族」「仲間」「近隣の人々」「学校や職場」の暮らしについてイメージを持って参加する。 ②家族・親戚・友人・知人に「家族」「仲間」「近隣の人々」「学校や職場」の暮らしについて インタビューをして、その結果を『課題ノート』にまとめる。 ③厚生労働省ホームページの「地域包括ケアシステム」を熟読し、疑問点を課題ノートに記述する。 ④八王子左入地区についてホームページ等で調べる。 復習(30分): ①地域住民に対する地域包括支援センター加住の役割についてまとめる。
13 14	【障害をもちながら地域で暮らす】 ①障害の分類 ②障害者認定 ③障害者の生活と心理 【障害をもちながら地域で暮らす】 ①「地域生活」が意味するもの ②「地域生活」には何が必要か ③住まいの工夫 ④社会とのかかわり	川込あゆみ 神田千春	予習(60分): テキストの該当箇所を熟読し、わからないことをノートに記述する。 復習(30分): 課題⑥「障害をもちながら地域で暮らすこと」について自分の考えをまとめる。
15	【暮らしの理解】 ①人々の暮らしと健康について ②地域で暮らすことについて	川込あゆみ 神田千春	予習(30分):『課題ノート』に暮らしや健康に関する内容を追記する。 復習(60分):課題レポートに取り組む。 ○課題レポート 「暮らしと健康」について

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		ICTを活用して授業を実施 ・授業に関する教材・資料・ビデオの提供 ・学生・教員間のコミュニケーション
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義終了10分前に、講義内容の質問と意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは、次の講義の中で実施する。

【成績の評価方法】

課題:『課題ノート』30%
※課題ノートは第1回～第15回までの予習・復習に活用し、記述内容の具体性を評価基準とする。
課題①～⑥はそれぞれ5%、計30%
最終の課題レポートは40%
※課題レポートは「暮らしと健康」について、ルーブリック評価を基に評価する。
合計:100%

【生成AI利活用(無)】

【 ルーブリック評価の活用(有)】

【履修申請上の条件】

履修申請上の条件はなし

【教科書】

地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第6版, 医学書院, 2024.
地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第6版, 医学書院, 2024.

【参考書】

・基礎からわかる 地域・在宅看護論 照林社 2021年
・五十嵐隆:はじめてママ&パパの育児―0～3才赤ちゃんとの暮らし 気がかりがスッキリ 主婦の友社 2014
・戸塚洋二:がんと闘った科学者の記録 文春文庫 2009
・Bricolage(ブリコラージュ)2021夏号【273号】地域でつなぐ 2021
・岩名礼介 新版 地域包括ケア サクセスガイド:「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現する メディカ出版 2020
・秋山正子:「暮らしの保健室」ガイドブック「相談/学び/安心/交流/連携/育成」の場 日本看護協会出版会 2021
・リンダ・グラットン:LIFE SHIFT(ライフ・シフト)―100年時代の人生戦略 東洋経済新聞社 2016
・長谷川和夫:僕はやっと認知症のことがわかった 自らも認知症になった専門医が日本人に伝えたい遺言 KADOKAWA 2019年

【オープンな教育リソース】

記載事項なし。

【担当教員の実務経験】

川込あゆみ:臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。

【オフィスアワー】

川込あゆみ:火～金12:10～13:00

【教員連絡先】

川込あゆみ:akawagome@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	地域・在宅看護学概論	担当教員名	川込あゆみ　神田千春			
コード	22NPR309	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

地域・在宅看護学は，人々が地域において，自分なりの健康で，自分の望む暮らしを送ることができる。また病気になっても住み慣れた地域で暮らすことができ，その人の人生の最終段階にあたっては，自分の望む最期を，自分が望む場所で遂げることができるという，対象者や家族の望みや願いの実現を支える看護を考える学問である。講義では，地域・在宅看護が必要とされる社会背景や法・制度，社会資源，在宅療養者とその家族の特徴，在宅で行われている看護について学修する。さらに，在宅療養移行における継続看護，多職種連携を理解し，地域包括ケアシステムの一員としての看護職の役割について学修する。さらに，地域・在宅看護の特性や多様性を踏まえた地域・在宅看護過程の展開方法について学修する。□

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 地域・在宅看護の変遷とその社会背景について述べることができる。		○	○		
2 地域・在宅看護の目的、倫理と基本理念について述べることができる。		○	○		
3 地域・在宅看護の特徴、対象者、活動の場と看護活動の実際について述べることができる。			○	○	
4 地域・在宅看護を支える法・制度と社会資源について述べることができる。			○	○	
5 地域包括ケアシステムにおける地域・在宅看護の特徴と看護職の役割について述べることができる。			○	○	
6 地域・在宅看護過程の特徴を理解し、ICFの概念に則った情報の整理を行い、アセスメントが記述できる。			○	○	
7 在宅という環境において、地域・在宅看護の対象者の「生きること」を支える看護について説明できる。			○	○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	授業オリエンテーション 【人々の暮らしと地域・在宅看護・暮らしの基盤としての地域の理解】 ①人々の暮らしと地域の理解 ②地域・在宅看護の背景 ③暮らしと地域を理解するための考え方	川込あゆみ	予習(90分):地域・在宅看護の基盤(地域・在宅看護論1)第1・2章p.2～55を精読して、授業のイメージを持って参加する。 復習(90分):地域療養を支える地域・在宅看護の役割・機能、暮らしと健康・地域の関係について考えをまとめて提出する。
2	【在宅療養者と家族の支援】 ①地域・在宅看護の対象者と特徴 ②在宅看護の対象者と在宅療養成立条件 ③在宅療養者の場における家族のとらえ方	川込あゆみ	予習(90分):地域・在宅看護の対象者の該当箇所、地域・在宅看護の基盤(地域・在宅看護論Ⅰ)第2章p.57～101を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(90分):地域・在宅看護の対象者と家族について考えをまとめて提出する。
3	認知症の人とその家族に対する相談の実際 (外部講師　認知症の人と家族の会) 【講義】 ①家族の理解 ②家族の介護ストレスと介護肯定感 ③地域における家族への看護	川込あゆみ	予習(90分):地域・在宅看護の対象者(家族)の該当箇所p104～142を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(90分):家族介護に対する理解や介護肯定感を高める看護について考えをまとめて提出する。
4	【地域・在宅看護実践の場と連携】 ①地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	川込あゆみ	予習(90分):地域・在宅看護実践の場と連携の該当箇所p144～165を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(90分):地域・在宅看護の実践の場で看護師と連携して働く医療福祉専門職の役割について考えをまとめて提出する。
5	【療養の場の移行に伴う看護(退院支援)】 ①退院支援・退院調整、退院前カンファレンス ②退院後の療養生活アセスメントの着目ポイント ③地域・在宅看護におけるケースマネジメント／ケアマネジメント	神田千春	予習(90分):地域医療を支える制度の該当箇所p104・154・197～200を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(90分):地域・在宅における多種職連携の必要性とケアチームにおけるケアマネジメントの意義、ケアプランの作成について考えをまとめて提出する。
6	退院支援看護師の役割 (外部講師　退院支援室看護師) 【講義】 ①入院前支援 ②入退院支援のプロセス(クリニカルパス) ③退院調整と退院支援 ④在宅療養生活への移行における包括的支援	川込あゆみ	予習(90分):地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の該当箇所p232～239・360～372を精読して、要約をノートに記述する。 復習(90分):継続的な医療および看護の提供と退院支援、看護師の役割について考えをまとめて提出する。
7	【地域在宅看護に関係する社会保障制度】 ①医療保険制度 ②後期高齢者医療制度と高齢者施策 ③高齢者虐待防止法 ④障害者に関する法律 ⑤難病法 ⑥権利擁護と成年後見制度	川込あゆみ	予習(90分):地域医療を支える制度の該当箇所p175～182・204～210を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(90分):社会保障制度に関する問題を解き、誤ったところをノートにまとめる。
8	【地域在宅看護に関係する社会保障制度】 ①介護保険制度(地域包括支援センターの目的・業務の内容) ②訪問看護の制度	川込あゆみ	予習(90分):地域医療を支える制度(介護保険制度・訪問看護制度とサービス提供の仕組み)の該当箇所p168～175・183～196を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(90分):介護保険制度と訪問看護の制度に関する問題を解き、誤ったところをノートにまとめる。
9	【在宅療養を支える看護】 ①訪問看護の特徴 ②在宅ケアを支える訪問看護ステーション ③訪問看護における連携・協働の実際	川込あゆみ	予習(90分):訪問看護の特徴の該当箇所を読み、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(90分):訪問看護と訪問看護ステーションの特徴についてまとめる。

10	【在宅療養を支える看護】 ①訪問看護サービスの展開と在宅看護過程 ②ICFの概念 ③自分の生活の情報整理	川込あゆみ 神田千春	予習(90分):地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の該当箇所p12～48を読み、 要約や疑問点をノートに記述する。 復習(90分):ICF(国際生活機能分類)の理解と活用のICFの概念と構成要素についてまとめる。
11	地域・在宅看護過程の展開(1) ①事例の視聴 ②地域・在宅看護過程の展開方法～情報収集と情報の整理～	川込あゆみ 神田千春	予習(60分):ICF(国際生活機能分類)の理解と活用のICFの概念と構成要素を再読し、 疑問点をノートに記述する。 復習(120分):事例を熟読し、ICFの分類に則って情報を整理する。
12	地域・在宅看護過程の展開(2) ①地域・在宅看護過程の展開方法～情報の整理:全体像	川込あゆみ 神田千春	予習(60分):事例を熟読し、ICFの分類に則って情報を整理し、全体像を考える。 復習(120分):記録用紙(全体像)に必要事項を記述する
13	地域・在宅看護過程の展開(3) ①地域・在宅看護過程の展開方法～アセスメントと看護問題の抽出・多職種連携	川込あゆみ 神田千春	予習(60分):情報と全体像からアセスメントの内容をメモする。 復習(120分):記録用紙(アセスメント・多職種連携)に必要事項を記述する。
14	地域・在宅看護過程の展開(4) ①地域・在宅看護過程の展開方法～看護問題の抽出、長期・短期目標～	川込あゆみ 神田千春	予習(60分):看護問題の優先順位を考える。 復習(120分):療養者・家族の看護問題と、長期・短期目標を整理する。
15	地域・在宅看護過程の展開(5) ①地域・在宅看護過程の展開方法～看護計画OP/TP/EP	川込あゆみ 神田千春	予習(60分):看護計画を立案する。 復習(120分):必要な看護計画を記述する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		ICTを活用して授業を実施 ・授業に関する教材・資料・ビデオの提供 ・学生・教員間のコミュニケーション
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義内容の質問や意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは、次の講義の中で実施する。

【成績の評価方法】

課題　　:在宅看護過程の展開　20%
定期試験:80%
合計　　:100%
1. 定期試験は筆記用具以外の持込みは認めない。
2. 地域・在宅看護過程はルーブリックで評価する。提出日は授業内に指示する。
 地域・在宅看護過程の合格水準に満たない場合は再指導、再提出とする。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　有　)】

【履修申請上の条件】

・暮らしの理解、暮らしの理解体験実習を履修していることが望ましい。

【教科書】

地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤　第6版, 医学書院, 2024.
地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践　第6版, 医学書院, 2024.

【参考書】

ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①:地域療養を支えるケア　第7版　メディカ出版　2025年版
ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論②:地域療養を支える技術　第2版　メディカ出版　2025年版

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

川込あゆみ:臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。

【オフィスアワー】

川込あゆみ:火～金12:10～13:00

【教員連絡先】

川込あゆみ:akawagome@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	地域・在宅看護学(生活援助技術)	担当教員名	神田千春　川込あゆみ			
コード	22NPR310	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

この科目では，在宅療養者とその家族の日々の暮らしについて理解を深めると同時に，在宅における日常生活動作の「食事」「排泄」「移動」「清潔」「更衣」「睡眠」を支える看護技術について修得する。また，在宅療養者の健康障害が日常生活に及ぼす影響を理解し，在宅療養者とその家族の生活に合わせた療養環境の調整や援助方法について学ぶ。さらに，在宅における療養生活の中で，日常にある物品の工夫や福祉用具の活用等について学修する。これまでの学修をもとに，訪問看護をロールプレイすることによって，看護師としてまた社会人としてマナーを意識しながら振舞うことができることで，療養者やその家族との信頼関係を考えた看護実践を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 健康障害が生活に及ぼす影響や、在宅療養者とその家族に対する日常生活援助について述べることができる。		○	○		
2 訪問看護師として、また社会人としてマナーを意識しながら行動することができる			○	○	
3 自宅にある物品の工夫や福祉用具の活用について述べることができる。		○	○		
4 在宅における療養環境整備や住宅改修の利用について述べることができる。		○	○		
5 在宅療養者と家族が住みなれた地域で暮らす意味とその人らしい生活を支える看護について述べることができる。			○	○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1 2	【講義】 ・地域・在宅看護学(生活援助技術)ガイダンス ・在宅療養における看護過程の展開技術 ①在宅療養における看護過程の特徴 (療養者・家族の生き方や思い、家族への支援、療養環境、社会資源の活用) ②在宅看護過程(脳梗塞事例)のポイント ・暮らしの場で看護をするための心構え ・セルフケアを支える対話・コミュニケーション	神田千春 川込あゆみ	予習(30分):シラバスを一読し、授業のイメージを持って参加する。 地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の該当箇所p50～62を精読して、 要約をノートに記述する。 復習(60分):在宅看護過程の追加・修正箇所を記述する。
3 4	【講義】 ・家庭訪問・初回訪問 訪問の手順と倫理・心構え 訪問看護師のとしてのマナーの実際 学生実習における同行訪問 【演習】 ・在宅療養を支えるコミュニケーションの基本 ・やってみよう！訪問看護演習	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の該当箇所p407～409・ 配付資料「訪問看護職としてのマナーリスト」を精読する。 演習(学生実習における同行訪問)の手順書を作成する。 復習(30分): ・演習後レポート①:訪問マナー演習後の学びをレポートする。
5 6	地域・在宅看護における安全をまもる看護と療養環境調整:転倒の予防と対策 【講義】 ・身体機能の低下や疾患・障害に伴うリスクアセスメント ・転倒・転落の予防と対策 ・溺水、熱中症の予防と対策 ・地域・在宅看護における療養環境調整 【演習】 ・生活環境を整える支援 ・看護師による療養環境調整	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の該当箇所 p.70～77・p.86～93を精読する。 ・演習の手順書を作成する。 復習(30分): ・演習後レポート②:「対象者の意向にそった生活環境を整えるための支援を検討した 演習後の学びをレポートする。
7 8	日常生活を支える看護技術:食生活 【講義】 ・食に関する包括的アセスメント ・援助の技術と実際 ・トラブル時の対応 ・社会資源の活用 【演習】 ・楽しく安全に食べるための環境調整 ・適切な食事介助	川込あゆみ	予習(60分): ・地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の該当箇所 「口腔ケア・嚥下困難のある食事援助のポイント」 p.115～p.120を精読する。 ・演習の手順書を作成する。 復習(30分): ・演習後レポート③:「楽しく安全に食べるための環境調整」「適切な介助と不適切な介助」を 体験した学びをレポートする。
9 10	日常生活を支える看護技術:排泄 【講義】 ・排泄のアセスメント ・排泄援助の技術と実際 ・社会資源の活用と調整 【演習】 ・排泄の援助方法 ・便秘の予防と援助	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の 該当箇所「排泄に関する地域・在宅看護技術」p136～151を精読する。 ・演習の手順書を作成する。 復習(30分): ・演習後レポート④:「排泄の援助方法」「便秘の予防と援助」を体験した学びをレポートする。
11 12	日常生活を支える看護技術:清潔 【講義】 ・清潔のアセスメント ・清潔援助の技術と実際 ・社会資源と多職種連携 【演習】 ・洗髪	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の該当箇所 「清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術」p160～171を精読する。 ・演習の手順書を作成する。 復習(30分): ・演習後レポート⑤:「清潔の援助方法」を体験した学びをレポートする。
13 14	日常生活を支える看護技術:肢位の保持と移動 【講義】 ・身体活動のアセスメントと支援のポイント ・肢位の保持と移動の実際 ・家族への支援 ・社会活動の支援 【演習】 ・移動介助の方法	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・地域・在宅看護の実践(地域・在宅看護論2)の該当箇所p94～102を精読する。 ・演習の手順書を作成する。 復習(30分): ・演習後レポート⑥:「移動介助の方法」を体験した学びをレポートする。

15	日常生活を支える看護技術：睡眠 【講義】 ・睡眠のアセスメント ・睡眠援助の技術と実際 地域・在宅看護学（生活援助技術）のまとめ	神田千春 川込あゆみ	予習（15分）： ・地域・在宅看護の実践（地域・在宅看護論2）の該当箇所p103～104を精読する。 ・睡眠日誌をつける。 復習（30分）： ・睡眠日誌を分析し、より良い睡眠と援助について考える。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		ICTを活用して授業を実施 ・授業に関する教材・資料・ビデオの提供 ・学生・教員間のコミュニケーション
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

演習後の課題レポートへのフィードバックは、次の講義の中で実施する。

【成績の評価方法】

定期試験70%、演習後レポート30%として評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

地域・在宅看護学概論を履修していることが望ましい。

【教科書】

地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤　第6版, 医学書院, 2024.
地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践　第6版, 医学書院, 2024.

【参考書】

ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①：地域療養を支えるケア　第7版　メディカ出版　2024年版
ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論②：地域療養を支える技術　第2版　メディカ出版　2024年版

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

川込あゆみ：臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。

【オフィスアワー】

川込あゆみ：火・水・木・金12:10～13:00

【教員連絡先】

川込あゆみ：akawagome@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	地域・在宅看護学(医療関連技術)	担当教員名	神田千春　川込あゆみ			
コード	22NPR311	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

この科目では，在宅で医療ケアが必要となった療養者とその家族の生活を理解する。在宅における医療ケアを必要とする人の看護では，「在宅酸素療法」，「在宅人工呼吸療法」，「胃瘻からの経管栄養法」，「在宅中心静脈栄養法」，「カテーテルやストーマの管理」「褥瘡管理」「薬物療法」，「疼痛緩和」，「在宅ターミナル」などに伴う看護技術や援助の実際について学修する。また，在宅で看護を行うために必要な安全対策と事故防止の知識について学修する。さらに，末期がんや進行性の神経難病の療養者とその家族の在宅療養における身体面・精神面・社会面を理解した上で，病状の進行と悪化に対する不安を理解して、治療に取り組める環境に配慮した在宅生活を支える看護について学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 医療処置を必要とする療養者に対して、安全に実施できるための方法と留意点について述べることができる		○	○		
2 在宅で医療管理を必要とする人に対して、医療機器の管理とそれに伴う看護について述べることができる。		○		○	
3 医療処置に対して起こりうる危険とその要因と対処方法(予防方法含む)について述べることができる。		○	○		
4 医療処置が必要となった療養者、家族の気持ちを理解し、述べることができる。		○	○		
5 自宅で医療処置を必要とする療養者と家族への必要な指導内容・指導方法について述べることができる。			○	○	
6 在宅での医療処置のおける安全へのサポートについて述べることができる。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【講義】地域・在宅看護学(医療関連技術)のガイダンス ・在宅のおける医療ケアの原理原則	神田千春 川込あゆみ	予習(30分):「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の 「医療ケアの原理原則」 p.106～P108を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(15分):「在宅のおける医療ケアの原理原則」についてまとめる。
2	【講義】 ・療養を支える看護技術(医療ケア):薬物療法 在宅における薬の管理 がん外来化学療法	神田千春 川込あゆみ	予習(30分): ・「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の「薬物療法」p.108～112、 「がん外来化学療法」p.113～117を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習(15分):講義内容をまとめる
3 4	【講義】 ・療養を支える看護技術(医療ケア):排痰ケア スクイージング ・気管カニューレ管理 気管カニューレ管理におけるアセスメント 気管カニューレ管理における援助の実際 療養者・家族への支援 【演習】 ・在宅における援助技術:在宅における気管内吸引	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の「肺痰ケア」p.117～123、 「気管カニューレ管理」p.123～127を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 テキストの「メディカAR」の「体位肺痰法〈動画〉」p.121、「スクイージング〈動画〉」p.122を視聴する。 復習(30分): ・演習後レポート①:「在宅における気管内吸引」を体験した学びをレポートする
5 6	【講義】 ・療養を支える看護技術(医療ケア):在宅酸素療法 在宅酸素療法におけるアセスメント 在宅酸素療法の実際 安全管理と援助 ・在宅人工呼吸療法 非侵襲的陽圧換気(NPPV)におけるアセスメント 在宅における安全管理と援助 療養者・家族への援助 【演習】】呼吸のアセスメントと援助の実際　(外部講師) ① 医療機器(医療機器事業者)　在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法 ② 在宅酸素療法中の看護 ③ 非侵襲的陽圧換気(NPPV	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の「在宅酸素療法」p.127～131、 「在宅人工呼吸療法」p.132～136を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 テキストの「メディカAR」の「酸素供給装置〈動画〉」p.129、 「NPPVに使用するマスクの種類〈動画〉」p.133を視聴する。 復習(30分): ・演習後レポート②:「在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法の演習」を体験した学びをレポートする。
7 8	【講義】 ・療養を支える看護技術(医療ケア) ①排尿ケア 排泄ケアにおけるアセスメント 自己導尿 膀胱留置カテーテル管理と看護について ②ストーマ管理 ストーマ管理におけるアセスメント 援助の実際 療養者・家族への支援 【演習】 (1)膀胱留置カテーテル管理と看護について	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の「排尿ケア」p.137～141、 「ストーマ管理」p.142～145を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 テキストの「メディカAR」の「ストーマ装具の交換〈動画〉」p.144を視聴する。 復習(60分): ・演習後レポート③:「膀胱留置カテーテルの管理」を体験した学びをレポートする。
9 10	【講義】 ・療養を支える看護技術(医療ケア):在宅経管栄養法 胃瘻の適応と種類 胃瘻の投与方法と管理方法 トラブル時の対応 療養者・家族への支援 ・在宅中心静脈栄養法の管理と看護について 【演習】 ・在宅における援助技術:在宅経管栄養法・胃瘻法の管理	神田千春 川込あゆみ	予習(60分): ・「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の「在宅経管栄養法」p.145～150を精読して、 要約や疑問点をノートに記述する。 テキストの「メディカAR」の「経鼻経管栄養〈動画〉」p.148、「栄養剤の注入手順〈動画〉」p.149を視聴し、 手順をまとめる。 復習(30分): ・演習後レポート④:「胃瘻からの栄養剤の注入」を体験した学びをレポートする。

11 12	神経難病の人のケア　（外部講師　ALS療養者） 【講義】神経難病（筋萎縮性側索硬化症）の人とその家族に対する援助 【講義】ALS療養者の病気に対する思いや価値観、看護への期待	川込あゆみ 神田千春	予習（60分）: ・「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の「メディカAR」の 「文字盤を使ったコミュニケーション〈動画〉」p.37、「意思伝達装置」〈動画〉」p.37、 「IT機器の活用〈動画〉」p.38、「ALS療養者からのメッセージ〈動画〉」p.220を視聴する。 ・ALS療養者の生活をイメージし、質問を考える。 復習（30分）: ・演習後レポート⑤:「ALS療養者の病気に対する思いや価値観、看護への期待」を聴講した 学びをレポートする。
13 14	【講義】 ・ターミナル期の人とその家族に対する援助の実際 在宅のおける化学療法・疼痛緩和ケア 尊厳のある終末期 【講義】在宅のおける援助技術:ターミナル期の援助　（外部講師　訪問看護師） ターミナル期の人とその家族に対する援助の実際	川込あゆみ 神田千春	予習（60分）: ・「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の「ターミナルケア」p.60～p.64、 「疼痛管理」p.175～179、「最期まで自宅で過ごしたいターミナル期のがん療養者」p.216～219を 精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習（30分）: ・受講後レポート⑥:「①在宅ターミナル期の医療・看護、②在宅における多職種連携」の学びを レポートする。
15	講義】 ・褥瘡 在宅における褥瘡の援助の実際 療養者・家族への支援 ・足病変のケア 足病変の援助の実際 療養者・家族への支援 地域・在宅看護学（医療関連技術）のまとめ	神田千春 川込あゆみ	予習（30分）: ・「地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術」の「褥瘡管理」p.155～p.159、 「足病変のケア」p.159～165を精読して、要約や疑問点をノートに記述する。 復習（15分）:在宅における褥瘡管理、足病変の援助に関する看護師の役割をまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		ICTを活用して授業を実施 ・授業に関する教材・資料・ビデオの提供 ・学生・教員間のコミュニケーション
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

演習後の課題レポートへのフィードバックは、次の講義の中で実施する。

【成績の評価方法】

・定期試験70%、
・演習後ならびに受講後レポート30%（①～⑥各5%）として評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護学（生活援助技術）を履修していることが望ましい。

【教科書】

ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①:地域療養を支えるケア　第7版　メディカ出版　2023年版
ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論②:地域療養を支える技術　第2版　メディカ出版　2023年版

【参考書】

地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤　第6版, 医学書院, 2024.
地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践　第6版, 医学書院, 2024.

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

川込あゆみ:臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。

【オフィスアワー】

川込あゆみ:火～金12:10～13:00

【教員連絡先】

川込あゆみ:akawagome@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	在宅看護過程	担当教員名	神田千春　川込あゆみ			
コード	22NPR312	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

この科目では，在宅療養者とその家族の「その人らしい生活」を支えるための在宅看護過程の展開方法を学修する。在宅看護過程の展開は，国際生活機能分類(ICF)の概念に則って在宅療養者とその家族の情報の整理を行い，健康障害が及ぼす生活への影響をアセスメントし，在宅療養者とその家族のQOLを意識した看護計画を立案する。さらに，在宅療養者と家族が住み慣れた地域で暮らす意味とその人らしい生活を支える看護について理解を深める。訪問看護は健康障害とともに生活を続けるための看護であり，家族の介護疲れ，生活困窮，社会的孤立など在宅療養者とその家族の心理・社会的課題に対応する視点も推論する。また，在宅看護では，疾病の治療に伴う問題を解決する視点だけでなく，生活に寄り添う看護では強みを活かす視点を踏まえた看護を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 在宅看護における看護過程の特徴を説明できる		○	○		
2 在宅看護過程のプロセス(情報整理・全体像・アセスメント・看護問題・目標・計画立案)を説明できる。		○	○		
3 ICFの概念に則って情報を整理し、記述できる。			○	○	
4 在宅の特徴を生かした看護計画が立案できる。			○	○	
5 在宅看護過程の学修を通し、在宅療養者と家族が住み慣れた地域で暮らす意味とその人らしい生活を支える看護が述べられる。			○	○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1 2	授業オリエンテーション 【演習】在宅看護過程演習 (1)オリエンテーション (2)事例説明:①頸髄損傷　②ALS　③がんターミナル　④パーキンソン病	神田千春 川込あゆみ	予習(120分):シラバスと在宅看護過程の4事例を熟読し、事例のイメージを持って参加する。 復習(220分):4事例の疾患・治療・看護についてノートにまとめる。
3 4	【演習】在宅看護過程演習 (1)情報整理 (2)全体像・アセスメント	神田千春 川込あゆみ	予習(120分):担当事例を熟読し、ICFの概念に則って在宅看護課程の記録用紙に情報を整理する。 復習(220分):全体像・アセスメントを記述する。
5 6	【グループワーク】 (3)看護問題の抽出 (4)長期・短期目標 (5)看護計画立案	神田千春 川込あゆみ	予習(120分):看護問題と長期目標・短期目標を考える。 復習(220分):看護計画を立案する。
7 8	【発表会】 ①頸髄損傷　②ALS　③がんターミナル　④パーキンソン病	神田千春 川込あゆみ	予習(120分):発表原稿を作成する 復習(220分):4事例の概要をまとめる

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		ICTを活用して授業を実施 ・授業に関する教材・資料・ビデオの提供 ・学生・教員間のコミュニケーション
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義内容の質問や意見をリアクションペーパーに記入し、質問等のフィードバックは、次の講義の中で実施する。

【成績の評価方法】

在宅看護過程の展開100％で評価する。
在宅看護過程（情報の整理、全体像、アセスメント、看護問題、長期・短期目標、看護計画、多職種連携）はルーブリックで評価する。提出期限は講義内で説明する。
在宅看護過程の合格水準に満たない場合は再指導、再提出とする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

地域・在宅看護学概論の単位を修得していることが望ましい。

【教科書】

ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①:地域療養を支えるケア　第7版　メディカ出版　2023年版
ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論②:地域療養を支える技術　第2版　メディカ出版　2023年版
上田敏:ICF(国際生活機能分類)の理解と活用―人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか(第2版)入門編、きょうされん　2021年

【参考書】

地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤　第6版, 医学書院, 2024.
地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践　第6版, 医学書院, 2024.

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

川込あゆみ:臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。

【オフィスアワー】 川込あゆみ：火～金12:10～13:00
【教員連絡先】 川込あゆみ：akawagome@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし。

授業科目名	精神看護学概論	担当教員名	福永ひとみ			
コード	22NPR326	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

精神の健康・不健康について生物的・心理的・社会的側面から多面的に捉え、精神のバランスを崩しやすい状況とストレス対処，現代社会の精神的健康問題と精神保健(メンタルヘルス)活動について予防的観点から学修する。学生自身のストレスマネジメント方法についても体験的に学修する。また、精神の危機的状況にある人や精神障害をもつ人とその家族を援助するための精神看護の基本的概念と活用する理論やモデルについて学修する。具体的には、ペプロウ看護論、オレムアンダーウッドのセルフケア看護論、ストレングス理論を取り上げる。さらに、精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的変遷を体系的に学び、精神障害者の権利擁護の考え方を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 精神の健康について多面的に説明できる。		○			
2 心と体のバランスや関連性および人の成長発達の過程や社会的状況の中で生じる危機状況を知り、看護介入の意義について説明できる。		○			
3 精神看護の定義や目的・機能、対象および看護師の役割を説明できる。				○	
4 精神看護で有用な諸理論およびモデルの特徴を説明できる。				○	
5 精神障害者の人権擁護について説明できる。			○		
6 精神保健医療をめぐる社会状況の変遷と法体制の関連および処遇の課題を説明できる				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	イントロダクション 授業の内容と進め方、課題の内容と提出について、成績評価について 精神看護の課題、精神の健康	福永ひとみ	予習(60分):シラバスを読む、指定教科書の目次・全体に目を通す 教科書1 第1章 p2-22、第2章p24-30、第7章p361-363を読む 課題1「わたしが考える精神の健康とは何か」 復習(150分):配布資料を見直し、授業ノートの整理　課題作成
2	精神の発達段階の特徴と危機状況に応じた看護介入 ライフサイクルにおける各期の発達危機と不適応問題について	福永ひとみ	予習(60分):教科書1 第3章 p79-106、教科書2 第10章p178-194を読む 復習(60分):配布資料を見直し、授業ノートの整理
3	ストレスとマネジメント ストレスとコーピング ヨーガの体験 (クラスを2組に分けて行う)	福永ひとみ ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ: 坂本久美子	予習(60分):教科書1 第2章 p31-38、教科書2 第9章p107を読む 課題2「ヨーガの体験をして、気づいたこと学んだこと」 復習(100分):配布資料を見直し、授業ノートの整理、ヨーガ体験後の課題作成
4	精神障害者と家族の理解 精神障害者のイメージ、精神障がい者の体験記、精神障がい者の家族の心情	福永ひとみ	予習(60分):教科書1 第1章p5-9、第4章 p115-131を読む 課題3「わたしがもつ精神障がい者のイメージ、体験記の感想」 復習(120分):配布資料を見直し、授業ノートの整理　課題作成
5	精神保健医療福祉歴史的背景と法制度・施策の動向 精神障害者の権利擁護	福永ひとみ	予習(60分): 教科書1 第7章 p297-361を読む 復習(60分):配布資料を見直し、授業ノートの整理
6	精神科治療環境とリスクマネジメント 入院形態、行動制限、危険物管理、事故防止、CVPPP、 入院患者の処遇、保護室	福永ひとみ	予習(60分):教科書2 第13章p311-348を読む 課題4「保護室入室中の患者への安全対策についてまとめる」 復習(120分):配布資料を見直し、授業ノートの整理　課題作成
7	小試験 精神看護における対人関係論 ペプロウ　患者－看護師関係の発展と看護師の多様な役割、自己の治療的活用	福永ひとみ	予習(60分):教科書2 第8章p28-41、教科書3 p190-191を読む 小試験:1～6回までの内容について授業時間内に試験を行う 最終課題「「家族や友人の関係と、患者－看護師関係の違いについて」具体例をあげて説明し、文献を用いて考察しなさい」 復習(200分): 配布資料を見直し、授業ノートの整理、最終課題作成
8	精神看護における諸理論とモデルの理解 ①ｵﾚﾑ･ｱﾝﾀﾞｰｳｯﾄﾞのセルフケア理論　対象の自己決定とセルフケアを促す看護 ②ストレングス理論	福永ひとみ	予習(60分):教科書1 第2章p36、教科書2 第8章p59、第9章p70-78、第10章p152-153、 第11章p240-241を読む 最終課題の提出 復習(60分): 配布資料を見直し、授業ノートの整理

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		ヨーガの体験学習
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・提出された課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義内で行う
・小試験に対するフィードバックは、次回の講義内で解答の解説を行う

【成績の評価方法】

1　課題（40%)、最終課題(20%)、小試験(40%)　合計100％
2　評価基準　　課題1～4は、課題ごとに、チェック項目(文字数、体裁、誤字脱字、提出日時、場所)2点、
　　基準　1)課題の理解　2)課題に応じた内容の記載　について、8点:とてもよい、6点:よい、4点:やや努力が必要、2点:努力が必要　で評価する
　　最終課題は、チェック項目(文字数、体裁、誤字脱字、提出日時、場所)5点、
　　基準　1)課題の理解　2)文章表現力　3)自己意見　4)具体性　5) 文献引用明記　について、3点:よい、2点:まあよい、1点:努力が必要　で評価する

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

1) 武井麻子他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①　第6版, 医学書院, 2021.
2) 武井麻子他: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②　第6版, 医学書院, 2021.
3) 石川ひろの他: 系統看護学講座 基礎分野Ⅱ 人間関係論　第3版, 医学書院, 2018.

【参考書】

田中美恵子編著: 精神看護学 第3版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開, 医歯薬出版, 2024.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師資格を持ち、精神科看護の実務経験を有す

【オフィスアワー】

火、水、木、金曜日 昼休み時間 (12:10～13:00)

【教員連絡先】

福永研究室　3号館　3階　3316号室　hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

欠席した場合は、担当教員の研究室を訪ね、必要な資料を受け取ること(代理不可)

授業科目名	精神看護学援助論	担当教員名	大胡晴香			
コード	22NPR327	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

精神疾患の定義・病因・主要な症状と診断，治療に関する基礎知識を活用し，代表的な精神疾患患者に対する看護の方法について学修する。具体的な学修内容として，精神病理が生活に及ぼす影響，主な検査と治療の特性に応じた看護，代表的な精神疾患患者の回復過程に応じた看護，主要な精神症状に応じた看護，精神科医療における治療環境と生活環境の特徴，リスクマネジメントを含む。精神障害者のリカバリーを支援するための看護の役割を学修する。また、回復過程で活用する非薬物療法、退院後に精神症状や精神疾患の再燃を防ぐ社会資源の活用、治療環境と生活環境における倫理的課題の支援を踏まえた看護について考える力を養う。実際は、精神障害者が有している精神症状を動画等のICTや物品を使用した体験を通じて、精神障害者のリカバリーの視点をもった看護について学修する。□

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 精神科医療における治療環境と生活環境、リスクマネジメントについて説明できる。			○		
2 主な精神疾患の定義・病因・症状と治療、回復過程に応じた看護について説明できる。		○			
3 精神科医療における治療の特徴や必要な検査に応じた看護について説明できる。		○			
4 精神障害者のリカバリーを支援するための看護の役割について説明できる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	統合失調症をもつ人への看護【急性期】/身体合併症をもつ人への看護 ストレス脆弱性モデル、陽性症状、知覚障害、思考障害、自我意識の障害、安全保障、衝動行為、幻覚・妄想、自傷他害予防、現実吟味、向精神薬、抗精神病薬、悪性症候群、精神療法、抗コリン作用、水中毒、意欲・行動の障害、妄想により表現する身体感覚、抗精神病薬による身体症状 **〔動画活用〕幻聴体験を行う**	大胡晴香	予習 (60分) 教科書1p150-152、p156-161、p162-178、p265-273を読む 教科書2p70-78、p270-278、p283-291、p312-322、p331-341を読む 復習 (90分) 授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る 【小テスト①】「小テスト&リフレクションペーパー」を提出する
2	統合失調症をもつ人への看護【消耗期～回復期】 精神療法、転移・逆転移、集団精神療法、家族心理療法、総合支援制度、退院支援、地域移行支援、ストレングスモデルの活用、アドヒアランス、コンコーダンス、拒薬、リカバリー、リワーク、WRAP、多職種アプローチ、離脱症状、生活基盤の拡大、自己決定、作業療法、SST、包括的リハビリテーション **〔動画活用〕SSTの実践を視聴する**	大胡晴香	予習 (60分) 教科書1p162-181、p294-295を読む 教科書2p100-101を読む 復習 (90分) 授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る 【小テスト②】「小テスト&リフレクションペーパー」を提出する
3	統合失調症をもつ人への看護【慢性期】 陰性症状、感情障害、錐体外路症状、ジストニア、ジスキネジア、アカシジア、社会(生活)療法、認知機能障害、レクリエーション療法、心身症状、窒息、爪・皮膚トラブル、口腔のトラブル	大胡晴香	予習 (60分) 教科書1p.153-155、p162-181を読む 教科書2p161-177、p212-229を読む 復習 (90分) 教科書と配布資料を見直しノート整理 【小テスト③】「小テスト&リフレクションペーパー」を提出する
4	気分障害の患者・睡眠障害のある患者への看護 双極性障害、うつ病、循環気質、不眠、環境調整、メランコリー親和型、微小妄想、意欲低下、早朝覚醒、日内変動、休息、自殺念慮、抗うつ薬、抗不安薬、抗てんかん薬、睡眠薬、修正型電気けいれん療法	大胡晴香	予習 (60分) 教科書1p182-191,p.229-230、p247、 p275-280、p282、p288-291、p361-362を読む 教科書2p103、p293-295、323-330を読む 復習 (90分) 授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る 【小テスト④】「小テスト&リフレクションペーパー」を提出する
5	物質関連障害(アルコール・薬物)をもつ人への看護 アディクション、中毒症状、離脱症状、アルコール精神病、身体依存、耐性、精神依存、ARP、AA **〔体験型学習〕酩酊ゴーグルを着用して酩酊状態を体験する** **〔class roomの活用〕作成したレポートを提出する**	大胡晴香	予習 (60分) 教科書1p201-206、p285、p292、p363、p366を読む 教科書2p94-97、p146-149を読む 復習 (180分) 授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る 課題1「酩酊状態を体験して考えたこと」についてのレポートを作成し、class roomで提出する
6	行動依存/摂食障害/パーソナリティ障害がある患者の看護 イネイブラー、共依存、拒食、過食、自己誘発性嘔吐、無月経、低カリウム血症、限界設定、自己責任、認知行動療法、家族心理療法、行動化、対人操作、転移・逆転移、見捨てられ不安 **〔動画活用〕依存症問題に遭遇した時の家族の対応を視聴する** **〔class roomの活用〕作成したレポートを提出する**	大胡晴香	予習 (50分) 教科書1p207、p215-217、p256-259、p260-263、p365、p369を読む 教科書2p62を読む 復習 (180分) 教科書と配布資料を見直しノートの整理 課題2「依存症者と家族間の課題と家族支援」についてのレポートを作成し、class roomで提出する
7	発達障害をもつ人への看護/症状を含む器質障害がある患者の看護 自閉症スペクトラム、注意欠如/多動障害、発達障害支援法、学習障害、社会的相互交渉障害、コミュニケーション障害、想像力障害、感覚過敏、代替コミュニケーション、障がい者差別解消法、中核症状、衝動性コントロール、パーソン・センタード・ケア、ユマニチュード、カンフォータブル・ケア・てんかん	大胡晴香	予習 (60分) 教科書1p208-214、p223-228、p283-284、p368を読む 教科書2p185-186を読む 復習 (80分) 授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る
8	不安障害/強迫性障害/ストレス因関連障害をもつ人への看護、 フィジカルアセスメント、問診、医学的検査、心理検査、医学的検査、不安のレベル、パニック発作、強迫観念、強迫行為、トラウマ、急性ストレス障害、PTSD	大胡晴香	予習 (60分) 教科書1p31-47、p191-201、p281-282を読む 教科書2p374-386を読む 復習 (80分) 授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	動画の活用、体験型学習の実施、class roomの活用
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業終了時、次回の予習課題を確認する。
小テスト(課題)を回収後、解答の解説を次回の講義等で行う。

【成績の評価方法】

レポート課題：17％
小テスト：23％
臨時試験：60％【11月29日（土）2限目・12/19（金）1限目のいずれか】
合計：100％
【評価基準】
レポート課題の評価基準：1)提出期限と体裁　2)課題の理解　3)課題に応じた内容の記載について、3点：とてもよい、2点：よい、1点：努力が必要の基準とする

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

精神看護学概論、疾病治療論Ⅳを履修していることが望ましい。

【教科書】

1 武井麻子他：系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　第6版　医学書院　2024（精神看護学概論で使用した教科書）
2 武井麻子他：系統看護学講座　専門分野　精神看護学[2]　精神看護の展開　第6版【電子版】 医学書院　2024（精神看護学概論で使用した教科書）

【参考書】

1　萱間真美編:パーフェクト臨床実習ガイド　精神看護 第2版　照林社　2015
2 ﾄﾞﾅﾙﾄﾞW.ﾌﾞﾗｯｸ,ﾅﾝｼｰC.ｱﾝﾄﾞﾘｱｾﾝ,澤　明監訳:DSM-5を使いこなすための臨床精神医学テキスト 医学書院　2015

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師資格を持ち、精神科病院（急性期閉鎖病棟・慢性期開放病棟・外来）での実務経験を有す。教員の看護実践経験例を織り交ぜて授業する。

【オフィスアワー】

月～木　昼休み時間（12:10～13:00）
（訪問する前は、事前にメールで連絡をすること）

【教員連絡先】

大胡研究室　B棟3階　3323号室　hogo@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

欠席した場合は、担当教員の研究室を訪ね、必要な資料を受け取ること（代理不可）。

授業科目名	精神看護学演習	担当教員名	大胡晴香・吉岡貴美代 ・福永ひとみ 外部講師: 精神障害の当事者・訪問看護ステーション看護師・精神看護専門看護師			
コード	22NPR328	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

紙上事例を用いた演習を通して，代表的な精神疾患(統合失調症・うつ病)患者の精神病理の特性，治療特性，発達課題の達成状況や生活・家族背景などを総合的に理解し，ストレングスを生かした個別的な看護過程の展開方法を学修する。精神障害者との接近やコミュニケーション場面を分析する演習を通して，援助者としての自己のコミュニケーションの傾向を振り返る力を養う。
また，精神科病院における看護だけではなく，地域における精神看護を学修する。具体的な学修内容として，精神科訪問看護師の役割，社会資源の種類や活用，他職種の理解と多職種連携・協働について学修する。精神看護分野における専門的な看護として，リエゾン精神看護の役割と活動，司法精神看護の目的や役割を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 紙上事例の精神病理の特性、治療特性、個人特性(成長発達の段階・社会経済面)、ストレングスなど多面的にアセスメントできる。		○			
2 ロールプレイで紙上事例のストレングスを記述できる。	○				
3 紙上事例の看護上の問題を抽出し、看護計画を立案できる。		○			
4 紙上事例とロールプレイで精神障害をもつ人への対応について実施できる。		○			
5 自己の看護コミュニケーション場面をプロセスレコードを用いて、分析の視点に基づき記述できる。	○				
6 援助者としての自己のコミュニケーションの傾向と課題について記述できる。	○				
7 司法精神看護の目的と役割について説明できる。		○			
8 リエゾン精神看護の役割と活動について説明ができる。				○	
9 地域で生活する精神障害をもつ人を支援するために必要な多職種連携・協働について説明できる。				○	
10 精神科訪問看護の機能と役割について説明できる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【演習】 事例 統合失調症患者の看護 ① 事例紹介 個人課題①「基本情報の整理(出生から現在に至るまでの経緯)」 〔ビジュクラウドの活用〕事例患者を状況を確認する	大胡晴香	予習 (90分):教科書2第3章p71-76、第7章p270-284を読む 復習 (150分):授業ノートの整理、課題の不足点を振り返る 【個人課題①】に取り組み、指定した場所に提出する 〔ビジュクラウド〕「目で見る精神看護 第2版」の『vol.2 精神看護学実習 患者とのコミュニケーションのポイント』を視聴し、課題を整理する
2	【演習】 事例 統合失調症患者の看護 ① 事例紹介 個人課題②「基本的特性」	大胡晴香	予習 (90分):教科書2第4章p147-162を読む 復習 (150分):教科書と配布資料を見直しノート整理 【個人課題②】に取り組み、指定した場所に提出する
3	【演習】 事例 統合失調症患者の看護 ② 個人課題③「セルフケアアセスメント」	吉岡貴美代 福永ひとみ	予習 (90分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 復習 (150分):授業ノートの整理 【個人課題③】に取り組み、指定した場所に提出する
4	退院促進支援 障害者総合支援法、社会資源、自立支援給付、地域生活支援事業、地域移行支援、地域定着支援、精神障害者福祉手帳、自立支援医療費、訪問看護、デイケア、ACT、退院後生活環境相談員、セルフヘルプグループ、多職種連携、精神保健福祉士、地域移行推進員、医療観察法、MDT 〔ビジュクラウドの活用〕予習で指定した単元を視聴する	大胡晴香	予習(90分):教科書2第4章p172-173、第7章p270-284、第8章p351-407を読む 〔ビジュクラウド〕「目で見る精神看護 第2版」の『vol.1 精神科医療と福祉の現状』を視聴し、 課題を整理する 復習(90分):授業ノートの整理
5	【演習】 事例 統合失調症患者の看護 ③ ストレングス・夢・希望、強みに着目し患者の目標設定 個人課題④「ストレングス・モデル・マッピングシート」 〔ロールプレイ〕事例患者を対象にストレングスマッピングシートを作成する	大胡晴香	予習(80分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 復習(90分):授業ノートの整理 【個人課題④】に取り組み、指定した場所に提出する
6	地域における精神看護 (外部講師: 円グループ) 社会的背景と精神科訪問看護の目的・意義、役割、機能、対象 リカバリー、ストレングス、WRAP、クライシスプラン、セルフマネジメント支援、コミュニケーション、モニタリング機能、家族支援、病院の退院支援からの移行、社会資源の活用、地域における連携・協働のネットワーク 〔ビジュクラウドの活用〕予習で指定した単元を視聴する	外部講師	予習(80分):教科書2第8章p351-399を読む 〔ビジュクラウド〕「目で見る精神看護 第2版」の『vol.3 病院から地域社会へ 知っておきたい社会資源』を視聴し、課題を整理する
7	地域における精神看護 (外部講師: 円グループ) 精神科訪問看護の実際 円グループの紹介 後期の実習オリエンテーション 個人課題⑤:「感想・学んだこと・疑問点」	外部講師	復習(90分):授業ノートの整理、最終課題作成 【個人課題⑤】に取り組み、指定した場所に提出する
8	【演習】 事例 統合失調症患者の看護 ④ 個人課題⑥「全体像」	吉岡貴美代 福永ひとみ	予習 (80分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 復習 (140分):課題の不足点を仕上げる 【個人課題⑥】に取り組み、指定した場所に提出する
9	当事者の体験:語りを聴く (ゲストスピーカー:当事者派遣活動「目が覚めたら夜だった」)	外部講師	予習(80分):当事者に聞きたいことを考えてくる
10	当事者の体験:語りを聴く (ゲストスピーカー:当事者派遣活動「目が覚めたら夜だった」) 個人課題⑦「感想・学んだこと・疑問点」	外部講師	復習(90分):授業ノートの整理，課題の不足点を振り返る 【個人課題⑦】に取り組み、指定した場所に提出する
11	【演習】 事例 統合失調症患者の看護⑤ 個人課題⑧「目標設定・看護計画」	吉岡貴美代 福永ひとみ	予習 (90分):前回の授業を基に課題を仕上げて授業に臨む 復習 (150分):課題の不足点を仕上げる 【個人課題⑧】に取り組み、指定した場所に提出する

12	【演習】 看護場面のコミュニケーションを再構成 　記載項目とルールの確認、場面の切り取り。異和感の対自化に基づいた自己の振り返り、ならびに生じた感情をプロセスレコードに記述する 　個人課題⑨「自己の看護場面の再構成」「分析の視点に応じた分析」 〔動画の活用〕看護過程の事例患者のコミュニケーションを場面を プロセスレコードに記載する	大胡晴香	予習（80分）:プロセスレコードの目的・記載方法、分析視点の確認 復習（200分）:授業ノートの整理 【個人課題⑨】に取り組み、指定した場所に提出する ※この講義開始前に課題①～③、⑥、⑧を修正したものを最終提出する
13	リカバリーモデルによる援助技法ーWRAPの概念ー グループ課題①　「うつ病患者がWRAP作成する事例を通して、 グループで考え方資料作成」	大胡晴香	予習（90分）:精神看護学援助論の講義、ならびに教科書2p19-20,171-173の内容を確認する 復習（150分）:授業ノートの整理 【グループ課題①】に取り組み、指定した場所に提出する
14	リカバリーモデルによる援助技法ーWRAPの演習ー グループ課題②　「各グループで発表を評価する」	大胡晴香	予習（90分）:教科書2第1章p15-20、第2章p42-59、第4章p163-187を読む 復習（90分）:教科書と配布資料を見直しノートの整理 【グループ課題②】に取り組み、を評価した用紙を指定した場所に提出する
15	リエゾン精神看護の役割と活動（外部講師：精神科専門看護師（リエゾン）） リエゾン精神医学。精神看護とチーム医療 個人課題⑩:「感想・学んだこと・疑問点」	外部講師	予習（60分）:教科書2p428-442を読む 復習（70分）:授業ノートの整理、課題の不足点を仕上げる 【個人課題⑩】に取り組み、指定した場所に提出する

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		動画の活用、ロールプレイ実施、ビジュクラウドの活用
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業終了時、次回の予習課題を確認する。提出された課題に対するフィードバックは、次回の講義内で行う。

【成績の評価方法】

個人課題:87%（看護過程等の実習関連の課題:66%　レポート課題:21%）
グループ課題:13%
合計:100%
【評価基準】
1. 看護過程等の実習関連の課題は、ルーブリック評価を用いて評価を行う
2. レポート課題の評価基準:1)提出期限と体裁　2)課題の理解　3)課題に応じた内容の記載について、3点:とてもよい、2点:よい、1点:努力が必要の基準で評価する
3. グループ課題では、自分達が作成した資料のもとプレゼンテーションを行い、聴講している学生達が指定した投票用紙を用いて評価する

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

精神看護学概論、疾病治療論Ⅳ、精神看護学援助論を履修していることが望ましい。

【教科書】

1　岩崎弥生編:新体系看護学全書　精神看護学1　精神看護学概論／精神保健　第5版　メヂカルフレンド社　2021（精神看護学援助論で使用した教科書）
2　岩崎弥生編:新体系看護学全書　精神看護学2　精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社　2021（精神看護学援助論で使用した教科書）
3　田中美恵子編:精神看護学第3版-学生-患者のストーリーで綴る実習展開-　医歯薬出版株式会社　2024

【参考書】

1　宮本真巳編著:援助技法としてのプロセスレコード　自己一致からエンパワメントへ　精神看護出版　2003
2　長谷川雅美他:自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード第3版　日総研　2020
3　増川ねてる他:WRAP®を始める!　精神科看護師とのWRAP®入門【WRAP(元気回復行動プラン)編】　精神看護出版　2018
4　チャールズ・A・ラップ, et al・田中英樹監訳:ストレングスモデル　リカバリー志向の精神保健福祉サービス【第3版】　金剛出版　2014
5　カタナ・ブラウン編集・坂本 明子監訳:リカバリー　希望をもたらすエンパワーメントモデル　金剛出版　2012
6　萱間真美:リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術　医学書院　2016

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師資格を持ち、精神科病院（急性期閉鎖病棟・慢性期開放病棟・外来）での実務経験を有す。

【オフィスアワー】

月～木　昼休み時間（12:10～13:00）　訪問する前は事前にメールで連絡すること

【教員連絡先】

大胡研究室　B棟3階　3323号室　hogo@g.t-junshin.ac.jp, 吉岡研究室（合同研究室）　5階　B3514号室　kyoshioka@g.t-junshin.ac.jp, 福永研究室　A棟3階　3316号室　hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

欠席した場合は、担当教員の研究室を訪ね、必要な資料を受け取ること（代理不可）。

授業科目名	家族看護学	担当教員名	時田純子　塚本都子　尾山木綿子　大胡晴香　宗定水奈子			
コード	22NPR329	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

家族看護学の歴史を理解し，さまざまな視点から家族を捉え，家族のもつセルフケア能力を最大限に引き出す科学的な家族看護実践を行うための基礎的能力（知識・技術・態度）を習得する。演習においては，模擬家族のジェノグラム・エコマップ作成を通して基本スキルを習得し，カナダで開発されたカルガリー家族看護アセスメントモデルおよび介入モデルを用いて事例演習を行う。事例演習は，リプロダクティブヘルス看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学の5領域における模擬家族の事例を通して、家族構造・機能・発達のアセスメントおよび家族機能の認知領域・感情領域・行動領域に対する介入計画、および介入方法を考える。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 家族の概念と変遷を理解し、家族の意義や対象の捉え方を説明できる。		○			
2 家族看護学における基礎理論について説明できる。		○			
3 ジェノグラムプの作成を通して，家族構造・発達・機能のアセスメントができる（家族のセルフケア能力，家族の健康問題への対処能力のアセスメントを中心に）。		○			
4 家族看護学の基礎理論を用いて、具体的な家族看護の介入の場面を考察できる。		○	○		
5 家族看護学における看護者の責務や役割について表現することができる。		○	○		
6 家族看護学の発展性について考察し記述できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	【科目ガイダンス】 家族看護の概念と変遷：家族看護の意義や対象の捉え方について解説する。	時田	予習：家族の定義（社会学的、家族看護学的）について調べる（60分）。 復習：講義ノートおよび配布資料の整理、主要概念が説明できるようにする（90分）
2	【家族看護学における基本的な理論】 ①家族発達理論　②家族システム理論について解説する。	時田	予習：家族発達理論・家族システム理論について調べる（60分） 復習：講義ノートおよび配布資料の整理、主要概念が説明できるようにする（90分）
3	【ジェノグラム・エコマップ作成演習】 模擬家族のジェノグラム・エコマップ作成演習を通して基本スキルを習得する。	時田	予習：ジェノグラム・エコマップの基本的な知識について調べる（60分）。 復習：ジェノグラム・エコマップの整理をして、実際に活用できるようにする（90分）。
4	【健康問題を持つ家族の事例演習】 ①急性期又は慢性期疾患における患者と家族(例) 家族看護学における基礎理論に基づく看護介入 家族への看護を行う際のアセスメントの視点、対象理解のポイントについて学ぶ.	宗定	予習：各回の発達課題について基本的な知識について調べる（60分）。 復習：講義ノートおよび配布資料の整理、事例を各理論を基に説明できるようにする（90分）。
5	【健康問題を持つ家族の事例演習】 ②高齢者と家族(例)家族看護学における基礎理論に基づく看護介入 家族への看護を行う際のアセスメントの視点、対象理解のポイントについて学ぶ.	塚本	予習：各回の発達課題について基本的な知識について調べる（60分）。 復習：講義ノートおよび配布資料の整理、事例を各理論を基に説明できるようにする（90分）。
6	【健康問題を持つ家族の事例演習】 ③精神障害者と家族（例）家族看護学における基礎理論に基づく看護介入 家族への看護を行う際のアセスメントの視点、対象理解のポイントについて学ぶ	大胡	予習：各回の発達課題について基本的な知識について調べる（60分）。 復習：講義ノートおよび配布資料の整理、事例を各理論を基に説明できるようにする（90分）。
7	【健康問題を持つ家族の事例演習】 ④小児の家族(例）家族看護学における基礎理論に基づく看護介入 家族への看護を行う際のアセスメントの視点、対象理解のポイントについて学ぶ.	尾山	予習：各回の発達課題について基本的な知識について調べる（60分）。 復習：講義ノートおよび配布資料の整理、事例を各理論を基に説明できるようにする（90分）。
8	【健康問題を持つ家族の事例演習】 ⑤子どもの誕生と家族家族看護学における基礎理論に基づく看護介入のまとめ 家族への看護を行う際のアセスメントの視点、対象理解のポイントについて学ぶ.	時田	予習（60分）：各回の発達課題について基本的な知識について調べる。 復習：講義ノートおよび配布資料の整理、事例を各理論を基に説明できるようにする（90分） 【課題レポート】家族看護学における看護介入の実践について考察しレポートにまとめる（150分）。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	授業担当教員により、Google classroomを用いて授業資料の配信やformsを用いたリフレクションシートの配信などをする。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義や、ICTを活用したフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

1. 領域ごとの評価:75%(15点×5領域=75点)
2. 最終レポート:25%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　有　) 】

【履修申請上の条件】

家族社会学を履修していることが望ましい。

【教科書】

・小林奈美著:家族看護論　カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ第2版　医歯薬出版　2011

【参考書】

・Marilyn M.Friedman,R.N.,Ph.D.　野嶋佐由美監訳:家族看護学　理論とアセスメント　へるす出版　2000
・小島操子,星直子. 家族看護学　第2版. 中央法規. 2016.
・野嶋佐由美,渡辺裕子. 家族看護学選書　家族看護の基本的な考え方　第1巻. 日本看護協会出版会.　各領域より、適宜紹介する。

【オープンな教育リソース】

必要時、各専門領域の授業担当者より提示する。

【担当教員の実務経験】

看護師や助産師として、総合周産期センター、がん看護専門看護師、認知症療養型施設、精神科病棟、小児科病棟での実務経験のある教員が教育を行う。

【オフィスアワー】

時田:月～金　12:10～13:00　　各担当教員のオフィスアワーは、別途説明する。

【教員連絡先】

【時田】研究室　3号館4階　3422－2号室　jtokita@g.t-junshin.ac.jp　【塚本】研究室　mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp　【宗定】研究室　3号館4階　mmunesada@g.t-junshin.ac.jp
【大胡】研究室　3号館3階　hogo@g.t-junshin.ac.jp　【尾山】研究室　3号館4階　yoyama@g.t-junshin.ac.jp　各担当教員のオフィスアワーは、別途説明する。

【備考】

特になし

授業科目名	終末期・緩和看護学	担当教員名	宗定　水奈子			
コード	22NPR330	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

人生の最終段階をどこでどのように迎えるのが幸せなのだろうか。多くの人は「自宅」で「苦痛のない」最期を希望している。
講義では，人生の最終段階にある人の全人的苦痛を理解し，身体的・心理・社会的ケアならびにスピリチュアルなケア，家族へのケアについて学修する。
また，人生の最終段階に係る意思決定支援，緩和ケアにおける基礎的な知識と技術，看取りの看護，グリーフケアについて学び，QOLの維持・向上を支える看護援助について理解を深める。
さらに，終末期・緩和医療に係る多職種連携・チーム医療における看護師の役割について学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 終末期・緩和ケアの基本的な考え方や必要性、現在の課題について説明できる。			○		
2 苦痛の緩和に必要なアセスメント項目、薬物療法、ケアについて具体的に説明できる。		○			
3 多職種と連携・協働する必要性や看護師の責務について説明できる。			○		
4 大切な人を失う支援者(医療者を含む)の心情、ケアの必要性について説明できる。			○		
5 臨死期の身体的徴候やケア、看護師の役割について説明できる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス Ⅰ 終末期・緩和ケアの基礎知識 ・定義、歴史、法律 ・基本的緩和ケアと専門的緩和ケア ・基本的緩和ケアの3本柱(苦痛の緩和、意思決定支援、連携・橋渡し) ・全人的苦痛の考え方とアセスメントの視点 ・多職種連携の必要性とリソース	宗定	予習(90分):教科書P2-17を自己学習をしておく。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
2	Ⅱ 意思決定支援におけるコミュニケーション ①インフォームド・コンセントの基本的な考え方と意思決定支援 ②コミュニケーション ・影響を及ぼす因子 ・基本的なコミュニケーションとコミュニケーションツールNURSE ・NURSEを用いたコミュニケーションの実際(ビジュランクラウド)	宗定	予習(90分):教科書P38-55,63-68を自己学習をしておく。 復習(81分):本日の学びを振り返る。
3	Ⅲ 苦痛の緩和と多職種連携(1)症状マネジメントと緩和ケアチームとの連携 ①疼痛 ・アセスメント(疼痛の種類、NRS) ・治療と看護(WHOラダー、NSAIDsとオピオイド) ②呼吸困難 ・アセスメント(呼吸困難と呼吸不全の違い) ・治療と看護	宗定	予習(90分):教科書P20-32,176,180-181,188-195を自己学習をしておく。 復習(82分):本日の学びを振り返る。
4	Ⅲ 苦痛の緩和と多職種連携(2)症状マネジメントとリエゾンチームとの連携 ①身体的苦痛(食欲不振・嘔気嘔吐・便秘・全身倦怠感・浮腫) ・アセスメント ・治療と看護 ②精神的苦痛(不安・抑うつ・せん妄) ・アセスメント ・治療と看護	宗定	予習(90分):教科書P80-95, 97-115を自己学習をしておく。 復習(83分):本日の学びを振り返る。
5	【Aグループ】 Ⅳ 終末期(臨死期)のケア ①患者・支援者の全人的なニーズ ②患者の基本的な身体的徴候や症状とケア ③看取り時における看護師の役割と対応 Ⅴ ワークショップ(1)死生観に向き合う カードゲームを通して人生の最終段階についての自分の価値観を知る 【Bグループ】 Ⅴ ワークショップ(2)看護師のセルフケア(外部講師) ①セルフケアの必要性 ②ワークショップ:実習時にも使えるセルフケア	A:宗定 B:松原	予習(90分):教科書P224-232, 236-264を自己学習をしておく。 復習(84分):本日の経験と学びを振り返り、レポートをまとめる。
6	【Aグループ】 Ⅴ ワークショップ(2)看護師のセルフケア(外部講師) ①セルフケアの必要性 ②ワークショップ:実習時にも使えるセルフケア 【Bグループ】 Ⅳ 終末期(臨死期)のケア ①患者・支援者の全人的なニーズ ②患者の基本的な身体的徴候や症状とケア ③看取り時における看護師の役割と対応 Ⅴ ワークショップ(1)死生観に向き合う カードゲームを通して人生の最終段階についての自分の価値観を知る	B:宗定 A:松原	予習(90分):教科書P224-232, 236-264を自己学習をしておく。 復習(85分):本日の経験と学びを振り返り、レポートをまとめる。
7	Ⅵ 看護過程の展開(1) ①ミニテスト(3・4回目の授業内容)/基礎問題・応用問題/個人・グループ ②答え合わせ ③ビジュランクラウド肺がんターミナルの患者のアセスメント内容の確認 ④アセスメント	宗定	予習(90分):3・4回目の授業内容を復習したうえで、ビジュランクラウド(肺がんターミナルの患者のアセスメント)を視聴しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。

8	Ⅵ 看護過程の展開(2) ①看護診断の抽出 ②優先度の検討 ③看護計画の立案 ④発表(ギャラリーウォーク)	宗定	予習(90分):3・4回目の授業内容を復習したうえで、ビジュランクラウド(肺がんターミナルの患者のアセスメント)を視聴しておくこと。 復習(80分):本日の学びを振り返る。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		・ワークショップによって学生自身が疑似体験できる機会を作る。 ・講義内に事例を盛り込み、実習計画と結びつけて考えられるようにする。 ・授業範囲に該当する国家試験の過去問題を出題することで、国家試験に備える。 ・ビジュランクラウドを用い、臨場感のある事例をもとに看護過程を展開する。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・講義内容の質問や意見はクラスルームに配信するフォームに記入する。質問等のフィードバックは次の講義の中やクラスルームで回答する。

【成績の評価方法】

課題(ワークショップに関するレポート): 20%
定期試験60% + ミニテスト20%(個人得点、チーム得点) : 80%
合計:100%

【生成AI利活用 (無)】

【 ルーブリック評価の活用 (有)】

【履修申請上の条件】

進級要件(必修科目の未修得科目は2科目まで)を満たしている。

【教科書】

系統看護学講座 別巻 緩和ケア(第3版), 医学書院, 2020.

【参考書】

日本緩和医療学会:専門家をめざす人のための緩和医療学, 南江堂
薬物療法や症状緩和についてのガイドラインは日本緩和医療学会のHP(https://jspm.ne.jp/guidelines/index.html)からダウンロード可能
ヴィクトール・フランクル著,池田香代子訳:夜と霧, みすず書房
千葉敦子:よく死ぬことは、よく生きることだ, 文芸春秋
アーサー・クラインマン著,江口重幸訳:病いの語り, 誠信書房
アイリーン・モロフ・ラブキンら著,黒江ゆり子訳:クロニックイルネス-人と病いの新たなかかわり, 医学書院
紙屋克子:私の看護ノート,医学書院

【オープンな教育リソース】

人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン ｜厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197701.pdf
ステップ緩和ケアムービー(医療者向け):症状マネジメント. 疼痛 ｜ OPTIM:がん対策のための戦略研究「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」 http://gankanwa.umin.jp/movies.html
東京都がんポータルサイト 東京都福祉保健局 (tokyo.lg.jp) https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/

【担当教員の実務経験】

がん看護専門看護師として、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケアセンターでの実務経験のある教員が教授する。

【オフィスアワー】

月曜日～木曜日 12:10-13:00 事前にアポイントメントを取ること。

【教員連絡先】

宗定 (mmunesada@g.t-junshin.ac.jp)

【備考】

Vワークショップ(1)は、大切な人を亡くしたばかりの学生や、亡くすことが予測される状況にある学生には精神的な負荷がかかることが予測されるため、
心配な場合は、前もって教員へ伝えること。また、別の教員がファシリテーターとして参加する。
Vワークショップ(2)は体育館で行う。動きやすい服装、上履きで参加すること。ヨガマットまたはバスタオルを持参すること。

授業科目名	がん看護学	担当教員名	宗定　水奈子			
コード	22NPR331	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

新生児期から高齢期までの特徴的ながんの最新治療の現状を学び，がん看護の理解を深める。また，疼痛緩和・症状マネジメントなどの緩和ケアも学ぶ。実践例を挙げながら，対象特性を踏まえ，がんとともに生きること，がんと闘うことなどがんを病むことの意味を理解した上でのケアについて考える。また，がん患者を支える家族にも視点をあて，コーディネーターとしての看護者の役割について理解する。さらに，がんに罹患した小児患者と家族に対する特徴的な看護介入について学修する。具体的には、がんサバイバーの体験や検査、治療、リハビリテーションに伴う看護について映像を用いて視覚的に学ぶほか、最新のトピックスを取り上げ、グループディスカッション、発表を通して学びを深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 がん医療の現状を理解し、がん看護に求められる役割について説明できる。				○	
2 がん患者と家族の身体・心理・社会・スピリチュアルな特徴について説明できる。			○		
3 がんに対する治療を理解し、看護の役割について説明できる。		○			
4 がんの治療に伴う有害事象の予防、ケアについて説明できる。		○			
5 がんの治療に関連した現在の課題について討議し、意見を発表できる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス Ⅰ　がんに罹患するということ ・がんの告知を受ける患者の体験 ・初期治療を受ける患者の体験 ・治療計画と意思決定支援	宗定	予習(90分):2学年成人看護学Ⅰ(慢性期看護)でのがんについての授業を復習しておく。 厚生労働省ホームページ、東京都福祉保健局ホームページ がんポータルサイト等の資料から、日本におけるがんの現状について予習し、授業に臨む。 復習(80分):本日の学びを振り返る。
2	Ⅱ　がんの治療を受けるということ ・慢性期、再発、転移による治療期における患者の体験 ・終末期における患者の体験 ・支援者の体験 ・治療計画と意思決定支援 ・家族(支援者)看護	宗定	予習(90分):教科書P10-24, 184-231を予習する。 復習(80分):本日の学びを振り返り、発表課題に取り組む。
3	Ⅲ　がんの検査と診療における外来看護 ・診断に至るまでの検査の流れ ・初期治療を受ける準備段階にある患者の看護 ・初期治療を終えた患者の看護	宗定	予習(90分):教科書P50-81, 317-328を予習する。 復習(80分):本日の学びを振り返り、発表課題に取り組む。
4	Ⅳ　がんの治療と看護　(1)手術療法・放射線療法 ・がん手術療法の特徴と看護 ・放射線療法の特徴と看護 ・放射線療法の有害事象 ・症状緩和を目的とした照射	宗定	予習(90分):教科書P159-180, 247-258, 281-294を予習する。 復習(80分):本日の学びを振り返り、発表課題に取り組む。
5	Ⅳ　がんの治療と看護　(2)がん薬物療法 ・がん薬物療法の特徴と看護 ・抗悪性腫瘍薬の有害事象と暴露対策 ・分子標的薬と免疫チェックポイント阻害薬 ・ゲノム診断の実際と看護	宗定	予習(90分):教科書P128-158, 263-280を予習する。 復習(80分):本日の学びを振り返り、発表課題に取り組む。
6	Ⅴ　残存機能の維持向上と後遺症に対する看護 ・がんのリハビリテーションと看護 ・リンパ浮腫と看護	宗定	予習(90分):教科書P116-124, 329-258を予習する。 復習(80分):本日の学びを振り返り、発表課題に取り組む。
7	Ⅶ　がん治療とサバイバーの生活の最前線① ・最新のトピックスについての学びを発表し、互いに学び合う	宗定	予習(90分):パワーポイントを作成し、発表の準備を行う。 復習(80分):本日の学びを振り返り、領域実習、国家試験に備える。
8	Ⅶ　がん治療とサバイバーの生活の最前線② ・最新のトピックスについての学びを発表し、互いに学び合う	宗定	予習(90分):パワーポイントを作成し、発表の準備を行う。 復習(80分):本日の学びを振り返り、領域実習、国家試験に備える。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		. 1-6回目の授業では、動画を用いて視覚的に看護師の働きについて確認しながら授業を行う。 ・がんの治療や看護、サバイバーの環境等、現在のトピックスを提示する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・講義内容の質問や意見はクラスルームに配信するフォームに記入する。質問等のフィードバックは次の講義の中やクラスルームで回答する。

【成績の評価方法】

定期試験：80％
プレゼンテーション：20％　最終日の課題発表について多角的に評価する。
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

進級要件（必修科目の未修得科目は2科目まで）を満たしている

【教科書】

小松浩子著：がん看護学第2版（系統看護学講座），医学書院

【参考書】

近藤まゆみ他著：がんサバイバーシップ第二版　がんとともに生きるひとへの看護ケア，医歯薬出版
谷口直之他：がんとは何か（新・がん医学入門シリーズ①），中山書店
谷口直之他：がんはなぜできるのか（新・がん医学入門シリーズ②），中山書店

【オープンな教育リソース】

がん対策情報 ｜厚生労働省 (mhlw.go.jp) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/gan/index.html
東京都がんポータルサイト 東京都福祉保健局 (tokyo.lg.jp) https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/
HOME：[国立がん研究センター がん情報サービス (ganjoho.jp) https://ganjoho.jp/public/index.html

【担当教員の実務経験】

がん看護専門看護師としての実務経験のある教員が教授する。

【オフィスアワー】

月曜日～木曜日　12:10-13:00　事前にアポイントメントを取ること。

【教員連絡先】

宗定(mmunesada@g.t-junshin.ac.jp)

【備考】

2学年後期の成人慢性期看護学での学びを前提に、同時期に必修科目となる終末期・緩和看護学での学びも踏まえ、取り組んでもらいたい。

授業科目名	補完代替医療	担当教員名	東野友子　宗定水奈子　和智明彦　神山明子			
コード	22NPR332	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

補完代替医療とは「現代西洋医学領域外の西洋医学を補うものとして医学・医療体系の総称(Complimentary and Alternative Medicine)」とされている。NCCAM(アメリカ国立補完代替医療センター)では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基盤として補完代替医療分野の研究が進められ、欧米諸国でも伝統医療の見直しがなされ取り入れられている。本科目では、補完代替医療の代表的ないくつかを取り上げ、その特徴や位置づけなどを学ぶ。幅広い視点から環境と健康課題における発展性について議論する。漢方，鍼，灸を中心とした東洋医学医学体系から，軟骨やビタミンなどの健康食品までさまざまな療法がこの範疇に分類される。米国の国立補完代替医療センターにおける分類では、代替医療体系　伝統医学系統、民族療法(東洋伝統医学など)、精神・身体交流、瞑想、祈り、心理・精神療法、芸術療法、音楽療法、ダンス療法など、生物学に基づく療法、ハーブ、食品、ビタミン、ミネラル、生理活性分子など、整体や身体を基礎とした方法、脊椎指圧療法、整骨療法、マッサージなど、エネルギー療法、気功、霊気、セラピューティックタッチ、電磁療法など代替療法の範囲と考えられる医学体系は非常に多く、哲学的医学体系を構成するものから健康食品・サプリメント、鍼灸やマッサージ・整体などの施術まで多方面にわたる。統合医療的な幅広い視点に立ち、自然治癒力に働きかける看護独自の介入について学ぶ。さらに、代替補完医療の実際，看護への導入、活用についても学修する.

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 補完代替医療の健康観、特徴、位置づけ、臨床応用について概説できる。				○	
2 動物介在療法の概要、臨床への応用について説明できる。			○		
3 東洋医学、漢方治療の概要について説明できる。			○		
4 アロマセラピーの概要、手技、看護への応用について説明できる。			○		
5 補完代替医療の意義と看護への活用・発展について考察し、記述できる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	:補完代替医療(Complimentary Alternative Medicine:CAM)総論:NCCAM(米国国立補完代替医療センター)の研究、取組、世界の現状、厚生労働省の統合医療の取り組みなどを紹介する。CAMの特徴、一般的利用方法、看護場面での活用など。自身の関心あるCAMについて厚労省サイトで調べる。	東野	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】調べたCAMについて情報を整理しておく、授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(80分)
2	東洋医学と代替医療① 代替医療とは、代替医療の主な種類、西洋医学側からみた代替医療の種々の問題点、科学的根拠の乏しさとそれに随伴した問題、社会的背景の変化の問題、代替医療と看護師の関りなど。	和智	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(80分)
3	東洋医学と代替医療② 代替医療と西洋医療の間を埋める漢方のイメージをつかむ、日本漢方医療とは、西洋医学にはない漢方のメリット、中国医学、医療制度、こんなに違う漢方と西洋医学の差異、患者の見方、漢方治療の目指すところなど。	和智	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(80分)
4	メディカルアロマセラピー①基礎知識 補完代替医療におけるアロマセラピーの位置づけ、精油(エッセンシャルオイル)とは、法的規制と安全な精油の選択、精油の作用・副作用、精油保管上の注意点、アロマセラピーの適応、実施方法、実施上の注意点、アロマセラピーの臨床応用(事例紹介)など。	東野	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(80分)
5	メディカルアロマセラピー②基本手技 ブレンドオイルの作り方、パッチテストの実施、アロマセラピーのセルフケア体験(芳香療法)、アロマハンドマッサージ(軽擦法)体験をする。	東野	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(80分)
6	Mテクニック 臨床で活用できるテクニックを学び、相モデルでハンドマッサージを体験する。	宗定	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(80分)
7	動物介在療法① 動物介在療法と動物介在活動との違いについて学ぶ。	神山	【予習】国内外の専門学会HP,学会誌等を閲覧する(90分) 【復習】授業のノート整理、不明な用語・トピックについて調べる(80分)
8	動物介在療法② 動物介在療法の臨床応用を実際の画像を見ながら学ぶ。	神山	【予習】「CAMの看護への活用について」レポート①にまとめ準備する(90分) 【復習】最終課題レポート②「「授業全体を通して学んだこと」を作成する(80分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		医療現場で活躍するゲストスピーカーを招き、臨場感のある講義や演習を行う。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

次回の講義やクラスルームからフィードバックする。

【成績の評価方法】

レポート課題：90％（講義内容を踏まえ，文献レビューを通して適切に用いて課題を論じているか，基本的なルールに則って記載しているかを評価）
グループワークへの参画度・貢献度：10％（自主性・積極性・貢献度を評価）
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

進級要件（必修科目の未修得科目は2科目まで）を満たしている。

【教科書】

指定のテキストはない。
講義資料を配布する。

【参考書】

池川清子、江川幸二：ナースのための補完・代替療法ガイドブック、メディカ出版、2005.
上野圭一：補完代替医療入門　岩波アクティブ新書　2003.
仙頭正四郎：標準東洋医学　　金原出版　2006.
寺澤捷年、津田昌樹：絵で見る指圧・マッサージ手技、JJNブックス、医学書院、2003.
加藤逸夫、佐藤佳代子：リンパ浮腫治療のセルフケア、文光堂、2006.
荒川唱子、小板橋喜久代編：看護に活かすリラクゼーション技法-ホリスティックアプローチ-、医学書院、2001.　　他

【オープンな教育リソース】

日本統合医療学会HP　http://www.imj.or.jp
日本補完代替医療学会HP　http://www.jcam-net.jp/
日本補完代替医療学会誌　J-STAGE　https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jcam/-char/ja
厚生労働省『「統合医療」に係る情報発信等推進事業』HP　医療関係者の方へ・統合医療エビデンス　https://www.ejim.ncgg.go.jp/public/overseas/c01/01.html
米国　国立補完代替医療センター（NCCAM）HP　https://www.nccih.nih.gov/

【担当教員の実務経験】

クリニカルアロマセラピーの実践経験がある教員が担当する。非常勤講師として、東洋医学の専門家、動物介在療法の専門家を招聘する。

【オフィスアワー】

月曜日～木曜日　12:10-13:00　事前にアポイントメントを取ること。

【教員連絡先】

宗定先生：mmunesada@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	公衆衛生看護支援技術論	担当教員名	戸塚恵子・山本裕美			
コード	22NPR334	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
				○		
年次／期間	3年次/前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】
公衆衛生看護活動を展開する場において共通する技術である健康相談、健康診査、健康教育、家庭訪問等について、対象者の健康課題に応じて適切な支援技術が選択できるように学修する。健康相談(面接相談、電話相談、ICTを活用した相談等)では、相談の契機や具体的な展開方法について学ぶ。また、健康診査では、住民が主体的な健康づくりのための動機付けの場としての役割や健康診査で行われる保健指導の具体的な支援方法について学修していく。さらに、健康教育では、健康教育の媒体の選定や健康教育の評価方法等を学ぶ。家庭訪問では低出生体重児や新生児訪問指導において、児の発育・発達や母親の育児不安等、課題を解決できるようアセスメントと支援方法について学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 公衆衛生看護活動における活動方法の特徴を説明できる。		○			
2 地域の人々の健康課題に適した支援方法を選択できる。		○			
3 公衆衛生看護活動の具体的な展開方法として対象者に適した健康相談・家庭訪問の企画・立案ができる。		○			
4 健康課題に応じた健康教育の企画・立案ができる。		○			
5 地域ケアシステムの構築に向けたネットワーク化の重要性を説明できる。		○			○
6 保健師の専門性について理解を深め，公衆衛生看護活動の特徴について考察ができる。		○			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 1)公衆衛生看護における機能と技術 2)公衆衛生看護の基盤となる理論 コニュニティーエンパワーメント、コミュニティオーガニゼーション コミュニティ-アズ-パートナーモデル、プロシード-プロシードモデル	戸塚	【予習】(60分): 教科書の第1章・第3章を熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
2	健康診査1 健康診査とは 健康診査の方法 周知方法と健康診査受診の動機付け 健康診査における保健指導	戸塚	【予習】(60分): 教科書の第4章Dを熟読し、まとめておくこと。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
3	健康診査2 健康診査の実際(乳幼児健診) 健診の流れ(問診・計測・診察介助・保健指導)の実施と注意事項 問診をロールプレイで実施	戸塚 山本	【予習】(60分): 乳幼児の発育・発達について復習しておくこと。 【復習】(120分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
4	健康診査3 健康診査の実際(特定健康診査・特定保健指導) 生活習慣病における保健指導 特定保健指導をロールプレイで実施	戸塚 山本	【予習】(60分): 『公衆衛生看護学概論』の「特定健康診査・特定保健指導」を復習しておくこと。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
5	健康相談1 健康相談の方法と特徴(電話・面接・ICTを用いた保健指導) 健康相談の種類と展開方法 支援者の基本姿勢 健康相談から地域活動への展開	戸塚	【予習】(60分): 教科書の第4章A・B・Cを熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を整理しておくこと。
6	健康相談2 事例による健康相談の実際 電話相談をロールプレイで実施	戸塚 山本	【予習】(60分): 指定された事例を読んでおくこと。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
7	健康教育1 健康教育の実際(乳幼児健診) グループワーク:事例を用いてグループ検討	戸塚 山本	【予習】(60分): 教科書の第6章A・B・Cを熟読し、まとめておくこと。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、健康教育の企画書を作成する。
8	健康教育2 健康教育の実際(特定健康診査・特定保健指導) グループワーク:事例を用いてグループ検討	戸塚 山本	【予習】(60分): 教科書の第6章D・Eを熟読し、まとめておくこと。 【復習】(120分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
9	家庭訪問による支援1 家庭訪問の目的・機能・プロセス・具体的な手順 受け入れ困難事例への対応 プライバシーの配慮	戸塚	【予習】(60分): 教科書の第5章Aを熟読し、まとめておくこと。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
10	家庭訪問による支援2 低出生体重児の母子への支援 グループワーク:事例を用いてグループ検討	戸塚	【予習】(60分): 教科書の第5章B　事例1を読んでおくこと。 【復習】(180分): 授業内容を振り返り、家庭訪問のポイントを整理しておくこと。
11	家庭訪問による支援3 発達の課題を抱える母親への支援 グループワーク:事例を用いてグループ検討	戸塚 山本	【予習】(30分): 教科書の第5章B　事例2を読んでおくこと。 【復習】(60分): 授業内容を振り返り、家庭訪問のポイントを整理しておくこと。
12	家庭訪問による支援4 脳梗塞・認知症高齢者・家族への支援 グループワーク:事例を用いてグループ検討	戸塚	【予習】(60分): 教科書の第5章B　事例3を読んでおくこと。 【復習】(120分): 授業内容を振り返り、家庭訪問のポイントを整理しておくこと。

13	家庭訪問による支援5 難病の患者・家族への支援 グループワーク:事例を用いてグループ検討	戸塚 山本	【予習】(60分): 教科書の第5章B　事例4を読んでくること。 【復習】(180分): 授業内容を振り返り、家庭訪問のポイントを整理しておくこと。
14	公衆衛生看護の記録 公衆衛生看護の記録の意義・特徴 記録の書き方 情報の取扱いに関する注意事項	戸塚	【予習】(60分): 教科書の「公衆衛生看護の記録」を熟読し、まとめておくこと。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
15	地域ケアシステムの構築とネットワーク化 社会資源の開発 地域ケアシステムの構築と評価 ネットワークの形成とケアコーディネーション	戸塚	【予習】(30分): 教科書の第8章を熟読し、まとめておくこと。 【復習】(360分): 授業内容を振り返り、課題レポートに取り組むこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは、授業内で行う。
リフレクションシートの質問には、次回の授業もしくは個別にフィードバックする。

【成績の評価方法】

課題レポート:50%
定期試験:50%
合計:100%
※課題レポートについて、遅れて提出した場合も受け取るが5割の評価となる。
【生成AI利活用（　　無　）】
【 ルーブリック評価の活用（　有　　）】

【履修申請上の条件】

看護学部の進級要件に準じ、保健師課程の履修許可を得ていること。

【教科書】

標準保健師講座2　公衆衛生看護技術　中村裕美子他　医学書院
標準保健師講座1　公衆衛生看護学概論　標美奈子他　医学書院

【参考書】

最新保健学講座　健康教育論　宮坂忠夫他　メヂカルフレンド社
健康行動理論の基礎　松本千秋著　医歯薬出版
乳幼児健診マニュアル第7版　　福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会　医学書院
保健師　地域の健康を紡ぐその働きと能力形成　高尾茂子　ふくろう出版

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

戸塚恵子:社会福祉士・精神保健福祉士の資格や看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。
山本裕美:実務経験:精神保健福祉士の資格、看護師経験、母子、成人、高齢者、精神障害の方への支援などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

戸塚恵子:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00
山本裕美:月～金　昼休み12:10～13:00

【教員連絡先】

戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp
山本裕美:hiyamamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特に無し

授業科目名	公衆衛生看護支援技術演習	担当教員名	上田修代・戸塚恵子			
コード	22NPR335	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
				○		
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

公衆衛生看護技術の基本である、家庭訪問、健康相談、健康診査について、演習を交えながら実践的に学ぶ。家庭訪問では、対象者の把握や優先順位、情報取集・アセスメント、家庭訪問計画の立案、実施・評価のプロセスを学び、新生児家庭訪問等の演習を通し、具体的な実践方法を学修する。健康相談では相談育児相談や高齢者相談など事例を通して、対象者のアセスメントと情報の整理を行い、具体的な相談をロールプレイで取り組む。また、電話相談では実際の電話でのやり取りを実践する。健康診査では、乳幼児健診の実施方法、個別・集団指導、継続支援や未受診児への対応について、成人・高齢者では、特定健康診査や特定保健指導等について、グループワークやロールプレイを用いて学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 対象者の状況を踏まえた公衆衛生看護技術を選択できる。		○	○		
2 乳幼児健診における問診、計測方法、視力・聴力検査の方法が説明できる。		○	○		
3 対象者の状況を踏まえて健康相談の計画・立案・実施・評価ができる。		○	○		
4 対象者の状況を踏まえて健康教育の計画・立案・実施・評価ができる。		○	○		
5 対象者の状況を踏まえた家庭訪問の計画・立案・実施・評価ができる。		○	○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 健康診査1(教科書p128～130) 【実技】 3～4か月健診の実際(問診・計測・診察介助・保健指導) 問診票を使いグループごとに、3～4か月健診時の児の発育栄養状態、精神、運動機能の発達、疾病や異常の確認及び保護者の心配事や訴え等を受けとめ配慮できる保健指導の流れの演習を実施する。	上田 戸塚(恵)	【予習】(60分):教科書p128～130を読んでおく。 3～4か月健診時の児の発育栄養状態、精神、運動機能の発達、疾病や異常の観察点、及び予想される保護者の心配事や訴え等をまとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
2	健康診査2 【実技】 3歳児健診の実際(問診・計測・視力検査・聴力検査) 問診票を使いグループごとに、3歳健診時の児の発育栄養状態、精神、情緒、運動機能の発達、疾病や異常の確認、生活習慣の自立、保護者の心配事や訴え等を受けとめ配慮できる保健指導の流れの演習を実施する。	上田 戸塚(恵)	【予習】(60分): 3歳児の児の発育栄養状態、精神、情緒、運動機能の発達、疾病や異常、生活習慣の自立の観察点、及び予想される保護者の心配事や訴え等をまとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
3	健康相談1 【演習】 育児相談における支援の実際・相談記録 育児相談事例を用い、児の発育栄養状態、精神、情緒、運動機能の発達、生活習慣の自立の観察点、保護者の困りごとの元となっていることが何なのか探り、保護者に寄り添った育児相談の演習と相談記録を記載する。	上田 戸塚(恵)	【予習】(60分):教科書p90～113、p114～121を読んでおく。 事例の育児相談を読み、児の発育栄養状態、精神、情緒、運動機能の発達、生活習慣の自立の観察点、 保護者の困りごとの元となっていることが何なのかまとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
4	健康相談2 【演習】 高齢者相談における支援の実際・相談記録 高齢者相談事例を用い、相談のきっかけ、相談関係を築く方法、相談内容の整理とアセスメントを実施し、支援の方向性を見据えた相談の演習と相談記録を記載する。	上田 戸塚(恵)	【予習】(60分): 事例の高齢者相談について、不明点を調べておく。地域で利用できる認知症高齢者の社会資源について調べておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
5	家庭訪問1 (教科書p154～160) 【演習】 新生児家庭訪問の実際(訪問計画立案) 事例を用い、出生通知書や母子健康手帳より児の出生状況、身体面・発達面の情報を収集しアセスメントする。また、母親の身体面の回復の情報収集や精神面の状況を確認しアセスメントする。母親の精神面では、EPDS、赤ちゃんへの気持ち質問表(ボンディング)についての演習を実施する。そして家庭訪問目標や実施計画を立案する。	上田 戸塚(恵)	【予習】(60分):教科書p154～160を読んでおく。 新生児家庭訪問における児の出生状況、身体面・発達面で観察する点、母親の身体面・精神面での観察する点を調べておく。母子健康手帳について調べておく。育児にまつわる社会資源を調べておく。 【復習】(90分): 母親へ精神面の状況を確認するEPDS、赤ちゃんへの気持ち質問表(ボンディング)について復習し、訪問計画を完成させておく。
6	家庭訪問2 【実技】 新生児家庭訪問の実際(場面の展開・記録・報告) 立案した家庭訪問計画に沿って、グループごとに分かれて実際の家庭訪問演習を実施し、 実施後の振り返りを行い、訪問記録の作成する。	上田 戸塚(恵)	【予習】(60分): 事例の新生児家庭訪問における育児の相談の特徴について調べておく。 【復習】(90分): 訪問計画・訪問記録等をまとめておく。
7	家庭訪問1 (教科書p167～171の上部) 【演習】 高齢者家庭訪問の実際(訪問計画立案) 事例を用い、高齢者の身体面や精神面の状況を確認し、アセスメントする。 そして、それら情報を元に家庭訪問目標や実施計画を立案する。	上田 戸塚(恵)	【予習】(60分):教科書p167～171を読んでおく。 事例の高齢者家庭訪問の計画策定をしておく。 【復習】(90分): 訪問計画を完成させておく。

8	家庭訪問2 【実技】 高齢者家庭訪問の実際（場面の展開・記録・報告） 立案した家庭訪問計画に沿って、グループごとに分かれて実際の家庭訪問演習を実施し実施後の振り返りを行い、訪問記録の作成する。	上田 戸塚（恵）	【予習】(60分)： 事例の高齢者家庭訪問に必要な社会資源等に結びつけた支援方法について調べておく。 【復習】(90分)： 訪問計画・訪問記録等をまとめておく。 ＊授業外学習時間は、30時間必要であるため、不足分は休日等を活用し復習すること。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは、授業内で行う。
リフレクションシートの質問には、次回の授業もしくは個別にフィードバックする。

【成績の評価方法】

授業のレポート（乳幼児健診記録・健康相談記録・家庭訪問記録）80％
課題レポート20％（提出期限が過ぎた場合も受け取るが、評価は減点の対象となる）
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

標準保健師講座2　公衆衛生看護技術　中村裕美子他　医学書院

【参考書】

乳幼児健診マニュアル第6版　医学書院

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

上田修代：保健師、看護師、養護教諭1種免許取得。保健所・市町村保健センター保健師として従事し、母子、精神、成人・高齢者、難病、新型コロナ感染症などの感染症対策の実務経験を活かし講義を行う。
戸塚恵子：社会福祉士・精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

上田修代：月～金（木を除く）昼休み12：10～13：00
戸塚恵子：月～金（水を除く）昼休み12：10～13：00

【教員連絡先】

上田修代：nueda@g.t-junshin.ac.jp
戸塚恵子：ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

2024年11月11日

看護学部

2025(令和7)年度

授業科目名	対象別公衆衛生看護論	担当教員名	山本裕美			
コード	22NPR336	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位/30時間/講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

対象者の発達段階や健康課題のレベルに応じた制度や施策、地域の社会資源を活用し、地域の人々が主体的に課題を解決できるよう、対象者別・機関別に保健活動の展開方法について学修する。具体的には、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、障害者(児)保健、難病保健、年代に応じた歯科保健、感染症対策など、各分野における予防の視点を重視する活動とともに、地域包括ケアの構築に向けた地域づくりについて学ぶ。また、学校保健においては、養護教諭の職務、保健室の機能、安全を守る制度や仕組み、特別な配慮を要する子どもへの対策と支援を学ぶ。産業保健においては、職場における健康を守るしくみ法や制度、産業保健活動の展開方法を学修し、労働者の環境整備や健康管理などを学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 母子保健において、妊娠期、乳幼児期等、発達に合わせた保健指導の展開方法が説明できる。			○		
2 ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの連動による活動の展開について説明できる。				○	
3 高齢者虐待等、要援護高齢者を支援するための法制度や社会資源を説明できる。			○		
4 難病患者を地域で支えるための地域ケアシステムについて説明できる。			○		
5 学校における保健活動の内容について説明できる。			○	○	
6 産業保健において、労働者の健康課題に対する支援方法について説明できる。			○	○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1 4/10	母子(親子保健)保健活動の実際1 母子保健の理念・歴史的変遷　思春期の健康課題と保健師活動 妊娠・出産に伴う保健師活動	山本	【予習】(60分): 教科書　第1章A・Bを熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
2 4/10	母子(親子保健)保健活動の実際2 乳幼児の発達 乳幼児の栄養・食事と保健指導 乳幼児の事故の特徴と事故防止の指導 乳幼児健診演習(ロールプレイ)グループワークにより学びの共有	山本	**【予習】(60分):** **教科書　第1章C・Dを熟読し、まとめておく。** **【復習】(90分):** **授業内容を振り返り、整理しておくこと。**
3 4/17	成人・高齢者保健活動の実際1 がん対策 ハイリスクアプローチ ポピュレーションアプローチ(集団・地域全体への支援)	山本	【予習】(60分): 教科書　第2章を熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。UU31:AL43
4 4/17	成人・高齢者保健活動の実際2 高齢者虐待防止法について 在宅要援護高齢者と家族への保健指導 グループワークにより学びの共有	山本	**【予習】(60分):** **教科書　第3章を熟読し、まとめておく。** **【復習】(90分):** **授業内容を振り返り、整理しておくこと。**
5 4/24	精神保健活動の実際1 精神障害者が抱える生活のしづらさの理解 精神保健相談・家庭訪問などの支援 危機介入・緊急事態対応	山本	【予習】(60分): 教科書　第4章A・Bを熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
6 4/24	精神保健活動の実際2 アディクションの特徴 アディクションの回復に向けた保健活動 アディクションの予防に向けた保健活動 グループワークにより学びの共有	山本	**【予習】(60分):** **教科書　第4章Cを熟読し、まとめておく。** **【復習】(90分):** **授業内容を振り返り、整理しておくこと。**
7 5/1	障害者(児)保健活動 障害者総合支援法 障害者と家族への支援 難病保健活動の実際1 難病医療費助成申請時の面接 難病患者の療養相談 難病患者の家庭訪問	山本	【予習】(60分): 教科書　第5章、第6章を熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
8 5/1	難病保健活動の実際2 神経系難病患者と家族への保健指導 神経系難病患者と家族が抱える健康課題のアセスメント 医療依存度の高い難病患者の支援 地域支援のネットワークづくりと地域ケアシステム グループワークにより学びの共有	山本	**【予習】(60分):** **教科書　第6章を熟読し、まとめておく。** **【復習】(90分):** **授業内容を振り返り、整理しておくこと。**
9 5/8	歯科保健 歯科保健の重要性 歯科保健における状態の現状 ライフステージにおける歯科・口腔保健	山本	【予習】(60分): 教科書　第8章を熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
10 5/8	学校保健1 学校保健の目的、養護教諭の役割、機能 学校保健の動向 学校保健に関する制度としくみ 子ども(家族)の健康・成長発達のアセスメント	山本	**【予習】(90分):** **教科書　第9章Aを熟読し、まとめておく。** **【復習】(90分):** **授業内容を振り返り、整理しておくこと。**
11 5/9	学校保健2 発達段階別にみる対象の特徴と健康課題への対策と支援 対象者の主な健康課題と対策・支援 特別な支援を要する子ども(保護者)への対策と支援 学校保健活動における多職種連携 学校における健康危機管理	山本	【予習】(90分): 教科書　第9章Bを熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
12 5/12	産業保健1 産業保健とは 職場における健康を守るしくみ 産業保健活動の展開 産業保健における今後の課題	山本	**【予習】(90分):** **教科書　第10章Aを熟読し、まとめておく。** **【復習】(90分):** **授業内容を振り返り、整理しておくこと。**
13 5/12	産業保健2 産業保健における公衆衛生活動の実際 ・対象者の主な健康課題と対策・支援 ・健康リスクをもつ労働者への支援 ・事業所におけるヘルスプロモーション ・リスクマネジメントシステム	山本	【予習】(90分): 教科書　第10章Bを熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、整理しておくこと。
14 5/22	健康危機管理(感染症対策) 結核における保健指導(患者管理・服薬支援)・定期外健診、職域との連携 CIVID-19における保健師活動の実際 視聴映像:健康危機管理の保健師活動 感染症パンデミック編	山本	**【予習】(90分):** **教科書　第7章を熟読し、まとめておく。** **【復習】(90分):** **授業内容を振り返り、整理しておくこと。**
15 5/22	健康危機管理(災害対応) 視聴映像:自然災害編 (受け入れ困難事例への対応) 【演習】 グループワークにより学びの共有・看護職としての役割の検討	山本	【予習】(90分): 教科書　第7章を熟読し、まとめておく。 【復習】(90分): 授業内容を振り返り、課題レポートをまとめる。 ＊授業外学習時間は、60時間必要であるため、不足分は休日等を活用し復習すること。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題や質問のフィードバックは、授業もしくは個別に行う。

【成績の評価方法】

定期試験80%、課題レポート20%として評価する。
※課題レポートについて、遅れて提出した場合も受け取るが5割の評価となる。
合計:100%

【生成AI利活用　　無　　】

【 ルーブリック評価の活用　有　】

【履修申請上の条件】

なし

【教科書】

標準保健師講座3　対象別公衆衛生看護活動　中谷芳美他　医学書院

【参考書】

授業内で提示する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

山本裕美:精神保健福祉士の資格、看護師経験、母子、成人、高齢者、精神障害の方への支援などの保健師の実務経験を活かし講義を行う

【オフィスアワー】

山本裕美:月～金　昼休み12:10～13:00

【教員連絡先】

山本裕美:hiyamamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	地域活動支援演習	担当教員名	戸塚恵子			
コード	22NPR337	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
				○		
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

公衆衛生看護学実習を実施する保健所や市町村の管轄地域の地域診断演習を通して、地域診断の目的や方法を学ぶ。コミュニティ-アズ-パートナーモデルを用いて、地域の資料・データ収集や地区踏査を実施し、情報の分析とアセスメントを行う。地域で生活している人々の健康や生活の質の向上を目指して、個人・家族・地域全体の潜在的・顕在的な健康課題を把握し、その原因や背景を探りながら、解決の方向性を見出す理論と活用方法について学修する。また、健康課題を解決していくための事業化・施策化に向けた計画の策定、実施、評価等のPDCAサイクル、その過程における住民参加の意義、行政内の関係部署と連携・協働等から、行政保健師として果たす役割について理解を深めていく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 地域診断の目的・意義・方法を理解できる。		○			
2 実習施設管轄地域の疫学データ、保健統計、地域の情報など既存資料から情報収集ができる。		○			
3 地区踏査から地域で生活する人々の生活実態、地域の社会資源を把握することができる。		○			
4 既存資料と地区踏査の情報を統合し、地域診断が実施できる。		○			
5 地域診断に基づき、健康課題の抽出、活動計画(事業化・施策化)の策定プロセスが説明できる。		○			
6 活動計画(事業化・施策化)策定過程における地域住民との協働、多職種連携、関係部署との連絡・調整等の重要性を理解できる。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 地域診断の目的・意義・方法 ・コミュニティ-アズ-パートナーモデルについて ・プリシード-プロシードモデルについて 公衆衛生看護活動の計画・実施・評価 健康課題を改善・解決するための事業化と施策化 ・保健計画の策定のプロセス ・住民参加の目的と意義 ・多職種・関係部署との連携 ・事業計画と予算 ・事業計画の評価 ・社会資源の活用と開発実習施設の自治体(市)	戸塚	予習(120分) ・「公衆衛生看護技術論」のコミュニティ-アズ-パートナーモデル、プリシード-プロシードモデルについて復習しておく。 ・コミュニティ-アズ-パートナーモデルに基づき、実習施設の保健所・市町村保健センターに関する情報収集をしておくこと。 復習(60分) ・復習テストを実施し、理解を深めておく。
2	市町村保健センターの地域に関する既存資料からの情報収集・分析1 ・実習施設の自治体(市)・小グループに分かれ、コミュニティ-アズ-パートナーモデルのコア・サブシステムの項目を中心に収集した情報の整理	戸塚	予習(120分) ・コミュニティ-アズ-パートナーモデルに基づき、実習施設の保健所・市町村保健センターに関する情報収集をしておく。 復習(120分) ・収集した情報をパワーポイントや白地区などを用いてまとめる。
3	市町村保健センターの地域に関する既存資料からの情報収集・分析2 ・実習施設の自治体(市)・小グループに分かれ、収集した情報を基に分析 ・地区踏査の計画・立案	戸塚	予習(120分) ・コミュニティ-アズ-パートナーモデルに基づき、実習施設の保健所・市町村保健センターに関する情報収集をしておく。 復習(120分) ・収集した情報・分析結果をパワーポイントや白地図等などに追加する。
4	市町村保健センターの地域に関する既存資料からの情報収集・分析3 ・実習施設の自治体(市)・小グループに分かれ、収集した情報を基に分析 ・地区踏査の計画・立案	戸塚	予習(120分) ・コミュニティ-アズ-パートナーモデルに基づき、実習施設の保健所・市町村保健センターに関する情報収集をしておく。 復習(120分) ・収集した情報・分析結果をパワーポイントや白地図などを用いてまとめる。
5	市町村保健センターの管轄の地区踏査1	戸塚	予習(60分) ・地区踏査の計画を熟知しておく。 復習(60分) ・地区踏査で得られた情報をパワーポイントや白地図等に加筆修正する。
6	市町村保健センターの管轄の地区踏査2	戸塚	予習(60分) ・地区踏査の計画を熟知しておくこと。 復習(60分) ・地区踏査で得られた情報をパワーポイントや白地図等に加筆修正しておくこと。
7	市町村保健センターの地区診断に関するまとめ	戸塚	予習(60分) ・既存の資料やデータ、地区踏査で得られた情報を基に、地区診断を行っておくこと。 復習(120分) ・グループワークで深めた地区診断を追加修正しておくこと。
8	保健所の管轄の地域診断発表会・意見交換会 ・地域診断をプレゼンテーション、意見交換の実施	戸塚	予習(120分) ・プレゼンテーションの準備をしておく。 復習(60分) ・プレゼンテーションの意見交換で得られた新たな視点を追加する。
9	保健所の地域に関する既存資料からの情報収集・分析1 ・実習施設の自治体(市)・小グループに分かれ、コミュニティ-アズ-パートナーモデルのコア・サブシステムの項目を中心に収集した情報の整理	戸塚	予習(60分) ・コミュニティ-アズ-パートナーモデルに基づき、実習施設の保健所に関する情報収集をしておく。 復習(120分) ・収集した情報をパワーポイントや白地区などを用いてまとめる。
10	保健所の地域に関する既存資料からの情報収集・分析2 ・実習施設の自治体(市)・小グループに分かれ、収集した情報を基に分析 ・地区踏査の計画・立案	戸塚	予習(60分) ・コミュニティ-アズ-パートナーモデルに基づき、実習施設の保健所に関する情報収集をしておく。 復習(120分) ・収集した情報・分析結果をパワーポイントや白地図等などに追加する。

11	保健所の地域に関する既存資料からの情報収集・分析3 ・実習施設の自治体(市)・小グループに分かれ、収集した情報を基に分析 ・地区踏査の計画・立案	戸塚	予習(60分) ・コミュニティ-アズ-パートナーモデルに基づき、実習施設の保健所に関する情報収集をしておく。 復習(120分) ・収集した情報・分析結果をパワーポイントや白地区などを用いてまとめる。
12	保健所の管轄の地区踏査1	戸塚	予習(60分) ・地区踏査の計画を熟知しておくこと。 復習(120分) ・地区踏査で得られた情報をパワーポイントや白地図等に加筆修正しておくこと。
13	保健所の管轄の地区踏査2	戸塚	予習(60分) ・地区踏査の計画を熟知しておくこと。 復習(120分) ・地区踏査で得られた情報をパワーポイントや白地図等に加筆修正しておくこと。
14	保健所センターの地区診断に関するまとめ	戸塚	予習(60分) ・既存の資料やデータ、地区踏査で得られた情報を基に、地区診断を行っておくこと。 復習(120分) ・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
15	保健所の管轄の地域診断発表会・意見交換会 ・地域診断をプレゼンテーション、意見交換の実施	戸塚	予習(120分) 復習(60分) ＊時間外学習時間は、60時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・地区踏査を除く授業の中で、行っていく。

【成績の評価方法】

地区診断　市町村40%、保健所40%
プレゼンテーション　市町村10%、保健所10%
合計:100%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　有　)】

【履修申請上の条件】

保健師課程における4年次生への進級要件と同様である。

【教科書】

1. 標準保健師講座1　公衆衛生看護学概論　標美奈子他　医学書院
2. 標準保健師講座2　公衆衛生看護技術　中村裕美子他　医学書院
3. 国民衛生の動向 2024/2025　厚生労働統計協会

【参考書】

地域診断[第2版]金川克子　田髙悦子著
地域看護アセスメントガイド　第2版　佐伯和子編著　医歯薬出版株式会社

【オープンな教育リソース】

保健師課程に在籍し、保健師課程の進級要件を満たしていること。

【担当教員の実務経験】

戸塚恵子:社会福祉士・精神保健福祉士の資格や看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

戸塚恵子:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00

【教員連絡先】

戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	基礎看護技術実習	担当教員名	原口真由美 ・ 安藤幸枝 ・ 岩淵正博 ・ 髙山由利江　他			
コード	22NPR338	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30 時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
○	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
○	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本科目では、療養生活の場に出向き、患者とのコミュニケーションや環境調整や清潔の援助など看護援助場面の一部実施を通して、患者におこなわれている日常生活の援助について学ぶ。
主な実習の目的は、対象との関わりと看護実践の場への参加を通して、療養生活をしている対象を理解することである。学生は、看護師のシャドーイングや実際に看護実践を一部援助することで療養環境や看護援助を理解し、患者と接することにより、看護者としてふさわしい行動や看護について考え、理解を深める。
本科目は、医療施設において看護学生としての学習方法を学ぶ最初の実習である。実習では、他者と関わることで自己を振り返り、看護学生としての自覚と責任ある行動をとることが求められる。今後の看護の学修への動機づけにもなる科目でもあり、臨床で学生が計画性をもって行動すること、チームの一員であるという自覚をもって行動できることに繋がる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	患者の療養環境と療養生活を述べることができる。			○		
2	看護の実際を説明することができる。		○	○		
3	患者を尊重しながら、会話をすることができる。			○		
4	自己の振り返りや他者との情報共有を通して、学びを深めることができる。				○	
5	看護学生として自覚と責任ある行動をとり、主体的に実習に取り組むことができる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	詳細は基礎看護技術実習要項を参照	原口、安藤、岩淵、髙山	【実習1日目】 予習(25分): ・実習目標を理解し、各自の実習目標を立てる。 ・実習当日の一日の行動計画を立てる。 ・実習に向けた事前課題を準備する。 ・必要な援助技術の練習を行う。 復習(20分): ・本日の目標を評価し、明日の行動計画を立案する。
2	実習期間:1クール目:2025年12月9日(月)ー12月13日(金) ・2クール目:2025年12月15日(月)ー12月19日(金)		
3	実習時間:原則として8:30～16:00		
4	実習施設:聖マリアンナ医科大学病院　ほか		
5	実習方法:		【実習2日目・3日目】 予習(各25分): ・実習目標を記録用紙に記載する。 ・見学及び一部実施できる援助技術の手順を確認する。 復習(各20分): ・実習を振り返り、記録用紙を整理する。 ・見学・実施した看護援助について振り返り、翌日の行動計画に活用する。
6	・学生は5～7名程度でグループを編成し、各病棟に分かれて実習を行う。		
7	・病院・病棟オリエンテーションを受ける。		
8	・患者に行われている看護援助を見学する。		
9	・看護師とともに患者に行われている看護援助を一部実施する。		【実習4日目】 予習(25分): ・実習目標を記録用紙に記載する。 ・見学及び一部実施できる援助技術の手順を確認する。 復習(20分): ・実習を振り返り、記録用紙を整理する。 ・実習の学びについてまとめておく
10	(スタンダードプリコーション・環境整備・シーツ交換・清潔援助・移動／移送の援助)		
11	・療養環境を観察する。		
12	・患者と会話をする。		【実習5日目】 学内 予習(各25分) ・4日間で学んだ内容をグループで共有する。 ・4日間で学んだ内容を記録用紙を使用して整理する。 ・評価表を基に自己評価をする。 ・教員による指導を受ける。 復習(各20分) 学内で指導を受けた内容をもとに記録用紙の整理をする。 ・実習記録提出。
13	・情報共有や疑問解決のために、毎日、グループカンファレンスを行う。		
14	・実習の翌週に個別面接を行い、自身の学びを客観的に評価する。		
15			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		・基礎看護技術実習前に、グループを中心に実習室を有効活用して、 看護技術の復習をする。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・実習中の質問や疑問は、当日や翌日に実習担当教員や実習指導者より返答する。また、必要時、記録の提出にコメントを入れて返却する。

【成績の評価方法】

・実習目標の到達度を実習内容・態度・実習記録・カンファレンスへの参加度などをもとに、評価表の評価項目（100％）に沿って総合的に評価する。
・実習記録物の提出が指定された期日および時間に遅れた場合は、不合格となる。
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】 評価表は、実習要項に掲載する。

【履修申請上の条件】

・特になし。

【教科書】

・特に指定しない。

【参考書】

・既習学習で使用したテキストや授業資料など

【オープンな教育リソース】

・特になし。

【担当教員の実務経験】

・看護師として臨床経験のある教員および、看護教育に従事した経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護の思考過程や援助技術の実践などについて教授する。

【オフィスアワー】

・担当教員…実習病院で実習時間内に行う。

【教員連絡先】

・原口真由美＜mharaguchi@g.t-junshin.ac.jp＞
各担当教員の連絡方法は、別途説明する（Gmailもしくは、実習用携帯）。

【備考】

・「看護学概論」「基本援助技術」の単位修得が望ましい。
・「生活援助技術」の履修中が望ましい。
・実習オリエンテーションでは、事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。
・基礎看護技術実習の翌週には、評価面接と記録提出日を設けるため、出席すること。
・健康管理に十分留意して実習に臨むこと。

授業科目名	公衆衛生看護学概論	担当教員名	戸塚恵子・山本裕美			
コード	22NPR333	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

地域で生活する人々の健康に関する課題やニーズは，多様化，複雑化してきている。本講座では、個人・家族の状況も踏まえつつ、地域及び地域を構成する人々の心身の健康の維持・増進、疾病・障害の予防、回復・改善させるための保健活動について基本的な知識・技術を学ぶ。具体的には，母子保健では，育児不安の対応や虐待予防等，子ども・育児を取り巻く健康課題と支援等について学修する。また、成人・産業保健では、生活習慣病や特定保健指導、高齢保健では，介護・認知症予防等について学ぶ。さらに、こころの健康づくりや自殺予防，障害者(児)や難病患者への支援、ライフステージに合わせた歯科保健活動、地域における感染症対策について学修していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 公衆衛生看護の定義、目的、対象、方法が説明できる。		○			
2 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションについて説明できる。		○			
3 公衆衛生看護における予防の重要性を説明できる。			○		
4 公衆衛生看護における健康の維持・増進、改善を目指す活動方法について説明できる。			○		
5 母子、成人、高齢者、障害者(児)、精神、学校、歯科、感染症対策の各分野における法制度・施策を説明できる。				○	
6 地域の人々と協働し、地域の健康課題を改善するための保健師・看護師の役割を考察できる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1・2回 4/11 1・2限	オリエンテーション 公衆衛生看護の定義・目的・対象・活動の場 1)公衆衛生の定義・目的・対象 2)プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションと最近の動向 3)公衆衛生活動のプロセス	戸塚	【予習】(30分): 教科書 第1～2章を熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 教科書 第1・2章の「ゼミナール復習と課題」を行っておくこと。Google formsにより学修の理解度を確認する。
	公衆衛生システムと政策 1)保健所の役割・機能、保健所保健師の役割・保健活動 2)市町村保健センターの役割・機能、市町村保健師の役割・保健活動 ＜グループワーク＞ 保健所と市町村の役割について討議する。地域課題への対応について検討する。	戸塚	【予習】(30分): 教科書 第3章を熟読し、まとめておくこと。 【復習】(60分): 自分が住んでいるところを管轄する市町村保健センターの取り組みを調べておくこと。
3・4回 4/18 1・2限	母子(親子)保健 1)母子保健統計の動向 2)母子保健の活動理念 3)母子保健活動の実際と課題	戸塚	【予習】(30分): 教科書 第8章A・B①～④を熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 自分が住んでいる市町村の母子保健施策を調べておくこと。
	母子(親子)保健 1)育児支援のための母子保健活動 2)乳幼児の発育・発達 3)育児支援	戸塚	【予習】(30分): 市町村発行の広報誌から保健に関する情報収集をしておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第8章の「ゼミナール復習と課題」A・Bを行っておくこと。Google formsにより学修の理解度を確認する。
5・6回 4/25 1・2限	児童虐待の予防と対策1 1)児童虐待の現状と課題 2)児童虐待防止に関わる法制度 3)児童虐待予防のための保健活動(関係機関・多職種との連携)	戸塚	【予習】(30分): 教科書 第8章A・B⑤～⑥を熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 最近の児童虐待に関する新聞記事を読み、内容と考察を1,000字程度でまとめておくこと。
	児童虐待の予防と対策2 1)地域における児童虐待対応の実際 2)グループワークにより学びの共有・看護師・保健師の役割について ＜グループワーク＞ 体験談を読み、感想等を話し合い、発表する。	戸塚 山本	【予習】(30分): 教科書 第8章A・B⑤～⑥を熟読し、まとめておく。 【復習】(120分): 最近の児童虐待に関する新聞記事を読み、内容と考察を1,000字程度でまとめておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
7・8回 5/1 1・2限	成人保健 1)日本人の健康と課題 2)生活習慣病の現状と対策 3)健康日本21(第2次・第3次)	戸塚	【予習】(30分): 教科書 第8章Cを熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 教科書 第8章の「ゼミナール復習と課題」Cを行っておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
	産業保健 1)産業保健の目的と特徴 2)労働衛生関係法令 3)特定健康診査・特定保健指導 ＜グループワーク＞ 事例に適切な特定保健指導の指導方法について検討する。	戸塚 山本	【予習】(30分): 教科書 第10章を熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 教科書 第10章の「ゼミナール復習と課題」を行っておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
9・10回 5/16 1・2限	高齢者保健福祉1 1)高齢者を支えるシステム・制度 2)地域包括ケアシステムの構築 3)地域住民との協働、関係機関・多職種との連携 4)地域における活動の実際 ＜グループワーク＞ 転倒・骨折予防について具体的な活動支援を検討する。	戸塚 山本	【予習】(30分): 教科書 第8章D①～④を熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 教科書 第8章の「ゼミナール復習と課題」Dを行っておくこと。
	高齢者保健福祉2 1)認知症予防(社会資源の活用と住民との協働) 2)介護者の健康維持・改善 3)高齢者虐待予防 ＜グループワーク＞ 地域で生活する認知症高齢者への支援と地域課題解決のための支援を検討する。	戸塚 山本	【予習】(30分): 教科書 第8章D⑤を読み、認知症の基本的な原因・症状や看護をまとめておくこと。 【復習】(60分): 高齢者虐待の新聞記事を読み、考察したことをまとめておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。

11・12回 5/31 1・2限	障害者(児)・難病保健 1)障害・難病の定義 2)障害者保健・難病保健活動に関する法律 3)障害者保健・難病保健の地域支援 ＜グループワーク＞ 筋萎縮性側索硬化症の日常生活をDVDで視聴し、感想、支援方法について検討する。	戸塚 山本	【予習】(30分): 教科書 第8章Gを熟読し、まとめておくこと。 【復習】(60分): 教科書 第8章の「ゼミナール復習と課題」Gを行っておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
	精神保健福祉 1)精神保健福祉の目的と意義 2)精神障害者の地域生活を支えるシステムと制度 3)主な疾患の特徴と保健活動のポイント ＜グループワーク＞ 地域で生活する自閉症児、統合失調症の精神障害者の支援について検討する。	戸塚 山本	【予習】(30分): 教科書 第8章Eを熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 教科書 第8章の「ゼミナール復習と課題」Eを行っておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
13・14回 6/10 1・2限	感染症と対策 1)感染症とその予防に関する基礎知識 2)わが国の感染症予防対策・予防接種 3)重要な感染症とその対策(結核・HIV感染症・食中毒等) ＜グループワーク＞ 個人・集団における感染症予防について検討する。	戸塚	【予習】(30分): 教科書 第6章を熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 教科書 第6章の「ゼミナール復習と課題」を行っておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
	学校保健 1)児童生徒の健康状態 2)学校保健の概要 ＜グループワーク＞ 学校保健における健康課題と支援について検討する。	戸塚	【予習】(30分): 教科書 第9章を熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 教科書 第9章の「ゼミナール復習と課題」を行っておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。
15回 6/27 2限	歯科保健 1)歯科保健の重要性 2)歯科保健の法的根拠 3)ライフステージにおける歯科・口腔保健 まとめ	戸塚	【予習】(30分): 教科書 第8章Fを熟読し、まとめておく。 【復習】(60分): 教科書 第8章の「ゼミナール復習と課題」Fを行っておくこと。 Google formsにより学修の理解度を確認する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題や質問のフィードバックは、次回以降の授業もしくは個別に行う。

【成績の評価方法】

定期試験:80%
レポート課題:20%(レポート課題について、遅れて提出した場合も受け取るが5割の評価となる。)
合計:100%
【生成AI利活用 (無)】

【 ルーブリック評価の活用 (有)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

系統看護学講座 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院
図説 国民衛生の動向2023/2024厚生労働統計協会

【参考書】

『無名の語り』保健師が「家族」に出会う12の物語 宮本ふみ著 医学書院
『施設で育った子どもたちの語り』『施設で育った子どものの語り』編集委員会編 明石書房

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

戸塚恵子:社会福祉士・精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。
山本裕美:実務経験:精神保健福祉士の資格、看護師経験、母子、成人、高齢者、精神障害の方への支援などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

戸塚恵子:月～金(水を除く)昼休み12:10～13:00
山本裕美:月～金 昼休み12:10～13:00

【教員連絡先】

戸塚恵子:ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp
山本裕美:hiyamamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】
特になし

授業科目名	成人の生活と健康	担当教員名	眞弓尚也　宗定水奈子　東野友子			
コード	22NPR313	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目では、成人看護学概論で学修した、成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ、現代社会における成人を取り巻く環境と生活習慣の特徴について生活者の視点から学修する。青年期から向老期まで長期にわたる成人の「生活」について、学習者自身や周囲の人々の生活の実際を振り返り、考察を深めていく。成人期に多い生活習慣病を中心とした様々な健康障害との関連についても学修する。さらに、急性期、慢性期、終末期など病期別の健康障害の特徴と、健康障害に対応した看護の特徴について学修する。授業後半では、「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みを学修し、成人の健康状態におけるアセスメントの方法、看護診断を用いた看護過程の展開方法の基本について学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 急激な健康破綻をきたした人の特徴と心身の苦痛、必要な看護について説明することができる。	○		○		
2 慢性病と慢性病とともに生きる人の特徴とどのような支援が必要か説明できる。	○		○		
3 障害のある人の生活とリハビリテーションを支援する看護について説明できる。	○		○		
4 成人看護の対象となる人々の全体像の把握と看護実践のための看護過程の展開のあり方を説明できる。		○			
5「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みを使用して看護アセスメントを行い、看護診断ラベルを特定することができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション　(授業概要、課題について) 成人の健康レベルに対応した看護(1) 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	眞弓	予習(60分):テキスト第6章を読み、急性期にある人の特徴を整理する。 復習(90分):本時の授業について復習する。
2	成人の健康レベルに対応した看護(2) 慢性病とともに生きる人を支える看護	眞弓	予習(60分):テキスト第7章を読み、慢性期にある人の特徴を整理する。 復習(90分):本時の授業について復習する。
3	成人の健康レベルに対応した看護(3) 障害がある人の生活とリハビリテーション	眞弓	予習(60分):テキスト第8章を読み、障害とは何か調べてまとめる。 復習(90分):本時の授業について復習する。
4	看護過程と看護診断 「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組み 看護診断(NANDA-I)　の概要	宗定 (眞弓・東野)	予習(60分):「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みとNANDA-I看護診断の定義と分類について予習する。 復習(90分):本時の授業について復習する。
5	事例紹介(生活習慣病を抱えた患者) 事例を用いた看護過程①アセスメント(グループワーク)	宗定 (眞弓・東野)	予習(90分):事例の情報をもとに、「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みを用いてアセスメントについて考え、レポートにまとめる。 復習(120分):本時の授業について復習する。
6	事例を用いた看護過程①アセスメント(グループワーク)	宗定 (眞弓・東野)	予習(90分):事例の情報をもとに、「ゴードンの機能的健康パターン」の枠組みを用いてアセスメントについて考え、レポートにまとめる。 復習(120分):本時の授業について復習する。
7	事例を用いた看護過程②看護診断の特定(グループワーク)	宗定 (眞弓・東野)	予習(90分):NANDA-I看護診断定義と分類の指定された内容について予習する。 復習(120分):本時の授業について復習する。
8	事例患者のアセスメント、看護診断についての発表会	宗定 (眞弓・東野)	予習(60分):事例の情報をもとに発表準備を行う。 復習(60分):本時の授業について復習する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義後の意見や質問をリアクションペーパーに記入。次回以降の講義でフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

定期試験:50%(成人の健康レベル、健康障害に対応した看護)、50%(ゴードンの機能的健康パターン)
合計:100%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

進級要件（必修科目の未修得科目は看護展開論を除く2科目まで）を満たし、成人看護学概論を履修していることが望ましい。

【教科書】

系統看護学講座　成人看護学総論　医学書院.
NANDA-I 看護診断定義と分類2024－2026 原書第12版　医学書院.

【参考書】

服部祥子：生涯人間発達論　医学書院、厚生労働統計協会編：国民衛生の動向（最新版）
基礎看護学②基礎看護技術 I
看護がみえる Vol.4　看護過程の展開　メディックメディア.

【オープンな教育リソース】

成人看護学概論を履修していることが望ましい。

【担当教員の実務経験】

看護師としての臨床経験年や成人看護学の教育経験のある教員が実務経験をもとに講義をする。

【オフィスアワー】

平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問すること。

【教員連絡先】

西山久美江（knishiyama@g.t-junshin.ac.jp）（成人教授入職後は、教授に連絡先変更）

【備考】

特になし

授業科目名	成人慢性期看護学	担当教員名	宗定　水奈子　西山久美江　東野友子　眞弓尚也			
コード	22NPR314	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目では，慢性的な健康課題を抱え，社会で生活する成人とその家族を総合的に理解し，疾病と共存しながら生活するための看護援助を講義と演習を通して学修する。慢性期看護の概念や慢性期看護に応用する理論を学び，疾病による機能障害が及ぼす看護課題を学ぶ。具体的には，病気の進行を予防することで，最適な健康の維持・増進を図り，質の高い生活を営めるように，生活をセルフマネジメントし再構築に必要な看護援助を学ぶ。また，慢性期にある成人の事例を通して，身体・精神・社会面から統合して対象を捉え，健康に関わる課題を解決できるように，看護過程の展開方法を学ぶ。さらに，多職種連携，チーム医療における看護師の役割についても学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 慢性疾患の特徴とその看護について説明することができる。			○		
2 慢性疾患と共に生きる患者のケアを行ううえで、必要な情報について述べることができる。		○			
3 慢性疾患と共に生きる患者のアセスメントを行い、個別性に基づいたケアについて述べることができる。		○			
4 看護診断に基づいたケアに必要な技術や指導について、目的・方法・留意点を説明できる。		○			
5 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	授業ガイダンス、授業展開、学習の進め方について TBLについて　チーム構成　アイスブレイキング(フラッグ作成)	宗定	予習(20分)形態機能学、疾病治療論を復習し、授業に備える。 復習(25分)授業内容を振り返り、疑問点などを明らかにする。
2	Ⅰ 内分泌機能障害のある患者の看護　① 授業	宗定	予習(20分) 系統看護学講座　専門分野Ⅱ 成人看護学6 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成し、ミニテストに備える。
3	Ⅰ 内分泌機能障害のある患者の看護　② iRAT & tRAT(ミニテスト)	宗定・東野	予習(20分)授業内容を振り返り、ミニテストに備える。 復習(25分)ミニテストを振り返り、授業内容を復習する。
4	ゴードン11の「機能的健康パターン」による看護過程の展開　徹底的検証法	宗定	予習(20分)看護がみえるVol.4 「看護過程の展開」に目を通し、授業に備える。 復習(25分)授業内容を振り返り、演習に備える。
5	Ⅰ 内分泌能障害のある患者の看護　③ 演習(看護過程の展開:糖尿病) a:アセスメントーデータから情報への変換	宗定・東野	予習(20分)ビジュランクラウド「看護のためのアセスメント事例集第2版vol.3」を視聴する。 復習(25分)優先順位の高い看護問題に必要な支援について考える。
6	Ⅱ 呼吸機能障害のある患者の看護　① 授業	西山	予習(20分)系統看護学講座　専門分野Ⅱ 成人看護学2 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成し、ミニテストに備える。
7	Ⅱ 呼吸機能障害のある患者の看護　② iRAT & tRAT(ミニテスト)	宗定・東野	予習(20分)授業内容を振り返り、ミニテストに備える。 復習(25分)ミニテストを振り返り、授業内容を復習する。
8	Ⅰ 内分泌機能障害のある患者の看護　③ 演習(看護過程の展開:糖尿病) b:患者さんの反応の解釈ー実在型問題の立案	宗定・東野	予習(20分)ビジュランクラウド「看護のためのアセスメント事例集第2版vol.3」を視聴する。 復習(25分)優先順位の高い看護問題に必要な支援について考える。
9	Ⅲ 循環機能障害のある患者の看護　① 授業	西山	予習(20分)系統看護学講座　専門分野Ⅱ 成人看護学3 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成し、ミニテストに備える。
10	Ⅲ 循環機能障害のある患者の看護　② iRAT & tRAT(ミニテスト)	宗定・東野	予習(20分)授業内容を振り返り、ミニテストに備える。 復習(25分)ミニテストを振り返り、授業内容を復習する。
11	Ⅳ 身体防御(骨髄)機能障害のある患者の看護　① 授業	宗定	予習(20分)系統看護学講座　専門分野Ⅱ 成人看護学4 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成し、ミニテストに備える。
12	Ⅳ 身体防御(骨髄)機能障害のある患者の看護　② iRAT & tRAT(ミニテスト)	宗定・東野	予習(20分)授業内容を振り返り、ミニテストに備える。 復習(25分)ミニテストを振り返り、授業内容を復習する。
13	Ⅰ 内分泌機能障害のある患者の看護　③ 演習(看護過程の展開:糖尿病) c:患者さんの反応の分析①　反応の原因・誘引・強みについて	宗定・東野	予習(20分)ビジュランクラウド「看護のためのアセスメント事例集第2版vol.3」を視聴する。 復習(25分)優先順位の高い看護問題に必要な支援について考える。
14	Ⅰ 内分泌機能障害のある患者の看護　③ 演習(看護過程の展開:糖尿病) c:患者さんの反応の分析②　反応のなりゆきについて	宗定・東野	予習(20分)ビジュランクラウド「看護のためのアセスメント事例集第2版vol.3」を視聴する。 復習(25分)優先順位の高い看護問題に必要な支援について考える。
15	Ⅴ 排尿機能障害のある患者の看護　① 授業 ※中間ぴあ評価	宗定	予習(20分)系統看護学講座　専門分野Ⅱ 成人看護学8 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成し、ミニテストに備える。
16	Ⅴ 排尿機能障害のある患者の看護　② iRAT & tRAT(ミニテスト)	宗定・東野	予習(20分)授業内容を振り返り、ミニテストに備える。 復習(25分)ミニテストを振り返り、授業内容を復習する。
19	Ⅵ 脳・神経機能障害のある患者の看護　① 授業	宗定	予習(20分)系統看護学講座　専門分野Ⅱ 成人看護学7 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成し、ミニテストに備える。
20	Ⅵ 脳・神経機能障害のある患者の看護　② iRAT & tRAT(ミニテスト)	宗定・東野	予習(20分)授業内容を振り返り、ミニテストに備える。 復習(25分)ミニテストを振り返り、授業内容を復習する。
21	Ⅵ 脳・神経機能障害のある患者の看護　③ 演習(看護過程の展開:脳梗塞) a:アセスメントーデータから情報への変換	宗定	復習(45分)課題:事例の情報について患者の反応の判断と分析を行い、24回目の授業に備える。
22	Ⅶ 消化・吸収・代謝機能障害のある患者の看護　① 授業	宗定	予習(20分)系統看護学講座　専門分野Ⅱ 成人看護学6 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成し、ミニテストに備える。

23	Ⅶ 消化・吸収・代謝機能障害のある患者の看護 ② iRAT & tRAT(ミニテスト)	宗定・東野	予習(20分)授業内容を振り返り、ミニテストに備える。 復習(25分)ミニテストを振り返り、授業内容を復習する。
24	Ⅵ 脳・神経機能障害のある患者の看護 ③ 演習(看護過程の展開:脳梗塞) 4年生とともに看護過程を展開し、看護問題を立案する	宗定・東野	予習(20分)事例の情報について患者の反応の判断と分析を行う。 復習(25分)優先順位の高い看護問題に必要な支援について考える。
25	Ⅶ 脳・神経機能障害のある患者の看護 ④ 演習(看護計画の立案・行動計画)	宗定・東野	予習(20分)優先順位の高い看護問題に必要な支援について考える。 復習(48分)立案した計画がスムーズに行えるよう手順を明らかにする。
25	Ⅶ 脳・神経機能障害のある患者の看護 ④ 演習(看護計画の立案・行動計画)	宗定・東野	予習(20分)優先順位の高い看護問題に必要な支援について考える。 復習(48分)行動をイメージし、技術演習に備える。
26	A:Ⅶ 脳・神経機能障害のある患者の看護 ⑤ 演習(看護計画の実践) B:Ⅷ がん患者と家族への看護 ① 授業 C:Ⅸ 身体防御(免疫)機能障害のある患者の看護 ① 授業 ＊4チームごとに分かれてA～Cを行う(詳細は後日伝える)	宗定 西山 東野 眞弓	予習(20分)立案した看護技術についてイメージトレーニングを行う。 復習(25分)演習を振り返り、不足している技術について復習する。
27		宗定 西山 東野 眞弓	予習(20分)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成する。
28		宗定 西山 東野 眞弓	予習(20分)系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学11 5・6章を予習する。 復習(25分)授業内容を振り返り、関連図を作成する。
29	Ⅶ 脳・神経機能障害のある患者の看護 ⑥ 演習(看護計画の評価・修正・要約)	宗定	予習(20分)ゴードン11の「機能的健康パターン」による看護過程の展開②の授業(10/10)を復習する。 復習(25分)授業内で終了しなかった場合は、記録を仕上げる。
30	TBLまとめ ※最終ピア評価 ※定期試験・提出物について ※授業アンケート	宗定	予習(20分)全体を振り返る。 復習(25分)授業全体を振り返り、整理することで、定期試験に備える。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		・PBLから発展させたTBL(Team-Based Learning)を取り入れ、互いに協力し合うことによって学修効果を高める。 ・ビジュランクラウドの事例や看護がみえるvol.4 一緒に看護過程を学ぼうの動画を視聴し、看護過程を展開する。 ・授業内容についての国試過去問題を解くことで、国家試験に備える。 ・チームで看護過程の展開を行うことで、次年度の成人急性期看護学で個人で展開するための力を養い、領域実習に備える。 ・チームでディスカッションを行うことで、領域実習におけるカンファレンスの質の向上を目指す。 ・チーム内でのぴあ評価を行うことで、自分とチームメイトの学習態度を客観視する力を養う。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

授業の感想、意見、質問等はメールやクラスルームで受け付け、次回授業やクラスルームでフィードバックする。
また、ミニテストについては異議申し立てができるアピールの時間を設ける。
学生の理解度を確認しながら、個人指導を行う。

【成績の評価方法】

TBLの取り組み:60%[iRAT(個人)＋提出物合計:18%、tRAT(チーム)+ピア評価＋チーム加算合計:42%]
定期試験:40%
合計:100%

【生成AI利活用 (無)】

【 ルーブリック評価の活用 (有) 】

【履修申請上の条件】

進級要件(必修科目の未修得科目は2科目まで)を満たしている。

【教科書】

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1「成人看護学総論」 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2-8,11 医学書院
3. NAND-I看護診断定義と分類2021－2023原書第12版 医学書院

【参考書】

1. Strauss,A. L et al. ,南裕子監訳(1987):慢性疾患を生きるーケアとクオリティ・ライフの接点. 医学書院
2. アーサー・クラインマン著,江口重幸訳:病いの語り, 誠信書房
3. アイリーン・モロフ・ラブキンら著,黒江ゆり子訳:クロニックイルネス-人と病いの新たなかかわり, 医学書院
4. 紙屋克子:私の看護ノート,医学書院
5. 看護がみえるVol.3 フィジカルアセスメント,メディックメディア
6. 看護がみえるVol.4 看護過程の展開,メディックメディア
7. 看護がみえるVol.5 対象の理解①,メディックメディア

【オープンな教育リソース】

https://ganjoho.jp/public/index.html 国立がん研究センターがん情報サービス

【担当教員の実務経験】

がん看護専門看護師の資格を持つ臨床経験豊富な教員や、成人看護学の教育経験の豊かな教員が実務経験をもとに講義をする。

【オフィスアワー】

平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問すること。

【教員連絡先】

宗定水奈子:mmunesada@g.t-junshin.ac.jp、西山久美江:knishiyama@g.t-junshin.ac.jp、新任教員

【備考】

形態機能学および疾病治療論の復習のチャンスです。iRAT、tRATは国試の必修・一般、応用の過去問題を解き、国試に備えます。
また、看護過程の展開を通して看護の考え方を身につけることで、次年度の実習に備えます。
今までに経験した実習を基に臨床のイメージを膨らませながら取り組んで下さい。

2024年11月11日

看護学部

2025(令和7)年度

授業科目名	成人急性期看護学	担当教員名	西山久美江、眞弓尚也、東野友子、津田泰伸、山下将志、杉野静香、古川尚美			
コード	22NPR315	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目では、手術や疾病の急性増悪などにより健康状態が急激に変化している成人期にある患者とその家族を看護の対象として、身体的・心理的・社会的側面から対象を捉え、対象に必要な基本的な看護について学修する。講義では、主に、生体侵襲の理解や臓器・部位別の疾病の特徴を理解した上で、急性期の患者に必要なアセスメントや回復を促すための看護援助について学修する。
演習では、マジョリー・ゴードンの機能的健康パターンのアセスメントの枠組みを用いて、周手術期の患者の事例を基に一連の看護過程を展開する。グループワークを通して、事例患者のアセスメントの方向性や看護上の問題について話し合い、個別性のある看護計画について学修する。また、急性期の患者に必要な看護援助技術や患者の情報を統合し、判断・対応する臨床判断についても学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 急性期にある対象と家族の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。			○		
2 生命の危機的状況にある対象と家族の理解と基本的な看護援助を説明できる。		○	○		
3 手術が生体に及ぼす身体的侵襲・心理的反応、疾患や年齢による術後の合併症を説明できる。		○			
4 周術期にある対象に対して、科学的根拠に基づいた安全で安楽な看護を記述できる。		○	○		
5 周術期にある事例の看護過程を展開し、回復を促すための看護を記述できる。		○	○		

【授業計画】

		授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
4/14(月) 2.3限	1	授業ガイダンス、授業展開、評価、学修のすすめ方について 1. 急性期(クリティカルケア・周手術期)看護の特性、必要な知識の概要 2. クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴 3. クリティカルケアと看護管理 4. クリティカルケア看護とチーム医療 5. クリティカルケア看護と倫理・法律 6. 過大侵襲を受けた患者の生体反応	西山	予習(20分):事前にシラバスを読み、疑問点を明らかにしておく。 テキストの救急看護学の第1章、クリティカルケア看護学の第1.2.3章、臨床看護学総論の序章を精読する。 復習(25分):配布された資料を基にノート整理を行う。
	2	クリティカルな患者の病態の理解と看護① 1. 呼吸機能障害の病態整理 2. 呼吸機能障害のアセスメント 3. 呼吸機能障害のケア	西山	予習(20分):テキストのクリティカルケア看護学の第3.4章、呼吸器　成人看護学2の第2.3.4.5.6章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習(25分):配布された資料を基にノート整理を行う。
4/21(月) 2.3限	3	クリティカルな患者の病態の理解と看護② 1. 脳・神経機能障害の病態整理 2. 脳・神経機能障害のアセスメント 3. 脳・神経機能障害のケア	真弓	予習(20分):テキストのクリティカルケア看護学の第3.4章、臨床外科看護各論第4章、脳・神経　成人看護学7の第2.3.4.5.6章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習(25分):配布された資料を基にノート整理を行う。
	4	クリティカルな患者の病態と理解と看護③ 1. 消化機能障害の病態生理 2. 消化機能障害のアセスメント 3. 消化機能障害のケア 4. 栄養・代謝障害	真弓	予習(20分):テキストのクリティカルケア看護学の第3章、臨床外科看護各論第4章、脳・神経　成人看護学5の第2.3.4.5.6章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習(25分):配布された資料を基にノート整理を行う。
4/28(月) 2.3限	5	クリティカルな患者の病態の理解と看護④ 1. 凝固・線溶系障害 2. 腎機能障害 3. 多臓器障害 4. 精神機能障害	真弓	予習(20分):テキストのクリティカルケア看護学3章、腎・泌尿器系　成人看護学8の第2.3.4.5.6章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習(25分):配布された資料を基にノート整理を行う。
	6	周術期にある患者の看護① 1. ビジュランクラウド(術前看護)視聴 2. 手術前の看護(術前検査、患者、家族の心理、入院から手術前日まで、手術前日、手術当日の看護)	西山	予習(20分):テキストの臨床外科看護総論序章、第6.7章、臨床外科各論序章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習(25分):配布された資料を基にノート整理を行う。
4/30(水) 1.2限	7	周術期にある患者の看護② 1. 術後看護(術当日、術後1日目以降の看護) 2. 手術後の患者の看護(回復を促進するための看護、術後合併症の発生機序、起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応、疼痛管理、感染予防策、創傷管理、ドレーン管理)	西山	予習(20分):テキストの臨床外科看護総論第9.10章、術中/術後の生体反応 と急性期看護の第4. 5. 6章、クリティカルケア看護学4章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習(25分):配布された資料を基にノート整理を行う。術後の看護についての課題を課すので、各自課題を行う。
	8	周術期にある患者の看護③ 肺がんで手術を受ける患者の看護	西山	予習(20分):テキストの臨床外科看護各論第1章、呼吸器　成人看護学2の第5.6章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習(25分):配布された資料を基にノート整理を行う。
5/1(木)	9	クリティカルケア看護に必要な看護技術　(演習1:実習室) 心肺蘇生法(一次救命処置)	真弓 (全教員)	予習(20分):テキストの成人看護技術の第Ⅲ章を精読し、手順、留意点等をまとめておく。 復習(25分):配布された資料を基にしてノート整理を行う。 【課題1】一次救命処置の手順と留意点についてまとめる。作成した課題は成績評価対象とする。

3.4限	10	クリティカルケア看護に必要な看護技術 （演習2：実習室） 1. 12ECG 2. 酸素療法 3. 疼痛管理 4. ドレーン管理 5. DVT対策（フットポンプ、弾性ストッキング）	眞弓 （全教員）	予習（20分）：テキストの成人看護技術の第Ⅰ.Ⅱ.Ⅳ章、クリティカルケア看護学第4章、講義から実習へ 高齢者と成人の周術期看護 術中/術後の生体反応 と急性期看護 第3版の第5章・開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 第3版の第2章を精読するを精読し、手順、留意点等をまとめておく。 復習（25分）：配布された資料を基にしてノート整理を行う。 【課題2】1. 早期離床 2. 酸素療法 3. 疼痛管理 4. ドレーン管理 5. DVT対策（フットポンプ、弾性ストッキング）についてまとめる。作成した課題は成績評価対象とする。
5/19（月） 2.3限	11	周術期にある患者の看護⑥ 胃切除を受ける患者の看護 看護過程の展開① 演習：胃がんの病態、胃切除後の合併症、ムーアの分類について各自調べノートにまとめる	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：次回授業までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
	12	看護過程の展開② 演習：事例の理解とゴードンの枠組みを基に情報整理	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、看護がみえる Vo.4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照し、事例患者の情報整理をする。 復習（25分）：配布資料をもとに次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
5/26（月） 2.3限	13	看護過程の展開③ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、看護がみえる Vo.4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照し、事例患者のアセスメントする。 復習（25分）：次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
	14	看護過程の展開④ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、看護がみえる Vo.4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照し、事例患者のアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
6/2（月） 2.3限	15	看護過程の展開⑤ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、看護がみえる Vo.4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照し、事例患者のアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
	16	看護過程の展開⑥ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、看護がみえる Vo.4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照し、事例患者のアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。
6/16（月） 2.3限	17	看護過程の展開⑦ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、看護がみえる Vo.4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照し、事例患者のアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
	18	看護過程の展開⑧ 胃切除を受けた患者の看護 演習：ゴードンの11の健康機能パターンを使用しアセスメント	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、看護がみえる Vo.4 看護過程の展開、これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～を参照し、事例患者のアセスメントする。 復習（25分）：文献参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
6/19（木） 3.4限	19	周術期にある患者の看護⑧ 脳血管障害で手術を受ける患者の看護（クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞）	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第4章、脳・神経 成人看護学7の第5.6章、クリティカルケア看護学3章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
	20	周術期にある患者の看護⑨ 乳房の手術を受ける患者の看護	古川	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第1章、女性生殖器 成人看護学9の第5.6章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
6/26（木） 4.5限	21	看護過程の展開⑨ 胃切除を受けた患者の看護 演習：各自、全体像作成、看護問題抽出	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、全体像の書き方、看護問題の捉え方等を文献学修し、事例患者の全体像作成、看護問題を抽出する。 復習（25分）：文献を参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
	22	看護過程の展開⑩ 胃切除を受けた患者の看護 演習：看護計画作成、発表	西山 （真弓）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器 成人看護学5の第5.6章、講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護2.3章、看護計画の書き方について、文献学修し、事例患者の看護計画を作成する。 復習（25分）：文献を参考に次回までに課題を完成させる。課題のフィードバックは、次回の講義に行う。
6/30（月）	23	クリティカルな患者の病態の理解と看護⑤ （外部講師） 1. 循環機能障害の病態整理（急性心不全、急性冠症候群、ショック） 2. 循環機能障害のアセスメント（循環機能のアセスメント、モニタリングと検査） 3. 循環機能障害のケア（急性冠症候群患者の看護、ショック患者の看護）	津田	予習（20分）：テキストのクリティカルケア看護学の第3.4章、循環器 成人看護学3の第2.3.4.5.6章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。

2.3限	24	クリティカルな患者の病態の理解と看護⑥　（外部講師） 1. 急性心不全患者のACP	津田	予習（20分）：テキストの循環器　成人看護学の第5.6章、クリティカルケア看護学3章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
7/7（月） 2.3限	25	クリティカルな患者の病態の理解と看護⑦ 救急看護　（外部講師） 1. 救急看護の概念 2. 救急看護の対象の理解 3. 主要病態に対する救急処置と看護（外傷・熱傷・中毒・脳死、熱中症への対応）	山下	予習（20分）：テキストの救急看護学の第1.2.5章、臨床外科看護総論の第5章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
	26	周術期にある患者の看護⑦　（外部講師） 手術看護 1. 手術中患者の看護 2. 手術侵襲と生体反応、感染症(術野感染症)　創傷治癒	杉野	予習（20分）：テキストの臨床外科看護総論序章、第1.8章、臨床外科看護各論序章、講義から実習へ　高齢者と成人の周術期看護　術中/術後の生体反応 と急性期看護　第3版の第1.2.3.4章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
7/11（金） 1.2限	27	周術期にある患者の看護④ 心臓大血管の手術を受ける患者の看護（弁膜症、虚血性心疾患、動脈系の疾患、静脈系の疾患）	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第2章、循環器　成人看護学3の第5.6章、クリティカルケア看護学3章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
	28	周術期にある患者の看護⑤ 大腸がんの手術を受ける患者の看護（ストーマ造設含む）	西山	予習（20分）：テキストの臨床外科看護各論第3章、消化器　成人看護学5の第5.6章を精読し、疑問点を明らかにしておく。 復習（25分）：配布された資料を基にノート整理を行う。
7/28（月） 2.3限	29	胃がん（幽門側胃切除術）患者の術直後の観察 （演習3：実習室）	西山 （真弓・東野）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護総論の第9章を参考にして、実習室での演習までに、幽門側胃切除術後1日目の観察（項目、手順）を作成する。 グループメンバーで演習の練習を行う。 復習（25分）：演習で行った看護について、振り返りを行い整理しまとめる。 【課題3】ワークシートを提出する。成績評価の対象とする。
	30	臨床推論 （演習4：教室）	津田 （西山）	予習（20分）：テキストの臨床外科看護総論の第9章、授業資料を参考に学修する。 復習（25分）：演習で行ったシナリオについて、振り返りを行い整理しまとめる。 【課題4】ワークシートを提出する。成績評価の対象とする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	参考URL ・ビジュランクラウド：https://t-junshin.visualearn.jp クリティカルケア看護、目で見る周術期看護
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義後の意見や質問をリアクションペーパーに記入。次回以降の講義でフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

演習（課題の提出）と定期試験で評価する。
課題：30%（看護過程の展開18%、他の演習課題12%）
定期試験：70%
合計：100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

進級要件（必修科目の未修得科目は2科目まで）を満たし、以下の単位を履修していることが望ましい。
形態機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、栄養生化学、薬理学、感染予防学、形態機能学演習、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、病理学、基本援助技術、生活援助技術、診療援助技術、看護とコミュニケーション、フィジカルアセスメント、成人看護学概論、成人の生活と健康

【教科書】

・系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学　医学書院.
・系統看護学講座　別巻　救急看護学　医学書院.
・系統看護学講座　別巻　臨床外科看護学総論　医学書院.
・系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　医学書院.
・系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学　2.3.5.7.9　医学書院.
・成人看護学　成人看護技術（改訂第3版）[Web動画付]生きた臨床技術を学び看護実践能力を高める　南江堂.
・<講義から実習へ>高齢者と成人の周術期看護2　術中/術後の生体反応と急性期看護　第3版　医歯薬出版.
・<講義から実習へ>高齢者と成人の周術期看護3　開腹術/腹腔鏡下手術を受ける患者の看護　第3版　医歯薬出版.
・NANDA-I　看護診断　定義と分類　2024-2026　原書第12版 医学書院.
・看護がみえる　Vol.4　看護過程の展開　メディックメディア.
・これならわかる！　術前・術後の看護ケア　～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～　ナツメ社.

【参考書】

・鎌倉やよい・深田順子（2008）：周術期の臨床判断を磨く、初版、医学書院.
・黒田裕子・林みよ子（2013）：クリティカルケア看護　完全ガイド、初版、医歯薬出版.
・浦部晶夫・島田和幸・川合眞一（2023）：今日の治療薬　解説と便覧、南江堂.
・道又元裕（2011）：クリティカルケア看護技術の実践と根拠、初版、中山書店.
・道又元裕・長谷川隆一・濱本実也・露木菜緒（2012）：クリティカルケア実践の根拠、初版、照林社.
・親見明子（2016）：根拠がわかる疾患別看護過程、改定第3版、南江堂.
・関口恵子（2016）：根拠がわかる症状別看護過程、改定第3版、南江堂.
・高木永子（2018）：看護過程に沿った対象看護、第5版、学研メディカル秀潤社.
・卯野木健（2015）：クリティカルケア看護入門”声にならない訴え”を理解する、改訂第2版、学研メディカル秀潤社.
・山口瑞穂子・関口恵子（2016）：経過が見える疾患別病態関連マップ、第2版、学研メディカル秀潤社.
・山口瑞穂子・関口恵子（2016）：疾患別看護過程の展開、第5版、学研メディカル秀潤社.
・黒田裕子（2015）：看護診断のためのよくわかる中範囲理論、第2版、学研メディカル秀潤社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

担当教員：看護師、急性・重症患者看護専門看護師、救急認定看護師、手術看護認定看護師として臨床経験のある教員が実務経験を活かして、急性期の患者とその家族に必要な看護援助について総合的に指導を行う。

【オフィスアワー】

月曜日～木曜日の昼休み時間。事前に連絡してから訪問すること。

【教員連絡先】
西山　久美江：knishiyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】
・各回の授業内容に関連する教科書を持参し、示されている予習・復習を行うこと。
・本科目は、後期の成人急性期看護学実習に直結する科目となっています。
・看護過程の展開は実習で必要になるため、疑問点は必ず質問し、指導を受けるようにすること。
・23.24.29.30回は実習室での演習となる。身だしなみを整えて参加すること。

授業科目名	成人看護学概論	担当教員名	西山久美江			
コード	22NPR316	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
○	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
○	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本科目では、成人各期(青年期・壮年期・中年期・向老期)の各発達段階における身体的・精神的・社会的特徴について、生涯発達の視点からさまざまな発達理論をもとに学修する。成人各期の特徴について自己学修した内容をレポートにまとめ、グループディスカッションを行い、グループ毎のプレゼンテーションによる学びを共有する。成人期である学生自身も成人として、大人として自身の生涯発達の課題について考察を深め、多角的視点で成人期を捉えていく。さらに、成人を取り巻く最新の成人保健の動向について学び、成人の健康の維持・増進および疾病予防のための看護師の役割についても学ぶ。成人への看護アプローチの基本、健康レベルに状態に応じた看護についても学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 成人(大人)の生涯発達の特徴と各期の分類、各期における身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。			○		
2 成人(大人)の生活と健康の特徴と保健・医療・福祉システムの現状を説明できる、			○		
3 成人への看護アプローチの基本を説明できる。		○	○		
4 成人のヘルスプロモーションを促進する方法について説明できる。	○		○		
5 生活行動がもたらす健康問題とその予防について説明できる。	○		○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション(授業の概要・目標、スケジュール、評価基準等) Ⅰ 成人と生活 A 対象の理解－大人になること、大人であること B 対象の生活－働いて生活を営むこと	西山	予習(30分):テキスト第1章-A・Bを予習し、疑問点を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
2	Ⅱ 生活と健康 A 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 B 生活と健康をまもりはぐくむシステム	西山	予習(60分):テキスト第2章-A・Bを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
3	Ⅲ 成人への看護アプローチの基本 A 生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助 B 症状マネージメント C 健康問題と持つ大人と看護師の人間関係	西山	予習(60分):テキスト第3章-A・B・Cを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
4	Ⅲ 成人への看護アプローチの基本 D 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ E チームアプローチ F 看護におけるマネジメント	西山	予習(60分):テキスト第3章-D・E・Fを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分)::講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
5	Ⅲ 成人への看護アプローチの基本 G 看護実践における倫理的判断 H 意思決定支援 I 家族支援	西山	予習(60分):テキスト第3章-G・H・Iを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分)::講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。 課題レポート
6	グループワーク 〈大人の健康行動をはぐくむ看護のアプローチについて、 禁煙を例に方法を検討する〉	西山	予習(60分):「喫煙による健康被害」について調べ、グループワークの準備を行う。 復習(60分):他のグループワークの発表内容から学びを共有し、課題レポート「喫煙による健康被害と禁煙教育の必要性」について、文献を用いてまとめる。
7	Ⅳ ヘルスプロモーションと看護 A ヘルスプロモーションと看護 B ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動	西山	予習(60分):テキスト第4章-A・Bを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分)::講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。
8	Ⅴ 健康をおびやかす要因と看護 A 健康バランスの構成要素 B 健康バランスに影響を及ぼす要因 C 生活行動がもたらす健康問題とその予防	西山	予習(60分):テキスト第5章-A・B・Cを予習し、疑問を整理しておく。 復習(120分)::講義の内容を整理し、自身でわかりやすくまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義後の意見や質問をリアクションペーパーに記入。次回以降の講義でフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

到達目標に明示している項目を定期試験の評価基準とする。
定期試験：80％、課題レポート20％とする。
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

進級要件(必修科目の未収得科目は看護学概論を除く2科目まで)を満たしている。

【教科書】

系統看護学講座　成人看護学総論　医学書院.

【参考書】

服部祥子：生涯人間発達論　医学書院
厚生労働統計協会編：国民衛生の動向 （最新版）

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師としての臨床経験年や成人看護学の教育経験のある教員が実務経験をもとに講義をする。

【オフィスアワー】

平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問すること。

【教員連絡先】

西山久美江（knishiyama@g.t-junshin.ac.jp）（成人教授入職後は、教授に連絡先変更）

【備考】

特になし

授業科目名	老年看護学概論	担当教員名	塚本　都子			
コード	22NPR317	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
○	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
○	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本科目は、人生周期(ライフサイクル)からみた老年期にある対象の身体的・精神的・社会的な特徴を疑似的な生活体験をもとに学ぶ。具体的には、避けることのできない生理的な老いについて、高齢者疑似体験をとおし、筋力・視力・聴力低下など身体的変化や心理面への影響を明らかにし、理解を深める。また、フレイルやサルコペニアにつながる視点から、高齢者個々の日常生活への影響について考察する。少子超高齢社会がすすむ現在、我が国の老年人口の推移と将来推計の特徴をふまえ、世帯構成や要介護者の増加要因を理解し、高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や課題について学ぶ。さらに、自己のエイジズムの傾向を知り、老年看護を支える理論・概念をおさえ、高齢者の権利擁護を基盤とした老年看護の役割と目標を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 ライフサイクルからみた老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。	○				
2 高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向や課題を述べることができる。			○	○	
3 高齢者の権利擁護について説明できる。	○			○	
4 老年看護の理論と概念について述べることができる。	○			○	
5 高齢者の健康障害の特徴をふまえ、看護の原則と目標を説明できる。	○			○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	イントロダクション 1)老いのイメージ 2)高齢者の健康 3)加齢と老化 4)フレイルとサルコペニア	塚本	予習(60分):老いのイメージについて、自分自身の考えをまとめる。 復習(60分):講義後、「老いる」ことの自分自身の考えをまとめる。
2・3	老年期にある対象の身体的特徴 1)老化の生活行動疑似体験　【グループ演習・アクティブラーニング②④IBM】 (1)視力低下、視覚障害 (2)手指の巧緻性の低下 (3)聴覚低下 (4)全身の筋力や関節可動域の変化 2) 臓器・器官別の加齢性変化 (1)脳・神経系　(2)心・血管系 (3)呼吸器系　(4)消化器系 (5)腎・泌尿器系　(6)骨・筋・運動器系 (7)造血器・生殖器系	塚本 塚本	予習(60分):老化にともなう高齢者の身体的変化についてテキストを読みまとめる。 復習(60分): 演習を振り返り、器官別に身体的機能の変化の特徴をまとめる。 **課題**①(300分):「老化が心身と生活に及ぼす影響について」のレポートを提出する。 提出期間:1週間後。**(成績評価15%)**
4	老化による日常生活への影響 1)身体的側面の変化 2) 知的・認知的側面の変化 3)心理的側面の変化 4)社会的側面の変化	塚本	予習(60分):テキストの該当するページを読み、分からない用語を調べる。 復習(60分):講義を振り返り、高齢者の生活のなかで注意が必要な場面について、根拠とともにまとめる。
5	老年期の発達課題 1)発達理論と発達課題 2)老年期の発達課題 3)スピリチュアリティ	塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(60分):老年期の発達課題、死生観についてまとめる。
6	人口学的指標からの老年期の理解および医療のしくみ 1)高齢化と高齢者世帯 2)高齢者の健康状態、平均寿命、健康寿命、死亡の動向 3)高齢者と家族機能 4)介護家族の課題 5)高齢者の医療のしくみ	塚本	予習(60分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(60分):介護家族に対して、どのような対策が必要かを考えまとめる。 各自在住する地域の介護保険サービス提供施設について調べる。
7	老年看護の原則と目標【1】　【アクティブラーニング③④⑤】 1)高齢者に対するスティグマ、エイジズム 2)アドボカシー、アドボケイト 3)ノーマライゼーション 4)自立支援	塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、看護師を目指す自己の課題を明らかにする。 復習(30分):自立支援についてまとめる。

8	老年看護の原則・目標【2】 1）高齢者虐待/身体拘束 2）権利擁護のための制度 3）老年看護における看護理論 ・エンパワメント ・ストレングスモデル ・ライフレビュー ・コンフォート理論 4）高齢者のための国連原則 5）まとめ	塚本	予習（30分）:新聞記事の検索システムを活用し、高齢者虐待や身体拘束に関連した報道をとりあげ、自己の考えをまとめる。 復習（30分）:高齢者の権利を擁護するために、必要な対策について考えをまとめる。 **課題②**(360分) 1回～8回までの授業を振り返り、レポートを提出する。 タイトル「近年の高齢者を取り巻く問題・課題と看護職を目指す自分の考え」 表紙に、タイトルを書き、文字のフォントは、12ポイント・明朝体・太文字とする。 表紙以外の本文は、フォント10.5ポイント・明朝体とする。 用紙は、A4、横書き、上下・左右余白ともに20mmとし、1ページ40字×40行とする。 提出期間:1週間後。**（成績評価15%）**

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		IBL(Inquiry Based Learning) タブレット端末を活用した身体機能チェック 老化の生活行動疑似体験
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義のなかで実施する。

【成績の評価方法】

評価と到達目標との関係については、到達目標1は課題①と筆記試験で評価する。到達目標2・3・5は、課題②と筆記試験で評価する。到達目標4は、筆記試験で評価する。

課題①レポート15%(15点)、課題②レポート15%(15点)、筆記試験70%(70点)、合計100%(100点)として総合評価する。
レポートの課題と評価は、事前ガイダンスをおこない、5つの観点に対して評価基準3～5段階で作成したルーブリック表を用いておこなう。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

北川公子ほか:系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 9版, 医学書院.

【参考書】

1.佐々木英忠ほか:系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　5版, 医学書院.
2.百瀬由美子, 奥野 茂代ほか:老年看護学 第6版　―概論と看護の実践―,ヌーベルヒロカワ.
3.亀井智子:老年看護学①老年看護学概論/老年保健　第5版,/メヂカルフレンド社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

老年内科での看護師実務経験、認知症高齢者の療養施設での研修・研究活動のある教員が、老化、病、障害を複合的に抱える高齢者と家族を支える看護の原則、目標・理論について教授する。

【オフィスアワー】

火・木の12:00～13:00、16:00～18:00である。研究室への訪室やg-mailで質問等に対応する。

【教員連絡先】

mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

この科目は、2年次の必修科目である老年生活機能援助論・老年健康回復援助論につながる重要な学修内容である。
予習、復習を必ず教科書を活用し丁寧に行い、授業を受けることで、老年看護学への学問的な関心が高まる。

授業科目名	老年生活機能援助論	担当教員名	大津山優葵　塚本都子			
コード	22NPR318	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目は、1年次の必修科目である老年看護学概論で学修した高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴を踏まえ、発展的な学修内容である。老化、病、障害を合わせ持つ高齢者と家族に対して、個々の生活史を踏まえ、健康や生活に関する意思を尊重した看護について学ぶ。前半においては、避けることのできない生理的な老いによる影響を受ける生活リズムに焦点をあてた学修内容である。生活リズムの構成要素である食事、排泄、清潔、睡眠と覚醒、活動と休息の視点から高齢者特有の生活機能の障害に対する本人の能力を重要視した看護の方法について学修する。後半においては、病的老化に影響を受ける生活機能に焦点をあてた学修内容である。摂食・嚥下機能の障害、認知機能の障害、コミュニケーション障害に関する代表疾患と症状を取り上げ、演習を通じて根拠のある看護の方法について学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	高齢者の生活の場(施設・病院・居宅サービス)の変化および受療形態に応じた看護について説明することができる。			○	○	
2	高齢者個々の生活を整える看護について、老化による生活への影響と関連づけて記述することができる。		○	○		
3	排泄機能の障害に応じた看護方法について、明確な根拠をもとに記述できる。		○	○		
4	摂食・嚥下機能の障害に応じた看護方法について、明確な根拠をもとに記述できる。		○	○	○	
5	認知症高齢者の状況に適した看護について、明確な根拠をもとに述べるできる。		○	○	○	
6	高齢者の状況に適した援助的コミュニケーションについて、明確な根拠をもとに記述できる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	老年看護の理念 ・老年看護の理念・目標・原則 高齢者の日常生活を支える基本動作と看護 ・基本動作と転倒、フレイル、サルコペニアのアセスメントと看護	塚本	予習(15分):1年次「老年看護学概論」の身体的・精神的・社会的特徴を復習する 授業内容についてテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):講義を振返り、転倒リスク、フレイルとサルコペニアの定義をまとめる
2	施設・居宅サービスにおける看護 ・介護老人保健施設、介護老人福祉施設、デイケア・デイサービスの看護 受療形態に応じた高齢者の看護 ・入院時、外来時の看護(退院支援を含む) ・高齢者が受けることの多い検査と看護	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):講義を振り返り、施設・居宅サービスの特徴をまとめる
3	高齢者にとっての生活リズムと看護 ・生活リズムのアセスメントと看護 ・睡眠障害と看護	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読および指定の動画教材を視聴し、 授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):高齢者に特徴的な睡眠障害への看護に関してまとめる。
4	薬物療法を受ける高齢者の看護 ・加齢に伴う薬物動態の変化 ・薬物療法に際しての管理とリスクマネジメント	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読および指定の動画教材を視聴し、 授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):高齢者の加齢に伴う生理的変化を取り上げ、薬物動態に伴う課題を整理する
5	高齢者にとっての排泄と看護　① ・排泄のアセスメントと看護 ・排尿障害と看護	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読および指定の動画教材を視聴し、 授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):高齢者の排泄機能の障害について性差、原因、看護をまとめる
6	高齢者にとっての排泄と看護　② ・排泄のアセスメントと看護 ・排便障害と看護(便失禁・便秘・下痢など)	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読および指定の動画教材を視聴し、 授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):高齢者の排泄機能の障害について性差、原因、看護をまとめる
7	高齢者にとってのコミュニケーションと看護　① ・コミュニケーション意義と機能低下のアセスメントと看護	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読および指定の動画教材を視聴し、 授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):高齢者の老化に伴うコミュニケーション機能の低下に応じた看護についてまとめる
8	高齢者にとってのコミュニケーションと看護　② ・脳血管疾患によるコミュニケーション障害と看護 【演習:アクティブラーニング①③④ 】	大津山	予習(15分):事前の演習課題に取り組む 復習(15分):演習を振り返り、指定のレポートを作成する
9	高齢者にとってのコミュニケーションと看護　③ ・脳血管疾患によるコミュニケーション障害と看護 【演習:アクティブラーニング①③④ 】	大津山	予習(15分):事前の演習課題に取り組む 復習(15分):演習を振り返り、指定のレポートを作成する **事後レポート60分(❶成績評価10%)、レポート作成期間:1週間**
10	高齢者にとっての食事・水分摂取と看護① ・食事のアセスメントと看護 ・PEM(たんぱく質エネルギー低栄養状態)と看護 ・摂食、嚥下機能障害と看護	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読および指定の動画教材を視聴し、 授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):PEMとサルコペニア、フレイルとの関係についてまとめる 事後レポート(60分)
11	高齢者の食事・水分摂取と看護② ・摂食、嚥下機能障害がある高齢者への食事支援 【演習:アクティブラーニング①】	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読および指定の動画教材を視聴し、 授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):授業を振り返り、摂食と嚥下機能障害への看護に対する根拠を明確にする
12	高齢者にとっての清潔と看護　① ・清潔のアセスメントと看護 ・オーラルフレイルと看護　【演習:アクティブラーニング①】	塚本	予習(30分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習(15分):高齢者に特徴的なオーラルフレイルに関する看護をまとめる。 **事後レポート60分(❷成績評価10%)、レポート作成期間:1週間**

13	高齢者にとっての清潔と看護 ② ・清潔のアセスメントと看護 ・皮膚障害（掻痒症、褥瘡、スキンテア）と看護	塚本	予習（15分）:授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習（15分）:高齢者に特徴的な皮膚障害について、原因別に看護をまとめる
14	認知機能の障害をもつ高齢者の看護 ① ・認知症とは(原因疾患・症状・診断・治療・予防) ・認知症、うつ、せん妄との違い ・認知症高齢者の看護	塚本	予習（15分）:授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習（15分）:認知症の原因疾患別に授業内容を振り返る
15	認知機能の障害をもつ高齢者の看護 ② ・コミュニケーション方法、環境づくり ・日常生活のケア、行動・心理症状への対応 【グループ演習:アクティブラーニング②③④】	塚本	予習（30分）授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする 復習（15分）:認知症高齢者のBPSD誘因と予防について、環境因子の視点から看護師の関わり方をまとめる。 **グループ演習課題60分（❸成績評価10%）**

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	模擬嚥下教材
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義に実施する。

【成績の評価方法】

課題:30%
定期試験:70%
合計:100%
演習レポート20点（❶❷各10点）、グループ演習課題10点（❸）、定期試験70点で総合評価する。
レポートの課題の評価は、事前ガイダンスをおこない、事前に指定した評価の観点に対して評価基準3段階で作成したルーブリック表を用いておこなう。

【生成AI利活用（　有　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

北川公子ほか:系統看護学講座　専門分野　老年看護学　第9版 【電子版】, 医学書院.

【参考書】

1.百瀬 由美子, 奥野 茂代他:老年看護学―概論と看護の実践 第6版,ヌーベルヒロカワ.
2.山田 律子:生活機能からみた 老年看護過程 第3版: +病態・生活機能関連図,医学書院.
3.鳥羽研二ほか:系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論　5版 【電子版】, 医学書院.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

高齢者を対象とした看護師実務経験のある教員を中心に、老化、病、障害を複合的に抱える高齢者と家族の生活機能を支える看護を教授する。

【オフィスアワー】

大津山は、毎日12:10～13:00である。研究室への訪室やGmailで質問等に対応する。

【教員連絡先】

yohtsuyama@g.t-junshin.ac.jp　mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

この科目は、既習の老年看護学概論の学びをもとに発展的に学修する科目です。また、2年後期の科目「老年健康回復援助論」に繋がる重要な学修内容となっています。
予習、復習および課題レポートに対して、教科書、関連参考書を活用し丁寧に取り組むことにより、老年看護学への学問的な関心が高まります。

授業科目名	老年健康回復援助論	担当教員名	大津山優葵　塚本都子			
コード	22NPR319	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目は、健康状態の急激な変化があり生命の危機的状況や周手術期にある高齢者の特徴と看護について学修する。代表的な急性機能障害として、骨折、脳梗塞、COPD等を取り上げ、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴をふまえて、健康課題と必要となる看護を生活者の視点から多面的に思考する。演習では、片麻痺体験をふまえADL障害に対するリハビリテーション看護技術について学ぶ。また、災害時の高齢者特有のリスク要因をもとに、避難所生活の疑似体験をとおして、高齢者の課題と支援について学修する。看護過程の展開では、手術療法を受ける高齢者の事例または慢性疾患の急性増悪の事例をもとに、急性期にある高齢者に対して入院時から退院後の生活を見据えた支援方法について理解を深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	急性期・回復期にある生活機能障害を伴う高齢者への看護について根拠とともに記述することができる.		○	○		
2	高齢者特有の医療事故におけるリスクマネジメントの視点から, 高齢者を護るための看護の基本を記述することができる.		○			
3	周手術期において高齢者に生じやすい問題を列挙し, それぞれの看護の基本を記述することができる.		○			
4	急激な健康破綻により生命の危機的状態にある高齢者への看護について述べることができる.		○			
5	紙上事例による看護過程の展開を通して、高齢者を尊重した個別性のある看護計画を立案することができる.		○	○		○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	イントロダクション 1.急性状況にある高齢者の特徴 1) 急性状況にある高齢者の身体的な特徴 2) 緊急入院による心理的影響 3) 緊急入院に伴う合併症 2.急性状況にある高齢者への看護 1) 急性期看護の特徴(入院時、入院中、在宅へつなぐ退院支援) 2) 高齢者の急性期入院ケアモデル	大津山	予習(15分):学習内容についてテキストの該当する箇所を熟読し、 授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):講義を振り返り急性状況にある高齢者への看護をまとめる。
2	3. 高齢者と医療事故 1) 高齢者特有のリスク要因 2) リスクマネジメント 3) 医療事故への対応	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):講義を振り返り、高齢者の医療事故に関する特徴と看護についてまとめる。
3	4. 高齢者に起こりやすい症状と看護 1 1) 脱水 2) 熱中症	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):授業を振り返り、高齢者に生じる脱水・熱中症に関する特徴と看護についてまとめる。
4	3) 眩暈 4) 起立性低血圧 5) 深部静脈血栓症	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):授業を振り返り、高齢者に生じる起立性低血圧・深部静脈血栓症の特徴と看護についてまとめる。
5	5. 高齢者と災害看護 1 1)高齢者特有のリスク要因 2)避難所生活における高齢者の課題と支援	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):授業を振り返り、生理的老化、病的老化をもつ高齢者の避難生活における自己の課題をまとめる。
6	高齢者と災害看護 2 【演習】 3)避難所生活における高齢者の課題と支援	大津山	予習:授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):講義・演習を踏まえ、指定された課題レポートをまとめる。 **事後レポート(❶成績評価5%)、レポート作成期間:1週間【45分】**
7	6. 脳血管・神経機能障害を持つ高齢者の看護 1) 出血性疾患への看護 病態と要因、診断治療、、症状と生活への影響、看護 2) 脳梗塞性疾患への看護 病態と要因、診断治療、症状と生活への影響、看護	塚本	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):講義を振り返り、脳血管疾患・神経障害を持つ高齢者の特徴と看護についてまとめる。
8	3) 脳血管・神経機能障害を持つ高齢者の看護リハビリテーションを受ける 高齢者の看護 【演習】 4) ADL障害の体験 (片麻痺・杖歩行)	塚本	予習(15分):授業内容の脳血管・神経機能障害がADLに与える影響について理解しておく。 復習(15分):講義・演習体験を踏まえ、指定された課題レポートをまとめる。 **事後レポート(❷成績評価5%)、レポート作成期間:1週間**
9	7. 高齢者に起こりやすい症状と看護 2 1) 感染性胃腸炎 2) COPD 急性増悪	塚本	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする. 復習(15分):講義を振り返り、高齢者の感染性胃腸炎、COPD急性増悪の特徴と看護についてまとめる。
10	3) 掻痒感 4) 疼痛	塚本	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする. 復習(15分):講義を踏まえ、高齢者に生じる掻痒感・疼痛の特徴と看護についてまとめる。
11	8. パーキンソン病とパーキンソン症候群 病態と要因、診断、治療、症状と生活への影響、看護	塚本	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする. 復習(15分):講義を踏まえ、パーキンソン病とパーキンソン症候群についてまとめる。
12	9. 急性期病院で治療を受ける認知症高齢者への看護 1) 入院により生じやすい問題 2) 倫理的課題 3) 中核症状の悪化予防 4) BPSDの発症予防	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする. 復習(15分):講義を踏まえ、急性期病院で治療を受ける認知症高齢者の特徴と看護についてまとめる。
13	10. リハビリテーションを受ける高齢者への看護 1)高齢者の疾患とリハビリテーション 2)高齢者のリハビリテーションの意義 3)高齢者のリハビリテーションにおける留意点	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):高齢者特有の疾患とリハビリテーションの特徴についてまとめる。

14	4)リハビリテーションの実際 5)退院支援	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):講義を踏まえ、高齢者のリハビリテーションの実際と退院支援を関連させて看護についてまとめる。
15	11.手術療法を受ける高齢者への看護 1) 高齢者の多い手術 2) 手術と麻酔に伴うリスク 3) 術前看護 4) 術中看護 5) 術後看護	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする. 復習(15分):講義を踏まえ、一般的な術前後の経過と高齢者の特徴が回復過程に与える影響についてまとめる。
16	12.手術療法を受ける高齢者への看護 大腿骨頚部骨折で骨頭全置換術を受ける患者の看護	大津山	予習(15分):授業内容に関してテキストの該当する箇所を熟読し、授業への自己の課題を明らかにする。 復習(15分):講義を踏まえ、大腿骨頚部骨折で手術を受けた高齢者の特徴と回復過程の看護についてまとめる。
17	12.看護過程の展開(1) 【演習】 演習オリエンテーション(ヘンダーソン)事例紹介・情報の整理	大津山 塚本	予習(15分):看護過程の展開(演習)に必要となる既習の知識を振り返る. 復習(30分):17回～30回まで、演習参加度・個人課題にて評価(成績評価30%)
18	12. 看護過程の展開(2) 【演習】 アセスメント(ニード14項目)	大津山 塚本	復習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、ニードのアセスメントの見直し 次回までに指定された課題(ニードのアセスメント)を進める。
19	12. 看護過程の展開(3) 【演習】 アセスメント(ニード14項目)	大津山 塚本	予習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、ニードのアセスメントの見直した内容を整理する。 グループでの意見交換の準備をする。
20	12. 看護過程の展開(4) 【演習】 アセスメント(ニード14項目)	大津山 塚本	復習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、ニードのアセスメントの見直し 次回までにニードのアセスメントと関連図の作成)を進める。
21	12. 看護過程の展開(5) 【演習】 関連図(全体像)・健康課題	大津山 塚本	予習(30分):アセスメント結果と関連図の内容、健康課題の抽出をする 復習(30分):
22	12. 看護過程の展開(6) 【演習】 関連図(全体像)・健康課題	大津山 塚本	復習(60分):グループ討論の結果を踏まえて、ニードのアセスメントの見直しと関連図・健康課題の 関連の見直しを進める。健康課題リストの作成
23	12. 看護過程の展開(7) 【演習】 関連図(全体像)・健康課題	大津山 塚本	予習(60分):アセスメントした内容と関連させ健康課題の根拠を整理する。 健康課題リストの作成に取り組んでくる
24	12. 看護過程の展開(8) 【演習】 関連図(全体像)・健康課題	大津山 塚本	復習(60分):アセスメントした内容と関連させ健康課題の根拠を整理する。 健康課題の援助計画(きたされる結果・長期看護目標含む)立案する
25	12. 看護過程の展開(9) 【演習】 看護計画の立案(期待される結果・長期目標含む)	大津山 塚本	予習(60分):健康課題に対する、期待される結果と援助計画の作成
26	12. 看護過程の展開(10) 【演習】 看護計画のの立案(期待される結果・長期目標含む)	大津山 塚本	予習(60分):看護計画・期待される結果について意見交換の準備をする
27	12. 看護過程の展開(11) 【演習】 看護計画立案(期待される結果含む)	大津山 塚本	予習(60分):グループ討議の結果を踏まえ看護計画の見直し援助計画の実践の準備をする
28	12. 看護過程の展開(12) 【演習】 看護計画立案(期待される結果含む)	大津山 塚本	復習(60分):援助計画の実施後の評価について整理する。
29	12. 看護過程の展開<13) 【演習】 看護計画立案(期待される結果含む)	大津山 塚本	予習(30分):看護計画のの実施評価の整理した内容について意見交換できるよう準備をする。 復習(30分):
30	12. 看護過程の展開(14) 【演習】 看護計画	大津山 塚本	予習(30分):看護過程提出に向けて記録の整理及び見直し

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	模擬患者の導入
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

リアクションペーパーや課題レポートに対するフィードバックは、次回以降の講義に実施する。

【成績の評価方法】

看護過程課題:30%
演習レポート:10%
定期試験:60%
合計:100%

【生成AI利活用 (　有　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　有　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

北川公子ほか:系統看護学講座　専門分野　老年看護学　第9版 【電子版】, 医学書院.

【参考書】

1. 池松裕子ほか:成人看護学　急性期看護論,ヌーベルヒロカワ.
2. 石川ふみよ:看護過程の解体新書,学研.
3. 山田 律子:生活機能からみた 老年看護過程 第3版: +病態・生活機能関連図,医学書院.
4. 北川公子ほか:系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学9版, 医学書院.
5. 亀井智子:新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 5版,メヂカルフレンド社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師の実務経験、認知症療養型施設での看護師臨床研修等の経験がある教員が中心に教授する。

【オフィスアワー】

大津山は、毎日12:10～13:00である。研究室への訪室やGmailで質問等に対応する。

【教員連絡先】

yohtsuyama@g.t-junshin.ac.jp　mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

この科目は、老年看護学概論と老年生活機能援助論の学びをもとに発展的に学修する科目であり、3年次に位置する老年生活支援実習、老年退院支援実習に必要な学修内容となっています。
進度は、1週間に2時間ずつ進みます。看護過程の展開はグループ演習形式で行います。必ず、事前課題に対して教科書、関連参考書を活用し丁寧に取り組み、演習に参加してください。

授業科目名	小児看護学概論	担当教員名	尾山木綿子			
コード	22NPR320	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目では、小児看護学を学ぶ基盤となる子どもの特徴および小児医療・看護の変遷、子どもの成長・発達の理解に必要な各理論、倫理的配慮、各発達段階の特徴、さまざまな小児看護の場に在る子どもとその家族および場の特徴、などについて学修する。子どもを取り巻く環境が大きく変化し，国の法律・施策の改正が行われている。とりわけ，2016年に一部改正のあった児童福祉法において「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）に則る内容である」との明示がされ、すべての子どもはその家族を含め「最善の利益を目指す」関わりを受ける権利のあることが掲げられている。看護職は、多岐に渡る看護の場において、子どもの個の特徴をふまえたうえでセルフケア能力が培われるよう働きかける役割をも担うが、このために必要な、各発達段階の特徴、発育・発達の評価などの一般的なスケールを学修する。また、あらゆる場での多職種連携・協働のなかで看護専門職の責務が果たせるよう、その場の概要と看護師の具体的な役割について学び、続く当該領域の学びの基盤と学習の動機づけの機会とする。基本となる概念理解が「子ども中心のケア」にむけ重要である。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 小児看護の対象と看護の役割について説明ができる。		○			
2 小児看護における倫理と、子どもの権利について説明ができる。	○			○	
3 子どもの成長・発達に関連の深い理論について、その活用の意義を述べることができる。					○
4 子どもの健全な成長発達の特徴と支援について説明ができる。				○	
5 健康障害をもつ子どもと家族にとっての疾病障害の受容、ストレス・コーピング、について説明できる。					○
6 健康障害をもつ子どもと家族への支援について説明ができる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	●小児看護の理念と変遷: ・小児看護の目的，原理,対象，家族の位置づけ，倫理，役割を知る ・保健統計や小児医療の動向から，現状の課題を考える［課題:working］	尾山木綿子	予習(30分):シラバスより概要を理解する。講義範囲「小児看護の特徴と理念」の内容を熟読する。 復習(30分)事後学習:講義を振り返り、教科書および資料をもとに学んだ内容をノートにまとめる。
2	●小児保健活動と関連する法律: ・子どもの健康増進と具体的な政策取り組みを知る ・小児の安全な環境と子どもをめぐる法律の概要を学ぶ	尾山木綿子	予習(30分):講義が行われる範囲である「小児の健康増進における施策や法律」に関連のある教科書内容を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、教科書および資料をもとに学んだ内容をノートにまとめる。
3	●子どもの権利擁護と倫理: ・子どもの権利条約や児童憲章について知る ・子どもの人権尊重や倫理的配慮を考慮した看護を考える［課題のフィードバック］	尾山木綿子	予習(30分):講義が行われる範囲である「子どもの権利擁護と倫理」に関連のある教科書内容を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、まとめる。
4	●小児の看護理論と発達: ・看護理論や発達理論の活用と発達過程における看護を学ぶ ・小児各期の発達における課題や評価法について学ぶ	尾山木綿子	予習(60分):講義が行われる範囲である「小児看護における倫理」に関連のある教科書内容を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、まとめる。
5	●小児の成長と発達: ・成長発達の原理とその関連要因について知る ・子どもの身体的成長と機能的発達について学ぶ	尾山木綿子	予習(60分):講義が行われる範囲である「子どもの成長・発達、発達評価、各発達段階の章の中のあそびに関する項目(該当ページを目次から見つけること)」に関連のある教科書内容を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、まとめる。
6	●小児各期における特徴と看護①: ・新生児～乳幼児期における成長発達の特徴や養育について学ぶ ・基本的日常生活行動や遊びの意義について学ぶ	尾山木綿子	予習(60分):講義が行われる範囲である「新生児から乳幼児期の成長・発達」に関連のある教科書内容を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、まとめる。
7	●小児各期における特徴と看護②: ・学童期～思春期における成長発達の特徴やセルフケアについて学ぶ ・成長過程にみられる健康問題の特徴や援助について学ぶ	尾山木綿子	予習(60分):講義が行われる範囲である「学童・思春期の成長・発達」に関連のある教科書内容を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、まとめる。
8	●健康障害をもつ子どもと家族への看護 ・障害をもつ子どもと家族の特徴や必要な看護を学ぶ ・小児と家族を取り巻く社会環境と健康問題について考える［working］	尾山木綿子	予習(60分):講義が行われる範囲である「障害のある子どもと家族」「子どもの虐待と看護」に関連のある教科書内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		毎回、パワーポイントによる講義をメインに行う。 授業資料は、事前にPDFでコンテンツサイト上にアップし、ペーパーレス化に努める。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題に対するフィードバックは、次回の講義に行う

【成績の評価方法】

課題:20 %
小テスト:0 %
定期試験:80 %
合計:100%

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

・『小児看護学概論　小児臨床看護総論』小児看護学①　医学書院
・『小児臨床看護各論』小児看護学②　医学書院

【参考書】

・『小児看護　第2版（パーフェクト臨床実習ガイド）』(2019)照林社
・『新体系看護学全書　小児看護学①小児看護学概論』(2021)メジカルフレンド社
・その他適宜紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

看護師としての臨床経験のある教員が、小児期のさまざまな年齢や健康レベルにある小児の特徴と、子どもが育まれる環境や社会的資源の重要性について教授する。
また、さまざまな状況にある子どもへの日常生活援助の在るべき方向性について、ケアの実際のイメージがしやすいよう、画像、動画、エピソード等を用いて指導する。

【オフィスアワー】

水曜日：12時10分-13時

【教員連絡先】

yoyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	小児看護学援助論	担当教員名	尾山木綿子　城所眞紀子			
コード	22NPR321	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

この科目では，疾病・障害のある子どもと家族、および、さまざまな状況にある子どもと家族”に対する看護援助について学ぶ。学修内容は例えば、既に小児看護学概論で学んだ「子どもの権利の擁護」が、実際の看護援助において何をどう実践することなのかという疑問と関心が持てるよう、わかりやすく看護の視点での疾患や状況について講義を行う。病態や症状について知識を得て推論することが、根拠をもった看護につながることの理解ができるよう学修を進める。
看護基礎教育における積極的な知識の積み重ねが、やがて出会う子どもに対する看護援助につながることを念頭に、子どもの疾患、障害，検査、治療について学修する。子どもは常に成長・発達する存在であり，いかなる健康段階にあっても，成長と発達への促しは必須である。「教育を受ける」「遊ぶ」といった，子ども特有の権利を行使できるよう，具体的な支援を学ぶ。また、小児期にみられやすい疾患は数多くあり、同じ疾患としても個人差は大きい。よって、”その子どもと家族”にとっての「最善の利益」が考えられるよう、これまでに得た知識を統合し看護援助に活かせるよう、柔軟に想起し思考できることを目指し学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 健康障害を持つ子どもと家族の特性について述べることができる。			○		
2 子どもにみられる疾患の病態、症状、診断、治療、予後に関する知識を統合し、患児に応じた看護について述べることができる。		○			
3 健康障害をもちながら成長・発達する「子どもの権利」について、医療を受ける上での擁護を具体的に述べることができる。				○	
4 障がいの受容と、医療的ケア児の課題、小児看護の役割と責務について説明することが出来る。			○		
5 障がいのある子どもの「療育」に関連する多職種の、それぞれの役割をふまえたチームアプローチについて説明することができる。		○			
6 虐待を受けている子どもと家族の看護が説明できる。		○			
7 災害時の子どもと家族の看護が説明できる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	●子どもの健康障害と看護: ・病期の始まり、子どもにみられやすい症状より小児における主な健康影響を知る ・健康障害を持つ子どもやその家族の看護を考える [working]	尾山木綿子	予習(120分):事前学習:関連のシラバスをよく読み概要を理解する。 講義範囲である「子どもにみられやすい症状と看護」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
2	●子どもの神経障害(特別支援教育含)と看護: ・障害の種類と現状を知り、心身障害児の社会福祉や教育支援を学ぶ ・障害のある小児とその家族への看護について考える [working]	尾山木綿子	予習(120分):事前学習:講義範囲である「障害のある小児とその家族」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):事後学習:講義を振り返り、まとめる。
3	●検査・処置を受ける子どもの看護: ・治療における小児の主体性の尊重 (IA/IC)、プレパレーションについて知る ・検査を受ける小児への説明や支援について考える [working]	尾山木綿子	予習(120分):講義範囲である「検査・処置を受ける子どもの看護」に関連ある内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
4	●子どもの健康障害と看護 ①: ・ハイリスク新生児の特徴と家族の受容にむけた看護を知る ・小児に特有な症状(発熱/脱水/痙攣/嘔吐/下痢/発疹)の特徴と看護を学ぶ	尾山木綿子	予習(120分):講義範囲である「新生児の看護/小児に特有な症状」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
5	●子どもの健康障害と看護 ②: ・手術を受ける小児の特徴と看護を知る ・痛みや活動制限が必要な小児の特徴と看護について学ぶ	城所眞紀子	予習(120分):講義範囲である「手術を受ける看護」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
6	●子どもの健康障害と看護 ③: ・慢性期疾患を持つ小児の特徴と看護を学ぶ ・小児慢性特定疾患や成人移行期における社会資源や制度を知る	城所眞紀子	予習(120分):講義範囲である「代謝性疾患と看護・1型糖尿病の看護」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
7	●子どもの健康障害と看護 ④: ・アレルギー疾患のある小児の特徴と看護を学ぶ ・急性増悪の予防(コントロール)に向けたセルフケアと家族への援助を学ぶ	城所眞紀子	予習(120分):講義範囲である「免疫・アレルギー性疾患と看護」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
8	●子どもの健康障害と看護 ⑤: ・小児のウイルス(麻疹/風疹/水痘/ムンプス/RS/ロタ)や細菌感染症について知る ・予防接種(小児期の接種スケジュール)や感染予防法を学ぶ	城所眞紀子	予習(120分):講義範囲である「小児期にみられやすい感染症と看護」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
9	●子どもの健康障害と看護 ⑥: ・血液造血器疾患を持つ小児の特徴と看護を知る ・化学療法や造血幹細胞移植による副作用への援助を考える [working]	尾山木綿子	予習(120分):講義範囲である「血液・造血器疾患と看護」に関連ある内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
10	●子どもの健康障害と看護 ⑦: ・腎泌尿器疾患を持つ小児の特徴と看護 ・腎代替療法後の栄養制限について考える [working]	尾山木綿子	予習(120分):講義の範囲である「腎泌尿器疾患と看護」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
11	●さまざまな状況にある子どもと家族の看護 ①: ・虐待を受けている小児の特徴と看護について学ぶ ・災害による子どもへの影響と家族の支援	尾山木綿子	予習(120分):講義範囲の「災害時/虐待を受けている子どもと家族への看護」の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
12	●さまざまな状況にある子どもと家族の看護 ②: ・医療的ケアを要する小児の特徴と看護を学ぶ ・医療的ケア児に関する法律と保育所学校等における看護職の役割を知る	尾山木綿子	予習(120分):講義範囲である「医療的ケアを有する小児と看護」に関連の内容を熟読する。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。

13	●事例によるグループワークと発表： ・事例をもとに病態生理、小児と家族の特徴、看護ケアについて考える［GW］ ・事例に対する看護の展開をまとめ、プレゼン準備をする	尾山木綿子 城所眞紀子	予習（120分）：事例について熟読し、病態生理を確認しておく。 復習（90分）：GWにて話しあった事例の展開をまとめる。
14	●事例によるグループワークと発表： ・事例をもとに病態生理、小児と家族の特徴、看護ケアについて考える［GW］ ・事例に対する看護の展開をまとめ、プレゼンテーションをする［GW］	尾山木綿子 城所眞紀子	予習（120分）：事例についてのプレゼン資料を完成させる。 復習（90分）：GWにて話しあった事例展開の発表を振り返りまとめる。
15	●事例の解説とまとめ： ・解説後の修正を加え、発表資料の提出をする ・講義のまとめ	尾山木綿子 城所眞紀子	復習（120分）：解説より事例の展開の修正をまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		毎回、パワーポイントによる講義をメインに行う。 授業資料は、事前にPDFでコンテンツサイト上にアップする。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション		
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

GW発表に対するフィードバックは、次回の講義で行う

【成績の評価方法】

GW/発表：20％
定期試験：80％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

・『小児看護学概論　小児臨床看護総論』小児看護学①　医学書院
・『小児臨床看護各論』小児看護学②　医学書院

【参考書】

・『ナースがみる人体』、『ナースがみる病気』 講談社
・『発達段階からみた小児看護過程　第3版+病態関連図』 医学書院
・『小児看護ケアマニュアル』 中山書店
・『疾患別小児看護　基礎知識・関連図と実践事例』 中央法規

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

・看護師として、小児の外科・内科・ICU病棟、地域、保育園での実務経験をふまえ、疾病障害のある子どもの看護について講義する。

【オフィスアワー】

尾山：水曜日12:10-13:00

【教員連絡先】

yoyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	小児看護学演習	担当教員名	城所眞紀子　尾山木綿子			
コード	22NPR322	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

この科目では小児看護学概論と小児看護学援助論をもとに，小児看護の対象である子どもと家族への基本的な援助技術を学ぶ。とりわけ、健康障害を持つことによって外来受診から入院に至った子どもと家族の全体像をとらえ、これまでに得た知識を統合して検討し看護の方向性を見出せることをねらいとしている。小児看護の場は多様化し、さまざまな状況にある子どもに対応できる看護技術がなくてはならない。いかなる看護援助場面においても、子どもの安全と安楽に配慮した看護技術が行えることを念頭に置き、体験的に学修する。また、検査，治療をうける子どもへの説明について演習を通じて学修する。ひとつひとつの技術が，臨床判断によるものであり，その評価によって次に活かされる必要のあることを理解するために，問題解決思考により展開がされる看護過程ツールを用い、小児期に罹患しやすい疾患の症状、診断、治療に関する知識を統合し、対象に応じた看護の援助を学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 小児看護に必要な基本的技術にはどのようなものがあるかを知り、技術の意義と方法が述べられる。	○				
2 対象の個別性をふまえた小児看護技術について、根拠のもとに計画的に見出すことができ、実践できる。		○			
3 小児看護に必要な基本的技術として、看護過程を活用することが出来る。			○	○	
4 看護過程をもとに実践した内容を振り返るための留意点が述べられる。				○	
5 小児看護技術の実施者である自己の「在りよう」に気づき、学びとすることができる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	●ガイダンス: ・科目の概要 ●講義:小児看護に必要な基本的情報収集、分析・解釈。	城所眞紀子	予習(60分):講義が行われる範囲の教科書を熟読する 。 また、講義が行われる範囲の「小児のバイタルサイン測定、身体測定」について、 教科書を熟読する。 復習(30分):講義を振り返り、まとめる。
2	●講義:小児看護の基本的な援助技術①＜子どものアセスメント＞ ・フィジカルアセスメント(バイタルサイン測定、身体測定)	城所眞紀子	予習(60分):小児看護学援助論で学習した関連項目の資料、ノート、教科書等を再学習しておく。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
3	●講義:小児看護の基本的な援助技術②＜与薬・輸液療法、移動＞ ・経口与薬の実際 ・輸液療法(輸液管理ほか)・移動(安全、事故防止)		
4	●演習:小児看護の基本的な援助技術①＜子どものアセス ・フィジカルアセスメント(バイタルサイン測定、身体測定)	城所眞紀子	予習(60分):小児看護学援助論で学習した関連項目の資料、ノート、教科書等を再学習しておく。 復習(30分)事後学習:講義を振り返り、まとめる。
5	●演習:小児看護の基本的な援助技術②＜与薬・輸液療法、移動＞ ・経口与薬の実際　・輸液療法(輸液管理ほか)・移動(安全、事故防止)		
6	●講義・演習:小児看護の展開事例「看護実践、保清①」	城所眞紀子	予習(60分):小児看護学援助論で学習した関連項目の資料、ノート、教科書等を再学習しておく。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
7	●講義・演習:小児看護の展開事例「看護実践、保清②」		
8	●講義・演習:小児看護の展開事例「手術前看護①」	城所眞紀子	予習(60分):小児看護学援助論で学習した関連項目の資料、ノート、教科書等を再学習しておく。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
9	●講義・演習:小児看護の展開事例「手術後看護②」		
10	●講義:看護過程展開 ＜情報収集、情報の分析解釈アセスメント、看護計画立案＞ ・演習事例紹介「ネフローゼ症候群の8歳児への看護」（課題）	城所眞紀子 尾山木綿子	予習(60分):小児看護学援助論で学習した関連項目の資料、ノート、教科書等を再学習しておく。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
11	●演習:看護過程展開 （個人・グループ間で必要な看護を考える①）		
12	●演習:看護過程展開　（個人・グループ間で必要な看護を考える②）	城所眞紀子 尾山木綿子	予習(60分):前回授業で学習した関連項目の資料、ノート、教科書等を再学習しておく。 復習(60分):講義を振り返り、まとめる。
13	●演習:看護過程展開　（個人・グループ発表）		
14	●講義・演習:小児の救命救急 「子どもの病態評価、小児アセスメントトライアングル」	城所眞紀子 尾山木綿子	予習(30分)事前学習:小児看護学援助論で学習した関連項目の資料、 ノート、教科書等を再学習しておく。
15	●講義:小児看護学実習における看護過程ほか記録、まとめ		予習(60分):これまで学んだ内容の教科書、ノート、資料を再度見直し、疑問内容をまとめておく。 復習(30分)事後学習:講義を振り返り、まとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	Googleclassrooにて演習内容等の指示発信や情報共有を行う。 DVDの活用を行う。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義に行う

【成績の評価方法】

課題:20%

定期試験:80%
合計:100%

【生成AI利活用 (　 無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　 無　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

・『小児看護学概論　小児臨床看護総論』小児看護学①　医学書院
・『小児臨床看護各論』小児看護学②　医学書院

【参考書】

・『小児看護技術子どもと家族の力をひきだす技』南江堂(2019)
・山元恵子ほか『写真でわかる小児看護技術アドバンス』インターメディカ　(2017)
その他は適宜紹介する

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

・看護師として、小児の外科・内科・ICU病棟、地域、保育園での実務経験をふまえ、疾病障害のある子どもの看護について講義し指導する。
・看護師として小児病棟での豊富な実務経験をふまえ指導を行う。
・助産師として広く助産、子育て支援の場において活動した経験をふまえ指導を行う。

【オフィスアワー】

【尾山】水曜日:12時10分-13時

【教員連絡先】

yoyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学概論	担当教員名	時田　純子・間中　伴子・岡本喜代子			
コード	22NPR323	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

リプロダクティブ・ヘルス／ライツおよびウィメンズヘルスの基本的かつ主要な概念を理解し，女性の身体的，心理社会的，文化的側面に着目して女性の生涯を通した健康支援について考察する。女性の各ライフステージである思春期・成熟期・更年期・老年期における健康の特徴と健康課題および健康支援に関する看護方法について学修する。現代社会における女性の多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題への看護支援について多角的な視点で議論する。具体的には、日本のみならず、異文化理解としてインドにける月経の実情を取り上げ、女性の健康について考える。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1　リプロダクティブ・ヘルス／ライツおよびウィメンズヘルスの主要概念について説明できる。	○				
2　女性の身体的、心理社会的、文化的側面を考慮し，女性の生涯を通した健康支援について考えを述べることができる。		○			
3　性差医療，性差にセンシティブな女性の健康を支える医療について説明できる。		○	○	○	
4　女性の各ライフステージ(思春期・成熟期・更年期・老年期)における健康課題とその看護について説明できる。			○		
5　女性の多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題と看護について説明できる。			○		
6　女性と家族に対するよりよい健康を創造する発展的な看護について考察し表現できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【科目ガイダンス】 【母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状①】 A. 母性看護の歴史的変遷と現状、わが国における母性看護の変遷、 母性看護にかかわる指標とその推移、法律、母子保健法、母体保護法、児童福祉法	時田 岡本	予習(30分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。
2	【母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状②】 B. 母性看護に係る施策、母子保健施策、健やか親子21、妊娠・出産包括支援事業、　C. 母性看護の提供システム、母性看護に係る機関、職種、周産期母子医療センター、 母子健康包括支援センター、女性健康支援センター	岡本	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。
3	【少子化時代の育児をめぐる健康課題と看護:コミュニティ活動を通して】 異文化理解／多様な健康観 月経ダブーのインドの実情を通して女性の健康を考える	時田 ゲスト スピーカー	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。
4	【母性看護の基盤となる概念①】 A. リプロダクティブヘルス/ライツに関する概念: リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、セクシュアリティ/ヘルスプロモーション	間中	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。
5	【母性看護の基盤となる概念②】 B.　母性・父性・家族に関する概念: 母性、父性、親性、母親役割、父親役割、母子相互作用、愛着形成	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。
6	【女性のライフサイクル各期における看護①】 A-1.　思春期・成熟期女性の健康課題 A-2.　思春期・成熟期女性の健康維持への看護	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。
7	【女性のライフサイクル各期における看護②】 B-1. 更年期・老年期女性の健康と看護	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(120分):講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。
8	リプロダクティブヘルスケア(最新の話題から) 家族計画、性感染症、人工妊娠中絶、喫煙と女性の健康	時田	予習(60分):テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。 復習(60分):講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	教員は実務経験をふまえ、最新の話題などできるだけ具体的なエピソードを交えて講義を行う。 講義は教科書に沿って進めるが、学習がより深められるようスライドや動画を活用する。 看護職に国際的な視点を持たせるために、異文化理解や多様な健康観を学ぶ機会を入れる。 文化的背景や宗教が健康に及ぼす影響を理解するために、 今回はインドの実情に焦点を当てる。 ICTネットワーク(Googleclassroom、Gmailでの連絡、Googleformによる課題提出、ビシュランクラウド、YouTubeの視覚教材を活用する。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義や、ICTを活用したフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

定期試験：100％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

学生便覧　看護学部進級要件に準ずる

【教科書】

シリーズ系統看護学講座　専門分野母性看護学[1]母性看護学概論　第14版　森恵美他.

【参考書】

ナーシンググラフィカ　母性看護学①概論・リプロダクティブ へすると看護　MCメディカ出版　2022
その他、授業中に適宜紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

時田：助産師として、総合周産期センター（NICU、GCU、分娩棟）や、地域新生児訪問指導員としての実務経験がある。
間中：助産師として大学病院参加病棟、母乳育児相談室開業、助産院、保健センター、院内助産等に勤務した。総合周産期センター院内助産では、師長として勤務した経験がある。

【オフィスアワー】

時田：月～金　12:10～13:00
間中：月～金　12:10～13:00

【教員連絡先】

研究室
時田：3号館4階　3422-2号室　jtokita@g.t-junshin.ac.jp
間中：3号館4階　3414号室　　tmanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学援助論	担当教員名	谷口典子　時田純子			
コード	22NPR324	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

リプロダクティブヘルス看護学の目的は，女性とその家族のライフサイクル全体を通じて、リプロダクティブヘルスと発達課題を学ぶことを目的としている。本科目では，妊婦・産婦・褥婦・胎児および新生児とその家族を看護の対象とし，周産期にある女性の妊娠・分娩・産褥期の生理的な変化とそれに伴う健康課題，胎児・新生児期の成長と発達，および胎外生活への適応過程と健康課題への援助についてウエルネスの視点から学ぶ。また，子どもの誕生で家族が経験する変化と、その適応を支援する援助について学ぶ。具体的には、リプロダクティブヘルス看護学では、ウェルネス志向を取り入れた看護の展開や出産した女性が家族や子育て支援制度を利用するなどして、協力しながら子育てを行うことを学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 生殖(特にマタニティサイクル)に関わる身体的心理社会的な特徴と、生理的な機序について説明できる。	○	○			
2 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児、その家族の特徴について説明できる。		○			
3 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児、家族に対する看護の方法について説明できる。		○			
4 妊娠・分娩・産褥期にある女性と新生児の健康問題および、健康課題について説明できる。		○			
5 妊娠および出産に関わる倫理的問題を理解し、看護の役割について説明できる。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	科目ガイダンス 生殖に関する形態機能，排卵・月経周期の復習、妊娠の定義・機序	時田　谷口	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(①)を自己学習。
2	妊娠期のヘルスケア① 妊娠による母体の変化、妊娠によるマナートラブル、胎児の成長・発達	時田	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(②)を自己学習。
8	妊娠期のヘルスケア② 妊婦健康診査(超音波診断法、胎児心拍数モニタリング)、妊婦保健指導、 妊婦とその家族への健康支援	時田	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(③)を自己学習。
4	妊娠期のヘルスケア③ 妊娠期の異常と看護 (不育症、流産、早産、常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、 妊娠糖尿病、妊娠貧血、妊娠悪阻、高年妊娠、若年妊娠、胎児発育不全)	時田	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(④)を自己学習。
5	分娩期のヘルスケア① 分娩の定義・機序、分娩の3要素	谷口	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(⑤)を自己学習。
6	分娩期のヘルスケア② 分娩経過と看護	谷口	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(⑥)を自己学習。
7	分娩期のヘルスケア③ 分娩期の異常と看護(異常出血、胎児機能不全、陣痛異常、回旋異常)	谷口	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(⑦)を自己学習。
8	産褥期のヘルスケア① 産褥の定義・生理・経過	谷口	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(⑧)を自己学習。
9	産褥期のヘルスケア② 産褥期の看護、メンタルヘルス	谷口	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(90分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(⑨)を自己学習。
10	産褥期のヘルスケア③ 母乳栄養の確立	谷口	予習(90分):テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習(45分):ホームワーク課題のワークブック指定箇所(⑩)を自己学習。

11	産褥期のヘルスケア④ 家族の看護、産褥期の異常と看護 （子宮復古不全、産褥精神障害、産褥熱、尿路感染症など）	谷口	予習（90分）：テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習（90分）：ホームワーク課題のワークブック指定箇所（⑪）を自己学習。
12	新生児期のヘルスケア① 胎外生活への適応と生理的変化（呼吸器、循環器）	谷口	予習（90分）：テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習（90分）：ホームワーク課題のワークブック指定箇所（⑫）を自己学習。
13	新生児期のヘルスケア② 胎外生活への適応と生理的変化（代謝、栄養）	谷口	予習（90分）：テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習（90分）：ホームワーク課題のワークブック指定箇所（⑬）を自己学習。
14	新生児期のヘルスケア③ 新生児の看護の原則と成長発達を促すケア	谷口	予習（90分）：テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習（90分）：ホームワーク課題のワークブック指定箇所（⑭）を自己学習。
15	新生児期のヘルスケア④ 新生児の異常と看護 （先天代謝異常、早産児・低出生体重児、胎便吸引症候群、高ビリルビン血症、 新生児ビタミン欠乏症、低血糖など）	谷口	予習（90分）：テキストの該当部分を読み，疑問を整理しておく。 復習（90分）：ホームワーク課題のワークブック指定箇所（⑮）を自己学習。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

リアクションペーパー、課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義で行う。

【成績の評価方法】

定期試験：100％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

リプロダクティブヘルス看護学概論の単位を取得していることが望ましい。

【教科書】

・系統看護学講座専門25　母性看護学②　母性看護学各論　医学書院

【参考書】

・ナーシンググラフィカ　母性看護学（3）母性看護技術　MCメディカ出版
・ナーシンググラフィカ　母性看護学②母性看護の実践　　MCメディカ出版　最新版
・母性看護学1　妊娠・分娩　　医歯薬出版KK、
・母性看護学2　産褥・新生児　医歯薬出版KK、

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

谷口：助産師として公立病院、行政、海外でお産サポートや産後ケアの経験あり。産後ケア事業、自宅出産のサポートも行う。20年以上の助産師経験あり。臨床指導者、専任教員などで看護教育に携わる。　　時田：助産師として、総合周産期センター（NICU、GCU、分娩棟）や、地域新生児訪問指導員としての実務経験がある。

【オフィスアワー】

谷口・時田：月～金　12：10～13：00　事前に希望日時等の相談をGメールにて連絡すること。

【教員連絡先】

谷口：研究室　B棟4階　3429号室　　ntaniguchi@g.t-junshin.ac.jp　　時田：3号館4階　3422-2号室　jtokita@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学演習	担当教員名	時田純子・間中伴子　他			
コード	22NPR325	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

リプロダクティブヘルス看護学概論，リプロダクティブヘルス看護学援助論で学んだ知識を基盤として，周産期にある女性とその家族の具体的な事例を用いた看護過程の演習を行う。そ演習の中に，妊婦・産婦・褥婦，胎児・新生児のフィジカルアセスメント演習および沐浴・育児技術を組み合わせ，科学的思考力に支えられた臨床診断に基づく，リプロダクティブヘルス看護実践に必要な技術演習を行う。対象女性とその家族の個性やライフスタイルを尊重した，科学的思考に基づいた看護支援ができる能力を修得する。具体的には、事例演習では褥婦と新生児を中心に展開するが、妊婦・産婦のアセスメントも関連させて思考が整理できるようにする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	技術演習を通して、基礎的なフィジカルアセスメントおよび沐浴・育児技術が実践できる。			○		
2	マタニティサイクルにある女性と新生児、その家族の健康レベル・発達過程を考慮した看護過程の展開について説明できる。		○			
3	マタニティサイクルの各期(妊娠期・分娩期・新生児期・産褥期)における健康課題とその看護について説明できる。		○			
4	マタニティサイクルの多様なライフスタイルや家族のあり方から派生する健康課題とその看護について説明できる。			○		
5	マタニティサイクルにある女性とその家族に対するよりよい健康を創造する発展的な看護について説明できる。					
6	個人・グループワークを通して、マタニティサイクルにある女性とその家族への看護について看護専門職として議論ができる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【科目ガイダンス】 1. 科目の位置づけ　2. 授業の概要	時田	予習:技術演習項目について、テキストをよく読み疑問箇所を整理する。(15分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。指摘した動画を視聴する。(20分)
2	技術演習ガイダンス	時田	予習:テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく(20分) 復習:講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる(20分)
3 4	【技術演習】 妊婦・産婦・褥婦および新生児のフィジカルアセスメント	時田 間中他	予習:技術演習項目について、テキストをよく読み、演習について整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
5 6	【技術演習】 沐浴演習	時田 間中他	予習:技術演習項目について、テキストをよく読み、演習について整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
7	【事例演習】 模擬患者の看護過程の展開①妊婦のアセスメント	時田	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
8	【事例演習】 模擬患者の看護過程の展開②産婦のアセスメント	時田	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
9	【事例演習】 模擬患者の看護過程の展開③褥婦のアセスメント	時田	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
10	【事例演習】 模擬患者の看護過程の展開④褥婦のアセスメント	時田	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
11	【事例演習】 模擬患者の看護過程の展開④褥婦のアセスメント	時田	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
12	【事例演習】 模擬患者の看護過程の展開④褥婦のアセスメント	時田	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
13	【事例演習】 模擬患者の看護過程の展開⑥新生児のアセスメント	時田	予習:ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程を読み、疑問箇所を整理する。(30分) 復習:当該授業の学びの内容をノートにまとめる。(30分)
14 15	総合周産期母子医療センターにおける医療と看護　帝王切開術時の看護	外部講師【聖マリアンナ医科大学病院産科病棟師長】	予習:テキストの該当部分を読み、疑問を整理しておく。(30分) 復習:講義のノートを整理し、キーワードについてまとめる(30分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		この科目では、ICTネットワーク(Googleclassroom、Gmailでの連絡、Googleformによる課題提出、 ビシュランクラウド、YouTubeの視覚教材を活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義や、ICTを活用したフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

課題：20％
小テスト：80％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

リプロダクティブヘルス看護学援助論を履修していることが望ましい。

【教科書】

1. シリーズ系統看護学講座　専門分野母性看護学母性看護学概論　第14版[1]森　恵美他
2. シリーズ系統看護学講座　専門分野母性看護学母性看護学各論　第14版[2]森恵美他

【参考書】

ウエルネスの視点にもとづく母性看護過程　第4版　太田操編著　2024年1月

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

時田：助産師として、総合周産期センター（NICU、GCU、分娩棟）や、地域新生児訪問指導員としての実務経験がある。
間中：助産師として大学病院参加病棟、母乳育児相談室開業、助産院、保健センター、院内助産等に勤務した。総合周産期センター院内助産では、師長として勤務した経験がある。

【オフィスアワー】

時田：月～金　12:10～13:00
間中：月～金　12:10～13:00

【教員連絡先】

時田：3号館4階　3422-2号室　jtokita@g.t-junshin.ac.jp
間中：3号館4階　3414号室　　tmanaka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

2025年1月27 日

看護学部　　2025(令和7)年度

授業科目名	基礎看護展開実習	担当教員名	安藤幸枝・岩淵正博・原口真由美・髙山由利江　他			
コード	22NPR339	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】
本科目では、看護過程の展開方法を活用し、日常生活上の問題解決に向けた看護援助を計画・実施・評価する基礎的能力を身につけることを目指している。実習での核となる目標は、看護の問題解決力を修得し、疾患や障がいが対象の日常生活に及ぼす影響を身体的・精神的・社会的な側面から統合的に理解することである。具体的には、オリエンテーションの時間を活用し、既習の知識・技術・態度を再学習しながら統合し実習前の十分な準備とする。病棟では看護過程の展開方法を用いて、病院で療養生活を送る患者の日常生活上の問題を明らかにし、解決に向けた看護計画を立案し看護援助を実施し評価する。また実習での学びをレポートにより振り返り、自己の課題を明らかにするとともに自己の看護観についても考察していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 患者を尊重してコミュニケーションをとることができる。			○		
2 患者の状態を把握するために行う援助計画を立案できる。		○			
3 安全・安楽の視点に合わせて患者の援助を実施・評価できる。		○			
4 患者の入院前後の生活を把握し、生活行動をアセスメントできる。		○			
5 実習の評価により、看護学生として自己研鑽するための課題を挙げることができる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	詳細は、基礎看護展開実習要項参照のこと	安藤、岩淵、原口、髙山他(オリエンテーション)	
2	実習期間:2025年8月26日(月)～9月5日(金)／9月8日(月)～9月20日(土) オリエンテーション:7月中旬、下旬、8月中旬、下旬(予定)　4～5日間の予定とする 「人体の構造と機能」の復習、各技術練習、情報管理についてグループワークを行う。	7/中旬・下旬 ○限	【病院実習　1日目】 予習(45分): ・実習目標を理解し、自分の目標を設定する。実習当日の一日の行動計画を立てる。 ・事前に行う実習オリエンテーションの課題:実習に向けて事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。 ・必要な援助技術の練習を行う。 ・病棟の特性から、入院患者の疾患を理解するための学修を行う。 復習(45分): ・オリエンテーション内容を整理し、援助計画書をファイリングする。 【実習2日目～3日目】 予習(各45分) ・受け持ち患者の身体面・心理面・社会面を捉えるために、必要な知識を学修する。 ・受け持ち患者を理解するために、事前学習した援助計画書を参考にしながら、看護技術のシミュレーションおよび知識の再確認をする。 ・情報の整理を行いながら、受け持ち患者はどのような状態にあるのか、どのような援助を必要としているのかを考え、患者の全体像を作成する。 復習(各45分): ・実習を振り返り、記録用紙を整理する。 ・実施した看護技術について振り返り、翌日の援助に活用する。 ＊学内日:記録のまとめ、不足している情報について明確にしておく。 【実習4日目～5日目】 予習(各45分) ・アセスメントに必要な情報をあらかじめ、選定しておく。 ・復習(各45分) ・患者のアセスメントをまとめる。 【実習5日目～7日目】 予習(各45分) ・患者の課題となりうるものについてアセスメントからまとめておく。 復習(各45分) ・アセスメントに基づく課題と個別性を考えた援助の計画をまとめる。 【実習8日目～10日目】 予習(45分): ・看護診断に対する結果、評価、修正についてまとめる。 ・実習の学びや自己評価についてまとめておく。 ＊学内日:看護過程の展開を振り返り、修正点や再計画についてまとめる。 復習(45分): ・自己の看護観についてまとめる。 ・グループメンバー間での意見交換を行い学びを共有する。
3		8/中旬 1～4限	
4		8/中旬 1～3限	
5	実習時間:原則として8:45－16:00(初日は9:45病棟到着) 学内 9:00－16:00予定	安藤、岩淵、原口、髙山他 1クール:8月26日(月)～9月5日(金) 2クール:9月8日(月)～9月20日(土)	
6	実習施設:聖マリアンナ医科大学病院他		
7	1日～10日目の実習全般において: ・患者の状態を把握するために、看護援助を計画・実施・評価し、看護過程の展開方法を活用しながら対象をアセスメントする基礎的能力を身につける。		
8	実習方法:・学生は6～7名程度でグループを編成し、各病棟に分かれて実習を行う ・病棟オリエンテーションを受ける。 ・原則として患者を1名受け持つ。		
9	具体的なねらい: 1日目～2日目:患者と接する。病棟の構造を知る。患者の生活を知る。 3日目～4日目:患者の生活を知る。患者の課題を明らかにし、原則に基づく援助を実施する。(アセスメント)		
10	5日目～7日目:患者の生活を理解する。患者の課題を明確にしながら、個別的な生活援助を実施する。(看護診断)		
11	8日目～9日目:課題(看護診断)に対する結果、評価、修正を行う。 重要点を中心に、簡潔明瞭に報告を行う。		
12	1週目、2週目の水曜日に学内日を設ける。		
13	・実習最終日は学内とする。評価面接、実習のまとめを行う。 【目標の達成状況について、評価面談を行う】		
14	実習記録の提出		
15			

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		・基礎看護展開実習前に、看護技術の事前課題を提示するため、グループを中心に実習室を有効活用する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・実習中の質問や疑問は、当日や翌日に実習担当教員や臨地実習指導者より返答する。また、必要時、記録の提出にコメントを入れて返却する。

【成績の評価方法】

・4/5(48時間/60時間)以上の出席をもって、実習目標の到達度を実習内容・実習態度・実習記録・カンファレンスへの参加度などをもとに、実習評価表の評価項目(100%)に沿って評価する。

・原則として、実習記録物の提出が指定された期日および時間に遅れた場合は、不合格となる。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価:有 〈実習後のレポート課題〉】

【履修申請上の条件】

・特になし

【教科書】

・特に指定しない。

【参考書】

・特に指定しない。

【オープンな教育リソース】

・特になし

【担当教員の実務経験】

・看護師としての臨床経験のある教員および、看護教育に従事した経験のある教員が、実務経験を踏まえて看護の思考過程や援助技術の実践などについて教授する。

【オフィスアワー】
・担当教員…実習病院で実習期間中の時間内に行う。学内実習は、学内で実習期間中の時間内に行う。

【教員連絡先】

・安藤：yando@g.t-junshin.ac.jp、各担当教員の連絡方法は、別途説明する。

【備考】

・実習開始前に、学内で実習オリエンテーションを行う。オリエンテーションでは事前課題が提示されるので準備して実習に臨むこと。
・これまでに学んだ知識・技術・態度を統合する実習であり、安全に看護を実践できるよう、十分な事前学修をして実習に臨むこと。
・健康管理に十分留意しながら日常生活を過ごして、実習に臨むこと。
・本科目は、専門6領域看護学実習の先修科目となっている。

授業科目名	暮らしの理解体験実習	担当教員名	川込あゆみ　神田千春			
コード	22NPR340	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	1年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
◎	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

この科目では、「暮らしの理解」で学修した知識をもとに，地域で暮らす人々とのコミュニケーションを通して人々の暮らしと地域の人々への支援を学ぶ。暮らしの理解体験実習では、「学ぶこと」，「働くこと」，「子どもを産み育てる」，「病を治す」，「老いとともに生きる(定年後の生活)」のテーマを中心に地域の人々とのコミュニケーションを通して暮らしの実態を把握する。地域住民の暮らしの実態では，①地域住民の生活史，②地域住民の生活（食生活、運動、睡眠等），③地域住民の社会生活（家族、趣味、ボランティア等），④地域住民の健康状態，⑤地域住民の健康に対する価値観（考え）ならびに，健康と暮らしとの関連として，①地域住民の健康と暮らし（食生活・活動等）との関連，②地域住民の健康と社会生活との関連をまとめ，地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする。さらに，グループディスカッションを通して，地域の人々の暮らしの理解を深めるとともに，支援のあり方を考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 地域住民の暮らしの実際を述べることができる。			○		
2 健康と暮らしとの関連について述べることができる。			○		
3 地域住民の暮らしのニーズ、課題を述べることができる。			○		
4 地域住民への支援のあり方を述べることができる。			○		
5 地域住民の方を尊重し、マナーを守って行動することができる。	○				
6 看護学生として健康をテーマに住民と交流することができる。	○				

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修（予習・復習・課題等）
1	1日目： （午前） 1．オリエンテーション ・実習の到達目標、実習概要 ・『暮らしの理解体験実習』の自己の目標を立案する。 2．「障害をもちながら地域で暮らす」講座後の交流会の計画立案 3．「地域の方との交流会」の計画立案 （午後） 1．「障害をもちながら地域で暮らす」講座 2．「障害をもちながら地域で暮らす」講師とともにディスカッション 3．「障害をもちながら地域で暮らす」の学びをパワーポイントにまとめる。	川込あゆみ 神田千春	予習（90分）： (1)八王子市加住・高尾地域の特徴を配付資料とインターネット等で調べてまとめる。 (2)「暮らしの理解体験実習」の自身の実習目標を記述する。 (3)「障害をもちながら地域で暮らす」講座後の交流会の実習目的と実習スケジュールを記述する。 (4)「地域の方との交流会」の自身の実習目的と実習スケジュールを記述する。 復習（45分）： (1)行動計画表（実習結果と考察、学び）をまとめる。
2	2日目：高尾地区 1．介護予防教室等に参加 2．地域の方との交流会に参加 ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活（食生活、運動、睡眠等） ③地域住民の社会生活（家族、趣味、ボランティア等） ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観（考え） 加住地区の学生 1.加住地区の特徴をまとめる。 2.共生社会に対する個々の考えをまとめる。	川込あゆみ 神田千春	予習（45分）： (1)行動計画表の行動目標・実習スケジュールを立案する。地域特性を踏まえた質問内容を考える。 復習（90分）： (1)行動計画表（実習結果と考察、学び）をまとめる。 (2)協力住民へのお礼の手紙を書く。
3	3日目:加住地区 1．介護予防教室等に参加 2．地域の方との交流会に参加 ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活（食生活、運動、睡眠等） ③地域住民の社会生活（家族、趣味、ボランティア等） ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観（考え） 高尾地区の学生 1.加住地区の特徴をまとめる。 2.共生社会に対する個々の考えをまとめる。	川込あゆみ 神田千春	予習（45分）： (1)行動計画表の行動目標・実習スケジュールを立案する。地域特性を踏まえた質問内容を考える。 復習（90分）： (1)行動計画表（実習結果と考察、学び）をまとめる。 (2)協力住民へのお礼の手紙を書く。
4	4日目： 1．地域の方との交流会の結果をまとめる ①地域住民の生活史 ②地域住民の生活（食生活、運動、睡眠等） ③地域住民の社会生活（家族、趣味、ボランティア等） ④地域住民の健康状態 ⑤地域住民の健康に対する価値観（考え） 2．健康と暮らしとの関連 ①地域住民の健康と暮らし（食生活・活動等）との関連 ②地域住民の健康と社会生活との関連 3．地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする 4．地域住民への支援のあり方 1）地域住民の健康に関する価値観・考え 2）地域住民の生活に関する価値観・考え 3）地域住民が考える価値観を取り入れた支援について 5.『暮らしの体験実習』の学び ※1～5をパワーポイントにまとめる。	川込あゆみ 神田千春	予習（45分）： (1)地域の方との交流会の結果をまとめる。 (2)健康と暮らしとの関連についてまとめる。 復習（90分）： (1)地域住民の暮らしのニーズ・課題と地域住民への支援のあり方をまとめる

5	5日目: 1. 実習の学びの発表会・まとめ ①地域住民の暮らしの交流会・地域における車椅子の生活の結果 ②健康と暮らしとの関連 ③地域住民の暮らしのニーズ・課題を明確にする ④地域住民への支援のあり方 ⑤『暮らしの理解体験実習』の学び	川込あゆみ 神田千春	予習(30分): (1)実習の学びの発表会の準備 復習(105分): (1)実習記録の整理 (2)『暮らしの理解体験実習』の学びのレポートの作成

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

実習翌日ならびに実習5日目の発表後に実施する。

【成績の評価方法】

実習評価表に基づき評価する。
合計:100%

【 ルーブリック評価の活用 (　 有　) 】

【 生成AI利活用 (　 無　) 】

【履修申請上の条件】

「暮らしの理解」を履修していることが望ましい。

【教科書】

地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基礎　第6版, 医学書院, 2022

【参考書】

・基礎からわかる　地域・在宅看護論　照林社　2021年
・五十嵐隆:はじめてママ＆パパの育児―0～3才赤ちゃんとの暮らし　気がかりがスッキリ　主婦の友社　2014
・戸塚洋二:がんと闘った科学者の記録　文春文庫　2009
・Bricolage(ブリコラージュ)2021夏号【273号】地域でつなぐ　2021
・岩名礼介　新版　地域包括ケア　サクセスガイド:「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現する　メディカ出版　2020
・秋山正子:「暮らしの保健室」ガイドブック「相談/学び/安心/交流/連携/育成」の場　日本看護協会出版会　2021
・リンダ・グラットン:LIFE SHIFT(ライフ・シフト)―100年時代の人生戦略　東洋経済新聞社　2016
・長谷川和夫:僕はやっと認知症のことがわかった　自らも認知症になった専門医が日本人に伝えたい遺言　KADOKAWA　2019年

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

川込あゆみ:臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。

【オフィスアワー】

川込あゆみ:火～金12:10～13:00

【教員連絡先】

川込あゆみ:akawagome@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	地域・在宅看護学実習	担当教員名	川込あゆみ　神田千春			
コード	22NPR341	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

地域・在宅看護学で学んだ知識・技術を基に，訪問看護ステーション，地域包括支援センター，病院の退院調整部門の実習を通して，在宅における看護の実際を学ぶ。訪問看護ステーション実習では，療養者の自宅へ同行訪問する。選定した受持ち療養者について，生活に即した看護を展開するために看護過程を立案して発表し，指導を踏まえた追記・修正を行うことで全体像に即した看護問題と看護実践を検討する。また，地域包括支援センターでは，介護予防事業，地域支援事業等に参加し，地域包括支援センターの役割を学修する。病院の入退院支援室の実習では，継続看護，退院支援看護師の役割について学修する。さらに，地域包括ケアシステムにおける多職種の協働・連携と看護職の役割の実際を学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 在宅療養者とその家族の生活状況と訪問看護の実際を通して、訪問看護師の役割が説明できる。		○	○		
2 療養者とその家族に対する訪問看護の意義とその人に合わせた看護について説明できる。		○	○		
3 地域包括支援センターで働く各専門職者の機能と役割を理解し，地域で暮らす人々に対する包括的，継続的なサービス体制が説明できる。			○	○	
4 病院の地域医療連携室の実習を通して、退院支援・退院調整、退院支援看護師の役割が説明できる。			○	○	
5 地域包括ケアシステムにおける多職種の協働・連携と看護職の役割と課題が説明できる			○	○	
6 療養者とその家族、医療者に対する挨拶や適切な言葉づかい等、看護学生として望ましい態度や行動をとることができる。			○	○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	実習1日目: 訪問看護ステーション実習 実習オリエンテーション(学内) 事前学習の確認テスト	川込あゆみ 神田千春	予習(180分): (1)地域包括ケアシステム (2)介護保険制度の目的、対象、手続き、サービス内容 (3)医療保険制度と介護保険制度による訪問看護の対象、サービス (4)障害者総合支援法の目的、対象、手続き、サービス内容 (5)障害者手帳の種類 (6)訪問時のマナー (7)訪問事例の発達段階・疾患・看護の復習 復習(60分):事前学習の確認テストの復習をする。
2	実習2～5日目: 在宅看護学実習:訪問看護ステーション2～5日目 (1)訪問看護ステーションの管理者より、施設オリエンテーションを受ける。 (2)訪問看護師とともに療養者宅を訪問し、様々な訪問看護のケースを見学する。 (3)同行訪問により、訪問看護技術を見学・体験する。 (4)サービス担当者会議などの他職種との連携場面への参加、 居宅介護支援事業所活動の紹介、モニタリング訪問などに参加する。 (5)カンファレンス等で訪問看護等について意見交換を行い、学びを共有する。	川込あゆみ 神田千春	予習(120分): (1)実習目標を熟読し、翌日の実習の計画立案 (2)訪問事例の発達段階・疾患・看護の復習 復習(150分): (1)実習記録の整理 (2)受持ち療養者1事例について、ICFモデルを活用して 情報整理、アセスメントを行う
3	実習6日目(学内実習): ・訪問看護ステーション実習の受け持ち療養者の看護過程の発表会を実施する。 ・地域包括支援センター実習オリエンテーション ・入退院支援室実習オリエンテーション	川込あゆみ 神田千春	予習(150分):実習要項を熟読する。 復習(90分):2週目の実習の計画立案
4	実習7～8日目: 地域包括支援センター実習 (1)地域包括支援センターの指導者より、施設オリエンテーション受ける。 (2)地域包括支援センターの相談業務(電話相談・窓口相談・訪問)の 見学を通し、相談内容ならびに支援方法を学ぶ。 (3)介護予防事業、地域支援事業等に参加し、事業の目的、対象、運営方法、 従事者、地域包括支援センターの関わりを学ぶ。 (4)カンファレンス等で地域包括支援センターでの支援活動について 意見交換を行い、学びを共有する。 (5)地域包括支援センターでの学びをレポートする	川込あゆみ 神田千春	予習(120分):地域包括支援センターが立地する日常生活圏域の特徴 (人口構成・地理的環境・社会資源等)をまとめる。 実習目標を熟読し、翌日の実習の計画立案 復習(120分):学習のまとめ、実習記録の整理、実習レポート
5	実習9日目: 入退院支援室実習 (1)指導者(退院支援看護師)より、施設オリエンテーションを受ける。 (2)退院支援看護師とともに病棟の患者を訪問しながら退院支援看護師の役割を 学ぶ。 (3)在宅療養を予定している患者とその家族に対する看護を通して、 在宅療養に対する療養者・家族の悩みや不安に対する援助を学ぶ。 (4)カンファレンス等で退院支援・退院調整や継続看護について意見交換を行い、 学びを共有する。 (5)入退院支援室実習での学びをレポートする	川込あゆみ 神田千春	予習(120分):実習目標を熟読し、翌日の実習の計画立案 復習(120分):学習のまとめ、実習記録の整理、実習レポート

6	実習10日目： 午前：実習のまとめと発表 午後：実習記録のまとめ、レポート作成、評価面接、記録物の整理・提出	川込あゆみ 神田千春	予習（120分）：2週間の学びをまとめる

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）		特になし。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③：ディスカッション・ディベート		
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

前日の実習に対する課題のフィードバックは翌日の実習時に行う。

【成績の評価方法】

＜評価基準＞
・訪問看護ステーション：対象者に対する訪問看護の意義とその人に合わせた看護援助、訪問看護師の役割について論じることを評価基準とする。
・地域包括支援センター：地域包括支援センターの役割と機能について記述できることを評価基準とする。
・入退院支援室：退院支援看護師の役割と継続看護について記述できることを評価基準とする。
＜割合＞
訪問看護ステーション：50％、地域包括支援センター：30％、地域医療連携室：20％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】
地域・在宅看護学実習評価の評価項目に基づいて評価を行う。

【履修申請上の条件】

地域・在宅看護学概論、地域・在宅看護学（生活援助技術）、地域・在宅看護学（医療関連技術）を履修していることが望ましい。

【教科書】

ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論①：地域療養を支えるケア　第7版　メディカ出版　2023年（1年次購入済）
ナーシング・グラフィカ　地域・在宅看護論②：地域療養を支える技術　第2版　メディカ出版　2023年
上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用―人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか（第2版）入門編、きょうされん　2021年

【参考書】

地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤　第6版, 医学書院, 2022.
地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践　第6版, 医学書院, 2022.

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

川込あゆみ：臨床看護、訪問看護、市町村保健師の実務経験をもとに様々なライフステージや健康レベルにある人と家族、地域を対象にした看護について講義を行う。

【オフィスアワー】

川込あゆみ：火～金12:10～13:00

【教員連絡先】

川込あゆみ：akawagome@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	成人慢性期看護学実習	担当教員名	宗定水奈子　東野友子　実習指導者			
コード	22NPR342	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目では，慢性期もしくは終末期にある人を受け持ち，健康レベルに応じた経過別看護の視点で知識・技術・態度を養う。慢性期においては，対象者とその家族が，発達段階に合わせた適切な生活をセルフマネジメントし再構築することで，最適な健康の維持・増進を図り，質の高い生活を営むための看護を実践することを学ぶ。終末期においては，対象者とその家族の全人的苦痛を理解し，緩和ケアを実践する。最期の時まで質の高い生活を営むための看護を実践することを学ぶ。多職種連携やチーム医療の重要性，看護師の役割についても学ぶ。具体的には、対象となる患者の看護過程を展開し、論理的思考によって必要な看護を考え、実践し、振り返り、修正する流れのなかで、自己を客観視する力を身につける。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 成人期の発達段階・発達課題をふまえ、慢性期にある患者、終末期にある患者の全体像をとらえることができる。		○			
2 慢性期にある患者が、最適な健康の維持・増進を図り，質の高い生活を営なむための看護を実践する能力を身につけている。			○		
3 終末期にある患者とその家族の全人的苦痛を理解、緩和し、最期の時まで質の高い生活を営むための看護を実践する能力を身につけている。			○		
4 医療チームにおける看護職の役割を理解できる。				○	
5 将来の看護専門職者として、ふさわしい態度および自己の看護観を育むことができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1.実習単位・期間・実習時間 1)実習単位:2単位 2)実習時間数:60時間 3)実習期間:3年後期の連続した2週間(うち、学内実習2日間) 4)実習時間:8:30～16:00(休憩1時間、カンファレンス1時間、記録整理の時間を含む) 実習時間は実習内容によって、延長などの変更がある。 学内実習の実習時間は、9:00～16:00とする。 2.実習施設 聖マリアンナ医科大学病院 3.オリエンテーション 実習開始日の前週にオリエンテーションを実施する。 基本的に金曜日15:00～17:00とする。 4.方法 原則的に1名の患者を受け持ち、看護を展開するが、全期間で複数名を受け持つことがある。	宗定 東野	1.事前学習 1)実習病棟の入院患者の特徴、代表的な疾患の病態生理、検査、治療と看護 2)慢性期にある患者、終末期にある患者のニーズ、症状緩和、セルフケア、QOLの維持・向上を考慮した看護について学習する。 2.記録および課題について 1)事前学習課題は実習オリエンテーション日に担当教員の確認を受ける。 2)日々の実習記録はタイムリーに記載する。 3)実習中の全ての記録物および課題は、実習の最終日に提出する。 復習(60分×10日):実習内容を振り返り、行動記録をSOAPで記載する。看護過程の展開を進める。 予習(75分×10日):事前学習を行い、必要な記録物(行動計画、支援計画書、教育計画書など)を記載する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	必要時、学内日に学生主体で動画の視聴や看護技術の演習を行う。 アイスブレイクを取り入れ、グループダイナミクスの構築を図る。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・実習記録に対するフィードバックは実習記録にコメントし、返却するので、内容を確認し、加筆修正を随時行う。
・記録内容によっては、担当教員より直接指導を受ける。

【成績の評価方法】

〈評価基準〉
・実習目標の到達度を実習内容・態度・記録から実習評価表に基づいて、到達レベルを段階的に評価する。
〈割合〉
・実習評価表に基づいて、100%で総合的に評価する。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

進級要件(必修科目の未修得科目は2科目まで)を満たしている。

【教科書】

・系統看護学講座　専門分野Ⅱ成人看護学1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11、医学書院
・NAND-I看護診断定義と分類2021－2023原書第12版　医学書院
・看護がみえるVol.4　看護過程の展開メデックスメディア

【参考書】

・ 松田ら(最新版):系統看護学講座　専門分野Ⅱ 成人看護学1－15, 医学書院
・ 鈴木久美ほか(2019):成人看護学 慢性期看護　改訂第3版, 南江堂
・ Strauss,A. L　et al. ,南裕子監訳(1987):慢性疾患を生きるーケアとクオリティ・ライフの接点. 医学書院
・野川道子他(2010):看護実践に活かす中範囲理論. メヂカルフレンド社
・ 鈴木志津枝　編集(最新版):成人看護学 慢性期看護論, ヌーヴェルヒロカワ
・三上れつ著『看護過程と看護診断』ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開(廣川書店)
・浦部晶夫・島田和幸・川合眞一:今日の治療薬　解説と便覧、南江堂
・井上智子ほか「病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程＋病態関連図」医学書院
・阿部俊子ほか「改訂版エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」中央法規

【オープンな教育リソース】

http://www.jds.or.jp/　一般社団法人日本糖尿病学会
https://ganjoho.jp/public/index.html　国立がん研究センターがん情報サービス
看護診断YouTube看護がみえる編集部【メディックメディア】

【担当教員の実務経験】

担当教員：看護師、がん看護専門看護師としての臨床経験のある教員が実務経験を活かして学生指導を行う。
臨床教員：臨床現場で実務経験の長い看護師が臨床教員として学生指導を行う。

【オフィスアワー】

学内日の昼休み。事前にメール等で連絡してから訪問すること。

【教員連絡先】

宗定　水奈子：mmunesada@g.t-junshin.ac.jp
本田　訓子：khonda@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・実習科目であるため、主体的な学修が必要となる。担当教員と連絡を取りながら十分な学修を行った上で実習に臨む。
・実習には、教科書や参考資料を持参して積極的に学ぶことができるようにする。
・実習前に事前課題に取り組み、期限までに提出する。
・看護学実習要項・専門領域成人慢性期看護学実習要項を熟知する。
・体調管理をしっかりと行う。
・私的な時間であっても適切な感染予防策を意識し、行動する。

授業科目名	成人急性期看護学実習	担当教員名	西山久美江、眞弓尚也、非常勤講			
コード	22NPR343	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	3単位／90時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目では、既習の必修科目や成人急性期看護学で学んだ知識を生かし、手術や疾病の急性増悪などにより健康状態が急激に変化している成人期にある患者とその家族を看護の対象として実際に受け持ち、一連の看護過程を展開する。生体が受けた侵襲からの早期回復と、その人らしい生活を送れるようにするために必要な個別性のある看護を提供することについて学ぶ。また、看護の対象である患者とその家族と援助的関係を築き、身体的・心理的・社会的側面から多角的に情報を収集しアセスメントを行い、科学的根拠に基づいた安全・安楽な看護援助を提供する。看護を提供した際には、対象の反応を正しく捉え、自己の提供した看護の結果について省察する。臨地実習を通して臨床判断能力を養うとともに、多職種連携やチーム医療の重要性、看護師の役割についても学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 急激に健康状態が変化している(手術・治療による侵襲、急性発症を含む) 対象とその家族を多角的に記述できる。		○			
2 急激に健康状態が変化している(手術・治療による侵襲、急性発症を含む) 対象の看護計画を立案できる。		○	○		
3 急激に健康状態が変化している(手術・治療による侵襲、急性発症を含む) 対象の回復の促進に向けた安全・安楽な看護援助を実施できる。			○	○	
4 急激に健康状態が変化している(手術・治療による侵襲、急性発症を含む) 対象に行った看護援助について評価できる。			○		
5 急性期における多職種との連携によるチーム医療や看護の役割機能を説明できる。				○	
6 看護学生として必要な倫理的行動の基礎および学習者としての姿勢を行動に示すことができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1. 実習単位・期間、実習時間 1)実習単位:3単位 2)実習時間数:90時間 3)実習期間:3年後期の連続した3週間 (学内実習日4日間) 4)実習時間:8:30～16:00(休憩1時間、カンファレンス1時間、記録整理の時間を含む) 実習時間は手術や実習内容によって、延長などの変更がある。 学内実習の実習時間は、9:00～16:00とする。 2. 実習施設 聖マリアンナ医科大学病院 3. オリエンテーション 実習開始日の前週にオリエンテーションを実施する。 4. 方法 原則的に1名の患者を受け持ち、看護過程を展開する。 3週目に救急外来見学実習を行う。	西山 眞弓 非常勤講師	1. 事前学習 1)実習病棟の入院患者の特徴、代表的疾患の病態生理、治療と看護 2)過大侵襲を受けた患者の生体反応 3)周手術期の看護 (1)術前看護(術前の身体機能の評価、心理面の評価、術前オリエンテーション、術前訓練、術前処置、手術当日の看護 (2)麻酔と手術中の看護 (3)術後急性期の看護(術直後の看護、合併症の予防と回復を促すための援助) (4)術後回復期の看護(退院を視野に入れた看護援助) (5)その他、受け持ち患者を身体面・心理面・社会面から総合的に理解できるように予習を進めること。 2. 実習記録および課題について 1)事前学習課題は実習直前オリエンテーション日に担当教員の確認を受けること。 2)日々の実習記録はタイムリーに記載すること。 3)実習中の全ての記録物および課題は、実習の最終日に提出すること。 3.予習・復習15時間、課題30時間の合計45時間が必要である。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	参考URL ・ビジュランクラウド:https://t-junshin.visualearn.jp クリティカルケア看護、目で見る周術期看護
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

・実習記録に対するフィードバックは実習記録にコメントして返却する。内容を確認し加筆修正を随時行うこと。
・記録内容によっては、担当教員より直接指導を行う。

【成績の評価方法】

・実習目標の到達度を実習内容・態度・記録から実習評価表に基づいて、到達レベルを段階的に評価する。
・実習評価表に基づいて、100%で総合的に評価する。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

進級要件である基礎看護展開実習を修得している。

【教科書】

・系統看護学講座 別巻　クリティカルケア看護学　医学書院.
・系統看護学講座 別巻　救急看護学　医学書院.
・系統看護学講座 別巻　臨床外科看護総論　医学書院.
・系統看護学講座 別巻　臨床外科看護各論　医学書院.
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1.2.3.4.5.6.7.8.9.10　医学書院.
・講義から実習へ高齢者と成人の周手術期看護 2.3、医歯薬出版.
・NANDA-I　看護診断　定義と分類　2024－2026　原書第12版.
・看護がみえる　Vol.4　看護過程の展開　メディックメディア.
・これならわかる！　術前・術後の看護ケア　～周術期看護の基礎知識から退院支援まで～　ナツメ社.

【参考書】

・鎌倉やよい・深田順子(2008):周術期の臨床判断を磨く、初版、医学書院.
・黒田裕子・林みよ子(2013):クリティカルケア看護 完全ガイド、初版、医歯薬出版.
・浦部晶夫・島田和幸・川合眞一(2020):今日の治療薬 解説と便覧, 南江堂.
・道又元裕(2011):クリティカルケア看護技術の実践と根拠、初版、中山書店.
・道又元裕・長谷川隆一・濱本実也・露木菜緒(2012):クリティカルケア実践の根拠、、初版、照林社.
・新見明子(2016):根拠がわかる疾患別看護過程、改訂第3版、南江堂.
・関口恵子(2016):根拠がわかる症状別看護過程、改訂第3版、南江堂.
・高木永子(2018):看護過程に沿った対症看護　第5版、学研メディカル秀潤社.
・卯野木健(2015):クリティカルケア看護入門"声にならない訴え"を理解する、改訂第2版、学研メディカル秀潤社.
・山口瑞穂子・関口恵子(2016):経過がみえる疾患別病態関連マップ、第2版、学研メディカル秀潤社.
・山口瑞穂子・関口恵子(2016):疾患別看護過程の展開、第5版、学研メディカル秀潤社.
・和田攻(2003):第一線のナースと保健師のための実践臨床看護手技ガイド、第2版、文光堂.
・黒田裕子(2015):看護診断のためのよくわかる中範囲理論、第2版、学研メディカル秀潤社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

担当教員:看護師、急性・重症患者看護専門看護師としての臨床経験のある教員が実務経験を活かして学生指導を行う。
臨床教員:臨床現場で実務経験の長い看護師が臨床教員として学生指導を行う。

【オフィスアワー】

学内日の昼休み。事前にメール等で連絡してから訪問すること。

【教員連絡先】

西山　久美江:knishiyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・実習科目であるため、主体的な学修が必要となる。担当教員と連絡を取りながら十分な学修を行った上で実習に臨むこと。
・看護学実習要項・専門領域看護学実習要項の急性期看護学実習の部分を熟読すること。
・体調管理をしっかりと行い、十分な睡眠時間を確保すること。
・手術見学時には清潔・不潔をしっかり理解した上で、見学に臨むこと。
・感染予防策に努めること。

授業科目名	老年生活支援実習	担当教員名	塚本都子、大津山優葵、他			
コード	22NPR344	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目は、1年後期科目「老年看護学概論」、2年前期科目「老年生活機能援助論」、および2年後期科目「老年健康回復援助論」で学修した高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴や保健医療福祉のしくみと老年看護の目的を基盤に学修を展開する。具体的には、高齢者が利用する地域の高齢者施設の特徴を理解し、看護専門職者と他の職種との連携・協働の実際、高齢者が希望する生活の実現をめざし、高齢者個々の健康課題と日常生活援助を中心とした看護者に必要な基礎的な能力を体験的に学ぶ。実習をおこなう施設は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホームなどである。また、通所介護、通所リハビリテーションを利用する高齢者との交流をとおして、高齢者個々の思いや考え、価値観について学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	高齢者施設を利用する高齢者の特徴を述べることができる。			○		
2	高齢者施設に入所・通所する高齢者の生活や価値観を理解し、高齢者を尊重した関わりができる。		○	○		
3	高齢者施設を利用する高齢者個々の特徴を踏まえた日常生活援助について記述できる。		○	○		
4	高齢者施設の役割と機能を踏まえ、看護職と多職種との連携・協働について説明できる。				○	
5	看護学生としての社会的行動(他者の尊重、協調、責任)を実践できる。		○		○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1. 実習施設:介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホームなど 2. 実習期間:3年前期　6月　　1週間 3. 実習時間:原則として9:00～15:30(実習場所により異なる) 休憩1時間、カンファレンス時間含む 4. 実習場所: 月(施設)、火(施設)、水(施設)、木(施設)、金(学内) 5. 学修内容 1)施設オリエンテーション (1)施設の概要(施設の理念・方針、設置目的、利用者数、利用者の特徴など) (2)フロアの特徴(介護度、年間行事など) (3)介護体制の概要(施設の方針、介護体制、1日・週間スケジュールなど) (4)主な記録物(介護記録、多職種の記録など) 2)入所者への援助 3)デイケア、デイサービス利用者のニーズに応じた援助 6. 学修方法 1) 入所フロアー実習 高齢者施設の職員のシャドーイングを通して、コミュニケーションの方法、日常生活援助の方法を見学する 2) デイケア、デイサービスでの実習 通所されている高齢者とともに活動し、コミュニケーションをとる 3)実習のまとめ(金曜日:課題学修) 上記1)2)をとおして、高齢者施設を利用する高齢者個々の意思や決定を尊重した援助について、考察する。(グループディスカッション、プレゼンテーション)プレゼンテーションへの参加を通して、他施設の特徴と機能、援助について理解を深める	塚本 大津山	予習:介護保険施設の種類、目的と特徴について調べる。 予習時間:90分(1時間30分) 月:90分 復習・課題:実習1日毎、学びを記録する。分からないことを調べる。 復習・課題時間:600分(10時間) 月: 復習 60分(1時間) 火: 復習 60分(1時間) 水: 復習 60分(1時間) 木: 復習 60分(1時間) 金: 課題360分(6時間)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	DVD学修
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

事前課題に対するフィードバックは、実習オリエンテーションや実習中に実施する。

【成績の評価方法】

4／5以上の出席をもって、実習目標の到達度を実習内容・態度・実習記録をもとに総合的に評価する(100%)。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

既習の科目「老年看護学概論」「老年生活機能援助論」「老年健康回復援助論」を履修し単位を修得していることが望ましい。

【教科書】

1. 亀井智子:老年看護学①老年看護学概論/老年保健　第5版,/メヂカルフレンド社.
2. 亀井智子:新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 5版,メヂカルフレンド社.

【参考書】

1.百瀬 由美子, 奥野 茂代他:老年看護学―概論と看護の実践 第6版,ヌーベルヒロカワ.
2.北川公子ほか:系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学9版, 医学書院.
3.佐々木英忠ほか:系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　5版, 医学書院.

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

老年内科での看護師としての実務経験、認知症療養型施設での研修・研究活動のある教員が担当する。

【オフィスアワー】

塚本は、火・木の12:00～13:00、16:00～18:00である。研究室への訪室やe-mailでの質問に対応する。

【教員連絡先】

塚本都子　mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp　　大津山優葵　yohtsuyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

この科目は、老年看護学概論、老年生活機能援助論、老年健康回復援助論の学びをもとに、能動的かつ体験的に学修する科目である。
事前課題は、実習までに教科書、関連専門書を活用して丁寧に行う必要がある。
日々の実習体験は、必ず振り返り、翌日への課題を明らかにし、積極的に学修をすることで、老年看護学への学問的な関心が高まる。
本科目は、3年後期に位置する科目「老年退院支援実習」の履修内容に繋がる重要な学修体験である。

授業科目名	老年退院支援実習	担当教員名	塚本都子　大津山優葵 、他			
コード	22NPR345	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

高齢者にとって避けられない生理的老化と病的老化を合わせ持つことで生じる健康課題に対する看護を学ぶ。具体的には、高齢者個々の健康課題を対象の立場から理解し、本人と家族が希望する生活の実現に必要な看護を体験的に学修する。慢性疾患や機能障害の急性増悪と入院・治療による環境の変化が、高齢者の生活にどのような影響を与えるのか系統的にアセスメントし理解する。高齢者と家族が希望する生活機能の条件や生きがいを基盤に健康課題を捉え、高齢者本人が心身の回復を促進していけるよう看護を展開する。特に、本人に関わる多職種からの情報をもとに、慢性疾患の増悪因子の低減および回避に必要となる力を高めるために求められる援助を考察し看護に繋げる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 高齢者の生活機能の力を身体的・精神的・社会的な側面から総合的に理解することができる。			○		
2 高齢者のこれまでの生活史をふまえ、高齢者とその家族のニードに関心を寄せ尊重した関わりが持てる。		○	○		
3 退院後の生活を見据えた高齢者の健康課題を述べることができる。		○	○		○
4 医療チームの一員として多職種と協働し、高齢者と家族を中心とした退院支援を実施できる。		○	○		○
5 高齢者と家族の健康課題に対して実施した看護を要約することができる。		○			
6 看護専門職者としての倫理的責務にもとづき、適切に判断・行動することができる。		○			○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1週目	**1. 実習施設:聖マリアンナ医科大学病院、川崎市立多摩病院** **2. 実習場所:月(病院) 火(病院) 水(学内) 木(病院) 金(病院)** **祝日がある場合は変更あり** **3. 実習時間:病院(8:30～16:00) 休憩1時間、カンファレンス時間含む** **学内(9:00～16:00)** **4. 学習内容**: 1)病棟オリエンテーション(病院・病棟の構造と概要、入院患者の特徴、看護体制等) 2.)受持ち患者を1名受け持ち、実習の説明を行い、同意をえる(同意書の記入) 3)アセスメント(情報収集、分析・解釈) 4)全体像 5)中間評価 ＊日々の行動計画は、臨床指導者や病棟看護師から助言を得て具体的に立案する ＊援助の実施は、行動計画にもとづき臨床指導者の指導下で実施する ＊援助の実施後は、臨床指導者と振り返りを行い、次の援助に役立てる	塚本 大津山	実習事前学習 ①ホームページから実習病棟の特徴を確認する ②代表疾患(複数)の病態・検査・治療・看護のポイント ③高齢者の発達課題 ④高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 ⑤高齢者の生理的老化・病的老化 ⑥高齢者の退院支援について ⑦既習の講義・演習資料などを整理してファイリングする ⑧既習の技術を復習しておく(バイタルサイン、生活援助、フィジカルアセスメントなど) 予習・復習・課題 指定された実習記録を行う。 また、受持ち患者の理解と看護実践に必要な予習、復習、自己の課題に取組む。 1週目 600分(10時間) 月: 60分 火: 60分 水:360分(6時間) 木: 60分 金: 60分
2週目	**1. 実習施設:聖マリアンナ医科大学病院、川崎市立多摩病院** **2. 実習場所:月(病院) 火(病院) 水(学内) 木(病院) 金(学内)** **祝日がある場合は変更あり** **3. 実習時間:病院(8:30～16:00) 休憩1時間、カンファレンス時間含む** **学内(9:00～16:00)** **4. 学習内容**: 1)アセスメント・健康課題の抽出 2)看護計画立案 3)退院支援実施・評価・看護サマリー ＊受持ち患者への多職種カンファレンスなど積極的に連携・協働の場に参加する 4)最終評価　担当教員と評価面接を行う 5)老年看護観の発表		予習・復習・課題 指定された実習記録を行う。 また、受持ち患者の理解と看護実践に必要な予習、復習、自己の課題に取り組む。 2週目 780分(13時間) 月: 60分 火: 60分 水:360分(6時間) 木: 60分 金:210分(3.5時間)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

課題レポートに対するフィードバックは、実習オリエンテーションや実習中に実施する。

【成績の評価方法】

4／5以上の出席をもって、実習目標の到達度を実習内容40%・態度16%・実習記録44% をもとに総合的に評価する。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

「老年看護学概論」、「老年生活機能援助論」、「老年健康回復援助論」を履修していることが望ましい。

【教科書】

1. 亀井智子:老年看護学①老年看護学概論/老年保健　第5版,/メヂカルフレンド社.
2. 亀井智子:新体系看護学全書 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護 5版,メヂカルフレンド社.

【参考書】

1. 百瀬 由美子, 奥野 茂代他:老年看護学―概論と看護の実践 第6版,ヌーベルヒロカワ.

2. 山田 律子:生活機能からみた 老年看護過程 第4版: +病態・生活機能関連図,医学書院.

3. 塚本都子, 上谷いつ子:看護学生のための実習に役立つ記録の書き方, サイオ出版.

【担当教員の実務経験】

老年内科での看護師実務経験、認知症高齢者の療養施設での研修・研究活動のある教員が指導にあたる。

【オープンな教育リソース】

特になし

【オフィスアワー】

塚本は、火・木の12:00～13:00、16:00～18:00である。研究室への訪室やg-mailで質問等に対応する。

【教員連絡先】

塚本都子　mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp　　大津山優葵　yohtsuyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	小児看護学実習	担当教員名	尾山木綿子　城所眞紀子			
コード	22NPR346	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本実習の目的は、子どもと家族を理解し健康状態に応じた看護が出来る基礎的能力を養うことである。小児看護の対象は、成育医療の考えである「胎生期からキャリーオーバーしていく成人への移行期以降」を含む発達段階にある子どもである。臨地実習の場である、保育園および病院だけでなく、病院を退院したあとに過ごす場所、学校、在宅など、さまざまな状況にある子どもと家族の生活をとらえ、その人々の成長・発達に合わせた健康の保持増進、疾病、障害の回復と生活過程を整える援助の実際を学ぶ。子どもと家族の「最善の利益」を目指す看護とは、どのような援助を指すのか、このことが理解されるよう学ぶ。子どもとその家族を含めて理解し健康状態に応じた看護が出来る基礎的能力を養うことである。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 子どもの成長発達に即した人間関係を成立させることができる。	○				
2 子どもの成長発達を理解し、より健康な状態へ導くための援助を具体的に述べることができる。		○			
3 健康障害が子どもやその家族の生活に及ぼす影響を理解し、援助を具体的に述べることができる。				○	
4 対象児の日常生活をイメージし、子どもの反応にそって看護を計画・実践し、評価することができる。		○			
5 生活環境にも目を向け、チームのなかでの看護の役割を述べることができる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	■2単位(60時間)、期間は2週間(1週間づつ間隔があく場合あり)、3年次後期。 ■地域における実習と学び 1. 保育園実習にて3日間、保育園に通う幼児(0～6歳)とのかかわりを通して、 日々成長・発達している乳児・幼児の特性を知る。 また、社会資源のひとつとしての保育園の特徴と社会的意義について学ぶ。 2. 医療的ケア児等を含む子育て支援のしくみ、地域交流の場について調査し、 育児支援の実際と課題等について学ぶ。 ■ 病院実習 1. 小児病棟実習 健康障害をもち病棟に入院している子どもと家族とのかかわりを通して 必要な看護を学ぶ。 実習方法:3日間の臨地実習で、原則1人の患児を受け持ち、 看護過程を展開して学ぶ。 実習病院:聖マリアンナ医科大学病院　小児病棟 川崎市立多摩病院　小児病棟	尾山木綿子 城所眞紀子	■予習 (3時間×5日) 1. 小児のアセスメントに必要な基礎知識 ・形態的変化(身長、体重) ・粗大運動と微細運動、言語の発達・認知の発達、社会性の発達 ・発達評価法(身体発育の評価,DENVER,他) ・乳幼児期の1日の栄養所要量・必要水分量と食行動の発達 ・1日の排泄量、回数、性状と排泄行動の発達 ・1日に必要な睡眠(午睡も含む)と生活リズム ・清潔行動の発達(口腔ケア、入浴、清拭、手洗い、うがい、衣類の着脱、など) 2. 基本的な小児看護技術の復習 ・環境整備 ・バイタルサインの測定(特に、脈拍(心拍)・血圧・チアノーゼ・冷感の有無などの循環動態の観察 および呼吸パターン・呼吸数・呼吸音などの呼吸状態の観察 ・清潔行動(沐浴・入浴の介助、歯磨き・うがい・手洗いの援助、衣類着脱の援助等) ・排泄行動(おむつ交換・トイレ誘導) ・食事の援助(授乳・離乳食・おやつ)、スプーン・フォーク・お箸の使い方 ・午睡の援助 ・遊び 3. 主な疾患の治療・処置・看護 4. 主な症状の看護 5. 輸液管理(静脈内末梢持続点滴の管理 6. 主な検査・処置の看護 7. 感染経路の理解とスタンダード・プリコーション 8. 小児の検査データの見かた(基準値他) 9. 小児の在宅移行支援における看護の役割 10. 小児の継続看護における医療・保健・福祉・教育との連携 ■復習(4時間×2日)【480分】 ・臨地実習前日～臨地実習後に、今日1日での学びと記録をまとめ、 翌日の行動計画を作成する(1日の復習時間:120分)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	Googleclassrooにて演習内容等の指示発信や情報共有を行う。 DVDの活用を行う。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

課題に対するフィードバックは臨地実習後の学内実習最終日に行う

【成績の評価方法】

1. 保育園実習および学内実習(40%)
2. 病棟実習(60%)…小児看護学実習評価基準に従って評価する。
※実習自己評価表をもとに実習終了後に振り返りの面接を行う予定である。
合計:100%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

小児看護学概論/援助論/演習科目の履修をしていることが望ましい

【教科書】

・『小児看護学概論　小児臨床看護総論』小児看護学①　医学書院
・『小児臨床看護各論』小児看護学②　医学書院

【参考書】

・『発達段階からみた小児看護過程　第3版+病態関連図』 医学書院
・『小児看護ケアマニュアル』 中山書店
・『疾患別小児看護　基礎知識・関連図と実践事例』 中央法規
ほか、適宜紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

・看護師として、小児の外科・内科・ICU病棟、地域、保育園での実務経験をふまえ、疾病障害のある子どもの看護について講義し指導する
・看護師として小児病棟での豊富な実務経験をふまえ指導を行う
・助産師として広く助産、子育て支援の場において活動した経験をふまえ指導を行う。

【オフィスアワー】

・水曜日：12:10-13:00

【教員連絡先】

・yoyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	リプロダクティブヘルス看護学実習	担当教員名	時田純子、間中伴子他			
コード	22NPR347	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

女性とその子ども・家族を対象に女性の生涯にわたり、リプロダクティブ・ヘルスの健康水準を維持・増進するために、多角的な視点でアセスメントをし、支援の方法を学ぶ。特に実践の場においては、対象者の生命・人権の尊重・擁護を基本理念とし、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康障害の予防とより健康な状態を目指した支援、および健康障害に陥った際の援助を系統的に学ぶ。具体的には、褥婦と新生児を受け持ち看護過程を展開し、看護計画に基づいた援助を展開する。対象者の持てる力を引き出せるように促し、母子とその家族が新たな家族関係を構築し、母子の生活を整える具体的な援助を学ぶ。さらには、女性の生涯にわたる健康支援のあり方について考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	生命の誕生に関わることを大切にし、相手を尊重した態度を示すことができる。					
2	産褥期の身体的、心理的、社会的変化および新生児の正常な経過を述べることができる。		○	○		
3	妊娠期・分娩期の情報をふまえて産褥期及び、新生児期のアセスメントを行い、褥婦や新生　児に必要な看護援助を考えることができる。		○			
4	褥婦および新生児の状態を捉え、看護援助を安全に実施することができる。		○			
5	母子の健康を支える健康教育の実際を説明することができる。		○			
6	実習を通して学んだことを振り返り、母性(父性)意識を発展させる表現ができる。			○	○	
7	看護活動を行うための母子保健医療チームの一員としての役割と責任を自覚し、必要な連絡、報告をすることができる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	実習OR、実習施設OR&実習病棟見学詳細は母性看護学実習の実習要項参照	間中 時田	予習(30分)＆復習(30分):提示された事前課題を完成させる。
2	妊・産・褥婦と胎児・新生児(その家族を含む)を受け持ち、 実習指導者および教員のスーパーバイズを受けて、看護過程を展開する。 分娩見学、GCU／NICUの見学実習、退院指導、両親学級等への参画 (個人・集団指導)も行なう。原則，毎日15時30分からカンファレンス。	間中 時田	予習(30)＆復習(120分):受け持ち女性とその家族の看護過程の展開および記録の整理、 分娩見学や退院指導などの教育プログラムに参加予定の場合、内容について調べる。
3	妊・産・褥婦と胎児・新生児(その家族を含む)を受け持ち、 実習指導者および教員のスーパーバイズを受けて、看護過程を展開する。 分娩見学、GCU／NICUの見学実習、退院指導、両親学級等への参画 (個人・集団指導)も行なう。原則、毎日15時からカンファレンス。	間中 時田	予習(30分)＆復習(120分):受け持ち女性とその家族の看護過程の展開および記録の整理、 分娩見学や退院指導などの教育プログラムに参加予定の場合、内容について調べる。
4	妊・産・褥婦と胎児・新生児(その家族を含む)を受け持ち、 実習指導者および教員のスーパーバイズを受けて、看護過程を展開する。 分娩見学、GCU／NICUの見学実習、退院指導、両親学級等への参画 (個人・集団指導)も行なう。原則、毎日15時30分からカンファレンス。	間中 時田	予習(30分)＆復習(120分):受け持ち女性とその家族の看護過程の展開および記録の整理、 分娩見学や退院指導などの教育プログラムに参加予定の場合、内容について調べる。
5	妊・産・褥婦と胎児・新生児(その家族を含む)を受け持ち、 実習指導者および教員のスーパーバイズを受けて、看護過程を展開する。 分娩見学、GCU／NICUの見学実習、退院指導、両親学級等への参画 (個人・集団指導)も行なう。原則、毎日15時30分からカンファレンス。	間中 時田	予習(30分)＆復習(120分):受け持ち女性とその家族の看護過程の展開および記録の整理、 分娩見学や退院指導などの教育プログラムに参加予定の場合、内容について調べる。
6	妊・産・褥婦と胎児・新生児(その家族を含む)を受け持ち、 実習指導者および教員のスーパーバイズを受けて、看護過程を展開する。 分娩見学、GCU／NICUの見学実習、退院指導、両親学級等への参画 (個人・集団指導)も行なう。原則、毎日15時30分からカンファレンス。	間中 時田	予習(30分)＆復習(120分):受け持ち女性とその家族の看護過程の展開および記録の整理、 分娩見学や退院指導などの教育プログラムに参加予定の場合、内容について調べる。
7	妊・産・褥婦と胎児・新生児(その家族を含む)を受け持ち、 実習指導者および教員のスーパーバイズを受けて、看護過程を展開する。 分娩見学、GCU／NICUの見学実習、退院指導、両親学級等への参画 (個人・集団指導)も行なう。原則，毎日15時30分からカンファレンス。	間中 時田	予習(30分)＆復習(120分):受け持ち女性とその家族の看護過程の展開および記録の整理、 分娩見学や退院指導などの教育プログラムに参加予定の場合、内容について調べる。
8	妊・産・褥婦と胎児・新生児(その家族を含む)を受け持ち、 実習指導者および教員のスーパーバイズを受けて、看護過程を展開する。 分娩見学、GCU／NICUの見学実習、退院指導、両親学級等への参画 (個人・集団指導)も行なう。原則、毎日15時30分からカンファレンス。	間中 時田	予習(30分)＆復習(120分):受け持ち女性とその家族の看護過程の展開および記録の整理、 分娩見学や退院指導などの教育プログラムに参加予定の場合、内容について調べる。
9	妊・産・褥婦と胎児・新生児(その家族を含む)を受け持ち、 実習指導者および教員のスーパーバイズを受けて、看護過程を展開する。 分娩見学、GCU／NICUの見学実習、退院指導、両親学級等への参画 (個人・集団指導)も行なう。原則、毎日15時30分からカンファレンス。	間中 時田	予習(30分)＆復習(120分):受け持ち女性とその家族の看護過程の展開および記録の整理、 分娩見学や退院指導などの教育プログラムに参加予定の場合、内容について調べる。
10	グループ検討会(全体カンファレンス) 個人リフレクション(自己評価に基づいた教員との評価面接) 記録の整理(教員のアドバイスを受けて)	間中 時田	予習(30分)＆復習(60分):事例のまとめ、学びの記録と整理し完成させる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

事前課題についてはオリエンテーション時、実習中の課題については随時フィードバックを行なう。

【成績の評価方法】

評価表に基づいて評価する(100%)

【生成AI利活用 (　 有　)】
1)成績評価の対象となる記録や課題等の作成において、生成 AI が作成した内容(以下、生成 AI の回答文)をそのまま書き写した提出物は、成績評価の対象として認めません。活用する場合は、その情報が正しいか確認する作業が必要です。引用した場合は、引用する場合は、信頼できる発信元(文献や論文等)であることがわかるように記載してください。
2)生成 AI の回答文を書き写したレポートや論文は、「盗用」、「剽窃(ひょうせつ)」等の不正行為とみなし、懲戒の対象となる可能性があります。
3)課題レポートに関してはGoogle盗用チェック機能を使用します。チェックの結果に10パーセント以上の盗用が認められた場合は、成績評価対象としません。

【 ルーブリック評価の活用 (　 無　) 】

【履修申請上の条件】

学生便覧　看護学部進級要件に準ずる

【教科書】

関連する科目(母性看護学Ⅰ・Ⅱ、家族看護学等)の教科書

【参考書】

関連科目(母性看護学Ⅰ・Ⅱ、家族看護学等)の教科書や配布資料、ワーク資料等授業中に紹介した参考書

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

【間中】助産師として大学病院産科病棟、母乳育児相談室開業、助産院、保健センター、院内助産等に勤務した。総合周産期センター院内助産では、師長として勤務した経験がある。
　　また、助産師養成(大学院)に携わった実務経験がある。
【時田】助産師として、総合周産期センター(NICU、GCU、分娩棟)や、地域新生児訪問指導員としての実務経験がある。
【星野】助産師として、総合病院の外来、病棟で勤務経験がある。

【オフィスアワー】

時田・間中・星野:月～金　12:10～13:00

【教員連絡先】

間中:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp
時田:jtokita@g.t-junshin.ac.jp
星野:shoshino@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

自分自身のライフコースと重なる部分(妊娠・分娩・子育て支援等)が多いので，興味関心を持って能動的に学修することを期待します。
分娩や帝王切開に立ち合わせて頂く機会は、大変貴重なので、学修をした上で、誠意をもって寄り添う姿勢を忘れず誠意ある態度で実習に臨んでください。

授業科目名	精神看護学実習	担当教員名	福永ひとみ・大胡晴香・吉岡貴美代			
コード	22NPR348	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／後期	単位／時間数／形態	3単位／90時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

精神科病棟で入院治療を受けている精神障害者を受け持ち，援助的人間関係を発展させる過程を通して，自己理解を深め，自己活用方法を学修する。
実践を通して精神病理的特徴，発達課題の達成状況や生活・家族背景，セルフケア能力，ストレングスなどの視点から，精神障害者への理解を深め，具体的・現実的・個別的でストレングスを活かした看護を学修する。精神病理が生活に及ぼす影響を考察し，援助的関係を発展させるかかわりを学修する。
在宅支援実習では，地域で暮らす精神障害者の活動の場と生活を支援する様々な場とその役割について学修する。地域で暮らす精神障害者の生活や活動の実際と精神科訪問看護師の役割について学修する。多職種との連携・協働について学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
【実習目的】精神に障害をもつ人を多角的・総合的に理解し、健康回復・状態安定維持の援助の実際を体験し、精神看護実践に必要な基礎的能力を修得する。					
【実習目標】					
〈精神科病院実習〉					
1 精神に障害をもつ人と援助的相互関係の成立に向けて自己活用できる。	○				
2 精神に障害をもつ人とのかかわりを通して、発症経緯、セルフケア能力、ストレングス、治療等を理解し、健康回復・状態安定維持の援助が実施できる。			○		
3 精神に障害をもつ人の人権擁護と倫理的課題について説明ができる。			○		
〈在宅支援実習〉					
1 精神に障害をもつ人を社会で生きる生活者として捉え、社会参加のあり方について述べることができる。			○		
2 多職種(保健・医療・福祉)チームの一員として実習に参加し、連携の必要性を自覚し、看護の役割を述べることができる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1. 実習期間 3週間　(実習時間:90時間(4050分)) 2. 実習場所 ①医療法人社団　東京愛成会　高月病院 ②医療法人財団　緑雲会　多摩病院 ③聖マリアンナ医科大学病院 神経精神科病棟 ④株式会社　円グループ NPO法人多摩在宅支援センター 円　訪問看護ステーション5か所 ⑤八王子市内就労継続支援B型・移行支援事業所 3. 実習内容・方法 〈精神科病院実習〉 1)学生1人につき、①～③の病院の中から1つの精神科病棟で実習する。 2)1病棟に学生2～6人配置する。 3)患者を1人受け持ち、援助関係を構築しながら看護過程を展開する。 4)実習の進度や実習課題に応じ、指定の実習記録に必要な情報や思考内容を記 述・整理し、指定された期限に提出する。 5)原則的に毎日カンファレンスをし、学びを共有する。 〈在宅支援・精神科訪問看護実習〉 1)精神科訪問看護実習 (1)オリエンテーションは、DVDもしくはビジュクラウドを活用して行う。 (2)上記④の精神科訪問看護ステーションで3日間実習する。 (3)1ステーションに学生2～3人配置する。 (4)訪問看護師に同行し利用者を訪問する。 (5)毎日、実習計画・学習目標を明確にして、実習に臨む。 (6)原則的に最終日にカンファレンスを行い、学びを共有する。 2)就労継続支援事業所実習 (1)オリエンテーションは、DVDもしくはビジュクラウドを活用して行う。 (2)上記⑤の事業所1か所に1～2日間/人、実習する。 (3)日常的な活動になじみながら、利用者が語るエピソードに関心を向ける。 (4)利用者との交流を図る。 (5)利用者を支える人々の役割の実践を見聞し、一部体験をする。 (6)原則的に最終日にカンファレンスを行い、学びを共有する。	福永ひとみ 大胡　晴香 吉岡貴美代	1. 事前学習・実習直前オリエンテーション　(時間外学修時間: 8時間 (360分)) 1) 既習関連科目(精神看護学概論・精神看護学援助論・精神看護学演習)で履修した精神看護学の基本的知識について、全般的に復習する。 特に、以下の項目は実習で必要な最低限の学習項目である。 (1)代表的精神疾患に関する病態生理、症状、一般的な経過と治療、一般的な看護 統合失調症、躁うつ病、うつ病、主な精神症状、代表的な向精神薬、主要な副作用、作業療法、観察の視点 (2)発達段階の特徴と発達課題 (3)コミュニケーションの基本 無条件の肯定的配慮(受容)・共感的理解(共感)・傾聴の意味、 転移、逆転移、治療的コミュニケーション、患者―看護師関係の発展段階 (4)看護場面の再構成法 プロセスレコードの書き方、分析・考察の仕方、自己一致 (5)ストレングス、リカバリーについて (6)精神保健福祉法(入院形態・処遇・隔離拘束など) (7)障害者総合支援法(生活を支えるための社会資源) (8)地域生活を支えるための医療サービス(精神科訪問看護、精神科デイケア、ACT) (9)多職種連携による退院支援 その他 2) 精神看護学演習で履修した紙上事例の復習 実習オリエンテーション時に演習で記載した演習記録を返却するので、再修正して提出する。 3) 実習直前オリエンテーション 2. 実習記録・課題学習 1)実習記録・課題学習の時間　(時間外学修時間:37時間 (1665分)) 2)実習記録および課題の最終提出 原則として実習最終日14:45までに、担当教員に提出する。 提出ファイルの内容は、実習で記録した全ての実習記録 (事前学習を除く)、課題レポート、自己評価を記載した実習評価表、自己の実習目標、健康チェック表、その他(実習連絡表、実習出席表、必要時カンファレンス記録など)。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		DVD、もしくはビジュクラウドの活用
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

実習期間中は、カンファレンスや個人面談においてフィードバックする。最終日の面談で評価をフィードバックする。
実習中に提出した実習記録などは、当日あるいは翌日返却する。

【成績の評価方法】

1 実習評価表の評価項目に沿って評価する。
2 以下の点を総合的に評価する。100点
内訳 ①(実習目標到達度＋実習に取り組む基本的姿勢) 90点 ②基本的学習態度 10点
基準 5:自力でできる, 4:少しの指導でできる, 3:指導を受けてできる, 2:かなりの指導を受けてできる, 1:指導を受けてもできない

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

精神看護学概論・精神看護学援助論・精神看護学演習を履修していることが望ましい。

【教科書】

特になし

【参考書】

片山典子他：精神看護ぜんぶガイド　照林社　2024
その他、精神看護学概論・精神看護学援助論・精神看護学演習の教科書および参考書、適宜紹介する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師資格を持ち、精神科病院での実務経験を有す

【オフィスアワー】

水曜日昼休み時間（12:10～13:00）、実習期間中は実習終了後随時

【教員連絡先】

福永研究室　3階　A3316号室　hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp　　大胡研究室　3階　B3323号室　hogo@g.t-junshin.ac.jp　吉岡研究室（合同研究室）　5階　B3514号室　kyoshioka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

実習学習の意味を考え、自己の体調管理、社会人としてのマナー・接遇に留意し、学習者としての責任ある態度を望む。
実習が円滑に、有益に進むようオリエンテーション、ガイダンスの配布資料を必ず熟読した上で、不明な点を質問する。

授業科目名	統合実習	担当教員名	尾山木綿子, 全領域専任教員			
コード	22NPR349	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／60時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

これまでの学習や経験を踏まえ，看護場面における自らの課題を達成するために適切な実習施設を選択し実習する。知識，経験，技術などを統合させながら主体的に取り組み，より質の高い看護を提供するための方法を体験的に学修する。また，医療・福祉施設等において，安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するための看護管理の実際，保健・医療・福祉チームの一員としての看護職の役割等を体験的に学修する。さらに，これまでの気づきや学びを通して構築してきた看護観を表現し，看護専門職としての自己のあり方を考察する。看護を総合的かつ継続的に展開し、これまで修得した知識や技術を統合し看護実践能力を高める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 探究したい自己の課題を明らかにし、課題解決に向けて主体的に計画的に取り組むことができる。				○	
2 看護の対象の状態や変化に応じ、看護の優先順位や時間配分、継続性等を考慮して計画し、実践できる。				○	
3 安全・安楽・倫理的視点に根ざした科学的根拠のある看護を継続的に実践できる。		○		○	
4 自己の看護実践および自己の課題解決について適正に評価できる。		○		○	
5 既習の知識・技術を用いて、主体的に学修し、かつ看護学生として責任ある言動をとれる。		○		○	
6 看護専門職としての自己のあり方を考察し、看護に対する自己の考えを表現できる。		○		○	○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	統合実習は、学生が探究したい課題に沿って1つの看護学領域を選んで履修する。 詳細は、「統合実習　実習要項」を参照 1. 実習期間　:2025年6月30日～7月11日 2週間90時間 2. 実習場所　:選択した領域により実習施設は異なる。 3. 実習方法　:選択した領域により実習方法は異なる。 　共通事項について以下に記載。 1)担当教員の指導を受けながら自己課題に応じて実習計画を修正する。 2)実習計画に基づき課題解決に取り組む。 3)複数の対象者を受け持ち、看護援助を行う。 4)看護チームの一員として継続看護を展開するため、 　早朝や夜間など可能な範囲で実習時間を変更する。 5)助言を受けながら、チームの一員として看護の実践、評価を体験する。 6)実習全体を振り返り、自己の課題解決について評価する。 7)看護実践を振り返り、学びをまとめ共有する。 8)学内実習の日程・方法については領域により異なる。 4. リフレクション 1)自己評価に基づいた評価面接 2)担当教員の指導を受けながら、記録の整理を行い、 　実習ファイルを指定された日時までに提出する。	全領域専任教員	予習・復習 【実習前】(60分) 1. 実習要項を熟読する。 2. 事前課題に取り組む 。(事前学習は、学内で取り組む) 1)これまでの体験した看護を所定の用紙を用いて整理する。 2)自己の学修課題に応じ事前に文献等を検索し、課題達成のための取り組みについて検討し、 担当教員の指導を受けながら事前レポートとして整理する。 3)事前課題を期限内に提出する。 【実習 毎回各予習30分　各復習30分】 日々の実習の事前課題・事後課題・看護過程展開の整理を行う(2時間/日) 1. 事前課題で立案した実習目標、実習計画に沿って行動計画を立て実習に臨む。 2. 安全で確実な看護援助を行うために、日々の事前学習・準備を行う 3. チームカンファレンス等で受持患者の看護について発言できるように準備しておく。 4. 主体的なカンファレンス運営と学びの共有ができるように準備する。 5. 日勤以外の勤務帯(早出・遅出、夜勤帯等)の業務内容を事前に把握し、実習計画を立案しておく。 6. 日々の実習を振り返り、課題達成状況を評価し、必要時修正する。 7. 日々の実習を振り返り、文献等を活用して実習に臨むよう、適宜準備する。 8. 2週間の実習を振り返り、自己の課題達成状況を評価し、統合実習に臨む。 9. 統合実習での学びを定められた様式に沿ってレポートする。 課題のテーマは実習要項を確認すること。 提出〆切は担当教員に確認する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	領域によりアクティブラーニングの手法は異なる。 詳細は各領域の実習要項を参照。 DVD活用
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

実習中の課題へのフィードバックは、実習の進行状況を確認しながら、当日もしくは翌日までに行う。個別指導やカンファレンス等でフィードバックする。

【成績の評価方法】

1. 評価の条件:2週間の実習を通し、5分の4以上の出席をもって評価する。実習記録、レポート等の評価対象の記録類は、提出期限を厳守すること。
2. 学生は、第2週目に実習評価表をもとに実習目標達成状況を振り返り評価する。
3. 総合評価:
1)実習目標の到達度を実習評価表に沿って評価する。実習内容・態度、カンファレンス参加度、実習記録(80%)、実習終了後のレポート(20%)により総合的に評価する。
2)評価面接:
・担当教員と評価面接を行う。
・学生は、事前に実習評価表の評価基準に沿って自己評価し、記録類とともに提出する。
3)レポート課題:「自己の課題の達成状況を評価し、文献的考察を踏まえ自己の看護に対する考えを述べなさい。」
4)評価基準
【実習評価の評価基準】
基準:目標の達成状況として5段階で評価を行う。 S:90%以上　A:80%以上　B:70%以上　C:60%以上　D:60%未満
【レポート評価基準】:①課題内容:課題に沿ったタイトルが設定されている②論理的思考:内容に一貫性があり、論理的にわかりやすく表現されている
③引用文献:考察が文献の引用等により深められている、④文章体裁:(段落、句読点、主部と述部、文体の統一)
⑤文章表現:同じ言葉の繰り返し、誤字・脱字、仮名・送り仮名の誤り、専門用語等の5項目について評価する。
なお、剽窃行為は禁止されているので注意する。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価:(　有　)】

【履修申請上の条件】

必修科目(講義・演習)の未修得科目は 2 科目まで、かつ実習は専門領域の 8 実習中 6 実習以上を修得していなければならない

【教科書】

特に指定はない。

【参考書】

これまで履修した科目で、講義・演習・実習等で使用したテキストや資料、文献等

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

看護師として臨床経験のある教員が、疾患や生涯が対象の日常生活に及ぼす影響を身体的・精神的・社会的な側面から看護実践について総合的に指導する。

【オフィスアワー】

水曜日　12:10～13:00

【教員連絡先】

yoyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・4年間の集大成の実習である。能動的な学修に努め、自律的に臨床指導者および教員等に報告・連絡・相談を行う。
　また、自己の看護実践の振返りを適宜行い、安全で確実な看護実践ができるように、主体的に学修を進めること、文献検索を適宜行い、自身の看護実践の根拠性を高める努力を行うことを期待する。
・看護学を学ぶ者として、実習全体を通して自己を真摯に振り返り、自己の課題を見出していくことを期待する。
　また、生涯学習者である看護専門職者になっていく者として、自己の看護観の構築に積極的に取り組み、看護を探究する姿勢を身につけていくことを期待している。

看護学部

2025(令和7)年度

授業科目名	学校・産業保健実習	担当教員名	戸塚恵子			
コード	22NPR350	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
				○		
年次／期間	4年次／通年	単位／時間数／形態	1単位／30時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

養護実習では、学校教育の現場で児童・生徒と直接関わり、学校における救急処置、健康相談、保健指導、健康教育、環境衛生、保健室経営等、養護教諭が行う学校保健活動の実際を学ぶ。また、個別的、集団的健康問題を把握するとともに、他教員との連携や保護者への対応等、養護教諭の果たすべき役割のあり方について学修する。

産業保健実習では、特定健診(特定健康診査)などの健康診査や健康相談を通して、働く人々の健康課題を知り、産業保健活動における保健師の役割を理解する。また、労働衛生の基本である、「総括管理」「作業環境管理」「作業管理」「健康管理」「労働衛生教育」における保健師活動の実際を知り、連携のあり方や保健師の役割を学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 児童生徒とのかかわりを通し、個別的、集団的健康問題を把握することができる。			○		
2 学校における健康観察をはじめ、救急処置、健康相談、保健指導、健康教育、環境衛生、保健室経営等、養護教諭が行う学校保健活動の実際を学ぶことができる。			○	○	
3 養護教諭の果たすべき役割や保健室のあり方を考察できる。			○	○	
4 労働者の健康管理に携わる保健師・第一種衛生管理者の機能と役割を説明できる。			○		
5 労働衛生の基本である5管理(総括管理、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育)の実際を知り、連携の在り方や役割を考察できる。			○	○	
6 産業保健師としての倫理、法体系に基づいた産業保健の管理体制を理解できる。			○	○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション(半日)(学内) 1)学校保健実習・産業保健実習の目的・実施方法・注意点等の確認	戸塚	予習(120分) 1)「公衆衛生看護学概論」「対象別公衆衛生看護論」で学習した学校保健について復習しておく。 復習(60分) 1)学校保健実習・産業保健実習の目標を熟知し、学びたいことを検討する。
2	学校保健実習(2日間) 1)実習施設:聖パウロ学園高等学校、英名フロンティア中学校・高等学校、 明星中学校・高等学校、東京純心女子中学校・高等学校 2)実習内容:授業参観、健康観察、健康診査、児童生徒との関わり、 保健室来室者への対応、救急処置、健康相談、保健指導、 学校における健康教育、環境衛生整備、保健室経営、 他の教員との連携、保護者との関わり等、保健室経営に関わる全般 *2日目に教員が学校を訪問し、カンファレンスを行い、学びを共有する。	戸塚	予習(120分) 事前学習 1)実習施設の概要・特色について、調べる。 2)以下の重要項目を復習する。 ①学校保健安全関係法規 ②児童及び生徒の健康課題、健康相談と保健指導、 ③保健室の機能と役割 ④感染症対策、救急処置 ⑤健康教育 復習(60分) 1)1日目:一日の学びと記録をまとめ、翌日習目標・計画の立案 2)2日目:一日の学びと記録をまとめ、実習目標の達成度等の記載
3	産業保健実習(2日間) 1)実習施設:オリンパス株式会社 技術開発センター石川 健康管理室 富士通株式会社 健康推進本部 健康支援室 京王電鉄株式会社 診療所 2)実習内容:従業員の健康管理の特定健康診査におけるデータ管理・ 保健指導の実際、従業員の面談、産業医との連携・診察介助、 メンタルヘルスケア、従業員教育や研修、職場の環境整備、 健康増進の企画運営、安全衛生、多職種連携、家族の健康管理など *2日目に教員が企業を訪問し、カンファレンスを行い、学びを共有する。	戸塚	予習(120分) 1)実習施設の概要・特色について、調べておくこと。 2)対象別公衆衛生看護論で学習した産業保健について復習しておくこと。 特に、以下は重要項目である。 ① 産業保健の定義・目的、対象 ② 労働安全衛生関係法規 ③ 職域の健康問題と保健指導 ④ 特定健康診査・特定保健指導 ⑤ トータル・ヘルスプロモーションプラン 復習(60分) 1)1日目:一日の学びと記録をまとめ、翌日習目標・計画の立案 2)2日目:一日の学びと記録をまとめ、実習目標の達成度等の記載
4	まとめ(半日)(学内) 学校保健実習・産業保健実習の学びについてグループ討議にて情報共有・発表 個人面談(学び・今後の学習課題の確認等)	戸塚	**予習(90分)** **1)学校保健実習・産業保健実習の学びについてまとめる。** **復習(60分)** **1)学校保健・産業保健実習に関わる国試問題を実施し、知識の確認を行う。**

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		特になし
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

カンファレンスや学内実習で行う。

【成績の評価方法】

5分の4以上の出席をもって、実習目標の到達度を実習内容・態度・実習記録をもとに総合的に評価する。
『学校保健実習 評価表』50%
『産業保健実習 評価表』50% をもとに評価を行う。
合計100%

【生成AI利活用 (無)】

【 ルーブリック評価の活用 (無) 】

【履修申請上の条件】

保健師課程における4年次生への進級要件と同様である。

【教科書】

標準保健師講座1　公衆衛生看護学概論　標美奈子他　医学書院
標準保健師講座3　対象別公衆衛生看護活動　中谷芳美他　医学書院

【参考書】

公衆衛生看護学テキスト4　公衆衛生看護活動Ⅱ　学校保健・産業保健2024年版　荒木田美香子　責任編集／岡本玲子・佐伯和子・麻原きよみ　編医歯薬出版株式会社

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

戸塚恵子：社会福祉士・精神保健福祉士の資格や看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

戸塚恵子：月～金（水を除く）昼休み12：10～13：00

【教員連絡先】

戸塚恵子：ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

2024年11月11日

看護学部　　2025(令和7)年度

授業科目名	公衆衛生看護学実習	担当教員名	戸塚恵子・山本裕美			
コード	22NPR351	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	4単位/180時間/実習
				○		
年次／期間	4年次/通年	単位／時間数／形態	4単位／180時間／実習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

保健所、市町村保健センターの実習を通して、地域の健康課題を把握し、公衆衛生看護における保健師が果たす役割を学修する。個人・家族の支援では家庭訪問や健康診査、健康相談等を通して、保健師の援助過程を学び、集団支援においては、各種保健事業やグループ支援を通して、地域の健康問題を解決するための援助技術を学修する。また、地域組織活動では、住民との協働、多職種連携、地域の社会資源の活用について理解を深め、住民の健康と生活を支援する視点を養う。さらに、個別的支援と地域全体を連動させた施策の計画、実施、評価等、PDCAサイクルの一連の過程を学ぶとともに、健康危機管理や公衆衛生看護活動の管理体制について理解を深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 家庭訪問や健康診査、健康相談等の個別支援を通して、保健師の援助過程が理解できる。		○	○		
2 健康教育やグループ支援を通して、地域の健康問題を解決するための援助技術が理解できる。		○	○		
3 個別支援・集団支援を通して、地域住民のニーズを把握し、保健師が行う地区組織活動の実際及び援助方法、保健師の役割について理解できる。			○		
4 既存資料、統計データのみならず、個別支援や地域での活動を通して、住民に生じている健康問題や取り組むべき課題を検討し、地域診断の過程が理解できる。		○	○		
5 個人および地域全体の健康水準の向上のため、地域住民との協働、関係機関・多職種との連携・調整の実際及び保健師の役割について理解できる。			○		
6 地域住民の健康課題の解決や健康保持増進のために、サービスや社会資源を創出・管理・運営を行う保健師の役割が理解できる。			○		
7 健康危機発生にむけた、自治体における組織的な管理体制やしくみづくりの実際、保健活動の役割について理解できる。			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	東京都多摩地域にある保健所　10日間 東京都多摩地域にある市町村保健センター　10日間	戸塚 山本	予習(300分) (1)実習施設の地域の資料・データ収集 (2)乳幼児の発育・発達 (3)乳幼児健診の目的・流れ・問診のとり方、計測方法 (4)家庭訪問の目的・実施方法 (5)各種保健事業の目的・流れ・健康相談の実施方法 (6)地域保健法、母子保健法、児童福祉法の概要 (7)障害者総合支援法、精神保健福祉法の概要 (8)健康日本21(第三次)の概要 復習(120分) ・事前学習の確認テストを復習する。
2	1日目～10日目(11日目～20日目):保健所 主に、精神保健・難病保健・感染症対策などの健康課題への対応、保健医療福祉活動、健康危機管理に関して、保健所における保健師活動の実践を学習する。	戸塚 山本	**予習(300分)** **(1)実習目標・実習計画を熟読し、翌日の実習目標の記入** **(2)翌日の実習内容(家庭訪問・健康相談等)に関する知識の確認** **復習(300分)** **(3)事業見学記録、家庭訪問記録のまとめ**
3	11日目～20日目(1日目～10日目):市町村保健センター 主に、母子保健・成人保健・高齢者保健福祉など、ライフステージや地域における健康課題への保健医療福祉活動への参加を通して、市町村における保健師活動の実践について学習する。	戸塚 山本	**予習(300分)** **(1)実習目標・実習計画を熟読し、翌日の実習目標の記入** **(2)翌日の実習内容(家庭訪問・健康相談等)に関する知識の確認** **復習(300分)** **(3)事業見学記録、家庭訪問記録のまとめ**
4	以下は、保健所・市町村保健センター共通の内容である。 ＜個別支援＞ ・家庭訪問:情報収集、アセスメント、家庭訪問の実施、評価、今後の支援計画・立案を行う。 ・面接　:個別面接、健康相談事業、健康診査における面接相談を見学し、目的・方法、 相談内容、実施、評価を学ぶ ・電話相談:電話相談の場面に同席し、話を聞く。対象者の主訴・概要、実習指導者のアセスメント、対応方法等について説明を受ける。 ＜集団支援＞ ・健康教育:健康教育を見学し、対象者・目的に合わせ企画案の作成、実施、結果の評価について学ぶ。 ・グループ支援:地域の健康課題のアセスメント、健康教室や講座、健診などからグループ化された過程について説明を受け、可能な場合は参加する。 ・地区組織活動:グループ活動・地区組織活動の参加、地域の人々(グループリーダー自治会長、民生・児童委員、健康推進員、ボランティア、NPO等)との連携した活動に参加する。 ・地域包括ケアシステム:保健医療福祉に関するネットワーク会議、業務遂行やシステムづくりにおける関係機関・職種との連携・調整に関する活動に参加する。 ＜健康危機管理＞ ・保健医療計画や地域保健計画、防災計画等、健康危機管理に関連する各種計画の資料閲覧、質疑応答を行う。 ・感染症、災害等の健康危機発生予防、発生時の保健師の取り組みに関する説明を受ける。	戸塚 山本	**上記と同様**
5	10日目・20日目 ＜カンファレンス＞ ・最終日は、学生、実習指導者、教員で、カンファレンスを行い、学習内容、目標達成度、今後の課題について話し合う。	戸塚 山本	予習(60分) ・2週間の学びをまとめ、カンファレンスの発表準備を行う。 復習(120分) ・4週間の学びをまとめる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

実習期間中のカンファレンスや個人面接時にフィードバックをする。

【成績の評価方法】

5分の4以上の出席をもって、実習目標の到達度を実習内容・態度・実習記録をもとに総合的に評価する。
『公衆衛生看護学実習　評価表』100%をもとに評価を行う。

【生成AI利活用（　無　）】
【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

保健師課程における4年次生への進級要件と同様である。

【教科書】

標準保健師講座1　公衆衛生看護学概論　標美奈子他　医学書院
標準保健師講座2　公衆衛生看護技術　中村裕美子他　医学書院
標準保健師講座3　対象別公衆衛生看護活動　中谷芳美他　医学書院
標準保健師講座別巻1　保健医療福祉行政論　藤内修二他　医学書院

【参考書】

国民衛生の動向2024/2025　厚生労働統計協会

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

戸塚恵子：社会福祉士・精神保健福祉士の資格、看護師経験の他、母子、児童・思春期、成人、高齢者、精神、難病患者への支援、計画策定などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。
山本裕美：実務経験：精神保健福祉士の資格、看護師経験、母子、成人、高齢者、精神障害の方への支援などの保健師の実務経験を活かし講義を行う。

【オフィスアワー】

戸塚恵子：月～金（水を除く）昼休み12：10～13：00
山本裕美：月～金　昼休み12：10～13：00

【教員連絡先】

戸塚恵子：ktotsuka@g.t-junshin.ac.jp
山本裕美：hiyamamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	医療安全学	担当教員名	塚本　都子			
コード	22NAD401	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
◎	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

医療事故を未然に防ぐための医療従事者としての知識と心構えを修得する。わが国における医療事故の現状や医療安全管理体制の動向を概観し、事故事例の原因、要因の分析を通して医療事故防止のための取り組みについて学修する。また、医療事故とリスクマネジメントの概念を理解し、ケース・スタディを通して起こりやすい医療事故とその対策について学ぶ。安全対策、予防策について具体的に考え、行動化できるように理解を深める。人間は誰でも間違える(To Err Is Human)存在であることを前提に、人はなぜ間違いを起こすのか、間違いはどのようにして起こるのか、間違いを防ぐにはどうしたらよいのか、と言う問いを持ち、事故を防止し、安全で良質な医療を提供するために、必要な看護専門職の能力や役割、自己の課題について考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	医療安全の歴史と医療安全を学ぶ上で必要な用語の定義を説明できる。				○	
2	医療安全と看護の責務に関する法令、制度を説明できる。			○	○	
3	国や医療機関の医療安全対策の取り組みを説明できる。				○	
4	看護業務に関わる主な医療事故の背景・要因分析・対策・実施を説明できる。			○	○	
5	医療事故の発生要因とメカニズムを説明できる。			○	○	
6	医療機関における医療安全管理システムの概要を説明できる。			○	○	
7	安全な看護を提供するための自己の課題を考察できる。				○	○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 1.医療安全を学ぶことの大切さ(意義・責任・責務) 1)医療事故とは 2)看護事故とは 3)看護事故防止の考え方 2.我が国の医療安全対策 1)医療安全対策の歴史 2)医療安全と看護の責務に関する法令、制度 3)国際的連携	塚本	予習(60分) ①テキスト該当ページ(p2-37、p246-264)を熟読する。 ②分からない用語や関心のある用語を取りあげ、調べる。 復習(90分) ①授業内容を振り返り、理解が不十分な内容をまとめる。 ②医療事故、看護事故と医療安全の基本的用語を説明できるように整理する。 ③**厚生労働省の公式ホームページにある「医療事故調査制度の概要」**を閲覧し、本制度をまとめる。 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061201.html ④**日本医療安全調査機構**の公式ホームページにアクセスし、過去に発生した医療事故について調べる。
2	3.診療の補助の事故防止 (要因とリスクマネジメント) 1)注射業務と事故防止 2)輸液ポンプ・シリンジポンプの事故防止 3)輸血業務と事故防止 4)内服与薬業務と事故防止 5)経管栄養業務と事故防止	塚本	予習(60分) ①テキスト該当ページ(p38-119)を熟読する。 ②分からない用語や関心のある用語を取りあげ、調べる。 復習(90分) ①授業内容を振り返り、理解が不十分な内容をまとめる。 ②診療の補助業務における事故の要因とリスクマネジメントを説明できるように整理する。 **レポート課題(150分)** **第1回～6回までの授業内容からレポート課題に取り組む。(50%)**
3	4.療養上の世話の事故防止 (要因とリスクマネジメント) 1)転倒・転落事故防止 2)摂食中の窒息・誤嚥事故防止 3)異食事故防止 4)入浴中の事故防止	塚本	予習(60分) ①テキスト該当ページ(p120-160)を熟読する。 ②分からない用語や関心のある用語を取りあげ、調べる。 復習(90分) ①授業内容を振り返り、理解が不十分な内容をまとめる。 ②課題レポートを意識し、療養上の世話における事故の要因とリスクマネジメントを説明できるように整理する。
4	5.業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 (要因とリスクマネジメント) 1)患者間違いの要因 2)患者間違いの防止 6.医療安全とコミュニケーション 1)チーム医療におけるコミュニケーション 2)医療職間のコミュニケーション 3)患者・家族とのコミュニケーション	塚本	予習(60分) ①テキスト該当ページ(p162-189)を熟読する。 ②分からない用語や関心のある用語を取りあげ、調べる。 復習(90分) ①授業内容を振り返り、理解が不十分な内容をまとめる。 ②業務領域を超えて共通する間違いの要因とリスクマネジメントを説明できるように整理する。 ③課題レポートを意識し、チーム医療におけるコミュニケーションの重要性について自身の考えをまとめる。
5	7.地域・在宅療養者の安全管理 1)医療事故の特徴 2)リスク管理 8.看護師の労働安全衛生上の事故防止 1)職業感染 2)抗がん剤の被爆 3)放射線被爆 4)ラテックスアレルギー 5)腰痛 6)暴力	塚本	予習(60分) ①テキスト該当ページ(p190-223)を熟読する。 ②分からない用語や関心のある用語を取りあげ、調べる。 復習(90分) ①授業内容を振り返り、理解が不十分な内容をまとめる。 ②課題レポートを意識し、地域・在宅療養者の完全管理について説明できるように整理する。 ③課題レポートを意識し、看護師の労働安全衛生上の事故防止について自身の考えをまとめる。
6	9.組織的な安全管理体制への取り組み 1)組織としての医療安全対策 2)医療事故管理システム	塚本	予習(60分) ①テキスト該当ページ(p224-245)を熟読する。 ②分からない用語や関心のある用語を取りあげ、調べる。 復習(90分) ①授業内容を振り返り、理解が不十分な内容をまとめる。 ②組織的な安全管理体制について説明できるように整理する。 **③第1回～6回までの授業内容と自己学修をもとに課題レポートを作成し提出する。(50%)** **テーマ「医療安全における看護職者の役割と自己の課題」**

7	看護学生の実習における安全(医療現場) (1)医療事故を防止するために危険予知トレーニング(KYT演習:事例検討)	塚本	予習(60分) ①これまでの授業内容とテキストを活用し、学びを振り返る。 ②関連動画を視聴する。 復習(90分) **①KYT成果物を個人で作成し、提出する。(30%)** ②次回のプレゼンテーションに必要な資料を作成する。
8	看護学生の実習における安全(看護学生) (2)医療事故を防止するために危険予知トレーニング(KYT演習:事例検討)	塚本	予習(60分) ①関連動画を視聴する。 復習(90分) **①グループの発表資料を提出する。(20点)**

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		学内で撮影した事故事例のビデオを視聴して、演習に臨む
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題レポートのフィードバックは、適宜授業の中で実施する。

【成績の評価方法】

レポート課題50%、演習個人ワーク成果物30%、演習取り組み20%、合計100%となる。

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　有　)】

【履修申請上の条件】

3年後期の各専門領域実習に重要となる知識や考え方である。必ず、予習・復習を行い、授業に望む。

【教科書】

川村治子:系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践〔2〕医療安全,第5版,医学書院,2024

【参考書】

1.松下由美子編:ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践(2)医療安全,第5版,メディカ出版,2024
2.小澤かおり:新体系看護学全書　看護の統合と実践①　看護実践マネジメント　医療安全,メヂカルフレンド社,2020
3.日本看護協会出版会編:看護業務基準集2021年改訂版,日本看護協会出版,2021 https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/gyomu/kijyun.pdf(2024.12.11)
4.日本看護協会:医療安全推進のための標準テキスト https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/guideline/anzensuishin_text.pdf(2024.12.11)
5.大坪陽子他:看護の現場ですぐに役立つ医療安全の基本,秀和システム,2020

【オープンな教育リソース】

医療安全対策:厚生労働省公式ホームページ　https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryou/i-anzen/index.html(2024.12.11アクセス)
看護業務基準集2021年改訂版,日本看護協会出版,2021 https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/gyomu/kijyun.pdf(2024.12.11アクセス)
厚生労働省医療事故調査制度の概要:厚生労働省公式ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061201.html　(2024.12.11アクセス)
医療事故調査制度の概要:一般社団法人日本医療安全調査機構(医療事故調査・支援センター)https://www.medsafe.or.jp/modules/about/index.php?content_id=2(2024.12.11アクセス)

【担当教員の実務経験】

看護師の資格を有し、老年内科での看護師実務経験、認知症高齢者の療養施設での研修・研究活動の実績がある。

【オフィスアワー】

塚本は、火・木の12:00～13:00、16:00～18:00である。研究室への訪室やg-mailで質問等に対応する。

【教員連絡先】

塚本都子　mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

1・2年次に学んだ基礎看護学における演習および小児・母性・成人・老年看護学で学修した対象の安全・安楽の視点を想起し、学習を積み上げていくことを期待する。

授業科目名	多職種連携論	担当教員名	峯下 昌道・行田 菜穂美・宮川 惠子・塚本 都子			
コード	22NAD402	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○	○		
年次／期間	4年次／通年	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
◎	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

医療の高度化、専門分化に伴い、チーム医療の推進は不可欠である。また、地域包括ケアシステムの構築に向けて、多職種による連携・協働の重要性は増大している。このため、生活者である対象の医療上の問題、健康・生活上の課題解決に向け、互いの専門性を理解し、各々の役割を果たすことが求められる。この科目は、チームで支援を行うための多職種連携と協働のスキル、各専門職の役割・機能、その中で果たすべき医療職としての役割等を学修する。また、複数の大学と合同で行う多職種連携セミナーの受講をとおして、医療における多職種連携・協働およびチーム医療の意義について学び、多職種連携における各専門職の役割理解、チームワークおよび情報共有の重要性等について理解を深めるとともに、連携協働における看護職の役割について考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 医療における多職種連携協働およびチーム医療の意義について説明できる。				○	
2 ヘルスケアチームの連携に影響する要因および課題を列挙できる。				○	
3 各専門職の役割と活動について説明できる。				○	
4 チーム医療・多職種連携を推進していくスキルについて説明できる。				○	
5 多職種連携セミナーに能動的に参加できる。				○	
6 多職種連携協働における看護職の役割について考察できる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス ・ディスカッション、グループワークの意味と在り方 1. 多職種連携のための一般知識(講義・ディスカッション) ・臨床における多職種連携とは何か ・多職種連携教育の経緯、定義、目標 ・ヘルスケアチームの連携に影響する要因と課題	行田	予習(90分) ①自身の生活の中で他者と協働した成功、失敗経験について想起しておく。 復習(90分) ①授業内容を振返り、整理する。 【課題1 10%】チーム医療の意義と連携に影響する要因、課題について自身の考えを整理し、記述しなさい。
2	1. チーム医療・多職種連携とは 2. チーム医療・多職種連携が求められる背景とその重要性 3. 連携・協働するための方法 (情報の伝達・共有化、チームカンファレンス、事例検討、日常的な意見交換等) 4. 連携・協働のスキルとチームマネジメント 5. チーム医療・多職種連携における看護師の役割と機能		予習(60分):各回の授業内容を確認のうえ、多職種連携について調べる。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	1. 看護師としての立場からのチーム医療・多職種連携の実際と課題 事例を用いての講義・GW	行田	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	1. 医師の専門性と関連法 2. 専門チームによる多職種連携のあり方 3. IPW・IPEとは 4. チーム医療・多職種連携における医師の役割と機能 5. 医療連携・地域連携の実際と課題	峯下	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	1. 医師としての立場からのチーム医療・多職種連携の実際と課題 事例を用いての講義・GW ＊課題:小レポート(A4) 学習のまとめ、感想等		予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。 【課題2 10%】小レポート(A4) 学習のまとめ 感想等
6	1. 医療ソーシャルワーカーの専門性と関連法 2. チーム医療・多職種連携における社会福祉士の役割と機能 3. 地域での生活を支援する社会制度・社会資源 4. 医療連携・地域連携の実際と課題	宮川	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	1. 社会福祉士としての立場からのチーム医療・多職種連携の実際と課題 事例を用いての講義・GW ＊課題:小レポート(A4) 学習のまとめ、感想等		予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。 【課題3 10%】小レポート(A4) 学習のまとめ 感想等
8	1. 多職種連携における看護師の役割と実際: 講義とグループワーク テーマ 「患者・利用者の生活の質を高めるためのチーム医療と多職種連携のあり方と看護職の役割について」	行田	予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
9	1. グループワークの発表 2. まとめ チーム医療・多職種連携における課題と学生への期待 ＊課題2:小レポート(A4) 学習のまとめ 感想等		予習(60分):前回の授業内容を確認する。 復習(60分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。 【課題4 10%】小レポート(A4) 学習のまとめ 感想等

10 11	チーム医療・多職種連携を推進していくスキル② 1. コミュニケーション（ワークショップ/グループワーク） ・アイスブレイク ・予習内容についてグループでディスカッションを行う ・コミュニケーションのパターンを用いてロールプレイを行う ・多職種カンファレンスのロールプレイを行う ・ワークショップで学んだことについてグループでディスカッションを行う	塚本	予習（30分）：他者の言動によってポジティブな気持ちになった経験、ネガティブになった経験について 想起し、自身のコミュニケーションの傾向について考える。 復習（60分）： ①グループワークでの気づきを整理する。 ②所定のワークシートに実習体験を整理する。
12 13	チーム医療・多職種連携を推進していくスキル③ 1. チームビルディング（ワークショップ/グループワーク） ・アイスブレイク ・予習内容についてグループでディスカッションを行う ・チームビルディングをテーマにしたワークショップに参加する ・ワークショップで学んだことについてグループでディスカッションを行う	塚本	予習（30分）：自身の生活の中で他者と協働した成功、失敗経験について想起し、その要因について これまでの学修を踏まえて整理する。 復習（60分）： ①グループワークでの気づきを整理する。 ②所定のワークシートに実習体験を整理する。 【課題5 10%】3回のワークショップで記載したワークシートをまとめ、そこから考えるチーム医療・多職種連携を 推進していくスキルについて考えを記述しなさい。
14 15	多職種連携セミナー への参加 1. ガイダンス　【詳細は実施要項参照】 ・実施要項の説明・シナリオについて ・事前学習について 2. 多職種連携セミナー：聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学、東京純心大学等の大学合同セミナー開催 （9月第2土曜日予定） ・方法：3職種混合のグループ編成、グループディスカッション・発表準備・発表 ・シナリオをもとに、課題を抽出し、互いに意見を出し合い議論する。 ・合意形成のプロセスを丁寧にふみながら、チームで課題解決に取り組む。	塚本	予習（60分）：・実施要項を熟読し、セミナー当日のディスカッションを効果的に行うための準備を行う。 ①シナリオをもとに、疾患、病態生理、検査、治療（特に薬剤）、看護について整理する。 ②シナリオを熟読し課題及び課題解決について自分の考えを整理しておく。 復習（30分）・リフレクションを行う。 【最終課題レポート10%】これまでの学びを踏まえて、チーム医療・多職種連携を推進していく看護職の役割について、文献を用いて論述しなさい。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	・多職種連携セミナー　①聖マリアンナ医科大学、昭和薬科大学、東京純心大学等の大学合同セミナーを開催する。　②医師、薬剤師、看護師の専門職として連携協働のプロセスを体験する　③シナリオを事前に配布し、課題解決について自身の考えを整理し、セミナーに臨 む。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・各授業内で質疑応答の時間を設ける。リフレクションシートに寄せられた質問には次回の講義等で個別、全体へ返答する。
・グループディスカッション、プレゼンテーションの際に講評を行う。
・提出されたレポートの返却の際に、全体に対してコメントを行う。

【成績の評価方法】

筆記試験（40%）　レポート課題（60%）15%×4回による総合評価とする。

【レポート評価基準（ルーブリック評価）】
・評価項目：①課題に沿ったタイトルの設定、②内容の一貫性・論理性・わかりやすい表現、③設定した問題の背景の説明、④文献の引用等による考察の深まり、
⑤文章の体裁・適切な表現（段落、句読点、主部と述部、文体、誤字・脱字、指定様式等）、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。
・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。
・剽窃行為は禁止、評価対象外とする。

【ワークショップ・グループワーク評価（ルーブリック評価）】
・評価項目：①建設的議論、②メンバーへの参加促進、③積極的参加・課題達成への貢献度、④協調性・雰囲気づくり、などの項目について自己・他者評価を含めて評価する。

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

教科書は設けず、各回の配布資料をもとに授業を進める。

【参考書】

・大嶋伸雄：IPラーニングシリーズ保健医療福祉専門職の連携教育実践③はじめてのIP−連携を学びはじめる人のためのIP入門−,協同医書出版社,2018.
・野中猛：多職種連携の技術(アート)―地域生活支援のための理論と実践，野中ケアマネジメント研究会，2014.
・細田満和子：チーム医療」とは何か―医療ケアに生かす社会学からのアプローチ，日本看護協会出版会 ，2012.
・篠田道子著：多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル ，医学書院，2011.
・エイミー・C・エドモンドソン（著），Amy C. Edmondson（著），野津 智子（翻訳）：チームが機能するとはどういうことか――「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ，2014.

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

看護師としてチーム医療経験のある教員が担当する。また、医師、看護師等の専門職としてチーム医療、多職種連携協働の経験があるゲストスピーカーが各職種や医療チームの活動について紹介する。
多職種連携教育の実践を積んだ医療従事者が、セミナーでのファシリテーターとして指導する。

【オフィスアワー】

授業後、質問等の時間を設ける。

【教員連絡先】

学務課を通じてメールにて対応する。
メールアドレス：u_gakumu@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

自分が目指したい看護師のビジョンを念頭に置いて、授業に臨んでください。

授業科目名	看護管理学	担当教員名	上谷いつ子			
コード	22NAD403	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

国民の保健医療福祉に対するニーズの変化に伴い，看護サービスへの要求は多様化・複雑化しており、看護職への期待と役割は拡大している。この科目では、看護管理の概念と原則を学び、看護の対象となる人々に安全で良質な看護サービスを効率的・効果的に提供するために、看護職者個人および看護組織が担う役割は何かについて理解する。マネジメントの実際では、管理の対象として主に「ひと・もの・かね・情報・知識」を取り上げる。具体的には、組織運営、看護サービス提供システム(看護提供方式)、業務管理、人的資源管理(労務管理・人材育成含む)、施設設備・物品管理、情報管理、予算管理等について学修する。さらに、看護サービスの質保証のための質評価・改善・変革等について理解を深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護管理の定義とプロセスについて説明できる。				○	○
2 看護サービスを提供するための組織内のしくみについて説明できる。				○	○
3 看護チーム及び他職種との連携・協働における看護職の役割について説明できる。				○	○
4 キャリア開発の視点から個人と組織の関係について説明できる。				○	○
5 看護の質保証における評価の視点・方法を説明できる。				○	○
6 看護の経済的側面への関心をもつ必要性について説明できる。				○	○
7 組織における看護専門職および看護管理者の役割と責務について論述できる。				○	○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 看護管理の定義とプロセス 1. 看護管理の定義 2. 看護管理学の概念構成と基本的要素 3. 看護におけるマネジメントの考え方と変遷 4. 看護マネジメントのプロセスとPDCAサイクル	上谷	【予習】(30分): ①テキスト**第1章p2-15、第5章p144-145**を熟読し整理する。 ②p2-3の看護管理の定義についてそれぞれの共通点と相違点について整理する。 【復習】(30分):授業内容を振り返り、整理する。 ①ナイチンゲールの「小管理」を読んで感想を整理する。 ②クラスルーム配信の確認テストに解答する。不明な個所はテキストや授業資料で確認する。 **【課題1】**(60分) 「実習の1日の行動と管理的視点」のワークシートに取り組む。提出は授業時に指示する。 **＊授業内容の確認テスト、リフレクションシートは、毎回授業終了後にGoogle Formで配信する。**
2	看護ケアのマネジメント 1. 看護ケアのマネジメンにおける看護職の機能 2. 患者の権利と尊重・安全管理・チーム医療と多職種連携・協働 3. 看護業務のマネジメント ・看護ケアの標準化:看護基準・看護手順・クリニカルパス ・日常業務のマネジメント:判断基準と多重課題への対応	上谷	【予習】(90分): ①**テキスト第2章p18-63**を熟読し整理する。 ②VISUALEARNクラウドにアクセスし、DVD「よくある場面から学ぶ多重課題」を視聴し、課題に取り組む。 ③これまでの実習体験を想起し、看護ケアの優先順位の判断や時間管理で困ったりしたこと、うまくいったことなどを列挙し、その原因、理由について振り返る(ワークシート)。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①患者の権利と尊重、意思決定支援、安全管理、チーム医療における看護職の役割について整理する。 ②看護ケアの標準化とは何か、標準化の必要性、標準化の具体例について整理する。 ③クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。
3	看護サービスのマネジメント ①　～看護組織とマネジメント～ 1. 看護サービスの定義と特徴 2. 組織目的達成のためのマネジメント ・組織理念の形成と浸透 ・現状分析による戦略的目標 3. 看護組織の構成と職務 ・組織構造と組織原則 ・看護の組織化	上谷	【予習】(60分): ①**テキスト第4章p80-88、第5章p145-150**を熟読し整理する。 ②実習体験を想起し、組織のなかで誰がどのような意思決定を行っているかについて整理する。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①看護サービスの特徴について整理する ②病院組織における理念の形成と浸透の重要性、看護部門の位置づけと役割、職位と職務について整理する。 ③クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。
4	看護サービスのマネジメント ② 1. 看護サービスの提供システム　～看護方式 2. 人材のマネジメント(人的資源管理) ・人材の採用と育成・活用 ・労働環境の調整:看護師の働き方のマネジメント	上谷	【予習】(60分): ①**テキスト第4章p86-112**を熟読し整理する。 ②**日本看護協会公式ホームページにアクセスし(日本看護協会で検索　https://www.nurse.or.jp/)、次の①②について調べておく。** ・重点政策・事業➡看護職の働き方改革の推進・看護職のキャリア構築支援 ・生涯学習支援の中で関心ある項目 【復習】(90分):授業内容を振り返り、整理する。 ①看護ケア提供システムの定義、特徴、強み・弱みを整理し、どのようなシステムが理想的かについて自身の考えをまとめておく。 ②飯塚病院看護部にアクセスし、「セル看護提供方式」の動画を視聴し、感想を整理する。 ③看護管理者として、どのような人材を採用し、どのようなに育成していきたいか、自身の考えを整理する。 ④クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。
5	看護サービスのマネジメント ③ 1. 施設・設備管理、物品管理、情報管理、予算管理(コスト管理) 2. 医療・看護サービスの評価と改善　～看護の質を評価するための視点	上谷	【予習】(60分): ①**テキスト第4章p112-141**を熟読し整理する。 ②**日本看護協会公式ホームページにアクセスし**(日本看護協会で検索　https://www.nurse.or.jp/)、DiNQL(ディンクル)事業についてリサーチする。 ・看護実践情報　➡　労働と看護の質向上のためのデータベース(DiNQL　ディンクル)事業 ③臨床倫理、看護倫理、医療安全、医療・看護情報の管理、電子カルテの取り扱いについて復習しておく。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①受持患者への看護の質は保証されていたかについて振り返る。 ②**看護ケアの質評価・改善システム公式ホームページにアクセス**し(看護ケアの質評価・改善システムで検索、http://www.nursing-qi.com/)、DVD1～4を視聴する。 ③クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。 **【課題2】**(90分) 「看護師の看護行為、看護業務における管理的視点」(課題用紙あり)に取り組む。提出〆切、提出様式については授業時に指示する。

6	マネジメントに必要な知識と技術 1. リーダーの役割と求められる資質・能力 2. 集団に働きかけるスキル ・リーダーシップの定義と種類 ＊ワーク:「ついていきたいリーダーとついていきたくないリーダー」 ・動機づけ理論、パワーとエンパワーメント、コンフリクト・マネジメント、変化と変革	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第3章p66-78、第5章p150-168を熟読し整理する。 ②日本看護協会HPにアクセスし、クリニカルラダー、認定看護管理者について調べておく。 ③事前配信の「思い描くリーダー像」について記述する。 【復習】(60分):授業内容を振り返り、整理する。 ①チームリーダーや看護管理者に求められる能力について整理する。 ②実習体験を振り返り、チーム活動における自己の課題を整理する。 ③クラスルーム配信の確認テストに解答し、不明な個所は復習すること。
7	看護を取り巻く法律と諸制度 1. 法律と看護管理　～看護職がかかわる法制度 2. 看護の経済的側面 1)医療制度と診療報酬のしくみ 2)看護と診療報酬 3. 看護行政と政策	上谷	【予習】(60分): ①テキスト第6章p170-196を熟読し、看護管理に関連する法律、看護にかかわる医療・介護制度、診療報酬のしくみについて整理する。 ②テキスト第3章p69-70を熟読し、「新人看護職員の臨床実践能力の向上」に関連した厚労省の検討会について整理する。 ③厚生労働省の分野別政策一覧(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/index.html)にアクセスし、医療関連の政策について概観する。 【復習】(90分):授業内容を振り返り、整理する。 ①テキストp189の表6-8「看護サービスの対価の変遷」を読み、感想を整理する。 ②看護師が経営的視点を持つ意味について整理する。 ③テキストp193-194の表6-11「近年の看護制度等に関する検討会」を読み、政策過程における看護職による問題提起の重要性について整理する。 ④クラスルームから配信する確認テストに解答する。不明な個所はテキストや授業資料で確認する。
8	看護管理の実際　～看護管理者、チームリーダーの体験学習に向けて～ 1. 看護管理職に求められるスキル 2. 事例から学ぶ看護管理 3. 看護師の業務調整の実際 グループディスカッション:多重課題～マルチタスクを乗り越えるために まとめ	上谷	【予習】(90分): ①事前配布の「事例に学ぶ看護管理～事例の中の看護管理の視点を考えよう」のワークシートに取り組む。 ②事前配布の多重課題の事例に取組み、優先順位と業務調整について整理しておく。 【復習】(60分): ①多重課題のワークからの学び、気づきを整理し、自己の課題をまとめる。 ②クラスルームから配信する確認テストに解答する。不明な個所はテキストや授業資料で確認する。 【課題3＝A・B】(180分)　:授業進行に伴い提示した課題Aと課題Bについてまとめる。 課題A:チームリーダーとしてチームをどのように運営していくか、自身の考えを述べなさい。 課題B:看護師長であるあなたは、看護部長よりA病棟への異動を命じられた。あなたはA病棟をどのように運営していきたいか、自身の考えを整理しなさい。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		VISUALEARNクラウドにアクセスし、DVD「よくある場面から学ぶ多重課題」を事前に視聴し、課題に取り組む。 日本看護協会HP、看護ケアの質評価・改善システムHP等にアクセスし、授業に臨む。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは、授業内で行う。
毎回の講義中もしくは終了後の確認テスト、リフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Classroomで個別もしくは全体にフィードバックする。

【成績の評価方法】

筆記試験(70%)、レポート及び課題(30%)により総合評価する。
目標1～6　:目標に含まれる要素、キーワードについての知識の習得状況を筆記試験と課題で評価する。
目標7　　:レポートと課題(授業中に提示)で評価する。

【筆記試験】　:出題範囲・方法等については、授業時に示す。
【レポート評価(ルーブリック評価)】
・評価項目:①適切なテーマ設定、②論理的構成力・考察力、③適切な文献引用・明示、④文章の推敲など、課題の内容によって評価項目を設定し評価する。
・提出期日の厳守。提出遅延時は減点対象とする。
・盗用、剽窃行為は禁止。評価対象外とする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

統合実習履修予定の学生を対象とする。

【教科書】

上泉和子:系統看護学講座統合分野　看護の統合と実践①看護管理 , 医学書院, 最新版(**2024年1月6日第11版1刷**).

【参考書】

日本看護協会編:看護に活かす基準・指針・ガイドライン集2020 , 日本看護協会出版会.
岩崎 夏海著:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら, 新潮文庫.
ピーター・F・ドラッカー著:マネジメント[エッセンシャル版] - 基本と原則, ダイヤモンド社, 2001.
勝田裕美子:組織で生きる, 管理と倫理のはざまで,医学書院.
近藤隆雄:サービスマネジメント入門―ものづくりから価値づくりの視点へ, 生産性出版.
手島恵:主体性を高めチームを活性化する! 看護のためのポジティブ・マネジメント 第2版, 医学書院, 2018.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師および看護管理者として臨床経験をもとに、実践例を示しながら看護管理の基礎を教授する。

【オフィスアワー】

月・火・木　12-13時、16-18時　　Gmailでの問合せ可能

【教員連絡先】

iuetani@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

看護管理は、より良い看護を提供するために、すべての看護職が身につけるべき知識・技術である。
良質な看護を提供するためにはどのようなシステムを創造していくのか、良質な人材の確保と育成・活用のあり方などについても考えていきたい。
なお、耳慣れない語句がでてくるので、丁寧に調べてノートに整理することを期待している。

授業科目名	災害看護学	担当教員名	塚本 都子 山下 将志・藤野雄大・江森亮太・大口裕樹			
コード	22NAD404	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

災害時の医療・看護活動の歴史的背景をふまえ基盤となる法的根拠、災害対策及び災害時の救護活動に必要な基本的知識と方法を学修する。また、刻々と変化する状況下で看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携・協働のあり方について考える。災害直後・初期に発生する被災者の健康・生活上の問題、被災者にもたらす中・長期的な身体的、心理的、社会的な影響など、災害が人々の健康と生活へ及ぼす影響について理解を深め、災害時における看護の特徴、人間関係づくり、環境調整などを含めた看護の提供方法について学ぶ。 日本を含め，世界各地で災害が頻発する中，看護職としてどのように考え行動・支援することが必要なのか、また防災の備えとして学生自身の体験や地域の防災対策などについて、日頃から関心を高め、今後の災害看護のあり方について考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	災害医療・災害看護の歴史的変遷の概要を説明できる		○			
2	災害の種類、疾病構造おとび災害サイクルにおける各フェーズの特徴について説明できる。		○			
3	災害に関する社会の対応や仕組みについて説明できる。		○			
4	災害サイクルに応じた看護の役割と看護活動について説明できる。		○		○	○
5	災害発生時の初期行動、トリアージの原則と方法について説明できる。		○		○	○
6	被災者および救護者の災害によるストレスとその対処法について説明できる。		○		○	○
7	災害に備え看護専門職としての取り組みについて自己の考えを表現できる。		○		○	○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 災害医療活動、災害看護の概要 1. 災害・災害看護の歴史的歩みと今日的課題 2. 災害看護の基礎 災害とは・災害の種類と疾病構造・災害サイクル・災害関連死とは 避難行動要支援者への支援 ＊災害救助・避難所の現場、DMATの活動場面などの動画や写真等を視聴する。	山下	予習:(45分) ①テキストのp4-47,p50-99を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 ②過去に発生した災害の被害、被災者の生活や健康状態について、テキストやインターネット、新聞等で知識を得ておく。 ③災害時に活躍する組織(災害拠点病院、DMAT、DPAT等)について整理しておく。 復習:(45分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②災害の定義、種類、疾病構造、災害サイクル、災害関連死等のキーワードを整理する。
2	災害発生時の社会の対応やしくみ 1. 災害に関する法制度 2. 災害情報と伝達のしくみ 3. 災害関係各機関の支援体制	山下	予習:(90分) ①テキスを熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 復習:(90分) ①授業内容を振り返り、整理する。
3	災害各期における看護活動 1. 災害サイクル各期における看護活動 2. 在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅(災害復興住宅)における看護活動 3. 避難生活の課題とその対策:避難所や車中避難における健康、生活上の課題とその対策など ＊DMAT活動場面の動画、写真等を視聴する。	江森	予習:(90分) ①テキストのp102-154を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 ②避難生活の現状や課題についての情報を、テキストやインターネット、新聞等で収集しておく。 復習:(90分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②災害サイクルに応じた各期の看護について整理しておく。
4	病院における災害看護　～災害発生時、看護師の情報・判断・行動は？～ 1. 病院における災害の備え 2. 災害発生時の病院における災害時の初動体制 3. 災害訓練	江森	予習:(90分) ①テキストのp181-199を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 復習:(90分) ①授業内容を振り返り、整理する。
5	災害発生時に必要な技術 (机上演習) 1. 災害時の医療救護活動の基本:CSCATTT 2. 災害時のトリアージ :一次(START法)・二次 3. 災害時の治療・搬送	藤野	予習:(90分) ①テキストのp152-172を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 復習:(90分) ①授業内容を振り返り、整理する。
6	災害とこころのケア 1. 被災者のストレスと心のケア 2. 援助者のストレスと心のケ	大口	予習:(90分) ①テキストのp109-120を熟読しノートに整理する。わからない語句は調べ整理する。 復習:(90分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②急性ストレス障害、PTSD、こころのトリアージ、こころのケア等のキーワードについて整理する。
7	災害看護における倫理原則の考え方 1. 災害看護における倫理原則の基本的な考え方 2. 災害看護に期待される能力 3. 災害看護の理論の活用	藤野	予習:(90分) ①テキストのp201-214を熟読しノートに整理する。 ②わからない語句は調べ整理する。 復習:(90分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②倫理原則について整理する。

8	災害看護学の授業①～⑦回まとめ （山下、藤野） 定期試験・課題について説明 （山本）	山下 藤野	予習（90分） ①～⑦回の授業を振り返り、質問事項などがあればまとめておく。 ⑧回目の授業のまとめの時間に質問できるようにする。 復習（90分）授業内容を振り返り、整理する。 ★レポート課題 「災害に備え、看護専門職として求められる姿勢と取り組みについて」 表紙を付ける。 A－4用紙、MS－明朝体、 800～1000字程度のレポート作成。 引用文献・参考文献を記載する。 ★提出期限：授業終了後1週間後 学務課横のポストに入れる。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	トリアージの机上演習 DVD
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

フィードバックは、講義の中でおこなう。

【成績の評価方法】

課題：30%
定期試験：70％
合計：100％

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

2年次までの専門科目を履修していることが望ましい。

【教科書】

酒井明子，菊池志津子編集，災害看護学　看護の専門知識を統合して実践につなげる，改訂第4版，南江堂，2023.

【参考書】

①浦田喜久子，小原真理子，看護の統合と実践〈3〉災害看護学・国際看護学（系統看護学講座 統合分野），医学書院，2015.
②酒井明子編集，災害看護（ナーシング・グラフィカ―看護の統合と実践(3)），第4版，メディカ出版，2016.
③山崎達枝著・監修，：災害現場でのトリアージと応急処置，日本看護協会出版会，2013.
④小原 真理子， 酒井 明子共著，災害看護学，心得ておきたい基本的な知識，第2版，南山堂，2012.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

特になし

【オフィスアワー】

授業後、質問等の時間を設ける。

【教員連絡先】

学務課を通じて連絡をお願いします。
学務課メールアドレス：u_gakumu@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・DMATとして被災地に派遣され、災害救護活動を実際に行った医療チームの講師による講義・机上演習を予定している。
・災害が多発する今日、テレビやインターネット等を通して、被災者の避難行動、被害状況、避難生活、災害医療・災害看護活動について情報を得、災害看護のあり方を考える機会としたい。
　また、看護専門職として災害に備えどのような準備を行っておくのか、今後のあり方について自己の考えを表現できることを期待する。

看護学部

2025(令和7)年度

授業科目名	国際看護学	担当教員名	尾山　木綿子			
コード	22NAD405	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	3年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

国際的な視点より，様々な国や地域での健康課題を理解し，多様な異文化化背景をベースに、グローバル化が進む国内外での看護活動に必要な基礎知識を学ぶ。また、統計指標を用いて、特に開発途上国における医療の現状とその要因について把握し、必要な援助についてまとめ、国際看護の理論と実践を学ぶ。さらに、多様な価値観や意思尊重の重要性について、格差が生じる社会構造を理解し、看護専門職者としての役割を発揮していくための国際感覚を磨き、国際機関の役割，国際保健政策などについて触れながら、国際協力の実際やヘルスシステムについて理解する。特に開発途上国の医療・保健分野に影響を及ぼす要因の把握し、看護の役割について学修する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 国際看護の実践に必要な基本的知識について述べることができる			○		
2 国や地域、文化や人種などの違いを超えた「看護」について推論できる	○		○		
3 国際保健医療分野の課題に関心をもち列挙できる					○
4 日本における多文化共生について説明できる			○		

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	国際看護の意義 ・国際看護学とは？なぜ国際看護を学ぶのか。 ・国際看護の変遷と国際看護理論の枠組みを理解する。	尾山	予習(60分):テキスト第1章を読み、国際看護学を学ぶ必要性を、自分なりにまとめておく。 復習(90分):他国では、国際看護学の科目がまだ一般的ではない現状を踏まえ、自分たちがなぜ今、国際看護学を学習する環境にいるのかをペーパーにまめる。 ＊時間外学修は上記以外にも必要なため、不足している分は休日などを活用して行うこと。
2	グローバルヘルスの現状と課題 ・統計指標から世界の健康問題の現状を知り、その背景を理解する。	尾山	予習(60分):テキスト第2章を読み、国や地域の現状を把握するためにできることは何かを考える。 復習(90分):現状から実現可能なゴールを設定し、そこからどう援助をすすめるかをまとめておく。 ＊時間外学修は上記以外にも必要なため、不足している分は休日などを活用して行うこと。
3	途上国における保健医療の課題とSDGs ・国際保健の現状(母子保健・人口・栄養・感染症)を理解する。 ・国際協力機関の役割を理解する。	尾山	予習(60分):第3,第4章を読み、国際援助活動をすすめるうえでの組織や其々の役割を考える。 復習(90分):国際保健の現状を1つ取り上げ、援助に至る過程を整理しておく。 ＊時間外学修は上記以外にも必要なため、不足している分は休日などを活用して行うこと。
4	異文化理解と開発途上国の現状 ・在日外国人の動向と社会背景と異文化看護を理解する。	尾山	予習(60分):第5章を読み、異文化看護において必要なことは何か、自分の考えをまとめておく。 復習(90分):異文化看護に必要となる2つの視点は何かを事例を用いて説明できるようまとめる。 ＊時間外学修は上記以外にも必要なため、不足している分は休日などを活用して行うこと。
5	国際看護活動の実際 ・国際協力活動の実際と活動報告から他者経験を体験する。 ・確認ミニテストと解説。	尾山	予習(60分):第6章より、実際の援助場面を想定し、そこで自分ができることについて計画する 復習(90分):実際の国際救助活動より、専門的な知識を持った医療従事者としてできることを考える ＊時間外学修は上記以外にも必要なため、不足している分は休日などを活用して行うこと
6	プレゼンテーション準備(グループワーク:インターネット等のICTを活用しプレゼンテーション準備を行う) ・グループで話し合い、私たちにできる国際看護活動について発表資料を作成する。	尾山	予習(90分):私たちにできる国際看護活動について個人で考えてくる。 復習(180分):グループメンバーで分担された、自分たちの発表課題に必要な情報を整理しておく。
7	プレゼンテーション準備(グループワーク:インターネット等のICTを活用しプレゼンテーション準備を行う) ・グループで話し合い、私たちにできる国際看護活動について発表資料を作成する。	尾山	予習(90分):私たちにできる国際看護活動について必要な資料などを準備しておく。 復習(120分):次回のプレゼンに向けて、役割を確認しておく。
8	私たちにできる国際看護活動とは (パワーポイントを使用したプレゼンテーション) ・グループごとの発表、評価。	尾山	復習(120分):発表資料を基にふりかえり、まとめる。 ＊時間外学修は上記以外にも必要なため、不足している分は休日などを活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題レポートやリフレクションペーパーのフィードバックは、提出した講義の次の講義時に行う。

【成績の評価方法】

確認テスト:50%　グループワーク:10%　プレゼンテーション(事前課題含む):40%
1.講義内で実施するミニテストを確認テストとして評価する。
2.プレゼンテーションは、学生同士の評価表を用いた評価と内容を総合的に評価する。
3.プレゼンテーション準備のグループワークの貢献度を総合的に評価する。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　) 】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

看護の統合と実践③災害看護学・国際看護学　医学書院

【参考書】

いのち・開発・NGO. ディヴィット・ワーナー, ディヴィット・サンダース著, 池住義憲, 若井晋監訳. 新評論. 2001
国際看護学　看護の統合と実践　開発途上国への看護実践を踏まえて. 柳沢理子編著　PILAR　Press. 2017.

【オープンな教育リソース】

日本看護科学学会. 異文化看護データベース. http://jans.umin.ac.jp/iinkai/intl/index02.html
NPO法人　シェア(SHARE). 国際保健協力市民の会. http://share.or.jp

【担当教員の実務経験】

海外経験および看護師の経験を活用した講義を行う

【オフィスアワー】

水曜日:12:10-13:00

【教員連絡先】

yoyama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	医療経済論	担当教員名	大岡　正道			
コード	22NAD406	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

わが国の国民医療費は、少子高齢化の進行に伴い増加の一途をたどり、医療分野における経済的な課題への対応が急務となっています。本授業では、医療保険制度が抱える課題を経済学的な分析手法を用いて評価し、効率性と公平性を達成するための適切な規制や制度設計の在り方を検討します。医療サービスは日本を含む多くの国で政府の強い規制下に置かれており、診療報酬改定の影響や問題点についても着目します。特に、診療報酬改定が医療サービスの提供効率や看護師を含む医療従事者のモチベーションに及ぼす影響、紹介状の増加に対する要因を分析し、改善の方向性を探ります。また、基本的な経済学の分析手法や制度評価の方法を習得し、将来皆さんが、病院全体の方向性や、看護師の人的配置などに関わる立場になったときのための実践的な知見を深めることを目指します。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 わが国の医療制度、保険請求の流れや医療を取り巻く現状、自由診療や混合診療の問題点について説明することができる。					○
2 費用対効果の基礎知識について説明することができ、医療においてはどのようなことが課題として議論されているかを説明することができる。					○
3 病院におけるDPC／PDPS(診断群分類別包括支払い制度)について説明することができる。					○
4 病院経営指標の基礎知識を理解し、説明することができる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	わが国の保健医療システムと国民医療費	大岡	予習(80分):保健医療システムと国民医療費の基本的な知識を予習しておくこと。 復習(80分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと。
2	国民皆保険、自由診療・混合診療	大岡	予習(80分):自由診療・混合診療の基本的な知識を予習しておくこと。 復習(90分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと。
3	費用対効果	大岡	予習(80分):費用対効果の基本的な知識を予習しておくこと。 復習(90分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認しておくこと。
4	病院におけるDPC／PDPS(診断群分類別包括支払い制度)	大岡	予習(80分):DPC／PDPSの基本的な知識を予習しておくこと。 復習(90分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する。
5	病院経営指標の基礎知識:病院の損益と収支	大岡	予習(80分):損益と収支の基本的な知識を予習しておくこと。 復習(90分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する。
6	病院経営指標の基礎知識:経営の可視化	大岡	予習(80分):テーマに沿った基本的な知識を予習しておくこと。 復習(90分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する。
7	病院経営指標の基礎知識:入院、外来診療に関する基礎的な指標	大岡	予習(80分):診療に関する指標の基本的な知識を予習しておくこと。 復習(90分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する。
8	病院経営指標の基礎知識:付加価値額と労働生産性、労働分配率	大岡	予習(80分):付加価値額の基本的な知識を予習しておくこと。 復習(90分):授業ノートの内容の検討を行い、疑問点がないか確認する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

医療経済や医療システムに関する日々のニュースに関心を持って、講義内容と突合させる。
課題は、次回講義時にフィードバックする。

【成績の評価方法】

授業参加度(発言・発表):20%
課題:80%
合計:100%

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

看護のための経営指標「見る・知る・活かす」使いこなし超入門: 経営参画への道が拓ける!／小宮清編集(JANコード/ISBNコード:9784840450263)

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

東京純心大学の講義が2020年担当。医師として、専門分野において、医療・看護を経済的視点より講義する。

【オフィスアワー】

出講日で対応可能な時間に対応する。

【教員連絡先】

sooka@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし

授業科目名	看護行政と看護の展望	担当教員名	高橋 恵			
コード	22NAD407	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

変動する社会のニーズに適した質の高い看護を提供するために，医療・看護の歴史的変遷・看護活動の根拠となる法律・保健医療福祉制度の観点を踏まえ，看護行政・政策とは何かを理解し，看護行政・政策活動の意義と役割を学ぶ。そして、質の高い看護を実践する上で，看護行政・政策について学ぶことの重要性とその具体的内容を理解する。また，我が国のこれまでの看護人材育成政策及び看護人材確保に関る政策の経緯を学び，看護人材育成・人材確保における現状と課題について理解する。その上で、変動する社会のニーズに適した現代における質の高い看護を提供するうえで必要となる看護職の育成、人材確保、働き続けるための政策的課題を発見し，考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 変動する社会のニーズと医療・看護への期待の変化について説明できる				○	○
2 看護活動の根拠となる法律とその内容を、看護師の実践内容と関連付けて説明できる。				○	○
3 看護に関わる政策・制度について、看護実践内容と関連付けて説明できる。				○	○
4 看護に関わる制度がつくられる仕組みについて説明できる。				○	○
5 政策に関与している組織、学術団体とその働きについて説明できる。				○	○
6 看護を実践する上で看護行政・政策について学ぶことの重要性について説明できる。				○	○
7 看護に関わる政策的課題と変革の時代に生きる看護の展望について考察できる。				○	○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	1. コースガイダンス 2. 変動する社会のニーズと看護の役割 1)医療・看護を取り巻く環境の変化　:諸外国との比較から 2)医療・看護への期待と役割	高橋	予習　(80分):社会の変化が医療に与える影響について調べておくこと。 復習　(80分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること
2	3. 看護管理に関連する法律 1)日本国憲法 2)医療法 ①医療法とは ②医療法の目的 ③医療の基本理念	高橋	予習(80分):日本国憲法・医療法について調べておくこと。 復習(80分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること。
3	3. 看護管理に関連する法律 3)保健師助産師看護師法 4)看護に関連(関与)する法律 ①医師法 ②薬剤師法 5)看護師等の人材確保の促進に関する法律	高橋	予習(90分):・保健師助産師看護師法、医師法・薬剤師法、看護師等の人材確保の促進に関する 法律について調べておくこと。 復習(80分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること。
4	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 1)社会保障制度改革の背景 2)政策・制度と看護サービス ① 政策とは ② 政策形成と過程 ③ 我が国における医療制度のしくみ 3)社会保障・税一体改革	高橋	予習(80分):・社会保障制度、厚生労働省の政策について調べておくこと。 復習(80分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること。
5	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 4)医療政策・介護政策とその経緯・医療制度改革の経緯 5)健康政策 6) 看護政策と診療報酬 ①看護政策とは ②看護における診療報酬の評価:看護配置・看護サービスの評価 ③診療報酬による政策誘導	高橋	予習(80分):医療政策、介護政策、診療報酬について調べておくこと。 復習(80分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること。
6	4. 保健医療福祉政策と最近の動向 7)看護職員の量の確保と質の向上 ① 看護職員の需給の見通し ② 看護職員の復職支援の強化 ③ 特定行為に係る看護師の研修制度の導入 ④ 看護基礎教育に関する動向 レポート課題提示	高橋	予習(80分):全国看護職員数、看護師の需給見通しについて調べておくこと。 復習(80分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること。
7	5. 看護と専門機関・職能団体 1) 世界保健機関(WHO) 2) 国際看護師教会(ICN)／国際助産師連盟(ICM) 3) 日本看護協会 6. 今後の看護の展望　:グループワーク	高橋	予習(100分):今後の看護の展望について自己の考えをまとめて、次回のグループワークに備えて おくこと。 復習(90分):授業で配布する資料及びテキストを復習すること。

8	6. 今後の看護の展望　:グループワーク 7. 発表 8. まとめ	高橋	予習(90分):前回のグループワークを通して自己の考えを整理しておくこと。 復習(100分):グループワーク、まとめを振り返り、復習しておくこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)		特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・課題レポートに対するフィードバックは、次回の講義で行う。

【成績の評価方法】

・グループワーク(10%)、レポート(30%)、筆記試験(60%)
・グループワーク評価基準:積極的に議論に参加している姿勢がみられる・相手の意見を否定せず聴く姿勢で臨んでいる・自分の意見、考えを相手にわかってもらえるように
発言している・建設的な意見を述べている・目標達成に向けて努力している・発表時のプレゼンテーションはわかりやすい工夫がみられるなど、
自己評価・他者評価を含めて評価する。但し、ルーブリック評価は用いない。
・レポート評価基準:適切な課題が設定されている・課題に沿った内容である・設定した問題の背景を説明している・既存の学説を踏まえたうえで自分の考えを述べている
・レポート形式で記載している・文章表現が適切である等を評価する。作成にあたっては、生成AIの利用を可とする。
・提出方法・提出〆切については授業時に提示する。期日を厳守すること。提出遅延時は減点対象とする。

【生成AI利活用 (　無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　無　) 】

【履修申請上の条件】

・予習・復習を確実に行い、授業を受けること。

【教科書】

・上泉和子他編集:系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践①, 医学書院2024. 第11版

【参考書】

・看護六法, 新日本法規, 最新版
・手島恵他編集:看護管理学　自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル, 南江堂, 2015.
・吉田千文他編集:ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践①看護管理, メディカ出版, 2020.第4版
・矢野正子編集:新体系 看護学全書＜別巻＞看護管理 看護研究 看護制度, メヂカルフレンド社.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師及び看護管理者としての臨床経験をもとに、実践例を示しながら看護行政の基礎、看護の今後の展望について教授する。

【オフィスアワー】

月曜日～金曜日　9時～17時　　メールでの相談対応　　出張中など当日対応できない場合は翌日対応する。その旨を説明しておく。

【教員連絡先】

E-mail:takahashi.kei.0117@gmail.com

【備考】

・各回でわからない言葉については予め調べて授業にのぞむこと。
・授業は、講義とグループワークを組み込みながら進めていく。グループ活動を通して、自己の考えを表現すること、他者の意見を聴くこと、主体的に行動することなど、
チーム活動をする上での基本的な能力を学ぶ機会になることを期待している。
・看護専門職としての自覚と備えるべき姿勢、能力についても考える機会となることを期待している。

授業科目名	臨床判断演習	担当教員名	時田純子　川込あゆみ　西山久美江　他			
コード	22NAD408	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
◎	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

これまで修得した看護の知識と技術の統合を図り、臨床実践に近い形での演習を通して，卒業後の臨床現場での実践に備えることを目的とする。複数の患者の看護を行うにあたり，疾患や病態，看護の理解を踏まえ，看護ケアの優先順位の判断と対応，突発的な事象への対応，チームメンバーとの連携の必要性などを体験的に学修し，臨床判断能力を高める。また，臨床現場への適応を促進するために，診療に伴う看護技術を中心に演習を通して知識・技術の再確認を行う。具体的には、基礎看護学、リプロダクティブヘルス看護学、成人看護学、在宅看護学の4つの専門領域の知識・技術・態度を統合し、看護の対象に合わせて、科学的根拠に基づいた適切な看護援助を計画する。グループ毎に演習の到達目標を理解し、対象事例の背景を明確にし、指定された時間内で看護援助の課題に取り組む。事例に合わせて、患者や看護者、医師や家族役を担当し、協力して実施する。課題の実施後は、グループあるいはクラス全体で振り返り、実施できた点やより良い方法を挙げ、繰り返し実施する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1　看護援助を実施するにあたり、必要な学修課題を述べることができる。		○			
2　事例に基づいて対象の状況をアセスメントし、科学的根拠に基づいた必要な援助計画を立てることができる。		○	○	○	
3　2について、安全安楽に実施し、援助ニーズを満たすことに繋がったか評価することができる。		○	○	○	
4　実施した援助を適切に評価し、自己の課題を説明することができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【授業ガイダンス】 1)演習の進め方　2)課題の提示　3)レポート提出方法 各領域看護技術演習(課題解決型学習)①リプロダクティブヘルス看護学	時田	予習(30分):提示された課題を理解し、演習のための予習をする。 復習(60分):講義の振り返りを行い、課題達成に向けて学習する。
2	各領域看護技術演習(課題解決型学習)②リプロダクティブヘルス看護学 事例の背景を明確にし、看護援助を計画立案し、実践する。	時田	予習(120分):提示された課題を理解し、演習のための予習をする。 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向けて学習する。
3	各領域看護技術演習(課題解決型学習)③基礎看護学 事例の背景を明確にし、看護援助を計画立案し、実践する。	基礎看護学 (未定)	予習(120分):提示された課題を理解し、演習のための予習をする。 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向けて学習する。
4	各領域看護技術演習(課題解決型学習)④基礎看護学 事例の背景を明確にし、看護援助を計画立案し、実践する。	基礎看護学 (未定)	予習(120分):提示された課題を理解し、演習のための予習をする。 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向けて学習する。
5	各領域看護技術演習(課題解決型学習)⑤地域・在宅看護学 事例の背景を明確にし、看護援助を計画立案し、実践する。	川込	予習(120分):提示された課題を理解し、演習のための予習をする。 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向けて学習する。
6	各領域看護技術演習(課題解決型学習)⑥地域・在宅看護学 事例の背景を明確にし、看護援助を計画立案し、実践する。	川込	予習(120分):提示された課題を理解し、演習のための予習をする。 復習(60分)演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向けて学習する。
7	各領域看護技術演習(課題解決型学習)⑦地域・在宅看護学 事例の背景を明確にし、看護援助を計画立案し、実践する。	西山	予習(120分):提示された課題を理解し、演習のための予習をする。 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向けて学習する。
8	各領域看護技術演習(課題解決型学習)⑧地域・在宅看護学 事例の背景を明確にし、看護援助を計画立案し、実践する。 授業評価アンケート	西山	予習(120分):提示された課題を理解し、演習のための予習をする。 復習(60分):演習について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向けて学習する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	授業担当教員により、Google classroomを用いて授業資料の配信やformsを用いたリフレクションシートの配信などをする。必要時動画を活用する。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

講義や、ICTを活用したフィードバックを行う。

【成績の評価方法】

領域ごとの評価:100%(25点×4領域=100点)

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　有　)】

【履修申請上の条件】

統合実習の単位を取得見込みが望ましい

【教科書】

既習科目の全てのテキスト・授業等で配布された資料を活用すること

【参考書】

各領域より、適宜紹介する。

【オープンな教育リソース】

必要時、各専門領域の授業担当者より提示する。

【担当教員の実務経験】

看護師あるいは保健師もしくは助産師の資格を有し、臨床経験や看護教育経験がある。

【オフィスアワー】

時田:月～金　12:10～13:00　　各担当教員のオフィスアワーは、別途説明する。

【教員連絡先】

研究室
時田:3号館4階　3422-2号室　jtokita@g.t-junshin.ac.jp　　各担当教員のオフィスアワーは、別途説明する。

【備考】

科学的な根拠に基づく援助を確実に実施することを期待する。基礎看護技術の修練を自ら行い、自己評価・他者評価を学生や教員から適宜受ける、など自分で積極的に学修をすすめること。
自ら求めることで修得する内容も深まる。

授業科目名	看護キャリア論	担当教員名	上谷いつ子			
コード	22NAD409	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年生／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

看護専門職としてキャリアをどのように積み重ねていくのか，自己実現していく存在として，学生時代から職業人としての考え方，生き方について考える機会をもつことは重要である。この科目は，キャリア，キャリア発達，キャリア形成，キャリア・アンカー，看護のキャリア開発等の概念について学修する。また，看護を学ぶ学生として，自分は何が得意で，何をやりたいのか，どのような価値観のもと社会に貢献していきたいのか等，キャリアをどのように歩むべきかという問いに向き合うことをとおして，自身のキャリア・デザインを描くことの大切さを体験的に学ぶ。さらに，これまでの学びの過程を振り返り，看護専門職として生涯学習の意義とキャリア開発について考察する。□

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 キャリアに関する主要な概念について説明できる				○	○
2 キャリアに関する代表的な理論について具体例を示しながら説明できる				○	○
3 “自身のキャリア・アンカー”の演習を通して、働く自分自身の価値観を言語化できる				○	○
4 自身のキャリア・デザインを描く体験を通して、自分にとって働く意味について再考し言語化できる				○	○
5 看護専門職として生涯学習の意義とキャリア開発の展望について考察できる				○	○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス キャリアとキャリア形成 1. 職業としてのの看護 2. キャリアとは 3. キャリア形成の必要性	上谷	予習(30分) ①授業内容についてシラバスを確認しておく。 ②将来どのような職場で働きたいか具体的にイメージして整理しておく。 復習(90分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②授業中のワークシートを整理し、次回提出する。 課題、資料などをGoogle Classroomより配信するので、各自確認し取り組む。
2	キャリアに関する理論の理解 1. キャリア発達論と生涯発達 2. スーパーのキャリアステージ論 3. J.D.クランボルツの計画的偶発理論 4. ホランドの職業選択理論	上谷	予習(90分) ①エリクソンの発達論を復習しておく。 ②看護職のキャリアに関する文献をリサーチして持参する 復習(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。
3	キャリア・アンカーを考える 1. 組織におけるキャリアの段階 2. エドガー H.シャインのキャリア・アンカーとは：概念と種類 3. キャリア・アンカーと3つの問い ワークシートを用いて個人ワーク・ペアワーク	上谷	予習(60分) ①3つの問い(ワークシート)の課題に取り組む。 復習(100分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②課題(ワークシート)に取り組み、キャリア・デザインを考えるきっかけ作りとする。
4	看護職のキャリア発達とキャリア開発 1. 看護職のキャリア開発の考え方 2. 看護職の技能修得レベル　ベナー 3. 臨床実践能力の向上と新人看護職員研修 4. キャリアラダーと看護職キャリア開発プログラム(CDP)	上谷	予習(60分) ①日本看護協会のHP(https://www.nurse.or.jp/)にアクセスし、「生涯学習支援」の看護師のクリニカルラダー、特定行為研修、認定看護師教育、NP等について調べまとめる。 ②日本看護協会のHP(https://www.nurse.or.jp/)にアクセスし、「生涯学習支援」の継続教育の基準とその活用について調べまとめておく。 ③厚生労働省「新人看護職員研修ガイドライン」を検索する。 復習(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②新人の特徴を知り、第一歩を踏み出すためのイメージを膨らませ、その内容を記述する。
5	キャリア・デザインを描く 1. キャリア・デザインとは 2. キャリア・デザインを描く ワークとプレゼンテーション ワーク 「キャリア・デザインを描いてみよう！～私のキャリア・デザイン～」	上谷	予習(60分) ①課題ワークシート「私のキャリ・デザイン」に取り組み、将来像(夢)、自分の強み・弱み、なりたい自分などを整理する。 復習(90分)： ①ワークを終えての気づきを整理する。 ②ワークシート「私のキャリア・デザイン」を整理し、次回提出する。
6	経験学習と自己成長～看護専門職としての成長　(1) 1. 看護師の学習の特徴と経験学習 経験学習サイクルと暗黙知・形式知 2. 演習 「My Theory　～可視化しよう！私の看護」 ワークシートを用いて自身の実習体験を整理し、看護の経験知を表現する。 個人ワーク・ペアワークによる学び・気づきを言語化する。	上谷	予習(30分)： ①自分の実習体験を振返り、「一番忘れられない患者との場面」を想起しておく。 復習(60分)： ①所定のワークシートにもとづいて整理する。 ②グループワークでの気づき・学びを整理する。 【レポート課題】(120分) テーマ：自己の実習体験の意味づけ「私が大切にしている看護とは」 提出様式、〆切については、授業時提示する(Google Classroom)

7	経験と自己成長　～看護専門職としての成長(2) 1. ライフラインチャートの活用とキャリア 2. 専門職社会化への支援:組織社会化と職業的社会化 3. 社会人基礎力とキャリア	上谷	予習(60分) ①経済産業省のホームページにアクセスし、「社会人基礎力」について検索して整理する。 復習(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②社会人基礎力を高めるためにどのように取り組んでいくか、自身の考えを整理する。
8	キャリアの創造 1. 自己のキャリア形成についての主体的考察 2. 看護専門職者としてのキャリア開発の課題と今後の展望	上谷	予習(60分) ①自身のキャリア形成における課題の明確化と目標設定について整理する。 復習(60分) ①看護師としてどのようにキャリを積んでいきたいか所定の用紙に整理する。 レポート課題(200分) 「看護専門職としてのキャリア開発の課題と展望」 ＊　レポート様式、提出締切日などは授業中に提示する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは、授業内で行う。
毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Crass Roomで個別もしくは全体にフィードバックする。

【成績の評価方法】

レポート課題(50%)、授業中の演習課題取組み(ワークシート)(30%)、グループワーク(10%)、リフレクションシート(10%)により、総合的に評価する。
目標1～4:演習で用いるワークシート、ワークの参加状況、リフレクションシート等で評価する。
目標5　:レポート課題で評価(ルーブリック)する。

【レポート評価基準(ルーブリック評価)】
・評価項目:①課題の理解と適切なテーマの設定、②内容の一貫性・論理性・考察の深まり、③適切な文献の引用・表記、④文章の体裁・適切な表現、などの項目について評価する。
・提出期日の厳守する。
・剽窃行為は禁止。評価対象外とする。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　有　）】

【履修申請上の条件】

遠くになし

【教科書】

特に指定しない。講義時に資料を配布する。

【参考書】

適宜紹介する。
エドガーH.シャイン著、金井嘉宏訳:キャリア・アンカー, 自分のほんとうの価値を発見しよう, 白桃書房, 2012.
パトリシア・ベナー著, 井部俊子監訳:ベナーの看護論新訳版, 初心者から達人へ, 医学書院, 2012.
勝原裕美子:看護師のキャリア論, ライフサポート社, 2012.
岩上真珠他編集:大学生のためのキャリアデザイン入門, 有斐閣, 2014.
陣田泰子:看護現場学の方法と成果―いのちの学びのマネジメント, 医学書院, 2009.
金井嘉宏:働く人のためのキャリア・デザイン. PHP研究所, 2012.

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師としての臨床経験のある教員が担当する。臨床現場の患者指導、看護師の現任教育の具体例を示しながら、実践的な視点で教授する。

【オフィスアワー】

月・火・木　12-13時、16-18時　　Gmailでの問合せ可能

【教員連絡先】

iuetani@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

自分の人生におけるキャリアについて考えを整理する機会をもつことはとても重要です。自身の看護体験からの気づきや他者の語りを聞く体験を通して、自身のキャリアについて考える機会にしたいと考えています。
看護専門職として語り合う奥深さを体験するために主体的な参加を期待しています。

授業科目名	看護叡智探究論Ⅰ(基礎)	担当教員名	福永ひとみ・川原　尚子			
コード	22NAD410	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	1年次／通年	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	① 人間としての尊厳を擁護する力 と 人間関係形成力 キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築く能力
◎	② 臨床判断能力 と 科学的看護実践力 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力
	③ 対象のニーズに基づく看護実践力 多様な社会に生きる対象者が自分らしく生活できるよう看護を実践する能力
	④ 看護専門職として自律する力 と 多職種連携・協働力 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力
	⑤ 課題発見解決力 と 看護創造力 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力

【授業の概要】

本科目は、的確な看護実践能力の基礎となる科学的根拠を導く知識、思考、理解力、判断力を育成することを目的に、学修進度(段階)に応じて段階的にその能力を習得できるように全学年に配置された領域横断型科目である。看護叡智探究論Ⅰは、1年次に開講し、既習科目の形態機能学Ⅰ、Ⅱ、看護学概論および基本援助技術の知識をもとに人間の生活機能の特徴と生活行動を理解し、看護学の礎となる理論や看護技術，態度を統合し探究的に学修する。具体的には、人間の生命維持のための生活行動の特徴を理解し、健康状態に応じた援助の基本を安全と安楽の視点から科学的根拠に基づき探究する。科学的根拠に基づき探究するためには読解力が必要であるため、本・新聞記事などを正確に読み、その内容を簡潔に文章で伝えること、また、その内容に対しての自分の考えを論理的に表現できる能力を身につける。具体的には、指定された課題に取り組み、小論文を完成させる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護師国家試験に向けた学修方法を説明できる。		○			
2 自主的に課題に取り組み，小論文の書き方を述べることができる。	○	○			
3 小論文を完成させることで，今後の自己の課題を述べることができる。	○	○			
4 看護師国家試験問題に取り組み、必修・一般問題の合格水準を満たすことができる。		○			

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	科目のオリエンテーション(試験問題、本学の支援体制など) 「看護師国家試験に必要な読解力」の必要性。 卒業生による国家試験対策について伝授　(卒業生3名)	福永	予習(60分):シラバスを熟読する。国家試験について調べる。 復習(60分):授業終了後の振り返りをまとめる。
2	400字の作文を2段構成で書く。 新聞のコラムを読み、筆者の考えと自分の考えを書き分ける。	川原 福永	予習(45分):作文の書き方について調べる。 復習(120分):授業で取り上げたコラムを読み、自分の思ったこと、 今後考えていきたいことをまとめる。
3	600字の小論文を3段構成で書く。 序論、本論、結論の3段構成の書き方を学ぶ。 文章を読み、自分の考えを明らかにして書く。	川原 福永	予習(45分):文章の3段構成について、前の授業で配布されたプリントを読み理解する。 復習(120分):返却された作文の添削を読み、誤字、不適切な表現を確認する。
4	800字の小論文を4段構成で書く。 起承転結の4段構成の書き方を学ぶ。 自分の考えとは反対の考えを取り上げ、なぜ反対なのかを書く。	川原 福永	予習(45分):文章の4段構成について、前の授業配布されたプリントを読み、理解する。 復習(130分):返却された小論文の添削を読み、誤字、段落の区切り方を理解する。
5	800字の小論文を4段構成で書く。 自分の考えの根拠を、明確にして述べる。 引用、参考文献の書き方を学ぶ。	川原 福永	予習(45分):文章の4段構成を確認する。 復習(130分):引用、参考文献の書き方を確認する。
6	1000字の小論文を4、5段階で書く。 文章とデータを読み取り、分析し、傾向をまとめ、自分の考えを書く。	川原 福永	予習(50分):返却された小論文を読み、確認する。 復習(130分):取り上げたデータを読み取り、さらに分析したことについてまとめる。
7	1200字の小論文を書く。 自分で問題を提起し、今後の対策を根拠を挙げて述べる。	川原 福永	予習(50分):配布された記事を読み、取り上げる問題について考える。 復習(150分):取り組んだ課題に対して、今後考えたいことを整理する。
8	国家試験に向けての読解力について **小テスト** 授業のまとめ	川原 福永	予習(90分):課題:1回～7回までの授業を振り返りをまとめる。 復習(80分):取り組んだ課題に対して、今後考えたいことを整理する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	特になし
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

看護師国家試験問題にチャレンジし、振り返る。
基本的に毎回の課題に取り組み，小論文を書く。授業内で小論文のフィードバックをし読解力の確認を行う。毎回の課題である小論文提出後は，担当教員がフィードバックする。

【成績の評価方法】

課題:80%　小テスト:20%　　合計:100%
　課題: 授業計画に明示している課題について、求められていることや書き方を理解し、自分の考えを論述できることを評価基準とする。

【生成AI利活用 (　　無　　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　　有　　) 】

【履修申請上の条件】

特になし。1年次科目であるため，1年生のみ履修できる。

【教科書】

担当教員が資料を準備する。

【参考書】

1. 世界思想社編集部：大学生　学びのハンドブック[5訂版]，世界思想社，2021.
2. 坂井浩美・山崎啓子著：看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK，日本看護協会出版，2021.
3. 佐藤智明、矢島　彰、山本明志編：3訂　大学　学びのことはじめ　初年次セミナーワークブック、 ナカニシヤ出版、2020.

【オープンな教育リソース】

公益社団法人日本看護協会ホームページ
https://www.nurse.or.jp/episode/

【担当教員の実務経験】

看護師としての実務経験および看護大学の教員経験のある者，国語の知識のある者を中心に，看護叡智探究論Ⅰ（基礎）を教授する。

【オフィスアワー】

火12:10～13:00

【教員連絡先】

hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

この科目は，看護師国家試験の合格を目指すための、スタートラインになります。毎回の課題に取り組むことで，読解力を身につけられますので，積極的な参加が必要です。
進度は，隔週で授業を進めます。

授業科目名	看護叡智探究論Ⅱ(看護の基礎)	担当教員名	高山由利江			
コード	22NAD411	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	2年次／通年	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
○	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目は、的確な看護実践能力の基盤となる科学的根拠を導く知識、思考、理解力、判断力を育成することを目的に、学修進度に応じて段階的にその能力を修得できるように全学年に配置された領域横断型科目である。看護叡智探究論Ⅱは、2年次の通年で開講し、既習科目の薬理学、疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、看護展開論、フィジカルアセスメントの知識をもとに、看護叡智探究論Ⅰを発展させ探究的に学修する。具体的には、看護の対象の健康を脅かす病態と検査・診断・治療による日常生活への影響をアセスメントし、健康課題に対する的確な看護の基本を科学的根拠に基づき探究する。2年次に、あらためて既習科目を再学修することにより、看護に繋がる専門基礎科目を学修する意味を理解し、知識を統合して健康問題を解決する能力を培う。学修方法は、事前学修、応用問題、グループ学修、振り返り学修に取り組み、専門基礎知識の想起や状況設定問題に取り組み、自己の課題を明確にして、3年次の看護叡智探究論Ⅲへと繋げる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	既習科目の知識を想起することができる。		○			
2	事前学修に取り組むことができる。				○	
3	応用問題を解くことができる。			○		
4	振り返り学修に取り組むことができる。				○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【ガイダンス】目標・授業展開・評価 薬理学:主な薬物の作用と副作用、薬物の管理…学修内容の確認、結果の分析(課題解決型学修、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション) 小テスト	高山	予習(80分):提示された課題について取り組む 復習(80分):講義内容を整理する
2	疾病治療論Ⅰ:疾病診断・治療、感覚器系・耳鼻咽頭系の疾患と診断・治療、眼科系の疾患と診断・治療、皮膚科系の疾患と診断・治療、呼吸器系の疾患と診断・治療…学修内容の確認ト、結果の分析(課題解決型学修、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション) 小テスト	高山	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(80分):講義内容を整理する
3	疾病治療論Ⅱ::疾病診断・治療、上下部消化管の疾患の病態と診断・内外科的治療、肝臓・胆・膵臓の疾患の病態と診断・内外科的治療、腹壁・腹膜・横隔膜の病態と診断・外科的治療…学修内容の確認、結果の分析(課題解決型学修、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション) 小テスト	高山	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(80分):講義内容を整理する
4	疾病治療論Ⅲ:運動機能、血液機能、免疫機能…学修内容の確認、結果の分析(課題解決型学修、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション) 小テスト	高山	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(80分):講義内容を整理する
5	疾病治療論Ⅳ:中枢神経系の病態と診断・治療、末梢神経系の病態と診断・治療、筋肉・神経筋接合部の疾患の病態と診断・治療、脳の仕組みと精神機能、精神の構造・心理学的側面、精神疾患の病態と診断・治療…学修内容の確認、結果の分析(課題解決型学修、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション) 小テスト	高山	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(80分):講義内容を整理する
6	看護展開論:情報の種類・収集方法、情報の分析・統合 、看護問題の明確化と優先順位決定 、看護目標の設定と計画 、実施、評価 …学修内容の確認、結果の分析(課題解決型学修、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション) 小テスト	高山	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(80分):講義内容を整理する
7	フィジカルアセスメント:看護におけるフィジカルアセスメントの意義、医療面接、身体診察、系統別のフィジカルアセスメント…学修内容の確認、結果の分析(課題解決型学修、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション 小テスト	高山	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(80分):講義内容を整理する
8	学修内容の統合(課題解決型学修、反転授業、グループワーク、プレゼンテーション)、解説 小テスト	高山	予習(90分):提示された課題について取り組む 復習(80分):講義内容を整理する

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	・必要時、動画の活用をする。 ・授業資料は、Google classroomを用いて配信することがある。
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・フィードバックは、授業内及び、次回授業時に行う。

【成績の評価方法】

小テスト(毎授業で実施、計8回):80%
プレゼンテーション20%　プレゼンテーションの評価は、ルーブリック評価)とする。評価内容・方法は、第1回目授業内で説明する。)
合計:100%

【生成AI利活用 (　 無　)】

【 ルーブリック評価の活用 (　 有　) 】

【履修申請上の条件】

・特になし

【教科書】

・既習科目の該当するテキスト・授業等で配布された資料を活用すること

【参考書】

・適宜紹介する。

【オープンな教育リソース】

・必要時、提示する。

【担当教員の実務経験】

・看護師の資格を有し、看護師臨床経験がある。看護基礎教育は、基礎看護学領域を専任とした大学教育経験がある。

【オフィスアワー】

事前にアポイントメントをとると、スムーズに対応できます。
・ メール受付時間　　:平日　9:00～18:00
・ メールタイトル(件名)　:①科目名「看護叡智探究論Ⅱ(看護の基礎)」 ②学籍番号　③氏名を記載する。
・ 宛名とメール内容　　:④宛名を記載し、⑤簡潔・明瞭に用件を記載する。
※課題の提出確認は、原則自己管理とする

【教員連絡先】

・髙山:ytakayama@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

・特になし

授業科目名	看護叡智探究論Ⅲ(看護の専門)	担当教員名	西山久美江　塚本都子　川込あゆみ　尾山木綿子　時田純子　福永ひとみ			
コード	22NAD412	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	3年次／通年	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
◎	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
○	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

本科目は、的確な看護実践能力の基盤となる科学的根拠を導く知識、思考、理解力、判断力を育成することを目的に、学修進度(段階)に応じて段階的にその能力を習得できるように全学年に配置された領域横断型科目である。看護叡智探究論Ⅲは、3年次前期に開講し、看護専門領域の知識をもとに、看護叡智探究論Ⅰ Ⅱを有機的に発展させ探究的に学修する。具体的には、専門領域の地域・在宅看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学で習得した知識を系統的に活用し対象を統合的にとらえ、健康課題の優先度に応じた看護実践の方法を科学的根拠に基づき探究する。3年次に、あらためて既習科目を再学修することにより、看護に繋がる専門基礎科目を学修する意味を理解し、知識を統合して健康問題を解決する能力を培う。学修方法は、事前学修、講義、応用問題、振り返り学修を行い、国家試験問題を参考にし、専門基礎知識の想起や状況設定問題に取り組み、自己の課題を明確にして、4年次の看護叡智探究論Ⅳへと繋げる。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 既習科目の知識を想起することができる。		○			
2 事前学修に取り組むことができる。		○			
3 応用問題を解くことができる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【ガイダンス】本科目の学修目標・授業展開・評価について 成人急性期看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	西山	予習(20分):成人慢性期看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
2	成人急性期看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	西山	予習(20分):成人慢性期看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
3	成人慢性期看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	西山	予習(20分):成人急性期看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
4	成人慢性期看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	西山	予習(20分):成人急性期看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
5	小児看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	尾山	予習(20分):小児看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
6	小児看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	尾山	予習(20分):小児看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
7	地域・在宅看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	川込	予習(20分):在宅看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
8	地域・在宅看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	川込	予習(20分):在宅看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
9	母性看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	時田	予習(20分):母性看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
10	母性看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	時田	予習(20分):母性看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
11	精神看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	福永	予習(20分):精神看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
12	精神看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	福永	予習(20分):精神看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。

13	老年看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	塚本	予習(20分):老年看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
14	老年看護学に関する既習内容の確認、看護師国家試験過去問題に取り組み、結果を分析する。解答の解説。	塚本	予習(20分):老年看護学の提示された課題について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
15	【学修内容の統合】自己の課題の明確化。解説および講評。	西山	予習(20分):提示された課題(自己の課題の明確化)について取り組む。 復習(25分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)	○	必要時、動画を活用する。 授業資料はGoogle classroomを用いて配信することがある。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・課題レポートやリアクションペーパーへのフィードバックは、授業内及び、次回授業時に行う。

【成績の評価方法】

各専門領域の学修内容:70%(成人慢性期、成人急性期、老年、地域・在宅、小児、母性、精神)
学修内容の統合:30%
合計:100%

【生成AI利活用(　無　)】

【 ルーブリック評価の活用(　無　)】

【履修申請上の条件】

進級要件(必修科目の未修得科目は2科目まで)を満たしている。

【教科書】

既習科目の全てのテキスト・授業等で配布された資料を活用すること

【参考書】

講義プリントを配布する。

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

看護師や保健師の資格を有し、看護師の臨床経験がある。

【オフィスアワー】

平日の昼休み時間。事前にメール等で連絡してから訪問すること。

【教員連絡先】

西山久美江:knishiyama@g.t-junshin.ac.jp
塚本都子　:mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp
地域・在宅看護学教授
小児看護学教授
間中伴子　:tmanaka@g.t-junshin.ac.jp
福永ひとみ:hfukunaga@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

国家試験対策の学修支援の一環として、科学的な根拠に基づく問題解決能力を獲得することを期待する。自ら学修し、自己評価し、積極的に学修を進めること。

授業科目名	看護叡智探究論Ⅳ(看護の統合)	担当教員名	安藤　幸枝　ほか			
コード	22NAD413	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／通年	単位／時間数／形態	2単位／60時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
○	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】
本科目は，的確な看護実践能力の基盤となる科学的根拠を導く知識，思考，理解力，判断力を育成することを目的に，学修進度(段階)に応じて段階的にその能力を習得できるように全学年に配置された領域横断型科目である。看護叡智探究論Ⅳは，4年次通年で開講し，専門基礎分野，看護の実践および看護の発展の科目において修得した知識をもとに，看護叡智探究論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを有機的に発展させ探究的に学修する。具体的には，医療チームの一員として看護の目的と看護の機能を理解し，これまでに修得した専門的知識を体系化し，看護の対象の多様かつ複合的状況下での顕在的・潜在的な健康課題を的確にとらえ，臨床判断力に基づく看護実践の方法を探究する。具体的には、基礎看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域、成人看護看護学領域、老年看護学領域、精神看護学領域、地域・在宅看護学領域が担当する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】		ディプロマ・ポリシー				
		①	②	③	④	⑤
1	既習科目の知識を想起することができる。					○
2	事前学修に取り組むことができる。	○	○			
3	応用問題を解くことができる。		○			○
4	自ら振り返り学修へ取り組むことができる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	【授業ガイダンス】:安藤 ・授業の概要、到達目標、授業計画、成績の評価方法、学修の進め方	安藤	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
2	【授業ガイダンス】:安藤 課題の取り組み・事例を読み根拠に基づく探索と臨床判断	安藤	
3	基礎看護学に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	安藤他	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
4	基礎看護学に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	安藤他	
5	母性に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	時田	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
6	母性に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	時田	
7	母性に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	時田	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
8	母性に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	時田	
9	小児関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	尾山	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
10	小児関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	尾山	

11	小児関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	尾山	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
12	小児関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	尾山	
13	成人に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	宗定	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
14	成人に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	宗定	
15	成人に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	西山	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
16	成人に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	西山	
17	老年に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	塚本	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
18	老年に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	塚本	
19	老年に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	塚本	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
20	老年に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	塚本	
21	精神に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	福永	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
22	精神に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	福永	
23	精神に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	福永	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
24	精神に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	福永	
25	地域・在宅に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	川込	予習(45分):提示された課題について取り組む。 復習(45分):講義内容を整理し振り返り学修を行う。
26	地域・在宅に関する事例の取り組み (PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション) ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	川込	

27	地域・在宅に関する事例の取り組み （PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション） ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	川込	予習（45分）:提示された課題について取り組む。 復習（45分）：講義内容を整理し振り返り学修を行う。
28	地域・在宅に関する事例の取り組み （PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション） ・事例の理解 ・根拠に基づく探索と臨床判断	川込	
29	基礎看護学に関する事例の取り組み （PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション） ・学修成果の確認	安藤	予習（各45分）：提示された課題や事例を理解する 復習（各45分）：講義について振り返り、課題を明確にし、課題達成に向け学修する
30	基礎看護学に関する事例の取り組み （PBL 、反転授業 、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション） ・学修成果の確認	安藤	

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①：PBL（課題解決型学習）	○	・必要時、動画の活用をする。 ・授業担当教員により、Google classroomを用いて授業資料の配信やformsを用いたリフレクションシートの配信などをする。
②：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③：ディスカッション・ディベート	○	
④：グループワーク	○	
⑤：プレゼンテーション	○	
⑥：実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

・課題に対するフィードバックは、授業内で行う。

【成績の評価方法】

1．定期試験：領域毎の評価（20点×7領域）合計180点を100点換算とする。

2．合格点が6割に満たない場合には再試験を行う。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

・既習科目の全てのテキスト・授業等で配布された資料を活用すること

【参考書】

・各領域より、適宜紹介する。

【オープンな教育リソース】

・必要時、各専門領域の授業担当者より提示する。

【担当教員の実務経験】

・看護師あるいは保健師もしくは助産師の資格を有し、臨床経験や看護教育経験がある教員が教授する。

【オフィスアワー】

・安藤、研究室、平日12:10-13:00 。各担当教員のオフィスアワーは、別途説明する。

【教員連絡先】

・安藤:yando@g.t-junshin.ac.jp、各担当教員の連絡方法は、随時、説明する。

【備考】

特になし

授業科目名	看護研究の基礎	担当教員名	津田　泰伸　　塚本　都子			
コード	22NAD414	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次／通年	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

看護研究の目的・意義について理解し、看護研究を行うための研究方法と研究プロセスに関する基礎的な知識を修得する。具体的な研究論文に触れつつ、看護現象を解明、説明、予想するための量的・質的研究方法の中から代表的な各種研究方法を学び、特徴を理解し、研究の可能性および看護の創造性について考察する。研究に必要な文献検索の意義や方法を学び、実際に文献検索を行い研究課題に関する文献を系統的に収集し、正しく読みまとめる力を養う。また、研究を行うにあたり倫理的配慮についての理解を深める。
10月には4年生の看護研究発表会を聴講しそれまでの学修で得た知識を踏まえ、積極的に質問等行い研究プロセスを学び、看護研究の探求心を深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護研究の目的・意義・範疇について説明できる。		○			○
2 看護研究の分類・デザイン・研究プロセスについて説明できる。					○
3 主な研究方法(量的・質的)の特徴について説明できる。					○
4 研究計画書の構成要素ごとの必要な内容について説明できる。		○			○
5 研究における倫理原則に基づき倫理的配慮について説明できる。		○			○
6 文献検索の基本方法を理解し、文献収集ができる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	科目ガイダンス 看護研究の目的・意義	津田・塚本	予習(60分):テキスト目次・全体に目を通した上で、該当する箇所を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り
2	研究のプロセス 看護実践における研究課題の明確化、理論的枠組み	津田	予習(60分):テキスト該当する箇所を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り
3	研究のプロセス 看護研究における倫理的配慮、文献検索とクリティーク	津田	予習(60分):テキスト該当箇所を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り
4	文献検索および検討① 文献検索方法・図書館利用の仕方	塚本・津田	予習(60分):テキスト該当箇所を読んでおく 復習(60分):文献検索トライアル
5	量的研究① 量的アプローチの研究方法	津田	予習(60分):テキスト該当箇所を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り
6	量的研究② 量的データ分析方法	津田	予習(60分):テキスト該当箇所を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り
7	量的研究③ 量的研究のまとめ	津田	予習(60分):テキストの当該部分を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り
8	文献検索および検討② 文献検索方法・他の図書館利用の仕方 有料文献の入手、手続きについて	塚本・津田	予習(60分):テキスト該当箇所を読んでおく 復習(60分):講義で学修したことをノートにまとめる　文献検索トライアル 【量的研究・課題❶20%説明】興味関心のある原著論文を2本取り寄せ(有料可)、 文献カード2枚作成する (提出期限は、次回の授業開始時とする。詳細は、授業で提示)
9	質的研究① 質的アプローチの研究デザイン	津田	予習(60分):テキストのp121～133を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り 【量的研究・課題❶20%提出】文献2本と文献カード2枚をファイルに綴じ授業開始時に提出
10	質的研究② 質的アプローチの研究方法 発表会参加にむけて、関心のある領域グループ分け	津田	予習(60分):テキストのp160～166、178～181を読んでおく 復習(60分):講義およびノートの振り返り 【質的研究・課題❷20%説明】興味関心のある原著論文を2本取り寄せ(有料可)、 文献カード2枚作成する (提出期限は、次回の授業開始時とする。詳細は、授業で提示)
11	質的研究③ 質的データ分析方法、質的研究のまとめ	津田	予習(60分):テキストp190～199を熟読する 復習(60分):講義およびノートの振り返り 【質的研究・課題❷20%提出】文献2本と文献カード2枚をファイルに綴じ、次回の授業開始時に提出
12	論文のクリティーク 研究課題の明確化 研究計画書の形式と作成プロセス①	津田	予習(60分):テキスト該当箇所を読んでおく 復習(60分):研究課題の明確化をしノートにまとめる 【課題❸30%説明】　日本学術振興会e-learning 受講し合格証を提出する。 提出締切り●月●日、15回目講義開始の際 【課題レポート❹30%説明】発表会に参加し「自分の研究への参考部分、疑問等と今後の研究に向けての抱負について」 1200字　提出期限、詳細は別途知らせる

13 14	4年生の発表会に参加 (課題:発表参加が必須となる)	塚本	予習(60分):テキスト該当箇所を読んでおく 復習(60分):発表会参加し学んだことをノートにまとめておく 【課題レポート❹30%】作成する
15	研究計画書の形式と作成プロセス② 今までの復習	塚本	予習(60分):今までの振り返り 復習(120分):提出課題の見直し *時間外学修時間は、60時間必要であるため、不足分は休日等を活用して復習すること。 【課題❸30%、❹40%　提出】

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)	○	図書館を活用し、文献を調べる 4年生の看護研究発表会に参加
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

次回の講義でフィードバックする。

【成績の評価方法】

課題1(20%):各興味関心のある量的論文(原著)を2本取り寄せ(有料可)、作成した文献カード2枚の項目ごと正確性の観点から評価する。
課題2(20%):各興味関心のある質的論文(原著)を2本取り寄せ(有料可)、作成した文献カード2枚の項目ごと正確性の観点から評価する。
課題3(30%):日本学術振興会e-learning (学生版)受講し、合格証の提出により、評価する。(授業内で受講の仕方等教示)
課題レポート(30%):関心ある領域分野の発表会に参加し、「自分の研究への参考部分、疑問等と今後の研究に向けての抱負について。」1200字でまとめる。3つの観点と4段階評価のルーブリックで評価する。
合計:100%
提出期限後の提出は、減点対象とする。
【生成AI利活用 (　無　)】
【 ルーブリック評価の活用 (　有　) 】

【履修申請上の条件】

2年次、進級要件(必修科目の未修得科目は2科目まで)を満たしている。

【教科書】

統計看護学講座　別巻　看護研究　医学書院

【参考書】

・ナーシンググラフィカ　基礎看護学④看護研究　MCメディカ出版2023
・南裕子　看護における研究　日本看護協会出版会　2017
・黒田裕子　看護研究　Step　by　Step第6版　医学書院　2023

・早川和生　JJN　SPECIAL　看護研究の進め方論文の書き方　第2版　2014
・上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司　楽しくなる看護研究　メジカルフレンド社　2012
・横山美江編著　よくわかる看護研究の進め方・まとめ方　第3班　医歯薬出版　2017
・李節子　看護研究心得帳　医歯薬出版　2022
・筒井真優美編著　アクションリサーチ入門　照林社　2024
・石井京子・多尾清子:ナースのための質問紙調査とデータ分析　第2版　医学書院
・向後千春・冨永敦子　統計学がわかる　技術評論社
他　適宜紹介

【オープンな教育リソース】

日本学術振興会の「研究倫理e-ラーニングコース」
https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx

【担当教員の実務経験】

高齢者生活支援や救急看護における看護実践を踏まえた研究活動、研究指導に携わっている。

【オフィスアワー】

塚本は、火・木曜日の16:00～18:00

【教員連絡先】

津田泰伸　ytsuda@g.t-junshin.ac.jp　　塚本都子　mtsukamoto@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

科学的実証研究に基づいた看護実践をするために、看護学研究に関する基本的な知識を学ぶ。
科学的な文献を読むためには、基本的な統計学的知識が必須であるため、自己学習をしておくこと(アドバイスが必要な学生は担当教員まで相談のこと)。
看護研究ゼミナールや看護研究の実践のベースとなる科目であり、自らの興味・関心がもてる部分から学習を進めていくを期待する。

授業科目名	看護研究ゼミナール	担当教員名	宗定 水奈子			
コード	22NAD415	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	3年次から4年次／通年	単位／時間数／形態	3単位／90時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

4年間の学修の集大成として，これまでの文献学習や実習体験にもとづき，看護現象を客観的に捉え，問題を科学的に探求する看護研究の方法を学習するとともに，研究的思考能力を養う。また，看護に必要な看護学や関連諸科学の文献を批判的に読み，研究に活用する基礎的能力を修得する。さらに，学修過程において，他者にわかりやすくプレゼンテーションする能力，相互にディスカッションする能力を強化する。具体的には、3年次は看護研究の基礎の復習を行い、4年次からは各領域に分かれ、領域ごとの指導の下各自の課題を明確にし、研究テーマを抽出する。研究テーマの研究目的に沿って研究計画書を作成する。研究計画書作成のプロセスから、研究的思考、研究における倫理的配慮、研究の基本を修得する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護における研究課題とその意義を明確にし、文章化することができる。					○
2 文献検索を行い、研究課題に関係する適切な論文をクリティークし、文献検討としてまとめることができる。					○
3 研究を実施するために必要な倫理的配慮について説明できる。		○			
4 研究目的を達成するためにふさわしい方法を選択し、実現可能な計画を作成することができる。		○			
5 看護研究が人々の健康にもたらす貢献について考察し記述できる。					○
6 集大成として、看護研究計画書を発表会で発表できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	3年次は、興味関心から研究課題の焦点が絞れる段階 4年次は、4年間の集大成として、看護研究の講義で学んだ研究プロセスを、個々の課題にそって進め、研究計画書までの作成を行う。 【3年次】＊配当時間　2コマ　4時間 1回:ガイダンス　「看護研究ゼミナール」の説明　3，4年の進め方 2回:看護研究の基礎の復習　3年次の研究の進め方 【4年次】＊　配当時間　43コマ　86時間 3回:ガイダンス　領域配属の説明と今後の進め方 4～10回:研究課題の明確化　・文献検索、文献収集、グループディスカッション 11～15回:研究テーマの設定　・文献クリティーク、グループディスカッション 16～19回:研究計画書(案)立案 20～35回:研究計画書の作成と領域内研究計画書発表 35～40回:研究計画書の発表準備　・パワーポイント、抄録 41～42回:研究計画書発表会 43～45回:研究計画書の修正、まとめ	宗定 他	担当の教員から出された課題を次回ゼミまでに行い、進捗状況の報告後にフィードバックを受け、次の課題に取り組む。 予習・復習時間を含めた学修は、不足している分を休日等で活用し行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	4年次、看護研究計画書の発表を行う。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

ゼミ形式:課題をした上でゼミに参画し、フィードバックを受けながら研究を進めていく。

【成績の評価方法】

ゼミ担当教員が評価表に基づいて評価する。評価項目(研究テーマ、取り組み、研究計画書の作成、倫理的配慮、看護実践への展開、発表会)100点満点で評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

看護研究の基礎の履修が望ましい

【教科書】

特になし

【参考書】

・黒田裕子　看護研究　Step　by　Step　第6版　医学書院　2023
・坂下玲子　統計看護学講座　別巻　看護研究　医学書院　2023
・南裕子　　看護における研究　日本看護協会出版会　2017
・D.F.ポーリット／C.T.ベック著，近藤潤子監訳　看護研究　原理と方法(第2版)2010　医学書院
・早川和生　JJN SPECIAL 看護研究の進め方論文の書き方　第2版　2014
・横山美江編著　よくわかる看護研究・まとめ方　第3版　医歯薬出版　2017
・筒井真優美編著　アクションリサーチ入門　照林社　2024
・ナーシンググラフィカ　基礎看護学④看護研究　MCメディカ出版2023
他　適宜紹介

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】 研究に精通したゼミ教員が指導にあたる。
【オフィスアワー】 演習日
【教員連絡先】 担当教員の研究室及びGmailアドレス確認のこと
【備考】 特になし

授業科目名	看護研究の実践	担当教員名	塚本 都子			
コード	22NAD416	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／通年	単位／時間数／形態	2単位／60時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

4年間の学修の集大成として、看護研究ゼミナールでおこっている看護研究計画書の実施までを行う科目である。看護研究の実践は、看護学の発展のために継続的に学び、看護の創造する能力を身につけるための科目であり、2年次の看護研究の基礎や看護研究ゼミナールをとおして自己の研究疑問から研究テーマと目的を明確にしたうえで、看護研究ゼミナールで作成した研究計画書に基づき、研究の実施、論文の作成・発表を通じて、研究の一連のプロセスを経験する。具体的には看護研究ゼミナールと同じく指導教員のスーパーバイズの下、実施する研究においては倫理審査会の承認を得、研究を実施、データ収集と分析を行う。結果に基づき考察を行い、看護研究論文としてまとめる。また、研究の概要をわかりやすく看護研究ゼミナールと同じく発表を行う。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 倫理的配慮を行いつつ、研究計画書に基づき、厳正な方法論に則ったデータ収集ができる。		○			○
2 データの分析方法に則り、データ分析が実施できる。		○			○
3 結果に基づき考察を行い、卒業論文としてまとめることができる。		○			○
4 研究の概要をわかりやすく発表することができる。					○
5 看護研究が人々の健康にもたらす貢献について考察し記述できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	この科目の学習課題は、研究計画書に基づき、データ収集、分析、結果、考察を行い、論文としてまとめ、学内で発表することである。 看護研究ゼミナールで作成した研究計画書に基づき、実際にデータ収集、分析、結果、考察を行い、看護研究論文としてまとめ、発表までを行うことにより、研究の一連のプロセスを理解する。 看護研究ゼミナールと同様、助手を除く全教員のうち、学生の研究テーマに応じ、専門分野を活かして1名の教員が学生3～4名程度を担当する。助教は、専門分野の教授もしくは准教授の助言を受けつつ学生指導を行う。 ・研究計画書の再検討(修正) ・看護学部研究倫理審査会における審議・承認 ・研究計画に基づく実施 ・データ収集、集計 ・データ分析、結果、考察 ・論文作成 ・研究発表会	専任教員	・担当の教員から出された課題を次回までに行い、提示する。 ・自律的な学修活動の進捗状況についても適宜報告をする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

ゼミ形式:課題をした上でゼミに参画し、フィードバックを受けながら研究を進めていく。

【成績の評価方法】

担当教員が評価表に基づいて評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

看護研究の基礎、看護研究ゼミナールの履修が望ましい

【教科書】

特になし

【参考書】

・南裕子　看護における研究　日本看護協会出版会　2017
・黒田裕子　看護研究　Step　by　Step第6版　医学書院　2023
・坂下玲子　統計看護学講座　別巻　看護研究　医学書院　2023
・早川和生　JJN　SPECIAL　看護研究の進め方論文の書き方　第2版　2014
・上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司　楽しくなる看護研究　メジカルフレンド社　2012
・横山美江編著　よくわかる看護研究の進め方・まとめ方　第3班　医歯薬出版　2017
・李節子　看護研究心得帳　医歯薬出版　2022
・筒井真優美編著　アクションリサーチ入門　ライフサポート社
・石井京子・多尾清子:ナースのための質問紙調査とデータ分析　第2版　医学書院
・向後千春・冨永敦子　統計学がわかる　技術評論社
・ナーシンググラフィカ　基礎看護学④看護研究　MCメディカ出版2023
他　適宜紹介

【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 研究に精通した教員が指導にあたる。
【オフィスアワー】 演習日
【教員連絡先】 担当教員の研究室及びgmailアドレス
【備考】 特になし

授業科目名	看護教育論	担当教員名	上谷いつ子			
コード	19NAD409	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

わが国における看護教育制度および看護継続教育の変遷と現状、及び法的基盤について理解する。また、諸外国の看護教育制度との比較から、現在の日本における看護教育制度の特徴と課題についてディスカッションを通して理解を深め、社会から求められている看護学教育について考察する。看護学教育や継続教育に応用できる学習理論・学習方法について体験的に理解を深めるとともに、基礎教育課程での学びを踏まえ、自身の看護実践能力を高めていくために必要な自己研鑽力について検討する。さらに、これまで受けてきた講義や演習、実習での体験を振り返り、教育や指導についての自身の考えを再認識し、看護専門職として看護教育学を学ぶ意義、キャリア開発と今後の展望について考察する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護教育学を学ぶ意義について説明できる					○
2 日本における看護教育制度の特徴と課題について説明できる。					○
3 看護継続教育の現状と課題について説明できる					○
4 学習の基礎理論を踏まえ、自身の学習経験を振返り教育・指導に対する考えを表現できる					○
5 看護専門職として生涯学習の意義とキャリア開発の展望について考察できる。				○	○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	コースガイダンス 看護教育学を学ぶ意義 1. いま・これからの看護師に求められること 2. 看護教育学とは 3. 生涯学習社会を生きる～生涯にわたって学習する意味は何か 4.「学ぶこと」から「教えること」への変化　～教える準備にとりかかる！ リフレクション 「指導者・教員との出会い」	上谷	予習(60分) ①授業内容に関して、参考図書・文献等を参照し整理しておく。 ②将来どのような場面で教えることになるのか具体的にイメージして整理しておく。 復習(60分) ①授業内容を振り返り、整理する。 ②看護専門職として生涯学習が重要な理由、学び続けることの意味について、自分の考えを整理する。 ③授業中のワークシートを整理する。 ＊**毎回の講義終了後は、Google Formでリフレクションシートの記入、随時課題配信・課題は授業時持参のこと**
2	看護教育制度① 1. 日本の看護教育制度の変遷 ・初期・戦時中・戦後～近代・近代～現代 2. 看護基礎教育の現状と課題 ・看護基礎教育カリキュラムの改正と教育内容の変化 ・多様な看護教育機関 ・准看護師制度 ・経済連携協定EPAを介した外国人看護師の受入れ	上谷	予習(60分) ①日本の看護教育制度の変遷と課題について調べ、整理する。 ②日本看護協会のHPにアクセスし、「准看護師制度の課題解決に向けた取り組み」について整理する。 (https://www.nurse.or.jp/nursing/kango_seido/) (https://www.nurse.or.jp/aim/jyunkan/index.html) 復習(60分) ①授業内容やグループワークを振り返り、内容を整理する。 ③准看護師制度について授業で考えたことをもとに、文献等を調べ自分の意見をまとめる。
3	看護教育制度②　グループワーク・発表 諸外国の看護教育制度の比較検討 日本の看護教育制度の課題と今後の展望	上谷	予習(90分) ①配布した資料を参考に複数の諸外国の看護教育制度の特徴について整理する(ワークシート)。 ②日本の看護教育制度と比較し、相違点を整理する。 ③「諸外国と比較した場合、日本の看護教育制度の課題」と「諸外国で働く際の資格取得」について、 **生成AI**で調べる。その際提示された文献(信頼性の高い文献)を読み、整理し、 グループワークに臨む。 復習(90分) ①ワークシートにグループワークの内容を整理する。 ②日本における看護教育制度の課題から今後の展望(望ましい姿)についてレポートする。
4	看護継続教育 1. 看護専門職への道 ・専門職の要件と法的整備 2. 看護継続教育の定義と範囲 3. 臨床における継続教育の実際　～新人看護師の成長への支援を中心に ・OJTで新人看護師の成長を支援する	上谷	予習(90分): ①日本看護協会の公式HP(https://www.nurse.or.jp/)にアクセスし、「生涯学習支援　⇒看護師のクリニカルラダー、新人看護職研修、継続教育の基準Ver.2、特定行為研修、認定看護師教育等」について調べ整理しておく。 ②事前配布の事例「新人看護師と先輩との関わり」を読み、何が課題か、またどのように関わるとよいかを検討する。 復習(90分): ①授業内容を振り返り、新人時代をどのように乗り越え成長していくかについて自身の考えを整理する。 ②新人指導のあり方について、自分の考えを整理する。
5	看護師の学習にいかす基礎理論 1. 学習理論の変遷 2. 学習の原理の活用 ・学習目標の設定:目標の分類体系　Taxonomy　ワーク「目標の分類」 ・学習方法と選択のポイント ・教育評価の目的と方法	上谷	予習(60分): ①参考図書や文献等の中から、授業内容について調べ、まとめておく。 復習(60分): ①授業内容を振り返り、学習の原理、学習目標の設定、評価についてまとめる。
6	臨床に生かす指導方法　1 1. 学習意欲を高める技法　～動機づけとコーチングの技法 ・アイスブレイク ・動機づけと学習意欲 ・学習支援のスキルと方法　:コーチング基本スキルとアプローチ 2. ディスカッションの技法　～協同学習 ・協同学習の進め方・ルール・技法	上谷	予習(90分): ①参考図書や文献等を参照し、動機づけ理論、コーチング、ディスカッションの技法等について、 整理しておく。 ②事前配布の事例を読み、後輩へのかかわり方について自身の考えを整理する(ワークシート)。 復習(90分): ①事前配布の事例について、コーチングの基本スキルとアプローチを用いて どのようにかかわると良いのか整理する(ワークシート提出)。 ②授業内容を振り返り、後輩指導や実習指導などの指導場面で、どのようにかかわっていきたいか、 自身の考えを整理する。

7	臨床に生かす指導方法 2 合意形成の体験学習 ～コンセンサスゲーム～ グループディスカッション	上谷	予習(60分): ①多職種連携における合意形成(コンセンサス)の重要性について整理しておく。 ②北海道大学オープンコースウェアhttps://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06 にアクセスし、スタディスキル自習用補助教材の「プレゼンテーションの“技法”基礎編(6分)」の視聴しておく。 復習(60分): ①コンセンサスゲームの体験学習を振り返り、ディスカッションにおける参加状況や気づき・学びについて整理する(ワークブック)。 ②アクティブラーニングの利点や効果について整理する。
8	看護師の学習とキャリア開発 1. 成人学習と経験学習 ～看護師の学習の特徴～ 2. 看護師のキャリア発達とキャリア開発 ・キャリアアンカーと3つの問い ・キャリアデザインを描くことの意味を考える まとめ 最終レポート課題について	上谷	予習(60分): ①参考図書・文献等を参照し、成人学習、経験学習、キャリア発達、キャリア開発について調べ、まとめておく。 復習(90分): ①授業内容を振り返り、看護専門職者としてどのようなキャリアを積んでいきたいかを整理し、キャリアデザインを描くことの意義について、考えを整理する。 **【最終レポート課題】**(180分) 「私の指導観・教育観」 ・課題内容:これまでの指導者との出会い(体験)を想起し、看護専門職者として看護の現場においてどのような指導者をめざしたいか、そのために身につけておきたいことはなにか、どのようなことを大切にして後輩や学生に関わっていきたいかなど、これまでの経験とその意味づけをもとに自身の指導観・教育観について考えを述べなさい。 ・課題の提出方法・期限、評価については授業時に提示する。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		日本看護協会のHPにアクセスし、「准看護師制度の課題解決に向けた取り組み」について整理する。 https://www.nurse.or.jp/nursing/kango_seido/ https://www.nurse.or.jp/aim/jyunkan/index.html 北海道大学オープンコースウェアhttps://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

課題のフィードバックは、授業内で行う。
毎回の講義終了後のリフレクションシート(Google Form)の質問には、次回の授業もしくはGoogle Crass Roomで個別もしくは全体にフィードバックする。

【成績の評価方法】

レポート(70%)、提出課題とGW参加状況(30%)で、総合的に評価する。
目標1、2、3 ・・・ 事前課題と授業後のレポートによる評価
目標4、5 ・・・ レポーによるト評価(ルーブリック)

【レポート評価基準(ルーブリック)】
・評価項目:①適切なサブテーマの設定、②自己の経験の記述、③論理的構成と考察力、⑤信頼性のある文献の引用と明記、⑥文章の体裁・適切な表現
・提出期日の厳守する。提出遅延時は減点対象とする。
・盗用、剽窃行為は禁止する。

【生成AI利活用 (有)】グループワークや課題の事前学習に限り使用する。授業時の活用方法について説明し、使用した生成AIの名称とプロンプト(指示文)を記載するように指示する。

【 ルーブリック評価の活用 (有)】

【履修申請上の条件】

特になし

【教科書】

特に指定しない。講義時に資料を配布する。

【参考書】

グレッグ美鈴,池西悦子編集,看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う,改訂第2版,南江堂,2019.
中井俊樹ほか:看護のための教育学, 医学書院, 2017.
中井俊樹編著:看護現場で使える教育学の理論と技法, メディカ出版, 2017.
エドガーH.シャイン著、金井嘉宏訳:キャリア・アンカー, 自分のほんとうの価値を発見しよう, 白桃書房, 2012.
パトリシア・ベナー著, 井部俊子監訳:ベナーの看護論新訳版, 初心者から達人へ, 医学書院, 2012.
青木将幸:リラックスと集中を一瞬でつくるアイスブレイクベスト50, ほんの森出版, 2015.
三浦真琴:グループワークその達人への道, 医学書院, 2018.

【オープンな教育リソース】

北海道大学オープンコースウェアhttps://ocw.hokudai.ac.jp/?s=field06 にアクセスし、スタディスキル自習用補助教材の「プレゼンテーションの“技法”基礎編(6分)」の視聴

【担当教員の実務経験】

看護師としての臨床経験のある教員が担当する。臨床現場の患者指導、看護師の現任教育の具体例を示しながら、実践的な視点で教授する。

【オフィスアワー】

月・火・木 12-13時、16-18時 Gmailでの問合せ可能

【教員連絡先】

iuetani@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

授業では、これまで受けてきた看護基礎教育を想起し、ブレインストーミングを多く取り入れるので、積極的に参加することを期待する。また、看護の専門職を目指すものとして、卒業を前にあらためて看護と教育の意味を問い直すとともに、看護実践能力の向上のための経験学習からの学び方を理解し、卒業後に役立てていけることを期待している。

授業科目名	看護研究Ⅰ	担当教員名	専任教員			
コード	19NAD416	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	2年次後期から4年次／通年	単位／時間数／形態	4単位／120時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

履修してきた、「看護研究方法」の看護研究の基礎的な知識、技術が前提となる。2年次では、講義・演習、論文の探し方、論文の読み方、4年生の看護研究Ⅰの発表会への参画等行う。3年次は、講義・演習の他に、論文の読み方、論文のクリティークを中心に行い、4年次の本格的な看護研究の基礎固めとする。4年次は、これまでの講義・演習・実習の学びから、自己の研究疑問(Research Question)に基づいた研究テーマと目的を明確にする。それを真摯に探究することを通じて、研究手法を学修し、研究的思考を養う。所属ゼミの学修方法・ルールに従って自主的、自律的に学修する。研究計画書の作成と看護研究計画書の発表を行うことで、看護研究1の授業とする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 看護における研究課題とその意義を明確にし、文章化することができる。					○
2 文献検索を行い、研究課題に関係する適切な論文をクリティークし、文献検討としてまとめることができる。					○
3 研究を実施するために必要な倫理的配慮について説明できる。		○			○
4 研究目的を達成するためにふさわしい方法を選択し、実現可能な計画を作成することができる。		○			○
5 看護研究が人々の健康にもたらす貢献について考察し記述できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	看護研究方法を履修し、看護研究の基礎的な知識、技術を修得したことが望ましい。 次のステップとして、ゼミなどで120時間をかけて、研究計画書を作成することがこの科目の 学習課題である。 講義・実習などこれまでに学習したことを踏まえ、看護学生の視点から自己のテーマと目的をもち、研究的思考や手法を身につける。4年間の集大成として、看護研究の講義で学んだ研究プロセスを、個々の課題にそって進め、研究計画書までの作成を行う。 学生の興味関心の深い領域での研究を行えるよう、助手を除く全教員が3～4名の学生を担当して指導する。助教は、専門分野の教授もしくは准教授の助言を受けつつ学生指導を行う。 研究領域の決定後、担当教員の下で、研究をすすめる。 【2年次後期】講義・演習　論文の探し方、論文の読み方、4年次生の看護研究Ⅰ発表会への参画等　5コマ　10時間(2022年2年次済) 【3年次前期】講義・演習　論文の読み方、論文のクリティーク　、看護研究方法の復習 　＊　3年次配当時間　5コマ　10時間(2023年3年次済) 【4年次通年】ゼミナール 　研究テーマの決定、テーマに関する文献検索、文献を読み、文献レビュー、研究計画書立案、研究計画書発表 　＊　4年次配当時間　50コマ　100時間　合計60コマ120時間	4年次 担当ゼミ教員	担当の教員から出された課題を次回ゼミまでに行い、進捗状況の報告後にフィードバックを受け、次の課題に取り組む。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	4年次、看護研究計画書の発表会を行う。
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

4年次、看護研究計画書の発表会を行う。

【成績の評価方法】

ゼミ担当教員が評価表に基づいて評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

看護研究方法の履修が望ましいい

【教科書】

特になし

【参考書】

・南裕子　看護における研究　日本看護協会出版会　2017
・黒田裕子　看護研究　Step　by　Step第6版　医学書院　2023
・坂下玲子　統計看護学講座　別巻　看護研究　医学書院　2023
・早川和生　JJN　SPECIAL　看護研究の進め方論文の書き方　第2版　2014
・上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司　楽しくなる看護研究　メジカルフレンド社　2012
・横山美江編著　よくわかる看護研究の進め方・まとめ方　第3班　医歯薬出版　2017
・李節子　看護研究心得帳　医歯薬出版　2022
・筒井真優美編著　アクションリサーチ入門　ライフサポート社
・石井京子・多尾清子:ナースのための質問紙調査とデータ分析　第2版　医学書院
・向後千春・冨永敦子　統計学がわかる　技術評論社
・ナーシンググラフィカ　基礎看護学④看護研究　MCメディカ出版2023
他　適宜紹介

【オープンな教育リソース】

特になし

【担当教員の実務経験】

研究に精通したゼミ教員が指導にあたる。

【オフィスアワー】

演習日

【教員連絡先】

担当教員の研究室及びGmailアドレス確認のこと

【備考】

特になし

授業科目名	看護研究Ⅱ	担当教員名	専任教員			
コード	19NAD417	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
					○	
年次／期間	4年次／通年	単位／時間数／形態	2単位／60時間／演習			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
	① キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
○	② 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③ 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
	④ 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
◎	⑤ 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

4年間の学修の集大成として、看護研究Ⅰの看護研究計画書の実施までを行う科目である。看護研究Ⅱは、看護学の発展のために継続的に学び、看護の創造する能力を身につけるための科目であり、2年次の看護研究方法や看護研究Ⅰをとおして自己の研究疑問から研究テーマと目的を明確にしたうえで、看護研究Ⅰで作成した研究計画書に基づき、研究の実施、論文の作成・発表を通じて、研究の一連のプロセスを経験する。具体的には看護研究Ⅰと同じく指導教員のスーパーバイズの下、実施する研究においては倫理審査会の承認を得、研究を実施、データ収集と分析を行う。結果に基づき考察を行い、卒業論文としてまとめる。また、研究の概要をわかりやすく看護研究Ⅰと同じく発表する。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 倫理的配慮を行いつつ、研究計画書に基づき、厳正な方法論に則ったデータ収集ができる。		○			○
2 データの分析方法に則り、データ分析が実施できる。		○			○
3 結果に基づき考察を行い、卒業論文としてまとめることができる。		○			○
4 研究の概要をわかりやすく発表することができる。					○
5 看護研究が人々の健康にもたらす貢献について考察し記述できる。					○

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
	この科目の学習課題は、研究計画書に基づき、データ収集、分析、結果、考察を行い、論文としてまとめ、学内で発表することである。 看護研究Ⅰで作成した研究計画書に基づき、実際にデータ収集、分析、結果、考察を行い、看護研究論文としてまとめ、発表までを行うことにより、研究の一連のプロセスを理解する。 看護研究Ⅰと同様、助手を除く全教員のうち、学生の研究テーマに応じ、専門分野を活かして1名の教員が学生3～4名程度を担当する。助教は、専門分野の教授もしくは准教授の助言を受けつつ学生指導を行う。 ・研究計画書の再検討(修正) ・看護学部研究倫理審査会における審議・承認 ・研究計画に基づく実施 ・データ収集、集計 ・データ分析、結果、考察 ・論文作成 ・研究発表会	専任教員	・担当の教員から出された課題を次回までに行い、提示する。 ・自律的な学修活動の進捗状況についても適宜報告をする。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	○	
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク	○	
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】

ゼミ形式:課題をした上でゼミに参画し、フィードバックを受けながら研究を進めていく。

【成績の評価方法】

担当教員が評価表に基づいて評価する。

【生成AI利活用（　無　）】

【 ルーブリック評価の活用（　無　）】

【履修申請上の条件】

看護研究方法、看護研究Ⅰの履修が望ましい

【教科書】

特になし

【参考書】

・南裕子　看護における研究　日本看護協会出版会　2017
・黒田裕子　看護研究　Step　by　Step第6版　医学書院　2023
・坂下玲子　統計看護学講座　別巻　看護研究　医学書院　2023
・早川和生　JJN　SPECIAL　看護研究の進め方論文の書き方　第2版　2014
・上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司　楽しくなる看護研究　メジカルフレンド社　2012
・横山美江編著　よくわかる看護研究の進め方・まとめ方　第3班　医歯薬出版　2017
・李節子　看護研究心得帳　医歯薬出版　2022
・筒井真優美編著　アクションリサーチ入門　ライフサポート社
・石井京子・多尾清子:ナースのための質問紙調査とデータ分析　第2版　医学書院
・向後千春・冨永敦子　統計学がわかる　技術評論社
・ナーシンググラフィカ　基礎看護学④看護研究　MCメディカ出版2023
他　適宜紹介

【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 研究に精通した教員が指導にあたる。
【オフィスアワー】 演習日
【教員連絡先】 担当教員の研究室及びgmailアドレス
【備考】 特になし

授業科目名	看護の関係法規	担当教員名	青木　浩文			
コード	19NBA216	区分 (必修・選択)	必修	保健師課程 必修	選択	
			○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／15時間／講義			

チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】
◎	①　キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
	②　倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
	③　多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
○	④　看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
	⑤　看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

【授業の概要】

この科目では、看護関係法規に関する基礎知識の習得を目指すとともに、看護実務に就いた後に必要となる、看護師の法的責任(民事上の責任、刑事上の責任、行政上の責任)についての知識、並びに「インフォームドコンセント」「ヒヤリハット」「看護記録の重要性」といった医療安全に関する基本的な知識を習得することを目的としている。看護師国家試験合格のために看護関係法規の知識を習得することは当然であるが、患者の権利を保護しつつ、看護業務を適切かつ安全に遂行する上で、看護師の法的責任及び医療安全に関する知識も必要不可欠といえるものであり、看護師を目指す者としてその習得は必須と考えられる。原則として講義形式の授業であるが、自ら考え、他者に理解できるよう自身の言葉で意見を述べる能力を養成するため、講義中も積極的に学生の発言を求める予定である。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 保健師助産師看護師法、医療法、医師法などをはじめとする看護関係法規の趣旨、目的、制度枠組みなどを把握すること。	○			○	
2 上記1で把握した知識ないし情報を応用して、看護師国家試験に合格することのできる力を養うこと。	○			○	
3 看護実務に就いた後に必要となる、看護師の法的責任(民事、刑事、行政上の責任)について理解すること。	○			○	
4 インフォームドコンセント、ヒヤリハット及び看護記録の重要性など、医療安全に関する基本的知識を習得すること。	○			○	
5 将来、上記3及び4にて修得した法的な観点を意識し、念頭に置きながら適切かつ安全に看護業務を遂行できるようになること。	○			○	

【授業計画】

	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	看護の関係法規Ⅰ ・看護師の法的義務や業務範囲を定める保健師助産師看護師法についての解説。	青木	予習(30分):各自が使用するテキストの該当箇所を通読しておく。 復習(30分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。 時間外学修は、30時間必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
2	看護の関係法規Ⅱ ・保健師助産師看護師法の解説。 ・医療法、医師法の解説。	青木	同上。 時間外学修は、30時間必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
3	看護の関係法規Ⅲ ・臨床看護に従事する看護師の法的責任(民法上の責任)の解説。	青木	予習(　0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。 時間外学修は、30時間必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
4	看護の関係法規Ⅳ ・臨床看護に従事する看護師の法的責任(民法上、刑事上、行政上の責任)の解説。	青木	予習(　0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。 時間外学修は、30時間必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
5	看護の関係法規Ⅴ ・看護事故の実際(著名な看護事故裁判例を素材として)	青木	予習(　0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。 時間外学修は、30時間必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
6	看護の関係法規Ⅵ ・ヒヤリハットの解説及び具体的な事例の検討 ・インフォームドコンセントの意義についての解説。 ・看護記録の重要性の理解。	青木	予習(　0分):特になし。 復習(60分):講義で配布したスライド資料及び講義中に取ったメモを再読する。 時間外学修は、30時間必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
7	随時試験	青木	予習(120分):これまでの授業内容を総復習する。 時間外学修は、30時間必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。
8	随時試験の解説・講評	青木	復習(60分):定期試験の問題を総復習する。 時間外学修は、30時間必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)		
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		
③:ディスカッション・ディベート	○	
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

定期試験の実施、回収後、解答についての解説を行う。

【成績の評価方法】

定期試験の成績(100点満点)で評価する。

【生成AI利活用 (無)】

【ルーブリック評価の活用(無)】

【履修申請上の条件】

特になし。

【教科書】

特になし。自作のスライド教材に沿って講義を進める。

【参考書】

特になし。自作のスライド教材に沿って講義を進める。

【オープンな教育リソース】

特になし。

【担当教員の実務経験】

医療機関側の代理人弁護士として実際に医療事件の処理を行ってきた経験を踏まえた講義を行う。

【オフィスアワー】

特になし

【教員連絡先】

下記メールアドレスまで御連絡ください。
aoki@hiroaoki-law.com

【備考】

①講義中、学生の皆さんに発言を求めることがありますので、その際は、自分自身の考えを積極的に述べることを期待しています。
②本講座の時間外学習時間は、トータルで30時間必要であるため、不足分は休日等を活用して予習、復習をしてください。